

ツングース言語文化論集 43

風間 伸次郎 採録・訳注

**ウルチャロ承文芸
原文集 4**

東京外国語大学

2008



V. P. Dechuli 氏
(В. П. Дечули)



O. K. Angina 氏
(O. K. Ангина)



O. A. Bel'dy 氏
(O. A. Бельды)

ツングース言語文化論集 43

**ULCHA ORAL LITERATURE 4
A COLLECTION OF TEXTS**

**translated and annotated
by
Shinjiro KAZAMA**

**Tokyo University
of Foreign Studies**

2008

ウ

ウルチャ口承文芸原文集 4

風間 伸次郎 採録・訳注

東京外国語大学

2008

本書は平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究(C)
「危機言語ツングース諸語に関する記述言語学的研究」
(代表：風間伸次郎、課題番号：18606004)
による研究成果の一部である。

まえがき

テキスト本文

1. үмү һамз
2. золо
3. эигэтүңэ
4. пүзин хүс
5. надан һа
6. закпун һа
7. тисал-гдэ
8. амбаа па
9. зееји када
10. балана н
11. һүүчкэ

あらすじ (露文)

1. Маль

стала муж

7. Они пер

/ 10. Как р

あらすじ (英文)

あらすじ (和文)

テキスト本文 (

1. umu һави

(一人

2. jolo (石)

3. эигэтүңэ

(姉と

4. puĵin xus

(ブジ

5. nadan һа

(七人

6. jakpon һа

(八人

7. tusal-gdal

(彼ら

8. ambaa pat

9. jeeji kadai

(自分

10. balana na

(昔ウ

11. һүүчкэ

(小さ

目次

まえがき	1
テキスト本文 (キリル文字に基づく音韻表記)	
1. үмү һавзака эмкээн бичини	9
2. золо	12
3. эигэтүнзэ пүзин балдахати	14
4. пүзин хүсэ очини	18
5. надан һии намубаани һэнэхэти	21
6. зәкпун һии намубаани һэнэхэти	23
7. тиисал-гдэл һүлзүмээри һэнэхэти	26
8. амбаа паталасалба баахати	27
9. зееји кадал пэиси анахани	28
10. балана нааһии хоони балдахати	29
11. һүүчикэндүји хоон бичимби, хоон дәнсүхәмби	39
あらすじ (露文) (Содержание)	50
1. Мальчик жил один / 2. Камень / 3. Жила пудин со старшей сетрой / 4. Пудин стала мужчиной / 5. Семь человек пошли к морю / 6. Восемь человек пошли к морю / 7. Они переехали / 8. Дьявол нашел женщин / 9. Своего напарника сбросил с обрыва / 10. Как раньше жили ульчи / 11. Как было, когда была маленькой, как я работала	
あらすじ (英文) (Summary)	57
あらすじ (和文)	63
テキスト本文 (ラテン文字に基づく音韻表記とその日本語訳)	69
1. umu ńawǰaka əmkəən bičini (一人の少年が一人きりで暮らしていた)	69
2. ʒolo (石)	77
3. əigətunǰə puǰin baldaxatɪ (姉とプジンが暮らしていた)	84
4. puǰin xusə očini (プジンは男になった)	96
5. nadan ńii namubaani ɣənəxəti (七人の人が海の方へ行った)	105
6. ʒakpʊn ńii namubaani ɣənəxəti (八人の人が海の方へ行った)	109
7. tiisal-gdəl ńulǰuməəri ɣənəxəti (彼らは引っ越して行ってしまった)	116
8. ambaa patalasalba baaxatɪ (魔物が女たちを見つけた)	119
9. ʒeeji kadal pəisi anaxani (自分の仲間を崖の下へ突き落とした)	122
10. balana naańii xooni baldaxatɪ (昔ウルチャはどのように暮らしていたか)	124
11. ńuučikənduji xoon bičimbi, xoon dəɳsuxəmbi (小さい時にどんな風だったか、どんな風に私は働いたか)	155

(調査報告) の基に本文を構成 (本文) 本文は、

1. 調査の概要

2. 調査の方法

3. 調査の結果

4. 調査の結論

5. 調査の補遺

6. 調査の参考文献

7. 調査の謝辞

8. 調査の索引

9. 調査のあとがき

10. 調査の参考文献

11. 調査の謝辞

(本文) (本文) (本文)

1. 調査の概要

2. 調査の方法

3. 調査の結果

4. 調査の結論

5. 調査の補遺

6. 調査の参考文献

7. 調査の謝辞

8. 調査の索引

9. 調査のあとがき

10. 調査の参考文献

11. 調査の謝辞

本書は平成 20 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))

46000004(代表: 風間伸次郎、課題番号: 46000004)による研究成果の一環として、

1. 調査の概要

2. 調査の方法

3. 調査の結果

4. 調査の結論

5. 調査の補遺

6. 調査の参考文献

7. 調査の謝辞

8. 調査の索引

9. 調査のあとがき

10. 調査の参考文献

11. 調査の謝辞

12. 調査の参考文献

13. 調査の謝辞

14. 調査の参考文献

15. 調査の謝辞

[ウルチャ語の

ロシアの人

363 人となっ

となっている

100 人を切っ

はもはや老年

研究はきわめ

[調査の概要

本書は風間

は風間 (2002)

今回の調査

起こし及び

1931 年 nova

テキスト 10

記である。も

した内容を語

残りのテキ

が録音された

そのテープの

貴重な民話や

の語り手に関

[語り手に関

テキスト 10

村より 3km の

Ligdiga という

(1935 年生ま

[テキストに

下記の文献

テキスト 2 の

キスト 2 (ナ

ただし毛布か

グンに変身し

る話もあるが

まえがき

〔ウルチャ語の現況〕

ロシアの人口統計によれば、2002年のウルチャの人口は2718人、うち話者は13.4%の363人となっている。ちなみに1989年のデータでは人口3200人、話者は986人(30.8%)となっているので、五年の間に急速に減少していることがわかる。2008年現在、話者は100人を切っている可能性がある。筆者がブラバ村で観察したところでも、流暢な語り手はもはや老年層の数人しかおらず、中年層はほとんどが全く話せない状況である。先行研究はきわめて少なく、その記録がもっとも緊急を要する言語である。

〔調査の概要とテキストに関するデータ〕

本書は風間(1996, 2002, 2006)の続編である。ウルチャ語に関する先行研究については風間(2002)を参照されたい。

今回の調査は2006年9/11-21、2007年9/7-13に行った。テキストのテープからの書き起こし及び意味の解釈に際してV. P. Dechuli (Валентина Петровна Дечули)氏(女性、1931年 novaja ferma (новая ферма) 村生まれ)の協力を得た。

テキスト10と11は2006年の調査の際に録音したものである。どちらも語り手の一代記である。もはや物語や伝説は覚えていらっしやらない、とのことであったので、こうした内容を語っていただいた。

残りのテキスト1~9は筆者の録音したものではない。現地のG. M. Volkovaという方が録音されたものである。氏はその貴重なテープを2本、筆者に複製させてくださった。そのテープの録音状態は良く、そこには今ではもはや録音は難しいと思われるような、貴重な民話や伝説が多く録音されている。このような経緯であるために、テキスト1~9の語り手に関しては十分な情報が無い。

〔語り手に関する情報〕

テキスト10の語り手はOl'ga Konstantinovna Angina氏(旧姓 Djaksul、1930年 Mai 村(Auri 村より3kmのところにある)生まれ)である。御父母共にウルチャでそれぞれ、Kutin, Ligdiga という名であったという。テキスト11の語り手はOl'ga Aleksandrovna Bel'dy氏(1935年生まれ)である。

〔テキストに関するコメント〕

下記の文献に関しては巻末の既刊目録を参照されたい。

テキスト2の冒頭部分で、毛布の中から石が転がり出るくだりは、風間(1995)のテキスト2(ナーナイ語)、風間(2004)のテキスト20(ウデヘ語)に似たくだりがある。ただし毛布から転がり出るのはそれぞれ谷地坊主、カラスとなっている(最終的にムルグンに変身し、夫となる点では変わりが無い)。ナーナイには、やはり石がムルグンになる話もあるが(風間1993のテキスト3)、その話の筋は大きく異なっている。

a-a, б-b, в-v, г-g, д-d, е-е, ё-jo, ж-zh, з-z, и-i, й-j, к-k, л-l, м-m, н-n, о-o, п-p, р-r, с-s, т-t, у-u, ф-f, х-kh, ц-ts, ч-ch, ш-sh, щ-shsh, ь-", ы-y, ь-', э-е, ю-ju, я-ja.

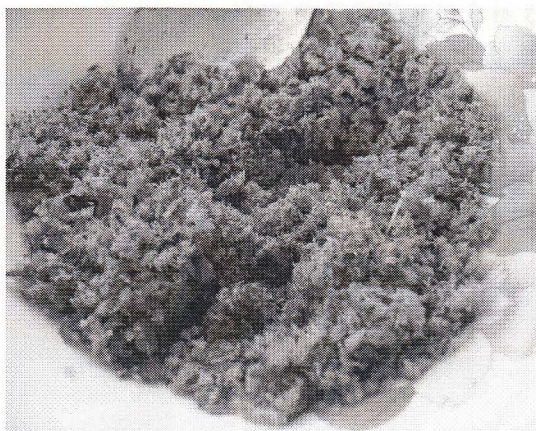
今回のテキストから新たに発見された文法接辞や、構文、文法的事実も決して少なくない。それらの体系的な整理は今後の課題としたい。

[民族学的情報]

なお以下の情報は特にことわりのない限り、V. P. Dechuli 氏による。



badu 「粟のお粥」。ウルチャの本来の主食的な食べ物。əuxinə 「シシウド」を入れる。



sseptola 「鮭を細かく碎いて炒めた食べ物、保存食」



魚皮服。N. V. Munina 氏宅にて撮影。



鮭。



鮭を捌いているところ。



子供用の魚皮服。



干しているところ。



干し鮭。makori。



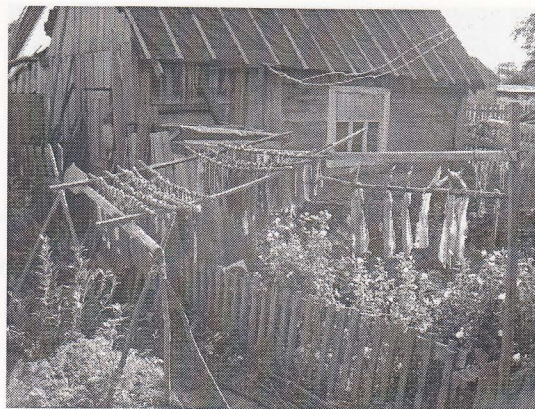
最初に取れる皮のついた一枚。ŋaalma。



mosi。魚皮（鮭）
ように白いものを
実を入れる。



骨のついた犬の餌用の干物。siəri。



干物の4枚の写真は、O. A. Bel'dy 氏宅にて撮影。



tiila。suduli「ラム」
切って干したもの。



干しているところ。



ジャガイモの talaa 「生で千切りにしたもの」



mosi。魚皮（鮭でもカワカマスでもよい）を煮て、ひき肉を作る器械で挽いて牛乳のように白いものを作る。ここには麻の種やラムソンを入れてもよい。飾りにコケモモの実を入れる。



tiila。suduli 「ラムソン」の茎を斜めに切って干したもの。

その他

以下の情報は、テキストの書き起こし及び意味の解釈を教えていただいていた際に、V. P. Dechuli 氏より、主にロシア語で御教示いただいたものである。

・ solt という料理は長く煮て作るもので、材料は豆が主だが、麻の種やニンジンなど、他にいろいろなものを入れて作ってもよい。

・ 祝い事や誰かの旅立ちなどの際には、25cm×25cm ぐらいの白樺樹皮製の大きな容器を作り、これにいろいろな料理をのせて、皆でまわして食べた。V. P. Dechuli 氏の結婚式の時にも、姑が作ってくれたという。小麦粉に砂糖や油を混ぜて練ったものを舌のような形に切って煮て、食べたが、この料理が必ず入っていた。これは今でもペリメニを作った残りで作ることがある。

・ 死者を埋める時、死者の頭頂部のところに糸を付けて、その糸は地面から出す。若い木を切って（根は無い）、地面に刺し、その糸をその木に縛り付ける（死者との交信の目的で設置するのだという）。

・ 回忌は毎月行った。muə xuulsi- 文字通りには「水をかける」の意。森の中に作った墓にお湯をかける。お湯には必ず tiila を入れる（上記の写真参照）。かける時には、手の甲の側から逆手にかける。普通に順手でかけてはならない。その若木に特別な薄い木の板を立てかけてそこにいろいろな物を供える。タバコ、酒、ラムソンを供える。木の板には穴が開いていて、タバコはそこに刺す。何本か必ず吸わせる。ウオッカは木の板の下に撒く。一年忌を最後に、もう二度と墓には行かない。行ったり触れたりしてはならなかった。まれに三年忌をすることもあった。最後の回忌を ŋaalajowwə とやった。最後の回忌では板及びその他のものを全部燃やす。捧げた食べ物の残りは自分達で食べた。「私達がたくさん食べれば、死者もまたたくさん食べることになる、」と saying していたという。墓の傍には慣れた犬がいて、捧げものを食べていた。そうした犬や鳥が食べるのを、死者が食べたものとみなした。皆食べた後で、最初に上の部分を取っておいた食べ物を燃やす。墓の傍に低い机を置き、その周りに皆で座って食べたり飲んだりする。

・ 双子で生まれた者が死ぬと、通常とは違うやり方で葬った。アイヌもそうではないか、という。全て白い服ばかりを着せて、座った形で葬った。母方の祖母が双子だったので、そのように葬ったため、そのことを覚えている。V. P. Dechuli 氏はその時小学校二年生であったという。双子はクマの親戚と考えられている。

・ 水死した人も、通常とは違うやり方で葬った。通常の墓があるようなところに葬ってはならなかった。水死人が出た後は、その岸辺に近寄ってはならず、山側を遠回りして行かねばならなかった。

・ 昔は皆狩りをしたものだが、現在ブラバ村で狩りができるのは三名だけだという。

・ pondoo 「魚皮製の長靴」の中には、naokta という草を入れた。干草のようだが、とても細いもので、森の中の湖や沼の周りに生えるという。

・ wagbangi 「手袋」の上につけるオーバーミトンのようなものを kačama といい、魚皮で作った。水にも氷にも強かった。

・ 棺桶の頭の側の先に冥界に行つたう。

・ V. P. Dechuli 氏というところへ

ートでは大河に

・ V. P. Dechuli 氏

ト 11 参照)。その

ペイカ、栗が 1 キ

ことがあったが、

・ Kajr 湖に魚加

という。V. P. Dec

ヤ語で sao) は

くて子供にはなが

草を入れて作った

・ ドロヤナギに生

・ キュウリウオは

る。手がとても冷

・ 鑄鉄製の鍋を

こで使ったものだ

・ ある時、娘が三

寝ないでいたとこ

がやって来て、娘

た。それからは娘

・ ある時、V. P. De

ンスクより呼んだ

1994 年にお会いし

ら、「ヘビが来た」

めた。するとその

・ 昔は石を吊るし

・ sawa 「木偶、ス

その口にウオッカ

・ 昔、森や川の岸

性は少し離れたと

れなかった。水の

タバコ、ベリーな

女性にタブーとさ

してはならなかつ

った。

・棺桶の頭の側の側面板のところには、絹の布を掛けた。これは親族の証となるもので、先に冥界に行った先祖達はこの布を見て自分達の子孫の親族であることを知るのだという。

・V. P. Dechuli 氏は 11 歳の時にすでにコルホーズで畑仕事を始めさせられたという。Kojma というところへ連れて行かれたという。ジャガイモを掘った。帰りは 11 月で、帰りのボートでは大河にすでに氷が張っていて、氷がボートにあたる音がしたという。

・V. P. Dechuli 氏がコルホーズで働いていた時、その給料は *talon* で支払われた（テキスト 11 参照）。その頃の物価は安く、パンは 16~20 コペイカ、ウオッカが 3 ルーブル 14 コペイカ、粟が 1 キロ 16 コペイカであったという。ひと夏働いて、200 ルーブルもらったことがあったが、それは当時とても大金であったという。

・Kaŋi 湖に魚加工基地があった。大人が魚を捕って、子供達がそこへ運んだものだったという。V. P. Dechuli 氏も子供の頃やはり魚を運んだという。ウスリーシロザケ（ウルチャ語で *sau*）はもっとも足の早い魚で、急いで持っていかなければならなかったが、風が強くて子供にはなかなか運ぶのがたいへんだったという。その頃は塩漬けのカワカマスと草を入れて作ったスープをよく食べていたという。

・ドロヤナギに生えるキノコを食べた。美味であった。

・キュウリウオは 15cm くらいの魚で、干して食べる。春、氷が岸を離れる頃に、網で捕る。手がとても冷たかったという。

・鑄鉄製の鍋を *oromčo* と言った。これは中国製で、蓋が無く、家の外に竈を作ってそこで使ったものだったという。そこで魚を炒めて、*seeptora* を作り、犬の餌にしたという。

・ある時、娘が三歳の時に、何かを恐れてひどく泣いたことがあった。V. P. Dechuli 氏が寝ないでいたところ、顔の黒い大きな男が庭に立っているのを見た。次の日に、氏の姉がやって来て、娘の服を持ってシャーマンのところへお祈りをしてもらいに行ってくれた。それからは娘は静かに眠れるようになったという。

・ある時、V. P. Dechuli 氏の孫が病気になり、インジュクという名のシャーマンをサヴィンスクより呼んだ（ちなみにインジュクはこの地域の最後のシャーマンである、筆者も 1994 年にお会いしたことがある、2007 年 4 月に亡くなった）。シャーマンが祈祷しながら、「ヘビが来た」とウルチャ語で歌うと、孫はウルチャ語がわからないのに足を引っ込めた。するとそのシャーマンはタイコを叩くのを止めて笑ったという。

・昔は石を吊るして占うことがあった。本当のことを言うと石が揺れるのである。

・*səwə*「木偶、スウン」はふだんは屋根裏部屋に置いておく。シャーマンし終わったら、その口にウオッカまたはジャムを塗る。

・昔、森や川の岸辺で祈る時には、頭を地面につけて祈った。祈るのは男性だけで、女性は少し離れたところで静かに座っていなければならなかった。女性が祈ることは許されなかった。水の神や山の神に祈る時には、*oton* という容器に、饅頭、お粥、ペリメニ、タバコ、ベリーなどを入れて供えた。ベリーは必ず入れなければならなかった。以前は女性にタブーとされていた物事は多く、いろいろあった。クマを料理することも女性としてはならなかった。クマの上半身は男だけが食べ、女性は下半身を食べる慣わしであった。

・ウルチャの揺り籠は木の板状で、足が床などにぎりぎり着くぐらいに吊るし、赤ん坊自身が床を蹴って揺り籠を揺らすことができるようにしていた。

・魚でも獣でも、昔は何か取れたら周りの人々に分けるのが当然のことであった。まず親類に分け、それから近所などに分ける。冷蔵庫も無かったから、分けなければ悪くするだけであったという事情もある。

・誰かが別の村に行く時などには、パンや砂糖、タバコ、干し魚などの包みを送るのが慣わしであった。それは当人のためだけでなく、向こうの村の人にも行き渡るようにするためであった。

・洪水で凍ってしまった畑からジャガイモを掘り出して食べた。それは小麦粉と混ぜて、レピョーシュカを作って食べた。それは landoriki と呼ばれた (テキスト 10 も参照)。金持ちはこれにバターをつけて焼いて食べた。金持ちでない者は直接竈で焼いて食べた。冷めると硬くなってしまてまずくて食べられないが、焼きたてはおいしい。

・昔は明け方の三時には皆漁に出た。暗い中、石油ランプによる母親の影が天井に映っていたのを覚えている。人々の魚皮の靴がこすれる音も聞こえた。

[謝辞]

最後になるが本書の発行にあたり、上記のコンサルタント及び協力者の方々に心よりお礼申しあげたい。Ju. N. Kujsali 氏とその家族の皆さんには、ブラバ村での滞在でお世話になった。記して感謝の意を表したい。現地調査に関しては、千葉大学の荻原真子先生が貴重な科研費をさいてくださった。Golovina, Olga Viktorovna 氏は露文要約の作成に、下地理則氏は英文要約の作成に協力して下さった。記して感謝申し上げたい。

[参考文献]

- 風間伸次郎 (1996) 『ウルチャ口承文芸原文集 1』 (ツングース言語文化論集 9) 鳥取 : 鳥取大学教育学部
- _____ (2002) 『ウルチャ口承文芸原文集 2』 (ツングース言語文化論集 20) 吹田 : 大阪学院大学
- _____ (2006) 『ウルチャ口承文芸原文集 3』 (ツングース言語文化論集 30) 札幌 : 北海道大学大学院文学研究科

гээ даа хазілат
вэмбүвү мэргэн
кадалі алданду
эн анаа, ам ан
аумі тії аумі, ті
наані чоонконі
тоо тії уксара
"энэjee, ньавзан
вэндиини, "дол
"уксара," вэнди
вэндиини. "аамі
дааі бирүү. хоон
бии тавасі даур
андарбі гэлэндэ
аміні мапа, энин
ілаан. ілаан ньав
амаа заіні тээ т
вэндиини. тітара
гэлээхэн, зэпү
"аја," вэндиини,
даузүтісі-да. амба
тээхэн, вэндэ, тэ
хэрэктэни алдани
хэрэктэни алдам
гээ, тії даухан. х
чупал ний суілах
дааі бирүү, тес д
нэнэми, ньүүптии
тіі лүнтүн биикин
хагдуні, чоонкозіл
наані толчихані ті
иихэн. мама энэүз
мама доокілані тэ
зүз хүсэ ний тээс
хаматан-дээ чупал

1. үмү Һавзака эмкээн бичини

гээ даа хазілаті:, уму, уму пиктэ, Һавзака, сееміндан,
вэмбүвү мэргэн. сееміндан, вэмбүвү,
кадалі алданду балдахан мэргэн, эмкээн бичини.
эн анаа, ам анаа. долбо инэн аухан, долбо инэн
аумі тii аумі, тii аумі-дее, наані чооңконі,
наані чооңконі дааі чооңконі. тii дааі чооңкоті,
тоо тii уксара доондохон. тараа тii уксара вэндиини,
"энэјее, Һавзакаамба, энэјее пиктэвэ, хамі ауріісі-кээ,"
вэндиини, "долбо инэн ауріісі." тараа соңсоп тээхэни.
"уксара," вэндиини, "бии-кээ, аамінду, толчінду, пүлсиіјэ,"
вэндиини. "аамінду, толчінду пүлсиіји, эи базіла биини, бирүү,
дааі бирүү. хооңко теелані, дааі хооңко теелані, даајі бирүү биини.
бии тавасі даурііје," вэндиини, "тімана. толчінду, аамінду баахамбі,
андарбі гэлэндэзүми. бирүү эзэн пиктэни. бирүү, аміні,
аміні мапа, эини мама, тii, тii ээктэ, хаіні Һаазактані
ілаан. ілаан Һавзака. бии тавасі даурііје," вэндиини, "тімана."
амаа заіні тээ тооіду бии, тii заізі бии дауріі,"
вэндиини. тітараа тii даухан. тіманані тээхэн, холго доокіні
гэлэзүхэн, зэпү чупал јоом биини. уксара вэндиини,
"аја," вэндиини, "аја, дауруу, бии хагдумбасі-даа этэүриі,
даузүтисі-да. амбааңгузі, үлээнзи, Һэнэсээри"-мдэ. гээ, тімана
тээхэн, вэндэ, тээрээ, чупал мээпи баргазухан,
хэрэктэни алдані чупал чириктэзи-мэл, хэрэктэчү.
хэрэктэни алдамбані хаалі-даа ичэвэси Һii.
гээ, тii даухан. хаі маңгу мүэ-нүү, наму мүэ-нүү,
чупал Һii суілахан. уже тii дүэтини ісіхан, эи дүэтини ісімі, ичэхэн,
дааі бирүү, тес дааі бирүү. чавзі гэсэ үикини Һэнэми дэгдэми,
Һэнэми, Һүүптиини. тii бирүү. тітараа покто дүиси лүңтүн биини,
тii лүңтүн биикини тii тоохоні. аха, тii бирүү эзэни
хагдуні, чооңкозілані түүн бии, малузілані түүн бии.
наані толчіхані тii биини. гээ тараа, таванчі тii Һэнэхэн.
иихэн. мама эңүэ кіраадуні тээсиі, мапа
мама доокілані тээсиі. малуду зүэ мэргэн,
зүэ хүсэ Һii тээсиини. малуду чупал јоом биини,
хаматан-дээ чупал-дэ. гээ иихэн. "гээ сородее," вэндиини.

"энэнэ, пиктэвэ," вэндиини, "симби баланаа мурүчихэмби,"
 вэндиини, "дидииси-нүү кэвэ-нүү." тii мама вэндиини.
 титараа ілімі, тii пиктэвэ нааманчii, тii мэргэмбэ.
 мама ілімі, тii мэргэмбэ нааманчii, дэрэгбэни алаусіхан.
 тараа "малубаані нэнэрүү," вэндиини. малубаані нэнэхэн,
 тii ілаан пүрүл чупал іліхаал, тii ілаан һавзака.
 титараа чупал наамамаарі тii алаусімаарі, тээрээ, нуаілані
 тээвэнчин. гээ эси хооні. "симбиэ халачiiпу, симбиэ
 халачiiпу." "все саарiiпу," вэндиини, "хооні-даа бичимбэсү,
 эи дүилэни биини," вэндиини, "каалмазі нээхэмби синдү ээктэвэ.
 тува гэлэми, тізі, хаізіласі-ма," вэндиини, "тавасі тоозіла-ма."
 гээ тii урчулумі-дее, хаіва вэндиини, мама вэндиини,
 "аја, эси-лэ пиктэзүји, симби бакii, мин пиктэвэ сии запii,
 гээ эси тii балдумі, јэдү эи нааду тii буа,
 симбэ хавасі-даа тіндаасіпу," вэндиини. "эһээ мапа,"
 вэндиини, "даама," вэндиини, "бии түвэкээмби-лэ гэлэндээзілэ-мэ,
 хазукаамбі-ла һаанзула-ма," вэндиини. гээ аја-гүни.
 эси *недельдү* бими, хооні бими-дэ. "бии-кээ," вэндиини,
 "уксарамба хагдумбі этэүми һаалахамбі, тачіма уксарамба."
 гээ тараа, тii, тii мапа, тii мама, вэндиини,
 "эси сиксэ сиксэзүхэн, эси нэнүлэси-кээ. бии симбэ тii
 ээктэбээни іріі, бүэ. тii сүмбэ сааваандамі."
 хаусалма хагду, лэбэчэкэ лэүзэкэ хагду нээрээ нээрээ,
 хэдүн тii ээктэ хагдуні. гээ тіла ірахані пиктэтини.
 пиктэбээни ірараа, үчэ һиихэн, тii ээктэ тидү биини.
 тii ээктэ, үчэвэ үчэвэ гираумі, тii андалбі наамандахан.
 гээ тіду-мүк бакухан. бакухан, һаалавані запараа,
 малуті иивүзүрээ, малуду тээвэнчин. "гээ эјэ," вэндиини,
 "толчінду, тоонгичімбі, аамінду, ааірамбі баахамбі, хаі,
 андалбі"-мдэ. гээ аја-гүни. "гээ эси-лэ хоон тіласі-кээ,
 јэдү тii билэси-мэ. эси-лэ-гүни," вэндиини. "зээмирдэн мэргэн,
 эси симби, хэсэси алдаңкіні ичэми-дээ, һii хэрэктэси
 алдаңкіні хаалі ісіні-даа кэвэ, чупал тачіма, тачінзі хаіухан,
 анзухан, хаіухан-нүү." гээ хооні таву эси, "анда," вэндиини,
 "эси-лэ хоон тіласі-каа, хавасі нэниилэси-кээ, эси-лэ јэдү тii
 биилэси-мэ," вэндиини.
 "бии-лэ симби һаалii-дээ кэвэ, сии-дээ мимби һаалiiсі-дээ кэвэ,
 эвэнчи, ілалта бими, син хазумбасі, мин аагбі, чупал һаанзуіні.
 тii укасара мээнзији гэсэ даузуу, титараа мээн чооңкојі үйлэни

тii уксарамба, д
 гээ тii балдуву.
 аміні досозii, эн
 ихэн. гээ тii, ч
 вэндиини, "хав
 тімаі гівандула
 и уксарамба да
 маңгу алдані. г
 тii гүрсэлбэ чуп
 чупал тii даузух
 тii даухан, даузу
 гээ таванчі тii б
 горо тii бичини.
 мапасалба-даа с
 бүүндii, бүүмбэ
 пиктэ-дээ анаа х
 гээ элээ-гүни. "ј
 "и эвэнчи тавасі

тїї уксарамба, доозуваандїї, и мїмбэ этэүвээндииси,
гээ тїї балдуву. балділапу-ма," вэндиини.
амїні досозїї, энини досозїї, тавуду, ілаан Һаазїлнї хаїс
иїхэн. гээ тїї, чупал тїї вэндиини, алдачїхан, "эси, гээ,"
вэндиини, "хавасї-даа Һэнэми-дээ Һэнээсимби, биї тїї эси, акпандїї,
тїмаї гївандула тээриї, тїї, хаїсї Һавзакасалба мээнзїји гээсэ даурїї,
и уксарамба даузуї. хаї горозїні пїлпүвү, эи
маңгу алданї. гээ тїмананї тїї, тээми тїї даузухан, даухан,
тїї гүрсэлбэ чупал сааваанчїн, тїтараа таванчї, хазумбї:
чупал тїї даузухан, уксарангун, тїї наанї үјэкини тїї дэгдэми,
тїї даухан, даузухан, наанзїні гээсэ. бирүүбээни.
гээ таванчї тїї бичи. горозї бими-дээ кэвэ,
горо тїї бичини. амбаан горозї бичи:н,
мапасалба-даа сугдатава-дээ тїї ваапї-дээ
бүүндїи, бүјүмбэ ваапї-дээ зэпүвээндїи, гээ тїї,
пиктэ-дээ анаа хаї-даа анаа тїї ээктэ-дээ эмүтү, наанї-даа эмүтү.
гээ элээ-гүни. "јэлэ бичимби," вэндиини, балдахан,
"и эвэнчи тавасї, тїї биїлэпү-мэ"-мдэ. элээ, *все*.

2. золо

даа хазілаті:, тii пүүн, тii нэүдүмэ пиктэ, ээктэ, пултані
доотіні иирээ, бичини, тараа эигэни, эигэни гэсэ бичин-кээ-нүү,
эигэни вэндэхэн, и "нэүчээ, нэүчээ, пулта, пултасі түкүхэни,
пэскэпси, сэү-дэ кэвэ, Һээл-дэ кэвэ, хооні тii пултасі түкүхэн-кээ."
тітараа тii ээктэ, нэүдүмэ ээктэ хэмээ Һээрээ пултајі,
гүпсээр тахан, Һээвүхэн, Һээхэни. золо пүңгэлили,
тараа тii золова хүкүлирээ иивүзүхэн. хүкүлирээ иивүзүрээ
мээн хайті нээхэни. тітараа сиксэ акпанзүидіті тii,
золова мээн лэңбэчэјі доолоні нээрээ акпанчині.
тімаі горо аухан тii ээктэ, тамі-дее эигэни паламба ахурумі-дее,
нэүјі пултавані, күндүр Һииндэхэни,
"анаяјі, нэүчээ хамі горозі ауріісі-кээ," вэндиини.
наан тii золова ичэхэни. тii эигэни, анаяјі, тараа атазахані.
"ама-тама, симбэ-дээ-кээ үлээн зэпүвэндii, симбэ-дээ-кээ үлээн
тэтүвэндii таасі-кээ, хооні тii-мээчи тахасі-кээ," золозі аурііні.
тітараа амті сааваандахані. тараа тii ээктэ хэмэ,
сэктэхүн доолані тii эсэлчүрээ ходіхані тii золова, тімаі тээхэнзи.
тараа үрпүмi тээсиидүни-э, аміні иихэни, гідазі
пүэр пүэр баланаа, тіпама палаан-гүни.
тii-кээ тіпама палаандула пүэр пүэр тii гідазі тii
гидачумі иихэни. "ам іламуу, ам, игдэпси-э, ісала, амбі
ісані хангітіні нэнүү, ам ісані, сеен доолдісітіні нэнүү."
тii ээктэ вэнчин, "амаа, бултii нэниилэ-мэ"-мдэ.
тараа аміні Һээзүхэн, аміні Һээзүхэнзини, тii *собирацалараа*
тii ээктэ, мээндүлэ ачііва мээнзіјі запахані, мээндүлэ ачаасімбані
эигэдүјі Һаалахані. тэтүсэлбэ-дэ. тараа умун оңсодо тес
тэүчихэн хазумбі тучі, тучіду. оңсо-гүни, дааі тучі-гүни.
тітараа тii золоңгујі тii тучіла халіхан, үихэн.
тii золоңгуні пүңгэлили пүңгэлили наанзіні-мүк үүхэни, тii тучіду,
хазуні ојолани үүхэни. тii золо эмкээ ирчүзүхэн тii ээктэвэ.
тараа уму тактуті нэнэрээ кавка очіні тii, тii золо иизүхэн,
зугбаани. тii ээктэ-гдэл тii такту... тактубаані тii хазумбі
тообухан. тообураа, иихэн тii хагдунті, анаяјі ларгінкі,
хагдун дооні үлээлэни. таілані эилэни тавачу,
баланаа тii бичин-гүни, таі, зүэ тава таіла эилэ биі,

малуни-даа нээх
биини. тараа т
меелчині долбо,
тітараа бааті н
хайла-нүү, хай м
тii тii пүүнгичих
ларгі мэргэн ті
ээктэ-гдэл пүүм
коптумбані запі
коптумбані ачух
мэргэн дүрүнзин
тітараа тес лар
тактуні хасу хас
ларгінзі биини. т
хай, "амбі энби х
тітараа нэнэхэн,
эньиі сингин ээк
гээ тэтүэни-дээ з
зүлэси амті нэнэ
"амаа," вэндиини
"тii үисиини тура
хоон-дээ омі-дээ
эигэти нэнэхэн-дэ
тараа мэнэ зизүх
аі, тамі-дее алдан
"анана, эи нэүчээ
тес гүүнзиини," вэ
тітараа иихэти, ха
тараа эи, аміні эн
тii *прямо*, үчэ кіра
баланаа хоолума т
тараа тес зэпүвэ
тii эигэјі, амбі, эн
үлсэвэ тес гаазува
"нэүчээ, биі, син
биі јэдү биі-тэ. үч
зїрахан эигэни нэн
тамі-дее хаулее ха
тii зүэрэкээн очухат

малуні-даа нээхүнэ: хаікі хаікі. тii золо, малу токондуні
 биини. тараа тii бии, тii биити, тамі-дее эмдэ,
 меелчіні долбо, "анайii, хамі ауванчіні инэн нээм одоло аухамбі."
 тiтараа бааті нээхэн. бааті нээхэн пактii пактii биини.
 хаіла-нүү, хаі мээпи байлілахані түкичэми. иизүхэн, иизүхэн,
 тii тii пүүнгичихэни зин зин, пүдэндиини бис-кээ, тii пүүндүлэни,
 ларгі мэргэн тiду, *блестит*, тii нii. тараа тii, тii
 ээктэ-гдэл пүүмбэни хаіхан, нэнэхэн, тiтараа пүчүхэн тiду,
 коптумбані запіічамі, тараа *все-таки* запахан бис-кээ,
 коптумбані ачухан, запахан. тараа тii мэнэ
 мэргэн дүрүнзини очухан, мэнэ нiiзі-дэ хүсэ нiiзі-дэ.
 тiтараа тес ларгінзі биини-гүни, тii нii *охотii*, хаі
 тактуні хасу хасу тактуні хасу хасу хаі. тес
 ларгінзі биини. тамі-дээ тii мэргэн вэндиини, эмдэ вэндиини,
 хаі, "амбі энби хээриндэү, мээн би ичэбдэни."
 тiтараа нэнэхэн, тii ээктэ. тоотіла нэнэми аiiі тас дүксинчини,
 эньи сиңгин ээктэ очухан.
 гээ тэтүэни-дээ эньи сиңги чуканаа, тараа, эјэ, зүлэси,
 зүлэси амтi нэнэхэн, амбі хээрсихэн, "энэнээ," вэндиини,
 "амаа," вэндиини, "тii пүүнгүји гүүнзиини," вэндиини,
 "тii үсиини тураава катаракан-дээ тii үсиини,
 хоон-дээ омi-дээ мүтэсимби," вэндиини, "ичэндэксү"-м.
 эигэти нэнэхэн-дээ тii вэнчин, эигэн паазі хагдун.
 тараа мэнэ зизүхэн. "нэниилэпү-мэ," вэнчин, аміні.
 аi, тамі-дее алдан димээри-дее, зілзан, тii ээктэ, эигэни зілзантиіни.
 "анана, эи нэүчээ хооні мүрүчиини-нүү, тii золома эзини
 тес гүүнзиини," вэндэ, "тураала," үчэдүни хаіду "гүүнзиини үсиини."
 тiтараа иихэти, хаітi, ларгін-гүни, тiiсал биити.
 тараа эи, аміні энини-лэ иихэн дообаані тii, тii эигэни-дээ,
 тii *прямо*, үчэ кiраадуні зiiрахані, дообаані-дээ иирэсини.
 баланаа хоолума тава бичи, хоолуду, кiраадуні тээсүми, тээхэн.
 тараа тес зэпүвэ анзухан, тес саулімба анзүи, тiiдуні,
 тii эигэји, амбі, энби зэпүвэнчин. тараа тучіду тес,
 үлсэвэ тес гаазуванчін ходуні. эигэни вэндиини,
 "нэүчээ, биини, син *помоикаамбасi*-та нээвүнэји-тэнии,
 биини јэдү биини-тэ. үчэ кiраадуні-дээ биини-тэ."
 зiiрахан эигэни нэнүми-дээ нэнүсини.
 тамі-дее хаулее хаулее нэнүхэн, вэндэ, эигэни-дээ нэнүхэн.
 тii зүэрэкээн очухаті, эи-дээ хүрми нiңма, элээни тii.

3. эигэтүнзэ пүзин балдахаті

даа хазілаті: эигэтүнзэ пүзин балдахаті. мэнэ мэнэ
хагдундурі. тії бими-дее, эи нэүдүмэ ээктэ, пиктэни
һүүчикэ эмүдү бичи. эигэни зееландахані, "нэүчэ: гэлбиисү,
эи базіті тідү: базіла баача биини, тідү хэрэлүми, *ягода*
биини," умактава-нүү, хаіва-нүү гандахаті,
умакта гандаха, баачамбаан. титараа дауха:н, аі, нэүни вэндиини,
"аі: биі һүүчи пиктэчү." "аја: нэкүвэ олбіндусу."
титараа дауха:н, угда токондуні нээхэ, пиктэвэни, гилэми эмүзини
эмүчү. титараа, "нэүчи, тооруу сии, биі нэкүвэ
этэхии-тэ," эигэни вэндиини. титараа эигэни дэрээхэ угдадуні.
тараа нэүни тоохо, баачамба хэрэлүми тії пүликтии, кэвэ,
хаматані-даа *ягода*-дээ кэвэ. титараа эүзүхэни. титараа,
эигэни вэндиини, "үлээнзи гэлэзүү, хэрэлүми эи баачамба,
хэрэлүми гэлэкэчүү. тараа бакіласі-ма." титараа тії хэрэлүми
тії гэлэкэчими-дээ эүзүхэни, анајее, эигэни пиктэвэни
угда токондуні нээрээ, тоо маңгу токонтіні элээ даузухані,
наамбані һаалараа-да. титараа: тії ээктэни-гдэл тії соңгії
тії соңгії, нааті түкүрээ тії соңгії, "пиктэји, пиктэји бүүзүү:
пиктэји бүүзүү," соңгіїні. "маа, маа маа, пиктэси," пиктэвэни
мүэти түмбүк зололохоні, тії эигэни. балана эигэни. титараа ба:ді
соңгіїні-гүни, тії ээктэ соңгомі-дее бүдии хуразуі, бүдии
хуразуі очіні. тамі-дее ум іма, дичини, наанбаані илэчиини:
тамі-дее тії ээктэ вэндиини, соңгомі вэндиини, "биі эчээл
бүдээјэ," вэндиини, "эргэчүкэмби-э," вэндиини. "эсикээмбэ
үјүндүји хаізуји илэчииси-кээ мимбэ,
вааічііні упандііні." титараа іма вэндиини,
"гээ эигэчүү, хаімі тії вэндииси, "мимбэ амбаараңгузі
хоручуву-а-нүү," "эгээ. гээ гээ гээ, эигэчүү," "хаі, амбаараңгузі
хоручу, хоручу мимбэ." титараа ділівані илэчихэни, діліји тії түнчиини
аја, очухані. "һаалаваји илэчүү." һаалавані илэчихэни. һаалаји
түнчиини аја. тамі-дее бэгдији түнчүхэни, бэгдивэни илэчихэни,
түнчиини аја: очухані. титараа іліхані. титараа тії іма
вэндиини, "мин хамікіји нэнүү," тії ээктэти вэндиини.
титараа тії іма хамікіні: тії нэниини, тії нэнэми-дее
ум хагдунті: нэнэхэни, иізүхэни тії іма, хамікіні иихэни.

чи:стый тії іма
тії іма-күчи син
тітараа тамі-де
пүликтиини. си
күчэлэхэни. күч
саарііла-ма, зор
зизүхэндүни дэ
"тээ: іма, сии
нэнүи тасті-кээ
"алдачісті осіні
тамі-дее алдачі
хэзилэ, хэзини
"эмүчү, гилэми
тії пиктэзи хүпи
"энэје:, мин пи
пиктэвэји." "гээ
анзуктау, эгди
зэпүүвэ, нааһії
гээ сии нэнүү,"
анзуктахані, үи
паачамба хоніра
хаіва-даа хүм, а
нээктэхэни. паач
титараа, тії іма н
вэндиини, "нэүчү
агбунзүхані. хаі-д
чувсвукуни. "биі
вэндиини. титара
мочасіі, мочасііні
тамі-дее заклула
тії іман, тії пиктэ
"гээ андалі: нэн
берегава." тії-тэн
нээктэхэмбэни ба
пэргиини, титараа
вэндиини наантін
мээн энби ајадун
гүчи алуува пэрг
гээ эмэтэ энээ а

чи:стий тii іма эмкээ биини хагдуні дооні үлээлэни. тамі-дее
 тii іма-күчи сиксэ: зизүи, тiмаі нэнүи, тii биини.
 тiтараа тамі-дее тii ээктэ мүрүчиини, "эи іма хавасі
 пүликтиини. сиксэ: зизүи тiмаі нэнүи." тiтараа һаалji
 күчэлэхэни. күчэлэрээ капсахані, тiтараа, эи энсиидүни,
 саарііла-ма, зоонзіла-ма, зизүүчэни тii оҗbii." тiтараа, тiмаі
 зизүхэндүни дэнсилээзүми-дее, энэнэнэнэнэ, һаалаji запазуіні,
 "тэээ:, іма, сии хавасі пүлсииси, сиксэ зизүи, тiмаі
 нэнүи тасті-кээ." "кэвэ: алдачісімбі," вэндиини. тамі-дее,
 "алдачісті осіні бии аксііе:," вэндиини тii ээктэ.
 тамі-дее алдачіхані, "бии-кээ," вэндиини, "тоо эи баачанду
 хээилэ, хээини зiзалаа, ум пиктэ хаакпаачііні," вэндиі,
 "эмүчү, гилэми эмүнзини эмүчү.
 тii пиктэзи хүпиндэсүи," вэндиини, "хорчуми." тiтараа,
 "энэје:, мин пиктэji," вэндиини тii ээктэ. "амбаараңгузi хорчуу,
 пиктэвэji." "гээ хооні таву, эигэчүү. хорчуву осіні сии зэпүвэ
 анзуктау, эгдиикүнзи, гоі гоі: зэпүүвэ мүн *разный*
 зэпүүвэ, нааньii зэпүүвэни." "гээ, бии анзуктiiji,
 гээ сии нэнүү," тiмана нэнүхэни, тii-мэт ээктэ тii,
 анзуктахані, үи *каша*, үи хаматаа зэпүвэ, симсэ, күүмбэ, күүмби-дээ
 паачамба хоніраа нээриі, күү *молоковані*, макурі,
 хаіва-даа хүм, анзуктахані тii. үчэ, үчэ кiраазіні, сапсі кiраатіні :
 нээктэхэни. паачамба, отiiнзi отiiнзi паачамба анзуктахані.
 тiтараа, тii іма нэнэхэнзији вэндиини, "гээ хаакуруу,"
 вэндиини, "нэүчүү, гээ хаакуу." тii пиктэ тоо талзіла:
 агбунзухані. хаі-дээ нээлэчиі, "хоон-нүү бии," вэндиини,
*чувствую*ини. "бии тii осіні аксіі:," вэндиини, "тоокузii,"
 вэндиини. тiтараа тii закпi:лані агбунзухані. тараа хаі-даа
 мочасii, мочасiiні осіні, тii іма, гүчи тоокуіні осii,
 тамі-дее закупа: хаакухані, тiтараа закупа хаакухані,
 тii іман, тii пиктэвэ хулумбузухані, ачуктахані. тiтараа,
 "гээ андалі: нэниисү," вэндиі, "гуляісү, сапсі кiраакіні,
берегава." тii-тэнэ андалее: тii зизүми-дее тii ээктэ
 нээктэхэмбэни бакуха сапсі кiраадуні, зэпүлтэвэ. эивэ тii
 пэргиини, тiтараа "гээ, сии-пэк, нэкү, пэргэү," іма
 вэндиини наантіні. гээ тii пиктэ пэргиини, "анајее, бии баланаа
 мээн энби ајадуні эмэтэвэни зэкпимби." гээ тii дүи:кини
 гүчи алуува пэргиини. "јээвэ-дээ
 гээ эмэтэ энъээ ајадуні бии эмэтэ хаі,

молокова, күүчихэмби," вэндиини, "молоко," вэндиини. тii үжээ..., дүжээкини гүчи каша, хаi макурi, хаi-даа хүм, тii пэргэксиини, үчэ кiраатинi зэк тообузуханi, тii пиктэвэ. "гээ эгээ," вэнчини, тii iма. тii вэмбүвэми тii ээктэ-гдэл тii, тохомби сеензiнi хаici, хэтү хэтү туансими ньээхэни. тii пиктэ, маңга опi, тооi дулунтинi эүзи, тii зүэ ньii маңга опорii үчэ кiраатинi газуi, тii пиктэвэ, күсүмэкээчимээри. ciлаа ciлаа иивүзүхээл. "азi амаaji, эи эи, күндү энээжи эи эи," соңгiiнi тii пиктэ. тiтараа күндү, азi тоохотi, хаахатi. түлитини зэк тоохо, азi күндү-дэ. тува-гдэл, тii iма тii паатичими тii вааханi, тii азисалба, күндүсэлбэ. "азi амаава хаизуji ваахаси-кээ-и, эи эи, күндү энээвэ хаизуji ваахаси-кээ-и эи эи," соңгiiнi тii пиктэ. тii наамбанi тii хаизуинi-гүни, там-дее жадаханi тii пиктэ соңгомi тii ходаха. тiтараа тii чупал *работа*хаа:л тii күндүвэ, азiмба тэлзичихээл. тамi-дее, тii долбо-нүү, тимана-нүү, тii iма энүлүхэни. iма вэндиини, "бүэ сэвэньи, хаинi, эргэн тэн iлаа," вэндиини, тii ээктэти вэндиини. "бии симбэ хорчумi ум эргэмби манахамби:, эи пиктэвэси хорчумi ум эргэмби манахамби, эи үчэ кiраадунi хаирiiтi, ум эргэмби манахамби, эси элээ эси бүдиijэ," вэндиини, "ум сэвэни, эргэни тэн iлаа," вэндиини, тii iма вэндиини. тiтараа тii бүчини, тii iма. "эзи: мин бүлбүчэji эзи соңгоксу," вэнчини. "мин бүлбүчэji, нантаваji ачураа, гакса калтаазi сэктэпүлэрээ, гакса калтаазинi мээпээри дасiзураа аусалту"-м-дэ. тiтараа соңгомаарi-дее хаихатi, нантаванi ачуха: холзичиха тiтараа, гакса калтаазинi, наканзураа гакса калтаазинi мээпээри дасiраа акпан..., аурiiтi, тii энзи пиктэзи. тамi-дее тii пиктэ-дээ, амбаа дааi очi, гарпанасii:, сапсi кiраадунi, дүиси гарпii, солi гарпii, хаi, тiзi эньини вэндиини бискээ, зүлэси, гарпаналухандунi. "сии баici: баici-ла, баici-ла эзи гарпара, баici эзи гарпара," вэндиини, "солi, хэи, дүиси, гарпанасуру," вэндиини. jактанзi гарпанасуу тамi. тiтараа, тii пиктэ тамi-дее эньини тii баала тii этэми-дее иизүхэни, нүндүсүми иизүхэни, түэ. тiтараа эньини иизүхэни, мурасiiнi, тii пиктэ, "анajее, мин энби хаизу вэнчини, баici эзи гарпара, бии пэргэми баici гарпii-та," мүрүчийини, тiтараа баici гарпаханi. тiтараа

баici гарпахан
таiикинi, запичii
маңгува даух
ум ньii сиин
тii чакчаахар
илiciдунi: ум
мин-мээчи би
иизүүчийи мап
вэндиини, "ум
вэндиини. тах
тii пиктэвэ. тii
амбаа дааi оч
сиксээзүхэ. аун
хаiва пүжүүрийи
тiтараа тii пик
эмдэ хоъаалii,
хаалi зэптиини
манаханi. тiтар
хаiва, талува.
моо мүнгэл нэ
эньи сиңги зo
нiңмаамба гэли
тii нiңманчиинi,
iма мээпи хура
баакiла гакса б
"гээ амаа бии
"тii пиктэ." тii
ньээзүхэни, тii д
сопли локти ут
хамикинi, тii пикт
алдачиханi, "эньэ
вэндиини. тiтар
тiтараа jакчиханi
үчэвэ ачуруу."

баісі гарпахані, тіва хаіні, јактані, запічііні
таіікіні, запічііні таіікіні, нэниини, тії даухані,
маңгува даухані, тії пиктэ. тамі-дее умун, хаі,
ум һії сиин поронтіні: іліңдахані, тії,
тіі чакчаахар нэнэхэни тії гарпахані-гүни. тітараа
ілісіідүні: ум ээктэ һэээхэни:, ділі дэпэ дэпэ
мин-мээчи бии ээктэ. тітараа, тії ээктэ иізүхэни, тії
иізүүчиі мапаңгутіі вэндиини, "энэнэ: эи ваіла ілісііні,"
вэндиини, "ум пиктэ, мэнэ эи баа һііні пиктэни-дээ биси,"
вэндиини. таханзі, тії мапа-нүү, тії ээктэ-нүү хээриндэхэни
тіі пиктэвэ. тії хээрсиини: хаулее тоохоні тії пиктэ.
амбаа дааі очіні гарпанасуі. тітараа тоохоні, аунзаву очіні,
сиксэзүхэ. аунзаву осіні, аунзаву, аунзііні. тії ээктэ тії
хаіва пүјүүриини-нүү. ута холдондуні хаіва-гдэл пүјүүхэни-нүү.
тітараа тії пиктэти ніңмаамбуву, тэзэни, зэпүвэндиидүни,
эмдэ хоһааліі, хавасі ичиидүни хавасі хоһааліі тахані,
хаалі зэптиини тії-дэ. тітараа золочімі тії, чааміва
манахані. тітараа акпандіі, акпамдані сэктүхэни,
хаіва, талува. талу пасіні, талува, сэктүхэни, тії ојокіні,
моо мүнгэл нээхэни. тізі тирэптүлэрээ вэнчини, ии
эһии сиңги зобіі, синзэиити. тії эигэни-тама. тітараа,
ніңмаамба гэлиини тії мапа. тії мапа, тії пиктэни-тэниі
тіі ніңманчііні, наан тэнэ: мэнэ балдаханзіі запамі, тії
іма мээпи хурахантіні-дэ. гээ элээ вэми, гакса бэгди,
баакіла гакса бэгди доокіла тамі,
"гээ амаа бии таамбі," вэнчини,
"тіі пиктэ." тії вэми үчэји, зип сомізураа тії
һээзүхэни, тії даузухані. тітапі: аміні *сопли локти*
сопли локти утакаамбі, лээмилэрээ даурііні бис-кэ,
хамікіні, тії пиктэ хамікіні. тітараа иізүми
алдачіхані, "эһээ, амаа дидиини, эһээ амаа дидиини,"
вэндиини. тітараа тії ээктэ-дээ элэ-дээ үчэји јакчіхані.
тітараа јакчіхані, "эһээ, амаа дидиини, ачуруу,
үчэвэ ачуруу." "кэвэ," тії ээктэ ачусіні.

4. пүзин хүсэ очіні

эигэнтүнзи-э: пүзи балдахан. зүү хүрээн алдандуні,
кадар алдандуні уму хагдукаан биини. базі калтаазілані
дааі бирүү. дааі хотон. ілаан дэнгэ хото.
тіі биі: тіі, тіі экэсэл, тіі моова моолсііті.
тіміі тээмээри, тіі моова мооломаарі, тіі нэниити.
тіі пүлсиі:л тамі-дее эигэни вэндиини, эигэдүмэни вэндиини,
"хаі, хоон ачіі, бүэ јадапсі, инэн инэн тіі
пүликтэвү. эси, уму ھیі, уму ھیі дэрэзиі, уму ھیі дэрэзиги,
мүэвэ мүэлсиі, моова івачіі, зэбдиі энүүэрэзиі тііні-гүни," вэндиини.
"тараа тіі дүиси тоокпачіхані эүзүпи бэлији
зэптээ, зэми ходупі үрпиі-дээ аја, хаіріі-дээ аја," урчулундііті.
нэүни вэндиини, "тээ-гүни," вэндиини, "аја-гүни," вэндиини.
"гээ, биі тімана, биі, биі тооріі сиі дэрэзүү," вэндиини нэүти.
тіі эигэни тоохон, тімаі бала тоохон. эи, тоохон хамілані,
мүэвэ мүэлсихэни, моова івачіхані, зэбдији энүүэрэзихэни,
элээ чупал чэк. ходііні, эигэни эүзүхэн. эигэни івачіхамбані,
тіі моонгуні бэлэчихэ:н, бэлэчими, моонгуні чупал эсэлчүхэн,
тучіји-дээ үиси ээвүрзүхэн, үилэ: нээкүхэн. тітараа иізүхэни,
тараа зэкпини. гээ хоон тіі, "эи, үлээн-гүни эси.
уму ھیі каука бичини, иізүми зэпүвү, бүэ зүү ھیі
гэсэ пүлүпи, зизүпээри-э: дэнсиі, горо-гүни," вэндиини.
"зэбдиі энүүэрэзиі, моонгузуји тіі
мүэнгүзүји тіі таву. эси үлээн-гүни," вэндиини,
"уму ھیі каука бичини." гээ тіі урчулумаарі зэмээри
ходіха:н, тараа эси зэкпимбэри эсэлчүхэн. тараа
үрпүмээри тээсихэти. тіманаа нэүни тоокуі. тіміі бала тээрээ нэүни
тоокухан, эигэни хаміла, дэрэзихэн. эигэни тіі нэүји тахані-мээч
дэнсиіні-гүни. тіі тіідуні:, уму мэргэн даухан.
тіі дааі хотонзі дичини. тітараа тіі, тіі эигэдүмэ
пүзинзи асілахан. асізүји гэлэндэхэни тіі пүзимбэ.
тіі пүзин-дээ тіхаліі, тізі эдилэхэн. тітараа тіі, тіі,
нээдүмэ пүзин, моонгувані чупал эсэлчүхэн,
эдизиги зүү ھیі ھیэхэн, чупал эсэлчүхэн хаіја, тітараа
иізүхэ:, зэптиі, зэптиідүји тіі, тіі мэргэн вэндиини,
"тіі тіі, ээктэвэ хүсэ ھیі опуваандііні биілэ, миндү биини,

паталан биини,
эдизүни газучіі,
"хоон тіі хоон
гэсэ гэсэ мүлү
эигэзиги гэсэ тіі
тамі, тіі саулімба
тіі соңгііні тіі со
гэсэ гэсэ ээктэ
тітараа тіі, тіі со
теесі хэрэлзүми
тіі эигэни. соңго
"нэнүйе," вэнди
ілалта-даа бипи
эси мимби, бүү
тес катаракані. м
тараа тің тің ката
"мимби. биі эси,
тітараа тіі, тіі дау
аанзіі калтазіні хү
эниі сиңгин мама
эигэчиі: нэмдэ, хэ
кос кос кос очі ма
тараа вэндиини, "г
"энэнэ, мама, хоон
вэндиини. "хаіласі
вэндиини, "аја," вэ
тіі мама нээ ваачіч
нааманчін, наамамі
эниі сиңгин хүмдү
тараа, хасура-нүү х
бүчин-нүү, хоон тах
наамбані-гдэл хээни
тіі заңгірііні, тіі заңг
заңгірамі тіі тіі, тіі н
пүрүү пүрүү опуваан
сэлэзи хэрэктэчү, сэл
тіі јаајамі тіі хаірііні,
хаіхамбані, тің тің эи
зінгал зінгал опуваан

паталан биини," вэндиини, "мин нэүји. симби тii асiзунi...,
 эдизүни газучii," вэндиини. "аја-гүни," вэндиини, тii эси,
 "хоон тii хоон тii табдii асi, асiлiчiiнi-нүү.
 гэсэ гэсэ мүлү мүлү очiн." гээ тii даухан, эдини,
 эигэзији гэсэ тii, эигэји сүсүүчими тii даухан.
 тамi, тii саулiмбатi, эигэни зiң зiң, паандiiнi,
 тii соңгiiнi тii соңгii, iламуу-м соңгiiнi-гүни.
 гэсэ гэсэ ээктэ һiiзi хоон асi эди осiiнi.
 тiтараа тii, тii соңгiiнi. һii, һiiбаанi хэрэлзүми аја,
 тееси хэрэлзүми соңгii, тii биини. госу:сүмi бодi бодi очiн,
 тii эигэни. соңгочум-дее-дэ. наа, "бии эси даузуji," вэндиини.
 "һэнүје," вэндиини, тii тii пүзин. "бии эси һэнүпи
 iлалта-даа бипи дидије," вэндиини. "тii тапи-мүк асiлiје.
 эси мимби, бүјү сиңгэрэхэни," вэндиини, эи күүмби
 тес катараканi. мүн ээктэ һii күүн-дээ, ель ель биини-гүни.
 тараа тiң тiң катаракан. "бүјү сиңгэрэхэни," вэндиини,
 "мимби. бии эси, ээктэ һiiзi акпамi-даа баi баi," вэндиини.
 тiтараа тii, тii даузухан. даузуидунi уму гаксi калтазiнi,
 аанзii калтазiнi хүрээнзи, уму мама эүриини.
 энии сиңгин мама, госу сиңгинзини, хоңсанi-дээ,
 эигэчи: нэмдэ, хэңгини-дээ эигэчи нэмдэ.
 кос кос кос очi мама. наан закатiнi iлiңдаханi.
 тараа вэндиини, "гээ, минзи ваачiiсу," вэндиини. тii мама.
 "энэнэ, мама, хоон тii синзи ваачаву-кээ,"
 вэндиини. "хаiласi запаву-кээ," вэндиини. "аја:,"
 вэндиини, "аја," вэндиини. "пэргиисү аја, хоонтiiкаан"-дэ.
 тii мама нээ ваачiiчiiнi. тiтараа, хаi
 нааманчiн, наамамi-дээ хаiланi запамi наамамбуву.
 энии сиңгин хүмдү-тама. кос кос очi мама.
 тараа, хасура-нүү хэрэлзүми хаунчак һэнэхэн тii пүзин.
 бүчин-нүү, хоон тахан-нүү. тамi-дее: саазуханi.
 наамбанi-гдэл хээни доолонi нээрээ: нүүтиини.
 тii заңгiiрiнi, тii заңгiiрiнi. тii
 заңгiiрамi тii тii, тii нүүтиини. тii нүүтими-дее:, эси-гдэл
 пүрүү пүрүү опуваанчiн, пүрүү пүрүү. "эси-гдэл эвэнчи-гдэл, сэлэ,
 сэлэзи хэрэктэчү, сэлэзи гiiрамсачу осiлатi:," вэндиини. вэми,
 тii жаајамi тii хаiрiнi, тiтараа тii, пүнэктэ-мээчи-лэ
 хаiхамбанi, тiң тiң эи-мээчи тiң тiң тii запараа,
 зiңгал зiңгал опуваанчiн. зiңгал зiңгал опуваандаа, чооңкоki

зололохон. "хаі, зэрги ыіні үикини биі осіні, үилэ-пэк так
 ілізуілаті"-мдэ. "ыиргии ыі пэзикини биі осіні така, нааті-гдэл
 түкиилэти." вэнчин. "биі амнасі вэндиіе,"
 вэндиіни. "амнасі сэвэнтији." тії мэргэн, мэргэн осіхані. хаі, ілзухан,
 эи хаалізани дооні хаі-даа піакум биіни. мочасііні.
 бүэ ээктэ ыі аја-гүни, наандуні тії, хүсэ ыі хазун
 түпүм биіни-гүни, тиду. энэје хамі мочасііні-кээ,
 ыаалазі запахані. хүсэ ыі чичүни очухан бис-кээ.
 титараа баарачііні, иізүхэнзији тії мамава нааманчин.
 тес баарачііті, мама, наані эчээл иізүэдүни зэбдэни
 бэлихэн. хаматані-дээ, кулаамбані чупал бэлихэн.
 мүи-дээ биі хаматані-даа хүм биі. зэпүвэндиіни.
 "эзи ыээлэчирэ," вэндиіни, "зэпүрүү," вэндиіни,
 "сии эси хаізі-дээ: ыээлэсити," вэндиіни, "хэрэктэси
 чупал сэлэ," вэндиіни. "гірамсасі-даа чупал сэлэ,
 сэлэ очуванчібі," вэндиіни. "биі амнасі, хані
 сэвэни," вэндиіни. тії вэнчин. гээ хаі мээнбээни эүзүхэн.
 уса мээндүји-дээ аунзахан-нүү кэвэ-нүү.
 элээ-дээ даузухан. эси-дээ эигэни соңгіі. тії соңгіі.
 "ана хаіва соңгіісі-кээ," вэндиіни, "хаіва соңгіісі-кээ.
 хаіва іламуу-ма," іламуу соңгііні тії эигэни, тії мээпи
 аргалііні, аргалахамба, ыі сааріівані-даа, іламсііні-гүни.
 титараа, "гээ чіэчиндиісү," вэндиіни
 "гэсэ. чіэчиндиісү," вэндиіни. тії тії агдасі
 осіні минзи гэсэ чіэчиндэрүү," вэндиіни.
 "эси биі хүсэ очухамбі," вэндиіни. титараа, ыээхэн,
 эигэнзи гэсэ ыээхэн. хүсэ ыі ілімі чіэчисі-кээ.
 тії-мэт чіэчиіни чімурррр гороті паамамі чіэчиіни.
 "гээ хүсэ очухамбі," вэндиіни эси. асу-даа агдаасіні.
 титараа гүчи, чіэчиіни агбімбураа ичэвээичиі тії, эигэји.
 титараа, таванчі-мүк баарачіі осіхан, эигэни. тес баарачііні,
 тії баарачімі-дээ тії, сауліңгасі-даа түјүзү-дээ анзуктахан.
 тараа эси-мүк-дэ тії, тії асізіји асілахан.
 асізіји асілаханзі-даа тії вэндиіни, "биі јэдү горозі биэсимби,"
 вэндиіни. "эси эвэнчи ыэниіјее," вэндиіни. "амнапу ваахан
 амбаанті," ыэниіни-нүү хаіріі ыэниіни. ілалта аунзахан.
 бүјүмбэ тес ваактахані, тії гаса ыіівані тес тії
 бүјүн үлсэзіни далаухан. гээ элээ ходіі азапсі.

Коби Петровна

титараа тії, тії да
 надан ыі ыэнэхэ
 намутіні-кээ ыэнэ
 тії хүнэлэми ује
 ілаан аһан зизүм
 үи чиндээвэ-дээ
 үи хаіва-даа ичээ
 тамаарі-дээ мзэн
 тії оіва зэмзери з
 зизүмзери-дее тії
 зэптүмбэри зэмзэр
 зизүхэнзи, тії абул
 бичини, вэндэ, ыа
 сагдамдіні вэнчині
 кэвэни бичин-тэ. т
 зизүхэти, вэндэ, та
 аунзііті, сагдамдіні
 "гээ эси-кээ бүэ э
 зизүми-тэниі аја"-м
 таа тії долбоні, хаі
 ну ыэнэми мүтээси
 үивэ-дээ ваамі-даа
 ваамі-даа кэвэ, мзэн
 тії бирээ, тії тээрээ,
 тії зизүмзери-дее та
 гээ зизүрээ тиду аун
 эмүтү. мзэн доолаји
 тамі-дээ тії умундум
 ум зееји ваахані, вэн
 тараа тії үлсэвэкзэм
 тії үлсэвэкзэнзиіни, в
 тії зизүми-э-дээ гүчи,
 дүилэ ичэвэси, сімата
 таванчі тії абулідуні
 вааханзі-мүк. таванчі

5. надан ыи намубаани нэнэхэти

титараа тii, тii даада тээлүнгүчихэн, наамбани.

надан ыи нэнэхэти вэндэ, *охотник* түү. намубаани, хаи
намутини-кээ нэнэхэти-нүү. гээ тиду тii надан ыи нэнэмээри-дее:

тii хүнэлэми уже ум аһан-нүү, зүү аһан-нуу бичити, вэндэ.

илаан аһан зизүмээри, түү, зизүмээри, хаива-даа ваарасити.

үи чиндээвэ-дээ ичээсити, үи гааива-даа ичээсити,

үи хаива-даа ичээсити, тиисали. элээ хүисэти чупал абулүхани.

тамаари-дээ мээн оiji, баланаа сугбу бичин-гүни.

тii оива зэмээри залзачумаари зэмээри зизүхэти. зэмээри

зизүмээри-дее тii абулахан. эи, эи запагдавари хаивани,

зэптүмбэри зэмээри зизүхэти, тii надан ыи. надан ыи

зизүхэнзи, тii абулахан. а сагдамдiti уму дааи ыи

бичини, вэндэ, Һавзанзаа бичини, вэндэ. тii, титараа тii

сагдамдини вэнчини, вэндэ. илалта, бимээри тii, зэптиити хаи-даа

кэвэни бичин-тэ. тii хомчумаари, тii илалта хомчумаари

зизүхэти, вэндэ, таванчи. тамаари-дээ тii илаи инэнгүжи долбо

аунзiiiti, сагдамдини вэнчин, вэндэ,

"гээ эси-кээ бүэ эси, уму ыиива ваарii, тii үлсээзини нэнэ...

зизүми-тэнии аја"-м-да. элээ пүлэ баи баи. хоони-даа нэнэми.

таа тii долбони, хаихати, эси ум ыиива вааву эси долбо.

ну нэнэми мүтээси хоони тiiiti.

үивэ-дээ ваами-даа кэвэни, вэндэ. үивэ-дээ үи-дээ

ваами-даа кэвэ, мээн доола тii сэрүү тii бимээри,

тii бирээ, тii тээрээ, гээ таванчи, тii зизүхэти, вэндэ. тii зизүхэнзи,

тii зизүмээри-дее тамаари-дее гүчи, гүчи элээ мээн хаирiiiti,

гээ зизүрээ тиду аунзүхати, вэндэ. тиду аунзүхан-дээ

эмүтү. мээн доолаji ирчамакаачiiiti үивэ-дээ үи-дээ ваараси.

тами-дээ тii умундумани элээ, хаила биини билэ,

ум зееji ваахани, вэндэ, хаулее-да. дидии, *четвертый* инэндүлэ.

тараа тii үлсэвэкээмбэни запараа, гирамсавани хүмирээ

тii үлсэвэкээнзини, вэндэ, тii зизүмээри тii зизүми,

тii зизүми-э-дээ гүчи, гүчи абулахан, вэндэ, хаива-даа

дүилэ ичэвэси, симатани тес сүнта, нэнэми мүтээсил.

таванчи тii абулiидунi таванчи нэнүхэн, тii уму ыиивэ

вааханзи-мүк. таванчи тii, надан ыи бичиндүлэни эси

ньүнгүн ньй очухани, вэндэ. тii зизүмээри-дээ тii
ваактамаари зизүмээри, тэн ум ньй хурахани, вэндэ.
тii сагдамдiни, хэмэ хэмэ тii биини-тэн, ум хэрэ ньавза
ньй хурахани, тii-гдэл, сiлаан мээнтији тii
хүисэзи iсiзухани мээнтији.
тараа иизүми, үчэвэ иизүидүји түкүхэн, вэндэ.
зеесални мүрүчихэн-тэн тii, энини-дэ элээ бүчители опомаари,
хаулее уму ньйикаан зизүхэн. тараа тiду, вэндиини-тэн,
тii тii алдачiiни, ньйисал иихэн, тiду тii
тii алдачiiни-тэн, "ну, хоони тiiсi."
гээ тii тараа тii тахан вэндэ, тiiсал. элээни.

Коби Петровна К

гээ тii намубаани
тii намубаани нэн
тii, нэнэхэн гүрс
тii-даа тii нэнэхэн
хасу аһан бичит
хэрэлүмээри-дее,
элээ таугазаа вэн
зүэ хүрэн алдан
тiтараа тii сагдам
"тооруу."-м-да, "н
хаива-даа ваарасi.
вэздэклин. халачул
тii тоохон, чүп кэ
тii-гдэл эсигдэл, т
заклун бичиндүлэ,
эзүлм хамасi эзүл
тамi-дээ тii, тii зүэ
сагдамдiни-гдэлэ, ба
тува тообухан, вэн
үчэвэ илим ичилин.
чородоос: гүрiни, вэ
тiки чупал пэк-ээрэ
бүчин. тараа нэни
гдалахан-тан, тii з
тii таваамi тii эзүлэ
тii долбо тii тiсэзүм
хэi баакiни нэниити-н
тii илаачiн-каа тii э
тii аһан тii бичи, з
тii там-дее, ичэкти,
баачамба бакхатi, в
тiду хэгдүн би. тii у
тii-дээ икэрэ зэгдиин
хэi ньiтiн дивү-нүү, х
түнчүмээри-дээ мүтээ

6. закпун ыи намубаані нэнэхэти

гээ тii намубаані нэнэхэти-тэн баланаа-даа закпун ыи.
тii намубаані нэнэхэти бэичиндэми, надан аһані бичити, вэндэ.
тii, нэнэхэн гүрсэл-тама. ыүлзиисэлни эилэ бии. гээ
тii-даа тii нэнэхэнзи тii зееcилби тii вээдэхэти-тэн.
хасу аһан бичити-нүү, хасу аһан бимээри-дее: тii-гдэл, тii
хэрэлүмээри-дее, уму наму, гүчи теекині намути зизүхэти-тэн.
элээ таңгазаа вэндэ, уму наати хаахати-тан. тиду ичэхэти,
зүэ хүрээн алдандуні, ихэрэвэ, тава зэгдиини путазаа-да.
титараа тii сагдамдіні наати хаараа, гилтазахані-тан.
"тооруу,"-м-да, "ыи биини-дэ-тэни," ну зэптиити хаі-даа кэвэ.
хаіва-даа ваарасі. титараа тii-гдэл тii тоохон чүп, тii
вээдэкпин. халачумі-дее, гүчи уму ыiіва тоованчіні.
тii тоохон, чүп кэвэ, тii вээдэкпи. титараа
тii-гдэл эси-гдэл, тэң ілааһii очухати, вэндэ, эси наати-тама, тii
закпун бичиндүлэ, тунза ыи тоохон, чупал вээдэкпи.
эүзүми хамасі эүзүсил. тii тамі тii ихэрэ зэгдии,
тамі-дээ тii, тii зүэ ыiіва ыаалараа,
сагдамдіні-гдэлэ, баахан, вэндэ, наму золоні нолмiiкумба-тама.
тува тообухан, вэндэ. тообумі тоохон, вэндэ.
үчэвэ иими ичиини, тиду зин зин, тес ларгі ээктэ,
чородоо: аурiiні, вэндэ. наандуні-тама, тиду, а хүсэсэл
тики чупал пэкчээрэк, бүчини. тунза ыи чупал
бүчин. тараа нэнии јүүнзини-гдэл тii-гдэл зин зин, тii хайтіні,
гідалахан-тан, тii золова, тii-гдэл кајар иктэмээнчини, вэндэ.
тii таваамі тii эүзүхэн, вэндэ. тii эүзүрээ
тii долбо тii тисазумаарі тii нэнүхэти,
хаі баакіні нэниити-нүү, хаі баакіні нэниити,
тii ілааһii-каа тii зизүи, зэмүсии, јадахан. тамі-дээ тii ээр..., тii,
тii аһан тii бичи, зеелані аһан тii пүликтэи,
тii тамі-дее, ичэхэти, наму токондуни, уму баачамба.
баачамба баахати, вэндэ. гээ титараа тii баачанду хаахати-тан.
тиду хагдун бии. тii уму хагдукаан биини, вэндэ.
тii-дээ ихэрэ зэгдиини. энэнэ нээлэчимээри хаарііті,
хаі ыiітин дивү-нүү, хаі наати. јадахан, маңгалахан,
түнчүмээри-дээ мүтээси очіті, тiiсал.

элээ зүкэ зүкэ мээпээри зүкээн зүкээн-дэ.
тiтараа тii таханзi тii хайрiиду, тiтараа сагдамдi...
тiтараа вэнчин-тэн, "чаха"-мдэ, "иирүүсү"-мдэ, "эвэси."
тiла, тiисал-гдэл зiн зiн элээ зүкэ зүкэ мичүмээри
иихэти. эни:: сiнгин мама биини тiду.
ириизини гэсэ, ичэми, тii накудунi тээндэхэти.
тii мама хаiва-даа заралумi-дээ кэвэни, вэндэ.
тiтараа тii-гдэл ичиити, хагдунi дооланi мүү, палаан, тii мама
палаанi. тii уму нii хаунчак, уму нii хаунчак нэнэхэн тiду,
мангалахан гүрсэл-тама. тiтараа тii-гдэл энүүрүзихэн, вэндэ.
тii iлаан нiiду. уму нiiду iлаа iлаа, сiлакта-мээч бии кулаамба.
энүүрүзирээ бүүриини-тэн, "зэпүксү"-мдэ. "энэнэ:,"
зееcинi кэт хайрiинi, вэндэ, "aja:," вэндиини, вэндэ.
"jэвэ зэптэрээ акпануксу"-мдэ. тiтараа хоонi тiiтi.
адакаcи-даа хоонi тiiтi кулаамба. тiтараа тiва-гда тii зэкпиги,
вэндэ, чаха бүүмээри. тii зэкпинзиги тii акпанчиги,
вэндэ, хаунчак хаунчак-дэ. эн тiмананi тээзүхэти зiн зiн,
доотi кэтү үлээн очин, вэндэ тii, үлээн очинi. тiтараа тiду,
iлалта биити, бичиги. тiтараа тii мама вэндини, вэндэ,
"сүмбэ, сүэ эси мээнти-лэ нэнүксү"-мдэ.
"баi сүмбэ гүзэлэми бии jэлэ агбунчiмбi," вэндиини, вэндэ.
тiисал вэндиити, "бүэ хоонi нэнүвү-кээ"-мдэ, "зэргэзихэпү"-мдэ.
"бии сiндү угда бүүриижэ," вэндиини, вэндэ. тiтараа
тii-гдэл, хаi-тама, наанi, отомба, вэндиити, тува
бүүриини, отii ньүүчикэвэ. тii, тii ньавза гүрсэл вэндиити-тэн,
"энэнэ, бүэ jэдү хоонi тээвү-кээ"-мдэ. "пүүлүвү"-мдэ.
"aja, iсалби чимчака осiраа тээми... тээрүксү"-мдэ.
"тii тапарi сүэ-гдэл, мээнти-лэ нэнүпээри, хаi-даа зэпүүвэни
чупал анзүраа эи отон дооланi, эи мин угдаjи дооланi нээрээ
аназуңаси-танii"-мдэ. "тii тапi бии бакii," вэндиини, вэндэ.
гээ тiтараа тiисал-гдэ тii тээхэти, вэндэ.
тээ хасу инэни-нүү миикэчихэмбэри уму инэн iсiзүхати, вэндэ,
тува, мээпээри, тii, мапа тооитинi хааңдаханi, вэндэ,
тii-күчи. тiтараа тii отомба запазүраа, тообузүраа
пүүлээндүji нээхэни, вэндэ. гээ нiiсэл-дээ таа дичи:,
баарачii, гүрүн, хасу хасу аңан бичини, вээдэкпинзиги
зизүхэмбэни. гээ тii гасан нiiинi, вэндэ,
тii хаматамба-дээ хүм, солi, мосi, хаiва-дээ хүм, анзуктамаарi,
үи геесамсачу угда доотинi нээкүрээ тii тiмананi

аназухати, вэндэ

7. тiiсал-гдэл ньүлзүмээри нэнэхэти

баланаа хаi, баланаа балаптi, мин даадангуй алдачихани,
гээ тii тii уму гасанду бичити, вэндэ, аmini, энини, пүрүлсэли,
уму паталан бичини пиктэни. тii, тii паталамба-гдэл гоi гасанзi,
хаi, асизуй гэлэндэмээри дичити наамбаани, титараа
тii ээктэвэ тii газухатi.

тii ээктэвэ газухаал, уму аһан бичин-нүү, зүэ аһан бичин-нүү,
титараа мээн эннэти ујалзүмi зизүхэн, тii ээктэ, мээн
эннэји бичин, тii хагдун. титараа тiла, сиксэ iсiндахатi билэ,
тавасi, титараа тiла нэнэхэнзи-гдэл, хаi, үчэвэ ниирээ,
пиктэји тообуми тоохони. пиктэни ньүүчкэ бичини.

"эһээ, маа запаруу," вэнчин, вэндэ, тii пиктэји.

тii пиктэвэни-гдэл, ну таiзi запуха, пиктэвэ. титараа,
тii таханзi-гдэ гүчи хазумбi һаанзуй, һаасумi
тii тообii ујал... ујалумi дичимби-тама.

титараа тамi-дее, иизүхээл, пиктэни *нет*,
хагдун дооланi үи-дээ үи-дээ кэвэ. энин-дээ кэвэ, хаi-даа кэвэ,
тiду пiнаа, баi һii хаикаал хаикаал, камчусал,
старый вещьсал остались-та.

титараа-гдэл, тii, тii хазусалба-гдэл, ичиини, хаи-даа кэвэ,
тii хагдун, пиктэни-дээ кэвэ ии, баi пiнаасал хаисал биини.
титараа таңгазахан, вэндэ, хоонi-даа тiiчамi-тан,
мурамi тii һээзүхэн, вэндэ, тii ээктэни-тэн.

титараа хавасi нэнэвү, саамi-даа кэвэ,
энби хаi хавасi-даа нэнэхэмбэни-дээ саамi-дээ кэвэ,
амбi, тiiсал-гдэл ньүлзүмээри нэнэхэти хавасi-каа-нүү-да.
эси тiду дэрэзихэн хазусал биэ-гүни, хаикаал хаикаал бичи,
һii хазусал, *не знаю* пиктэ *исчезла* тiду.

баланаа бичити,
тii, тii баланаа эи
амбаа баахан пат
то ли самамбухат
а зин зин хоонi-д
таматаа экэсэл. ү
баibaи, һаазилни-дэ
дүиси очупi, дүиси
хоонi-даа хоонi-даа
хаi һiiва ваактii-да
тараа тii-гдэл, хоо
палаухатi, тii ээктэ
ну һаалаванi катар
тii хаакухатi, наат
тii экэсэл, хаакуха,
тараа тапi: гүчи, т
баici даураа гороти
тин тин наамбани-та
даузухатi. тапi: зизү
титамi-дээ тii экэсэл
мүмбэ хоонi-даа пал
"тii, тii аңгаланi, ми
тоо тii, хаi када тай
сэвэ оңботинi олбiн..
тii һаазил наанi вэн
олбiндараа, тiду һаа
тii уму һii лупур, ум
вэндэ. тii вэнчити, в
"эи, мүмбэ тii палау
хэнтэзүүлэпү"-мдэ. тi
вэндэ, тii экэсэл. тар
даази үндүхү сеесин
һүүчизи үндүхү сеес
гээ элээ, тii тii тээлү

8. амбаа паталасалба баахаті

баланаа бичити, вэндэ, тii экэсэл, эсивэндээ минти алдачихаті-гүни,
тii, тii баланаа эи јэдү бичин, вэндэ, паталасал,
амбаа баахан паталасалба, амбаа баахаті-нүү,
то ли самамбухаті-нүү, хаіхаті тii тii экэсэлбэ.
а зинј зинј хооні-дээ тамі-дээ ачаасізі, наа ібахані вэндиити,
таматаа экэсэл. үи саарii, хавасі, хаі, хооні-даа тамі-даа
баібаі, Һаазілні-дээ таңгазамі нээлэми зоомбулухаті. дүиси,
дүиси очупі, дүиси-дээ аја, хавасі очупі хавасі-даа аја,
хооні-даа хооні-даа тii-даа, үсэлтэвэ ваактii-даа аја,
хаі Һiiва ваактii-даа аја, хаматаа экэсэл очіті-нүү.
тараа тii-гдэл, хооні-дээ тiiчамаарі таңгазараа маңгу токонтіні
палаухаті, тii ээктэвэ. маңгу токонтіні палаумі золосі үирээ,
ну Һаалавані катарараа палаухаті-гүни, тii ээктэвэ. тараа
тii хаакухаті, нааті хаакун зүлее:кіні хаакухаті, вэндэ
тii экэсэл, хаакуха, элэ-дэ зугду: биити.
тараа тапі: гүчи, таңгазамі экии, таңгар
баісі даураа гороті нэнэрээ хаізі, бокіраа Һаалахаті,
тің тің наамбані-тама тiiзі хаіріі, мооло, бокіраа,
даузухаті. тапі: зизүхэти, элэ-дээ наані зүлеелэни очухан.
тітамі-дээ тii экэсэл вэнчити, вэндэ, "азапсі, мимбэ,
мүмбэ хооні-даа палаувурі-даа эңэси палауруксу"-мдэ.
"тii, тii аңгалані, мимбэ, олбунуруу-м, мүн вэндиитипү.
тоо тii, хаі када таілані биі, Сэвэ оңбоні,
сэвэ оңботіні олбін...", Сэвэ оңботіні олбінчін,
тii Һаазіл наані вэндиивэни алмачумі-тама,
олбіндараа, тіду Һаалахаті. тii-гдэл чупал саңгасал,
тii уму Һii лупур, уму Һii лупур тii, иихэти,
вэндэ. тii вэнчити, вэндэ, иириидүји вэнчити, вэндэ.
"эи, мүмбэ тii палаухан-даа эмдээ эмдээ эрүү эрүндүлэ
хээнтээзүлэпү"-мдэ. тітараа чүп тii иихэти,
вэндэ, тii экэсэл. тараа эси бими-дее:,
дааізі үндүхү сеесін осіні, дааі Һii бүдии, Һүүчи Һii...
Һүүчизи үндүхү сеесін осіні, Һүүчи Һii бүдии, тii очін,
гээ элээ, тii тii тээлүнгүчихэти.

9. зеејі кадал пэиси анахані

хаі, баланаа бэичиини, бэичимээри охотумаарі зүү нии тii охотумаарі зүү нии тii охотумаарі пүлүмээри-дее: хаіва-даа тii, ваарii хаіріі тамаарі-дее, үи саарiiні, хаі соріхаті-нүү хооні тахаті-нүү. тii-гдэл, тii бими-дее, уму зеејі, кадал пэиси, анахані, үјүн һiiва. тiтараа тii кадал пэисини анараа ии, наані-гдэл хамасі тii зизүхэн, тii һii тiду тii, хавасі нэнэхэн-нүү, хавасі, бүчини-нүү үјүн-нүү тii бими-дее, эси-гдэл түүзүидүни-дэ. түү, түү биүхэн. түү бэичихэн, эси хавасі нэниини. элээ тii пүликтэми-дее, бүјүн хагдумбані бакахан. тii бүјүн хагдумбані бакараа тii бүјүн хагдундуні тii иирээ тiду тii, бүјүн һээзүитини зуазiiні... зуадала тiду, тii бичин, бүјүнзи гэсэ аумі. зэмүри-дээ кэвэ:, хаі-даа кэвэ, вэндэ. тii һii тii бичини. тii бүјүн һээзүизини гэсэ тiва, тiтараа зугду бии зеесілні, вэндэ, тiва, бүчини опамі, мүэвэ хүүлси, тii хооні-даа хүм этэхиити. тii этэхихэти. тii бүјүнзи, гэсэ бичин-дээ хаулее һээзүхэнзи, зизүхэн, мээнтији үјүкээн-дээ, ісiндазухані. наані асiвані запіічамі тахан-нүү, хаіхан-нүү. *вот так.*

13 09 2006, О. К.

хоон балдахаті
охотитьсяліі: та
дидиити-тэн, сам
хаі-тама, мехва,
сээпэ, сээпэ это
таматаа хаісалба
мүн нааньiiјі, хаі
тараа тiва зэпти
хаівані, хрящ, бүк
не китайду, хаіріі
будава, бүүри, м
тiва-гдэл мин, эн
дааі гүрсэл тii ур
звэси пүлсүми тii
тii азіні хаіва-нүү
бүксэвэни үлээси
мүн нааньiiсалзi. тii
тii нантава, тамата
бүүвүчэти, тii манз
бүүри. хаі, бусу,
бичити, нантазi хаі,
сугбузiні, утава анз
тii наанii тэтүвэни
а доолоні-даа бусуэ
гаруэуні, ум јэлэ: б
поже рыбазi, рыба-д
хаіва, анзүіті, хаі би
вагбангi, аалу-, тii н
умуту һүүчилэ-пэк т
охотник, тii дэнси б
мин амбi бүчинзiнин
бии нэјі, нэјі, тii з
ваарі бичини. сээпэ
іріті, лэжками хаі, м
үлсэва, ујава, хаіва, к

10. балана нааньї хоонї балдахатї

хоон балдахатї вэндииси, ии. *все*: тїї *рыбачї*;
*охотиться*лїї: тамаарї, пүрүлбэ үзичии, тараа *китаец*асал хаїзї,
дидиити-тэн, *самоходка*-нү, хаїзїні *продавают*, *меняют* *рыбу*,
хаї-тама, *мехва*, сїњакта, *пушнина*ва, хаї бичэ:, сээпэ, и *лиса*ва,
сээпэ, сээпэ *это* хаї, *соболь*. а *лиса*-гдэл сулї, и
таматаа хаїсалбанї *мехва*:, хаїмї, *меняем*
мүн нааньїзїї, хаї зэпүсэлбэ ірїї бичити, вэндэ, бүүриити.
тараа тїва зэптии:л, а *рыба*ва, *рыба* калуга ваарїї тїтараа
хаїванї, *хрящ*, бүксэвэни, тїї бүксэвэни холзїчїраа *японии*,
*не китайд*у, хаїрїїтї, бүүриити, и наатї-гдэл тїла сеетава, упава,
будава, бүүрии, мүн нааньїду. бусу:, хаїва-дээ хүм, сээрэ:, зүэчиити.
тїва-гдэл мин, энэкээн мама алдачїханї, наан-дэкээн-нүү,
дааї гүрсэл тїї урчулундїї бичити. тїї, манзүзї, манзүсал
эвэси пүлсүми тїї хаїрїї бичити, вэндэ.
тїї азїні хаїва-нүү *хря...*, хаїванї-тама
бүксэвэни үлээси бичити, вэндэ. тїва тїї хаїрїїні, зүэчиити,
мүн нааньїсалзї. тїтараа тїї хаїва, сїњактава-дээ умуту
тїї нантава, таматамба-даа хаїмаарї тїї, бүүвүчэти, манзүзї
бүүвүчэти, тїї манзү-гдэл тїї наандутї хаїва, хаїва-дээ хүм
бүүрии. хаї, бусу:, сээрэ:, ута:-ла хаї мэнэ нааньї мэнэ анзүктїї
бичити, нантазї хаї, тоо нантанї, геокса нантазїні, дава
сугбузїні, утава анзүктїї, тэтү, анзүитї. хаї, нааньї тэтүвэни-тама,
тїї наанї тэтүвэни анзүитї, чупал іргаламаарї үрпи,и,
а доолонї-даа бусузи анзүитї-гүни, тэтүвэ, дооло бусузи, хүсэ ньїду,
гарузунї, ум јэлэ: би и гарува анзүитї. и пондоо,
тоже *рыбазї*, *рыба*-даа аја:, *нерпа*-даа аја:, анзүитї. тараа гүчи
хаїва, анзүитї, хаї бичэ:-с. эси вэндичиидүї элээ-дээ оңбохомбї.
вагбаңгї:, аапу:, тїї нантазї анзүктїїтї-гүни, *теплый*ни, мин амбї-даа
умуту ньүүчилэ-пэк тїї *охотник* тїї бичини, бүдэзэлэ тїї
охотник, тїї дэңси бичини, мин амбї. үлээ *охотник* бичин. тїтараа
мин амбї бүчинзини-гдэлэ мин, умун дааї аагбї, тїї пэзикини
би и нэүї, нэүї, тїї зүэ ньї *охотимаарї* тес тес үлээ
ваарїї бичини. сээпэвэ, үлсэвэ, тїї ваарїїні, тїтараа мимбээни
їрїїтї:, *ляжками* хаї, мэндэ мэндэ, ірамаарї диди бичити, сугдатава:,
үлсэвэ, ујава, хаїва, касаткава: сугдатава тїї ірїїні,

мин, хаі, *братији*, нэүји, амбі, мимбэ тес бэлэчихэн бичин.
 бии, эдији бүчинзини хаі, пүрүлсэзији, тii эи, чуу нэүдүмэ
 ээктэнгүји, эи. зуан бееду бичини. ньүүчикэдүни аmini бүчини. аmini
 хаіду, *завклубом* дэнсихэни, *клубдү*, *Биробиджанду*, дүи аһанеэ
 татучіхан бичин. тала зизүхэнзији, тii дэнсихэн, тiтараа,
 наан балдахан, аmini, *55-ом году*, кэвэ, *65-ом году* бүчин.
как раз наан балдахан, аһані. зуан бее ісіхан,
 аmini бүчи-дэ. ньүүчикэндүји дэрэзихэн-гүни.
 дааідума пиктэји-гдэлэ, зуа тунза аһанду бичи. таванчі умуті
 пэзикини пэзикини тii, мин пүрүлсэлби. мин энъэкэн мама-да хаі,
 зүкэ: бичин-гүни, маманазухан, ум таңгу пүлэми: бичин,
 аһані. *а* тii мин, эдији амівані-гдала, *37-ом году* запахані,
тюрьмадү, запактii бичэл-кээ, тавасі тii олбінчіті,
Николайскабаан, олбиндараа, тiду ваахаті-нүү, хоон тахаті-нүү,
 үи-дээ саарасі. мин *роднясалбі*, мин амбі закулсал,
 эгди нii нэнэхэн чупал, үи-дээ зизүми-дээ кэвэ,
 чупал тii, бүчити, *37-ом году*.
и фронтабаан нэнэхэн гүрсэл-дээ умуту, ньүнгү нii-даа мүн
 закулсал үи-дээ зизүми кэвэ, чупал *фронтаду* бүчити.
семьясаліті:, тii дэрэзихэн-гүни, гүзэлэ. бүэ-дээ *колхоз*
 дэнсимээри тii, зуан уму аһанду биидүји дэнсиндэхэмби, бии-дээ,
колхозбаан. тii дэнсихэпү. түүзүүчэни татучii, зуазуучані
 үсүндү, тii хаі, *на полях*, дэнсии. *фронтава* *помогаю фронтава*
 бэлэчивү, *картошкава*, *капустава*, *морковка* *огурцы*, хаіва-даа хүм
 тарчамаарі тii, *отправляя* бичити хаіва, *на запад* *отправить*-нүү,
 хавасі *отправляют*-нүү тii нэнэвэндii бичэл-кээ. хэрэ: дааі очіji:,
рыбачилухан, *рыбачимаарі*-даа мүтии сугдатава *неводзи*, хаі *зимой*,
неводзи ваапі чупал, *тоже*, хаібаан, тавасі *отпрабляji*і,
 зуазуучані тii, *на веслах*, тii геулімаарі, инэн инэн-кээ,
 инэн инэн тii геулімаарі тii *рыбачумаарі* тii, *рыбава*
 ваамі, тес тес, *несколько*, *центнер*, *тоннами* ваамі тii, *отправляя*
 бичити. инэи *неводзи*:, там-дее эси, эси очін биэси-кээ эси хаізі,
плавают, *сетка*-тама, *кету ловят*, эси очіні. *раньше* кэвэ бичини,
неводзи бутii бичипү. *Маринскази*:, хаі *Маринска* *колхоззини*,
Булаванча *колхозни*, мүн, *Аурінча* *колхоззини*,
 тоо: *напротив*, *Иркутскаду* бичин *бараки*,
 зүү *бараки* бичини. тiду бимээри, *весь Амурва* тii:,
неводзумаарі хаіriі бичипү, *кетава*..., давава ваарii бичипү.
 тii-дээ умуту, тii *отправляю* тii, хавасі *на фронт* *отправляю*

тii вэндii бичит
 тээ-гдэ нэнэвэн
 тii тээ опувандi
 бүүрии *сто грам*
 тii геулумі тii *ры*
зимой, *рыба шку*
 луктузуучіані тес,
 тii, *лед* тii тii, *кор*
 тii, *рыбасалба вы*
 түчүчэни тiва зин
Охотска тii, *рыба*
отправляя бичити,
 давава, эи силчив
суднози нэнэхэпү
 тiтараа и *суднози*
 зуан нiiва: нэнэвэн
 нэнэвэндii бичити
 ии, *суднози* зизүхэ
 зизүми-дээ *суднози*
 синзүми дэнсэхээл
 ии, уму нii, хаіні, у
 25, *хорі* *тунза лунк*
 паалдуні:, тii *навза*
 паалдуні хаі, 25-ва:
 паалдуні, паан үдэн
 тiтапi хаіва, *норма*,
 сiмата, биини-дээ эс
 тii бутандамаарі тii
 пүлмэ пүлсии бичипү
 пүлмэ нэнэрээ тараа
Амурті, ии, тii пүлсии
 нэни, инэн тес тiду
 тiтапi пактi: биидүни
 сугдата, уја:, таңгасі,
 хаі-гүни, *верхогляд* гэ
 таңгасі, таңгасі-гда то
 лещь, ии, таматаа, ха
 гоi гоi сугдата *Амуро*
 паалдуні *калуга*, хаі, а

тii вэнди бичити. тii нэнэвэнди бичэл-кээ:, нiiсал,
 тээ-гдэ нэнэвэндиити-нүү, бүэ хаiла сааву, нii тii вэндиини,
 тii тээ опувандiiпу. уму инэн *норма*, эпээмбэ
 бүүри *сто грамм*ва, тiiкаамба зэптии, тапi тii инэн тес
 тii геулумi тii *рыбачумi* тii пүлсивү бичин.
*зимой, рыба шкура*зiнi *обутка*ва үрпүми зобii,
 луктузуучiанi тес, иирии, *вода* иирии, бадi-гдал, нaала-даа ичэү
 тii, *лед* тii тii, *корюшка*ва *рыбачii*дуji, *лед* доокiнi тii нaалазi
 тii, *рыбасалба* *вытаскиваюм* тii, *неводдү* *полный* *корюшка*
 түчүчэни тiва зин зин. *Охотска*баанi:-даа *ездила*, *49-ом* *году*,
Охотска тii, *рыбачii*ндамi, мүмбэ, *колхоз* чупал
отправляi бичити, *Охотска*баан-тама, тiду *рыбачii* бичипү.
 давава, эи силчивэ, наму сугдатаванi тiду *рыбачii*маарi. тiла
*судно*зи нэнэхэпү бичин,
 тiтараа *и* *судно*зи зизүхэ:. *колхо:з* таумбанi тii, *человек*, хасу,
 зуан нiiва: нэнэвэндиини, *каждый* *колхоз* тii
 нэнэвэнди бичити. *и* би-дээ пүлсихэн бичин, *49-ом* *году*.
и, *судно*зи зизүхэпү, нэнэми-дээ *судно*зи нэнэхэ,
 зизүми-дээ *судно*зи зизүхэ, хаi, *рыбалка* ходичанi: зизүхэпү бичин.
 синэзүми дэнсэхээл. тэнии:, сиимбэ дүүчии бичипү-гүни.
и, уму нii, хаинi, убунi дүүчүвү хасу бичин,
 25, хорi тунза *лунка*вэ, дүүчүвү, сиимбэ анзуву бичини.
 паалдунi:, тii нaвза биүхэ-гүни:, тiду-лэ хэрэ күсүнчү биүхэн.
 паалдунi хаi, 25-ва:-даа дүүчии, *а* паалдунi кэвэ, *меньше* дүүчии,
 паалдунi, паан үдэни *лед*ни тес *толстый*, паалдунi *ничего* аја,
 тiтапi хаiва, *норма*, хаi бичин. хоон буа: тес хэдү,
 сiмата, биини-дээ эси хэмээ тii *рыбачii* бичипү:,
 тii бутандамаарi тii нэнэвэнди бичити.
 пүлмэ пүлсии бичипү. *три километр* тii нэнэвү,
 пүлмэ нэнэрээ тараа таванчi гүчи тii, баiсi дауву,
Амуртi, *и*, тii пүлсии бичипү. тiмаi нэнэвү, пактi: биидүни
 нэнии, инэн тес тiду *Амурду* тii бивү,
 тiтапi пактi: биидүни зизүвү. тii дэнсихэпү. түэ, гоi гоi
 сугдата, уја:, таңгасi:, хаiва, хаi-тама, *верхогляд*, *это*
 хаi-гүни, *верхогляд* гэлбүни хаi бичэ:, мээрүү, мээрүү,
 таңгасi, таңгасi-гда *толстолоб* би, паха, пахава саарiiсi,
лещь, *и*, таматаа, хаiва, *карась*ва:, хаңгу, *и*, таматаа,
 гоi гоi сугдата *Амурский* *частик*сал ваарii бичипү.
 паалдунi *калу:га*, хаi, азi:, күндү:,

вааріи бичипү. тараа тіва чупал тії, *колхозбаан сдаваи*:,
 а мээндү-гдэлэ, үмүкээ зүэкээмбэ бүүриити, тіва бүэ, мээмбээни
 тообузупу-гүни, мээмбээни газуи бичипү. талаава анзуи,
 тії-гүни, и хаі, *Амурду, обедаду* энүүрэзии, *повар* энүүрэзиини:,
китайский хаі бичини, моңгочоо, моңгочоо бичин, оромчо,
 гэлбүни, нааһиі, *китайский* энүүэни *вот так*, тії биі. тіїзі энүүэрэзии
 бичити. титараа бүэ тіва, *обеда-даа, обеда* эрүндүни зэмдэзүи,
 инэн токон эрүндүни зэпүвэ зэптиити. тимаі мээндүји зэптэрээ:
 нэниипү-гүни соли, инэн токондүни зэмүэл-гүни. титараа тіду,
 зэптии, сиксэ-гдэл мээмбээни тії нэниипү тії мээндүји, тоокупі,
 пактулду: нэниипү-гүни мээмбээни. тахан-даа кэвэ:, жадахан-даа кэвэ,
 Һауза биүхэ, аја-гүни, *клуббээн, зугбаани* зизүмээри, мээпээри
 хаізумаарі *клуббээн* тії нэниі, *танцеваи*ндамі. титараа тимаі,
 тимаі: пактулду гүчи тії, *рыбачи*ндазүмі, тії бичипү:.
 иі, ҺэнҺэ-дээ хаіва хаірііпу-гүни, *корюшкава* вааріи бичипү,
 хаі бичэ:, *корюшка* нааһиідамі хоон бичэ, арку, арку
 нааһиідамі, лучадамі *корюшка*, нааһиіду арку.
 тіва, тіва *неводли*и бичипү. *неводзи* Маіду.
 у нас Маіду үлээ вааву бичини. тес *неводзи*,
 лед нэниіни доовані, баң *леда, чистый* хаіріі, *берег* хэрэ:
 хаірііні-гүни, *чистый* осіні, тікі *зак(идывать)*..., хаіріі, тес
 тії:, ілаа угда:, *полный* вааріі, тіва тії *черпаю*м
 угдабаані тії хаіріі, титараа хаі, *базаті* сдавали
 тіду Маіду бичин, тіла *сдаваи* тії бичипү.
 тії тапі:-гдэл хаі, аркува, арку *ходузучані-гдэл*,
 силчиивэ дагдаліі, *это летний кета-тама*, тіва *горбушава*: тіва
 дагдаліі, тіва-даа умуту, *базабаан* чупал *сдаваи*, *база*, тіду
рыбзавод бичини, *рыббаза* тіла *сдаваи*, тараа тіду хаірііті,
 тітапі гүчи, силчиивэ, хаі дава осіі, эси Һиі давава бутіс-кээ,
 тії-мээчи, *тоже неводзи*, хаіріі бичипү, эи-мээчи *плаваі*, кэвэ,
плаваі эси: очін бискээ, *после 70-го годазі* очіні,
 а тії зүликини бултії *неводзи*, бутії бичипү. тії-мээчи, *неводзи*
 бутамі-даа нээлэпсүли, хаіріі *столбы ставят*, *там там там*, титараа
течение сильный-гүни, *Амурду*. титараа: хаірііті, *городбаан* тії,
 хоркооваті, хаіріі, тії-мээчи тамаарі *Маринска* хаіні, *бригадані*
 ум лучава, *веревкані* тії *скручила* хэмдэвэни, чупал хаі
кишкини чупал *вылезла*, бүчин, ум луча. долбо инэн тії
 бутаву бичини, баң тоокумі,
 баң тээсүми тії, тії хаіха, ум *бригада* ходііні,

ум *бригада* хаізу
Маринсканча, Ау
 ум *бригада* ходіі
 тамі, тії лучава,
 түтүми пүлсүвү б
отпускадүји, тії тү
 гоідума хаіла, сто
 все, тэтүвэ-дээ ха
 тії-мээчи *рыбачи*и
 тії-мээчи тамі-даа
 таа: мимбэ тії, Ам
 сетка дооті нэниі
 золочүмі, хасу Һиі,
 чүптизүхэни, бичин
 давава, *рыббазабаа*
 паазі биі бичити.
 тасхаю бичини-гүни
полный іраву бичин
 тіду, хаіріі..., тэлзээ
 хаі, эи Каазі, эи Ка
 биі лучасалі:, хаіріі
 чупал хаібаан дава
 мээнтији, *домой*, тії-
 дава ісааді бичини,
 хаалі-даа аҺан, паа
 ісааді вааву. тіду-гдэ
 ум Һүлзімідү, хүүкээ
 кетинава, тізі хооні
 там *частик*, хаі, *рыба*
 указүји, хаі, түэ зэбди
 опі хаі, үсү, *сельскох*
 бэлэчиндэвү, *сенакоо*
 бичиник, бэлэчиі бич
 пактава *собираем* тії,
 зародва анзуктамі, ко
 нэүчикэти-гүни. пакта
 ordova..., *ферма*, мур
 совсем кэвэ, осіті јэдү
 гатбиіс бичити-гүни. д

ум *бригада* хаїзуї, тісаву эи Булаванча,
Маринсканча, Аурінча, бүэ, ілаа *бригада*:,
 ум *бригада* ходііні, ум *бригада* тії тісіі, тії хаїзуні ум ңії, чингүс
 тамі, тії лучава, тії тахаті. ңээлэпсүли бичини:,
 түтүми пүлсүвү бичин, бултії, тії-мээчи *веревкава*
отпускайдүјі, тії түтүлүми ңэнэвэндиидүјі, ңэнэми,
 гоїдума хаїла, *столбила*, хаїзуву, *если* элкээ таха осіні
все, тэтүвэ-дээ хаїраа хочовандііні *кручіліні*, ңээлэпсүли бичини.
 тії-мээчи *рыбачимі*-гдэлэ, *кунгасзі*, *неводва*, золочуву-гүни.
 тії-мээчи тамі-даа эмдэ мимбэ эи *палецалајі*, *сетка запутала*,
 таа: мимбэ тії, *Амурбаані тянет*
сетка дооті ңэниини, ңіісал *гребут*, *а* бии-гдэл *сеткава* тії
 золочумі, хасу ңії, *трое*, хооні хаїзумі хаулее
 чүптизүхэни, бичин, *чуть*, мүэбээн кэтэтэ түкүхэмби, энэнэ.
 давава, *рыббазабаан* іріі бичипү. тітараа *база* тіду *обработчик*
 паазі бии бичити. тавасі *сдаваїндамі* ңэнэвү, *носилказі* тії
таскаю бичини-гүни. хасу ңії, *четыре пара*-да, ңэнэвү, *кунгас*
полный іраву бичини. тітараа тіва, тіва *рыббазабаан* *сдаваю*,
 тіду, хаїріі..., тэлзээчиини: дигдиини, паазі бии бичити, лучасалі,
 хаї, эи Каазі, эи Каазізі, ңэнии бичи тавасі, *Мабаан*, *Маїду*
 бии лучасалі:, хаїріі бичи, *а* бүэ нааңіісал
 чупал хаїбаан дава *рыбачіву*, *неводаду* бичипү.
 мээнтији, *домой*, тії-гүни, мээндүјі-дээ хаїву-гүни, ум аңані,
 дава ісааді бичини, дава-даа пүлээзі ңэнэсини
 хаалі-даа аңан, паан аңан хэмэ хэмэ
 ісааді вааву. тіду-гдэл, хаї ум *семьяду*,
 ум ңүлзиидү, хүјүкээмбэ бүүриі, хүјү давава, *это девять*,
кетинава, тізі хооні түээвү, *да*. оі-гүни. бүэ *семья* ңії эгдини,
там частичк, хаї, *рыбачіраа* тіва дигдии, *картошказі* зэптии,
ухазујі, хаї, түэ зэбдии хаїріі бичити. паїктабаан
 опі хаї, үсү, *сельскохозяйственнайду* маңга опучані, тіва
 бэлэчиндэвү, *сенакосение*, корпузасіні осіні, тіва *помогаїндаву*
 бичини:, бэлэчии бичипү. *бригада* ңэнии, тараа эи *сенова*
 паїктава *собираем* тії, хаїва анзуктамаарі тії, *носилказі* *таскаю*
зародва анзуктамі, *колхозду* хаїва, *коровава*:, муріва тес
 нэүчихэти-гүни. паїктава эгди гэлиини-гүни. гаса гасанду, хаїва,
корова..., *ферма*:, муріва: нэүчии бичити-гүни. эси *колхоза*-даа
совсем кэвэ, осіті јэдү-дээ *совсем* кэвэ очухан *да*.
 гэлбии: бичити-гүни. дава ходіпі-мүк гэлбэвү бичини. хаї, эдү

зүликини, *после войны*, ојојо:, маңга бичин, *тяжело*, хаіва,
во время войны-дээ умуту, мээңгији, *колхозаңгіва* чупал ходупі-мүк
мээңги таву, хаі, *заморозки*-лэ хаірііні-гүни, *картошкава*,
окучка корканині, тіва гүчи *коркавані* хаізі,
ломзі ачукта:чії *капаі*: тії бичипү, мээндүји. мээңгији,
мээн үсүмби, *своей*, *колхозаңгіва* ходупі-мүк *пускают*, *а пока*
колхоз худасілајі, мээңгији тавасі бичини. тітапі
мээңгивэји, тітапі: зизүпи-мүк тіва хүлэзүвү
картошкава. аі: элээ-тэни, хаіва зэлэчүвү зее-дэ.
ии, гэлбэсүи бичипү, амтакава, зүстэвэ, түиктэвэ,
гэлбэсүи бичипү, умактава-да. умактава сааріісі?,
длинная шипишка, таматава *собираи* бичипү.
тізі, хаіва анзүву, *варение* анзүмі хаі-даа үлээ.
сүндү-дээ сіса-даа таматамба таучііті?.
сүн баадусі њамаул-тан *да*. пэкүвүли биилэ тії.
хаи, бии, бүэ-лэ њэнэми мүтэвэси, баібаі, пэкүвүл тії-мээчи,
пэкүвүл бааті. мэнэ эи, Булавунча:, тиңии теелани,
хүпиндэсүми пүлсичиил-кээ, *япония*баан. нааньі хэсэвэни:,
татучііті јэбэ: *японцасал*-дээ-дэ.
сама, бичин-гүни *Маіду*-даа бичини, Шалзү мапа, Кіло
мапа, гэлбүни Кіло, лучадамі *Якови*, наанідамі Кіло мапа.
ларгіі сама бичини:, тіду Ауріду-даа умуту, тії Ангина,
јээнэкэ, тіду умуту, *и*, гэлбүвэни, гэлбүсүми-дээ
оркіі вэндиі бичити, дааі сама бичини.
њіівэ јаајачііні тес ларгі, *и* њіівэ дакпалаа вэндэ,
хооні-каа хаіріі-нүү, тапі њіі энүлүи бичити.
дакпалаа вэндиити, хамата-каа-нүү тії, лучадамі хоон
тіі бии-нүү. наан, хаіучані, њіі энүлии бичити, тії сама.
ии, үңтүхүчү: бичин-гүни, бүчин-гүни, тії ээктэ. эси самаа-да
кэвэ очіні:, *Савинскадү* тії ум мама-даа зин зин
зүкээ зүкээ бии мама, тії эмкээ очухані. тії-дээ
њіівэ јаајамі баі баі очін бис-кээ.
тиңии, мин, мин эдији *братіні*, пиктэни *утонихані* бичин,
тіва гэлэзүми, хасу, дүин инэңи гэлэзүми бакумаарі-даа кэвэти,
тітараа бүэ-гдэл њэнэхэпү, эи, тії мамабаан
пэргэндэвэнчипү, хоон-даа таурі, *советавамі*, тітараа: *она* вэндиини,
"эси, тімана пэргэксү тунза, тунза инэң-лэ пэргэксү," вэндиини,
тунза инэң бакус-даа-таніі," вэндиини, "пэргэксү," вэндиини,
"мин ісалдујі биини," вэндиини, "њаалалані, *веревка*-нүү хаі-нүү,

хаірііні," вэндиини
тіі олпічііні," вэн
тітараа бүэ *ночь*
тітараа тіманані
мама хаіхан биил
запутал њаалалан
сеткани, хаі, *заде*
тараа тіва чаалум
соктоку бичин вэ
јаајамі-даа мүтээси
второй пиктэни, м
амбаа дааі-гүни, м
бакачі-таніі пиктэвэ
ісіхан-даа биилэ, ті
Бау мамава, ии, са
сама мама бичин,
она хаізі, *из сахали*
вэндэ. сама мама б
тіі јаајіні, үлээ мама
эси сама-даа кэвэ о
сээгзэ њіі доороні о
њээлэчүмээри саман
хаіхан-нүү. *а* сүн баа
ии, тэээ, биилэ-тэни
үлээ, вэндиі, њііва х
Монголбаан њэнэхэн
њэнэхэмби. тітараа ха
тіі унааду тес, черем
тіду гандахамбі. тітар
эи, земля, наа эи-мээ
тітараа тіі тактаундар
түүн бичини, тиіси тү
тіі запараа: гаді, эи б
хаі-нүү сеенчасіні-мээч
хаі-даа кэвэни. тітараа
мангазі: сеенчусіні. тіт
ичини-дээ кэвэ, тітараа
эи-мээчи, сеенчусіні. ті
тітараа пүчүрээ: ичилији

хаірііні," вэндиини, "эмээчи *волнадү, течение* тii наамбани
 тii олпичііні," вэндиини. "тімана пэргэндэксүү," вэндиини,
 тітараа бүэ *ночью*, тii зизүхэпү, *машиназi*, саманьиханзіні.
 тітараа тіманані хүсэсэл, гэлэндэзүхэти, элээ-дэ бакухаті. тii
 мама хаіхан биилэ, хаісі, тii *веревка* хаі,
запутал њаалалані, тіва ачумі, ачухан биилэ.
сеткани, хаі, *задев* тii хаіхані вэндэсил-кээ,
 тараа тіва чаалумі, чааліхані тіду, түкүхэн-нүү хаіхан,
 соктокту бичин вэндэ. тii саман-даа баі баі очіні, эси, њііва
јаајамі-даа мүтээси очін, *совсем* маманазухані. пиктэни,
второй пиктэни, мин, мин тээрүји бичин, минзи хэрэ нэүдүмэ,
 амбаа дааі-гүни, миндү, эси, *76дү* биі, наані хаі, *20летдү*-да
 бакачі-таніі пиктэвэ, дааі мама, тii *100летји* пүлэхэни,
 ісіхан-даа биилэ, тii сама мама.
 Бау мамава, ии, сааріі, сүн даадангусі-гүни.
 сама мама бичин, эи, эи наанча бичин.
она хаізі, *из сахалина да. и родом из сахалина*
 вэндэ. сама мама бичини, ісаліні *слепая* бичини,
 тii *јаајііні*, үлээ мама бичин. баланаа самасал-даа кэт үлээ бичити:,
 эси сама-даа кэвэ очіні, хаімі-каа очіні-нүү.
 сээгзэ њіі доороні опандараа хаіріі-дээ биилэ,
 њээлэчүмээри саман-даа, үи-дээ балдаасі очіні-нүү,
 хаіхан-нүү. а сүн баадусу-даа кэвэ, сама.
и, тэээ, биилэ-тэниі, уму, уму-лэ биі-тэн-дэ. үлээ-гүни. сама-даа
 үлээ, вэндиі, њііва хорііні. биі-дээ умуту хаіхам бичини.
 Моңголбаан њэнэхэн бичини, мин амбі тіду бичити, тавасі
 њэнэхэмби. тітараа хаі, *черемуха* гандахамбі, унаа бичини,
 тii унааду тес, *черемуха* балдііні. тітараа
 тіду гандахамбі. тітараа, мин бэгди пэзини,
эи, земля, наа эи-мээчи бичин, суакта-даа кэвэ, хаі-даа кэвэ.
 тітараа тii тактаундараа: гадіі, хаі, сињэктэ тес,
 түүњ бичини, тиіси түкүми, балдахані. тітараа тіва
 тii запараа: гадіі, эи бэгди, пэзикини, чіңал чіңал
 хаі-нүү сеенчасііні-мээчи тііні. тітараа тii ичиі-дээ кэвэ,
 хаі-даа кэвэни. тітараа гүчи, гүчи тііні, тізі хэрэ: хаі,
мангазі: сеенчусііні. тітараа гүчи, тіду бэгди эүрирээ
 ичиі-дээ кэвэ, тітараа эси іліі муда-гдэ:л, эи-мээчи-лэ, дааі-гүни,
 эи-мээчи, сеенчусііні. тіду-дээ-кээ хаңсі, пүчүхэмби бичин.
 тітараа пүчүрээ: ичиіји, тіду хаі-даа кэвэни, *змея*-даа кэвэ,

хаі-даа кэвэ. титараа, тii инэни тii, Аурibaан зизүхэмби.

мин пиктэji, 57-го года, ньүүчи, месяцду бичини.

тизi, зизүхэмби. тамi-дее, пиктэji күүчүвэми

ичэмдii, ичэзиiji, бэгдији *что-то* хаулиini. титараа тii бэгдији

хаулиini:, хаулиханi. эи, эи бэгдини: эмээчи оми хаулиini

үиси тоориini. титараа мин энэкээн мама-гдала,

она паңгачii бичини. тii наалазiji хаi, хаива-даа үирээ:

гадаiни, тii паңгачii бичини. титараа вэндиини, "тii тиду,

Моңголду, ээндэхэси," вэндиини.

"тавасi нэниисү," вэндиини, "хаиңдамi, чээвүчиндэми,

мүн нааньii чээвүчиити-гүни, бултii *молитсалами*

чээвүчимээри хаириiti, "нэниисү," вэндиини. титараа:

бүэ угдабаан үүрээ пиктэji олбумаари тii ум

мин энэкээн мама, бии геулиi, мин энэкээн мама

неокчиi, пиктэji, тii олбумi нэнэхэпү. титараа *Маiва*

хэчүхэпү. *Маиду*-гдала, тii Валзү *Яков*, Кiло мапа бичини,

саманi, ларгii саманi, тiла хэчүхэпү, баң-дэ.

титараа тавасi тоохон, анаје: тii, даама,

бүэ даама-м гэлбүсии бичипү, мин энби *родняи*.

тiла хэчүхэмби, вэндиини, "анаје, хаириini-кээ бэгдиси,"

вэндиини, "хаимi, хаулиini-кээ," вэндиини. бии вэнди, даамати

вэндиiji, "тавасi нэнэхэндүji-кээ," вэнди, "бии сињэктэвэ

гачимби," вэнди, "тii унааду. титараа: бэгдији, *что-то*,

пэзилэни, хаi-нүү сеенчусii-мээчи таханi," вэндиiji,

"iлij муда:, тиду-мүк хаңсi пүчүхэмби," вэндиiji,

"бии тараа, гамi-даа ходiлаji эүзүхэмби." титараа, тii

даама вэндиини, хаi, "аунзаксу:", вэндиини,

"тимана Моңголбаан нэнэңэси-тэнии," вэндиини. "бии эси долбо,

пэргиијэ," вэндиини. титараа аунзахапу. титараа: долбо

јааini: тii, мапа, даама. титараа вэндиини,

"анајее:, манзу, хаi, меуланi ээндэхэси," вэндиини.

раньше китаецасал молитсалами тii унааду тii, молитсалиi бичити,

тiла тэң тактаунчимби вэндэ, бии.

титараа тiла хаириini тii тоориini, тii тоориini

тii: тоохон, *китайский шелказi*, хаi *нитказiни* мин энэкээн мама

јэки:, јэки: јэки үихэн, *все равно* тii үјэкини, тii

эи, эи гүчи, гүчи хаилухан-да, үиси, тiiсi тооми. элээ

элээ хэрэктэ калтазиini јэки зин зин. титараа тii мапа јаајахан, тii

акпанчiпу. титараа тiмаi тээзүхэндүji тii мапа вэндиини, "гээ хоон

биини-кээ," вэнд
хаi, јэбэлээ: бии-
мягкий-мээчи-нүү
элээ эи, хаi *тело*
трескаи-мээчи оч
титараа даама вэ
"*петухэвэ гэлэндэ*
накува." титараа
тii зизүхэмби Аур
тii тараа тii хүсэ
зее долбонi јаајиду
кэси гэлэхэни. тит
кэт үлээ очухани.
нэнэми-дээ кэвэ, т
ајазухамби, анајее.
бүдилэхэмби, үиси,
китайский молитса
раньше бичини, хаi
чукана бис-кээ да
ии, оркii таматала
мүндү, мүндү-дээ эи
кэвэн-дээ биилэ: эси
анзухани хаива, моли
молитсалипу. мин эд
бичити, титали ајакаа
тiла тii сзэвэ эси-дэ
на крыше-тама. титар
по телевизору доолд
тii тиманани тii-гдэлэ
эси-дээ-дэ. сүндүji-дэ
ии, моо бүэ, моозі ан
мүндү. нii-мээчи-лэ ан
пампушкава, пампушка
нэрии, титараа тиду н
нэрии, и зүэ рюмаду
бии, хүсэ пиктэji моли
зикэ, бүэ Ангинсали х
бичити. эси таа наала
дааи нii-даа кэвээ очн,

биини-кээ," вэндиини. бии вэндији, "даама:," вэнди, "бэгдији,
 хаі, јэбэлээ: би-мээчи биини," вэндији, хаіі, пэргји,
мягкий-мээчи-нүү," хооні очіні-мээчи биини, тii энсини:,
 элээ эи, хаі *телоји* элээ калтаазумі
трескаи-мээчи очіні бичини. тiтараа тii-гдэ јэбэ: аја очіні.
 тiтараа даама вэндиини, "гээ мээнтији нэнүрүү," вэндиини,
 "петухэвэ гэлэндээүрүү," вэндиини. "іргачу *петухэвэ-тама*, хүсэ
 накува." тiтараа биі тii хүсэ накува гэлэндээүми угдазипу
 тii зизүхэмби Аурібаан. тiтараа, мээндүји наку бичини, аја-гүни,
 тii тараа тii хүсэ накува запараа газухамбі. тiтараа,
 зее долбоні јаајидүји тii накува ваахані, тii даама. тiтараа тiзi, хаі,
 кэси гэлэхэни. тiтараа тiманані аја: аја бэгдидүји зин зин,
 кэт үлээ очухані. тiтараа тii, тавасі Монголбаан-дээ
 нэнэми-дээ кэвэ, тii мээнбээн зизүхэмби. тiтараа тii
 ајазухамбі, анајее. тii анаа бимчэни
 бүдилэхэмби, үиси, тii тоорііні хаулумі чукана-гүни.
китайский молитсалиіні, хаілані, "тіла тэн тактаунчісі," вэндиини,
раньше бичини, хаі *местони*, *китаец молитсалахані*. тамата-даа
 чукана бис-кээ да. сүндү-дээ тii биини-тэнии, *молитсалиіні-таніі да*.
 ии, оркіі таматала. бүэ-дээ *молитсалиі*, бүэ-дэ,
 мүндү, мүндү-дээ эи Булаванду, *наверно*, үи-дээ
 кэвэн-дээ биилэ: эси, мин эдилэј анзухан, хаі, голді мапані
 анзухані хаіва, *молитсаламі* тii сэвэвэ анзухані. тіла бүэ
молитсалиіпу. мин эдији энсиидүни, энүлүвэми тіла *молитсалиі*
 бичити, тiтапі ајакаа:н очуву бичин-тэн. тiтараа бүэ эси тіва,
 тіва тii сэвэвэ эси-дээ тii нэүчиипү, эи *на вышке* хайдуні,
на крыше-тама. тiтараа, *каждый как китаецсы праздник*,
по телевизору доолдумаарі,
 тii тiманані тii-гдэлэ *молитсалиіпу*. тіва тii этэхиипү
 эси-дээ-дэ. сүндүји-дээ тii тii биилэ да. *молитсалиі да*.
 ии, моо бүэ, моозі анзухан, сэвээвэ, тii биі сэвээ биі,
 мүндү. нii-мээчи-лэ анзухан, тіла хаірііпу, *молитсалиіпу*.
пампушкава, *пампушкава* анзүі, араківа, *еще кашава*, зүэ тарелка
 нээриі, тiтараа тіду нээриі, *четыре* хаіва, дүи *помпушкава*
 нээриі, и зүэ *рюмкаду* араківа нээриі. тiтараа *молитсалиіті*,
 биі, хүсэ пиктэји *молитсалавандііјі*. хүсэ пиктэји *молитсалиі*, наан
 эмкээ, бүэ Аңгинсали хасу хагду, хасу чупал *молитсалиі*
 бичити. эси таа нѣалаха:н, үи-дээ таасі, бүэ эмкээ хаіріі,
 дааі нii-даа кэвээ очін, үи тiiні пүрүлсэл хаалі

тiiтi. биe эмкээ тiвa, хaиpii, мeхoрaачувaндii, мээн
 пиктэji, тii хүсэ пиктэji, мээн пиктэji тоо: *Ельбанду* биe,
 ум пиктэji-тэнии *новый* Булаванду биe, хүсэ пиктэji. эмкээн
 мин хaгдундуji тоо *гаражный* улицаду биeни, мин хaгдуji,
 тiду, эмкээ биeни. aнъанду биe тавасi нэнии-гүни,
 титараа, зэпүсэлбэ анзураа тii тiду, наамбани
 хaивaндii. хaи-даа халанi-даа умуту-гүни:, хaи, мeхoрaачii:,
 тii-тэнии aнъалиiтi. таматамба ньaаламi opкi, ньii вэндисил-кээ.
 хaи, тii ньii, мeхoрaачиханi бүчин-дээ гоi ньii, тii ум,
 ум *семья* тii тii, гоi ньii хaиpii-даа aжa.
 сүндү ээктэ ньii-дээ мiхoрaачiiтi. мүндү,
 jэдүji-дээ умуту, бүэ, мүн jэдү ээктэ ньiiвa эниити,
 тахан-даа ум, ум мама саман мама бичини.
 тii мама, тii, үи-тама, *Анга Соня*-тама,
она тii хaиpii бичини, мeхураачii бичин.
 тii бүчин-гүни, тii мама. таванчi эсi үи-дээ кэвэ:
 хaиpаси, бүэ-дэ-кээ хaиpii. таа луча очитi. хaи ньiiвa
 хүмүми-дээ бултii лучадамаарi хaиpисил-кээ. наaнъидамi,
 вэндисил-кээ, мүн наaнъii, наaнъидамi хaиву-м-дээ, наaнъii
 доорозинi мүүвэ хүүлсии:, ии, *каждый* бееду, *до года* тii-дэ.
а луча-гдала, *девять дней, сорок дней, полгода, год* тiiсали,
а бүэ-гдэлэ *целый год* тii хүүлсиипү. бее бее таундунi
 тii хүүлсивү. сүндүji-дээ тii тiiтi.
 моова, ии, *могиладу* моова нээриити-гүни, *телефони*, вэндисил-кээ,
 тiвa, тiла хүүлсиипү, зэпүвэ:, эньүрээзүрээ тiла тообураа
 тii золочiiпу, тiтапi *ворона*-даа, индасал чупал зэптиити-гүни.
 тii-тэ *как буд-то* наан бакахан-мээчи-дэ, аракiвa-даа бүэ
 тiла хүүлии, тава iвaндii, титараа тава iвaпi тiла зэпүсэлбэ
 нээктиити. ии, наан зүлилэни, *столва* анзуити-гүни,
 титараа тiду-гдэ зэпүсэл нээктиити.
 титараа хэрэ: *минут тридцать*-даа бивэндэрээ, запазуи,
 хaивa, тii тараа *каждую тарелкаду по ложке* нээктэрээ, *кастербани*
 нээриити, *костер* зэгдэбдэни, зэгдэвэндиити. хaи зэпүсэлбэ-кээ,
 титараа, *сухойва*-даа *мукава, рожки крупа* хaи биeни хaивa,
 макурi: хaи, нээриити-гүни, зэгдэвэндиити. макуривa *обязательно*
 хaиву, вэндисил-кээ, наaнъii. тii пүүндү, пүүмбэни
 бакiiтi вэндэ, *они*, бүчи гүрсэл.

Ольга. Александ

11. нь

эсi биe хaивa а
 тээлүнгүчүвү бис
 оңбохомби, эсi-гд
 отii ньүүчикэндүji
 мин энби бүчин
 мин энби бүчини.
 амби запазуи, тii, т
 газуи, Дүүзимбээн
 эвэсi opпичумаарi,
 Ауриду, хaи Йээнэкэ
 гэлбүни Йээнэкэ, т
 тiвa-гдэл эмүсиийэ,
 наaнъii эмүни бичин
 миндү таматаа наaн
 умумбэ, хaи, таа тii
 тii тii, хaи эмүсиийэ:
 тii сонгii, зин зин, н
 мимбэ гoсiлiтi, "вак
 даaйзи jaajамi," биe-гд
 jaajамi тii эмүси бич
 экэ экэ пүликтii, т
 хэрэ пүликталүхэнзүй
 кутамба сiлчуи: тii дэ
 сiлчуи, хэрэ дааи очинз
 талума мүзлүү тiзи, тэ
 хэрэ: дааи опучаји, даа
 тоокүмi билча билча тii
 мүүэ хaи, хaгдун доотинi
 парэкэндүни ocинi," вэ
 опучанi, кэсi анаа ocii
 дааи opпi, кэсичү ociiчaм
 эндэ хүүлбизэ табдани.
 opпичулухатi, мимбэ: экэ
 Ваня бичин, Ваня 32-го
 33-го года, биe-гдэл 35

11. ньүүчикэндүжи хоон бичимби, хоон дэнсүхэмби

эси бии хаива алдачуву, мап запамі, хаива-даа
тээлүнгүчүву бисин-гүни, тіва, зоомбочуву:, балана
оңбохомбі, эси-гдэ бии алдачіі-та мээн балдахамбі,
отіі ньүүчикэндүжи хоон бичимби:, хоон дэнсүлүхэмби,
мин энби бүчин мии, ум аһанду, эчэл ісіадуні,
мин энби бүчини. тараа мимбэ, энби эигэни хэрэ үзичии,
амбі запазуі, тії, тії үзичиини, тавасіңкаі, Аурібаан
газуі, Дүүзимбээн газуі, тії үзичихэти-гүни, тавасі
эвэси орпічумаарі, тамі-дее: бии хэрэ пүликтэлүхэ:н,
Ауріду, хаі Йээнэкэ, мин энби, эигэни бичин,
гэлбүни Йээнэкэ, тії пиктэни ньүүчикэ пиктэ, ээктэ пиктэ бичин,
тіва-гдэл эмүсиіјэ:, тії тії пиктэ, тиисэни,
нааһіі эмүни бичин-гүни, эи зүликини, нааһіі эмүни,
миндү таматаа нааһіі эмүсэни биини, синдү бүүрии-дээ аја,
умумбэ, хаі, таа тії уму, тії тії, јааптунчу,
тії тії, хаі эмүсиіје: тії пиктэ тії соңгії
тії соңгії, зін зін, Һааракта соңгії бичин. тії,
мимбэ госілііті, "ваказі эмчүүрүү, эмсүрүү, јаајамі эмсүү,
дааізі јаајамі," бии-гдэл, "бээ: бээ: бээ:, акпануруу," тії
јаајамі тії эмүсиі бичимби, мэнэ-дээ отіі ньүүчикэ , тэнээ тээсиі,
зүкэ зүкэ пүликтіі, таванчі тії, хаі мэнэ, хаі, мэнэ саалуханзії-ла,
хэрэ пүликтэлүхэнзії, хаулее, хагду доокіні пүликтэлүхэнзії,
кутамба сілчуі: тії дэнсэвэндіі бичи-гүни, хаива-даа хүм, кутамба
сілчуі, хэрэ дааі очінзії, мүэвэ мүэлсиі, мүэлүү, Дүүзиндү, хаі,
талума мүэлүү тізі, тэнээ, ньүүчикэлээ биідүжи, ньүүчикээ мүэлүүзи,
хэрэ: дааі опучајі, дааі-ја мүэлүү, тії хаі
тоокумі білча білча тііні, "эзи хүүлсирэ, мүэвэ эһэву,
мүэ хаі, хагдун доотіні, тоокузуісі гэсэ, хаі, мүэлүү
пэрэкээндүни осіні," вэндиини, "мүэнгүси. хаі, тії-мээчи-лэ
опучані, кэси анаа осіісі," вэндиини, дааі опі, тараа: бии-гдэл,
дааі опі, кэсичү осіічамі, эркээ: газуі, тії мүэлүүвэ, мүэ
эндээ хүүлбізэ табдані. тамі-дее:, сугдатава бутамі,
орпічулухаті, мимбэ: зүэ ааксалбі, дааідума аагбі
Ваня бичин, Ваня 32-го года, а Серга-гдэл, 34-го,
33-го года, бии-гдэл 35-го, бии нэүдүмэ, эмкээн ээктэ бичимби,

мин энби, мин энби пүрүлнi. тiтараа, хэрэ хаi очiнзiйi, хаi
 бутамi пүликтэвү-гүни, мин амбi, бута... хаi, *рыбак был хороший*,
 тii бутамi. тii мүмбэ орпiчiмi, чуу хооңкоду
 мимбэ, геулiвандiитi, хэрэ дааi очiмбi, гээ дааi хаисал, ааксалбi
 зүлиэлэ геулii, бии-гдэл гаста геулiзi геулii, хэрэ ваата осiнi,
 геулii, мүтэси, нүүвүми, тiтараа хаимi тii геулiйi
 мимбэ, тii тирии бичини, лопток, тii, тii дэңсүми,
 ньүүчикэлэ-пэк, тii бутамi, тii пүликтэмi, тii
 дэңсiхэмби-гүни, мин, мин аагбi *Серга, Сергаңаса, 47-ом году*,
 бучини, тii хаi, сүп бутамi ньүүчикэлэ-пэк, бутамi
 пүликтэмi-дее, энүлүрээ, *простыл*, хаiва, *водянка*. нааһидамi хоонi
 вэндиини, мүэ, мүэсиктү вэндии-нүү. тii тiзi энүлүрээ, *47-ом году*
 бучи, аагдума *Ваняңаса-гдэл, 49-ом году*, тii-дээ эргэ энүзини,
простуда, ньүүчикэлэ-пэк тii бутамi, түэ зуа тii бутамi,
 тii пүликтэмi тii *простыл*, тараа-танii ааксалбi чупал бучити.
 тii хамиланi бии эмкээ очуха, тii тii дэңсүми
 тii пүликтii, хэрэ:, хэрэ элээ дааi очiнзiйi, мапасалi,
 хаимi, мимбэ орпiчii бичити, бутандасумi, бутамi.
 адул түлэчии:, аунзаду пүрэндү, пүрэндү бими, хэвэн даадунi:,
 Дүүзиндү. бии-гдэл энүрээзи: геулii, тii геулii, мүмбэ
 тii дааi гүрсэл тii геулуви, геулуwandii бичити.
 эи зүликини, бүэ ньүүчикэ пүрүлсэл тii геулiчii бичипү,
 экэсэли, а хүсэ һii хаалi-даа геуласитi, наатi ньеокчамаарi
 тээсиити. *трубкани* нолмi:-гүни. тiтараа, хэрэ, хэрэ тii үрэхэнзи,
 тii мапасал, мимбэ тii орпiчii бичити-гүни.
 геу геулабдаj, энүрээди:, геулii: сугдата вааву, ваавучатi
 сеептулава, хаi сүилии:, наатi, хаi мэнэ тэлзэчии:,
 сеептула сүилии, тамi-дее макурi анзуй: тамi,
 хэвэндү, Дүүзи хэвэндүни тii, аусiзiйi:
Митрика, Митрика агазi, тii тiiсал, тiiсал тii орпiчii бичити.
 тамi-дее хэрэ үрэ..., патала осiзiйi гэсэ, *колхозду, колхоз*
запазуханi-гүни. амазi: пүликтii бичини-гүни, бутамi. эмдэ-гдэл
 хаиду, хаi аһандунi бичэ, *война* бичини-гүни, амаа: хаi, мин
 энби, мин амбi асiнi, мин энһирэмби осiнi-гүни, мин бэжэ энби
 бисини, энһирэмби, ааксалбi *Ваня, Серга* чупал үжүү бичити,
война эрүдүни, *это где-то 43-м году, 42-ом году, наверно*, хава,
 хаиду, хаванi даадунi, Дүүзиндү, дааi маңгуду хава даадунi
 бичипү, тиду-гдэл, күитэл меечанi, амаа, мин амбi
 күитэл меечанi бичини, күитэл меечанi, зiң зiң, дааi дааi азiмба

ваариинi, и түэ, т
 эи, эи маңгукi, м
 эжэки-э: *маяк* анз
*маяк*сал чупал, н
 тii, мүн хайдупу, х
 тii таматава анз
 эмдэ, ум, эмдэ-гд
 тiтараа газуханi, х
 угда, бүэ, дааi ма
 хаi, күитэл, жоорон
 вааханi:, эжэчи: да
 угда үжэкини, хоон
 туанчii-нүү, тiтараа
 колхозду, колхозду-
 хэвэндү, даадунi, С
 гэсэ бичипү-гүни. т
 запүвэс, хаi, бригад
 корува, хаi, сирүүвэ
 мээндүжi. тiтараа тi
 һii-гүни, экэсэли-мэ
 пасi пасi, ујаава-дээ,
 отi: паалдунi эи, эжэ
 тараа нээктиити, тар
 "кому, это кому, ком
 пааһидунi, баi патii-м
 и тээл, хаi, тii тii бич
 заводду, войну, войну
 гүрсэл зэбдэни, чупал
 запавасi бичини-нүү э
 добросовестные были
 тii дааi азiмба вааханд
 бэжэни, бэжэни запi
 бэжэни бичини-нүү
 завод тараа пүкүмбэни
 тii дiлванi пааванi: чуп
 эи вэндэ-эмкээ, маяк
 лучасал бичити, тiсалд
 тараа тii азiмба бэжэни
 даа: заводду сдываи-да

ваарііні, и түэ, түэ нэркимбэ хаіва анзухаті-гүни
 эи, эи маңгукі, *маяква* анзуктахаті. тіду:
 эјэки-э: *маяк* анзуктіі, *маяксал* эгди бичи, эси тіі
маяксал чупал, неемі, ум *маяк*-дээ кэвэ очін бис-кэ.
 тіі, мүн хаідупу, хавані даа *закпадуні*,
 тіі таматава анзумі, *маяк* анзуі гүрсэл бичити. тараа
 эмдэ, ум, эмдэ-гдэл, хаі, күитэли тімаі, јоорондохон,
 тітараа газухані, хаі, угда, нааңіі угдані бичини-гүни, дааі-у:
 угда, бүэ, дааі маңгуду, ваата, тес ңааракта ваата. тээ эмдэ,
 хаі, күитэл, јоорондохонзіі зизүхэни, тімаі, дааі азімба
 ваахані:, эјээчи: дааі-тама, угда, угда эјээчи биини. азі-гдэл,
 угда үјээкини, хооні тіва туанчіі-нүү, хооні
 туанчіі-нүү, тітараа, тээл, азімба-даа хаіду,
колхозду, *колхозду*-дээ бутаха, хэвэн, хэвэн, *Дүүзінду*
хэвэндү, даадуні, *Софийск*, *Софийск*, гэсэ,
 гэсэ бичипү-гүни. тээл *война* эрүндүни сугдатава бүэ
 зэпүвэс, хаі, *бригададу* дэңсүми-дээ умуту, корува, хасу-а
 корува, хаі, сирүүвэ:, хаіва хасумба отіітакамба запіі,
мээндүји. тітараа тіва, эи-мээчи чаасумі борііті, гэрээ:
 ңіі-гүни, экэсэли-мэн дэңсиини, экэсэли, пүрүлсэли, тітараа хаі,
 пасі пасі, ујаава-дээ, ум ујаава, гэрээ: ңііду борііті,
 отіі: паалдуні эи, эјээчи эјээчи,
 тараа нээктиити, тараа уму ңіі хэрэлиини,
 "кому, это кому, кому, пааңіідуні баі ділі-мэли, паалдуні
 пааңіідуні, баі патіі-мэли, паанідуні ваказі:, токон талаа.
 и тээл, хаі, тіі тіі бичин, вааву, сугдатава чупал *сдаваю*
заводду, *войну*, *войну*, *войнава* бэлэчүми, хаі, соріі, чауха соріі
 гүрсэл зэбдэни, чупал *сдаваю* бичини, мээндүји запавасі,
 запавасі бичини-нүү элээ, ңіі паапуласіні-гүни, хаі, мэнэ,
добросовестные были люди да, в то время. тітараа, тіі ама
 тіі дааі азімба вааханду-гдэ:л хаіва, *завод принимаюми*,
 бэјэвэни, бэјэвэни запіі, ділівані, пүкүмбэни, *принимайсін* баі
 бэјэкээмбэни *принимает* хаіва, анзубдіі, *консервава* анзубдіі,
завод, тараа пүкүмбэни: тіі хаівані зін зін, дааі хаі,
 тіі ділівані паавані: чупал, тіі хаіва, анзуі лучасал, тіі хаі, бичэ:
 эси вэндэчэм-кээ, *маяк*, *маяква* *вывкасалба* анзуі
 лучасал бичити, тіісалду: бүүктэхэпү-гүни.
 тараа тіі азімба бэјэвэни, амаа тіі, *Дүүзимбээн*
іраха: заводду сдавайндамі. тіі тээл ваахані азі, биі

тамата азимба, тээлхээн, эмдэрэхээн ичэхэмби, таванчи-дээ
 хаиду-дээ ичэми-дээ кэвэ, зин зин, Һааракта дааи, зин зин, угда,
 угда үеekiни би и аз-тама. угда тii би и, тii аз, азимба, дааи
 азимба, кээзүктэзини нааньii, кээзүктэзини, таундii бичити,
 кээзүктэ. азипу, хаи, хайдуні бис-кэ, кээзүктэвэ
 сааріісі. тii кээзүктэ, тiвa, тii кээзүктэвэ таундiiті,
 таундii бичити, кээзүктэлэ. тii дэңсүхэмби-гүни, тiтараа хэрэ
 хаи, очінзі, *комсомол, комсомол очі, бригада* дэңси и,
бригадазі-даа, хаи, зуазуучані, үсүндү, *шаманкаду*, үсүмбэ тарчii,
колхоз үсүмбэни. а боло, ҺэнҺэ, түэ бутii, бутамі хэрэли и.
 түэ тii дааи маңгуду зүвэ, зин зин, Һааракта, бэжэ, ділізі-дээ,
 гугда, тii зүвэвэ, дүүчүвү:, хаива тii, хаи зүвэвэ
 ачуктамі, тес маңга тоо: *глубокий*, тес суңтава.
 ҺэнҺэ аңгалii, түвэ-дээ аңгалii,
53-м году, Сталин бүчиндүни, бүэ *все бригада* чупал,
 сугдата хаихан, сугдата тээл аҺані, хаи-дээ ісааді бичини, Дүүзин
 дааи маңгуду *вообще*, сугдата үлээнзи вааву-гүни. а тээл
 аҺані кэтэ ісааді бичини сугдата. тiтараа *бригада* мэндэ, маңгува
 јап, аңгалумі, дүүчиіпү:, гэрээ Һii, гэрээ Һii
бригада мэндээ-дэ. тамі-дее тiмаі, *председатель*, эи зүликини
председатель-дээ мүнзи гэсэ гэсэ дэңси и бичити. хаи, зугду
 тээсүми, хаиду *контораду* тээсүми зангікаачумі үи-дээ кэвэни,
 тэң, тэң нэркимбэ, гэсэ гэсэ, мүн хаива дэңсиіпү
 хаива гэсэ гэсэ дэңси и бичіпү. тiтараа, эмдэ *завод*,
 пуупачiiні: тiмаі, *восемь часов*, закпу часіду, тiмаі, гіванду Һээм:
 осіні, бутаву бичини-гүни, эи зүликини, хаи дэңсүвү, *световой день*
работали, от зари до зари.
 Һээм:, Һээм: осіні хаи, Һэнэвү, тараа закпу *часадү*,
завод пуупаарiiні, пуупаачiiні:, түэ-тама, хаи *апрель* хаи,
мартаду, мартаду-гүни, Сталин бүчин и. тiтараа бүэ
 мүрүчиіпү, зуа-гдэл хаи, Һiiсал, Һii иивүчэни-дээ, хаи
 очін-дээ тii *завод* тii пуупаачiiні хаи, тiтараа эси,
 урчулундiiпу, мээн доолајі, *бригада* хаи, Һii миіхэни,
завод тii горозі пуупаачiiні, горо горо
 пуупаачiiні, тii пуупаачii тii пуу..., тамі-дее
 ичиіпү анајее, Дүүзинзи уму Һii, түтүлиини:, түки и
 ілзүі, түки и ілзүі, тамі түтүлиини. бүэ-гдэл тii
 пээскиіпү: вэндиідүни хаи очіні-нүү, хаи очіні-нүү,
 тiтараа хаи, тii зүликини, кэвэ, тапі-дээ,

тамі-дее зізалаа
председатель, л
 ээктэ пиктэ, *Нин*
 татучіхані, тараа
 түтүлиини бис-кэ
 түки и ілзүі, тii за
 тii пуупаачii. тамі
 хаімі, пулахумі тii
 доолдiiпу *Сталин*
 бүэ-тэни и чупал т
митингэ хаи, *мити*
 түэ сугдатава-даа
 маңгу дааи-гүни, тi
 аңгалiiчіхалу. тiтар
 зи-мээчи-лэ зин зин
 тii тii соңгомі, соңг
*митингэ*бээни. тiтар
 хаи, тiду алдачіті. з
 тiва-дээ элээ оңбii.
Сталин бүчимбэни.
 Һүүчикээлэ хооні м
 сiлчичувэнди и, хэрэ
 хэрэ дааи очінзі, бут
 иимбэ тири и. тii Һү
 бутii-дэ, зуа үсүндү,
47-ой годаду, хаи хаи
 хаи бичини, *участкан*
 тес мүэ, далаа бичи,
 сэрүхү-дээ мүэ доокін
 Һоолм балдiiні, үсү, к
 налу-мээчи-лэ. тiтараа
 бичини-гүни, сугдата-
 тiтараа ҺэнҺэ, а түэ
Шаманкабаан дүүзинз
 лок, үи ломава запі,
 хаива, картошкава, сиң
 хаива, сиңгүнчини тiва-
 тii картошка *ландорик*
 датактамі зи-мээчи-лэ,

тамі-дее зізалаа осіізіні хаі, *Журбин* бичини,
председатель, луча. тії *Журбин* пиктэји таакухани,
ээктэ пиктэ, *Нина* бичини, патала. Бүридү-нүү хаиду-нүү
татучіхани, тараа *каникульзи* зизүхэни. тії тії
түтүлиини бис-кэ:, түкии ілзуі түтүлии,
түкии ілзуі, тії *завод*, тії пуупаачіі,
тіі пуупаачіі. тамі-дее хаівані-дээ пулахііні: *жаалазі-ма*
хаімі, пулахумі тії түтүлиини. тамі-дее зізалаа очумі хаі,
доолдіпу *Сталин* бүчини, гүзэлээ, *Сталин* бүчини....,
бүэ-тэнии чупал тії тії хаі, чупал соңгііті умутузі, тітараа хаі,
митингэ хаі, *митингэдү* эгди *һіі-гүни*, гуті пүлэми: *бригада*,
түэ сугдатава-даа ваавасі, ум бааду-мал очіпу-гүни, *а*
маңгу дааі-гүни, тії маңгува *јап*, *хаіла*, *хаіріічі*,
аңгаліічіхапу. тітараа тії хаі, тії зизүпү:, *поктокі*
зи-мээчи-лэ *зин* *зин*, *рядом* іліраа тії *һэниипү*, тії *һэниипү*,
тіі тії соңгомі, соңгомі тії-гүни, зизүэпү *Дүүзинбээни*,
митингэбээни. тітараа тії *митингэбээни* тії *Сталин* бүчимбэни-кээ
хаі, тіду алдачііті. *это 53-м году*, элээ элээ
тіва-дээ элээ *оңбіі*. *мартаду*, хаі *мартадуні* *оңбохомбі*,
Сталин бүчимбэни. тії *дэңсихэмби-гүни*: *һүүчикээлэ-пэк*,
һүүчикээлэ *хооні* *мээпи* хаі, *пүликтэлүхэнзи*, *котамба*
сілчічувэндии, *хэрэи*, *дааі* *очінзі*, *хаіва* *мүэвэ* *мүэлсүвэндии*,
хэрэ *дааі* *очінзі*, *бута* *мі* *орпічіі*, *геулівандіі*, *геуліжі*
мимбэ *тириі*. тії *һүүчикээлэ-пэк* тії, *бута* *мі*, *хэрэлиі*
бутіі-дэ, *зуа* *үсүндү*, *патала* *очінзі*, *зуа* *үсүндү* *дэңсиі*.
47-ой *годаду*, хаі хаі, *таріхапу-гүни* хаі, *Шаманкаду колхозный*
хаі бичини, *участкані* бичини. тіду *таріхапу 47-ой год*,
тес *мүэ*, *далаа* *бичи*, *һааракта* *далаа*. *чупал* *аамбухані*.
сззүхү-дээ *мүэ* *доокіні* *һоо:м* *зүстэ*, *зүстэ* *мүэ* *доокіні*
һоо:м *балдііні*, *үсү*, *колхоз* *үсүни* *чупал* *аамбухані*, *тілі* *тілі*
наму-мээчи-лэ. тітараа: тії *47-ой год*, *хагдау*, *хагдау* *аһані*
бичини-гүни, *сугдата-даа* *кэвэ*, *хаі-даа* *кэвэ*. *тес* *далаа*.
тітараа *һэңһэ*, *а* *түэ*, *түэ* *түэзи-пэк* *хаіва*, тії
Шаманкабаан *дүүзинзи* *пүликтіі* *бичипү*, *ломава* *орпічумі*,
лом, *үі* *ломава* *запіі*, *үі* *каілава* *запіі*, *тараа* тії
хаіва, *картошкава*, *сиңгү*, *наа* *гүчи* *сиңгүнчиини-гүни*, *мүэ* *доолоні*
хаіха, *сиңгүнчини* *тіва-гдэл* *ломзі* *хаіріі*, *каілазі* *хаіріі*,
тіі *картошка* *ландорикивані*, тії *сиңгү* *картошкава*
запактамі *зи-мээчи-лэ*, *капа-мээчи-лэ* *очіні*, тії *ландорики*

тiвa, тiвa нaасумaарi, лучасал-дээ *завод*, лучасал-дээ
 тii нaасуi:, бүү *колхоз* хaи, нaаньiисал-дaа тii
 нaасуi тiвa анзурaа, тiвa хaи гaзурaа, тучiзi ирчүмi.
 дүүзiнбээн гaзурaа тiвa хaи, *ландорики*, *лепешка* анзуй
 бичипү, капaмбa, эпээмбэ анзуй бичипү. тiтарaа тiвa, пукaл
 зэмi хaи-дaа амтавулi, гитүл, гитүл опучанi, пээр пээр пээр
 одиини, *крахмал* тii-гүни. хaиду, *войнаду*,
 мүн хaиду тii амаа, азiмбa, дaаi азiмбa
 вaарaа тiiдунi, хaизi, *резиденция*зi, хaи хaи, пүлмэ
 пүликтii бичити, лучасал, хaи хaивa, вээлүвү,
 пос пос-дэ. *резиденция* хaиду бичини-гүни,
Удиль, Удиль, Кольчем хэвэни, *Кольчем* хэвэндүни
 тиду *прииск* бичини. аiсiмбa хaи, гэлэкэчүвү, *приискати*,
 лучасал бичити. дaаi сугдaтaвa хaи, сугдaтaвa
 зүвэчиндэсүмi тii пүликтii бичити, *47-ой, голодный*,
 хaгдау аньанi. сугдaтa хaи-дaа ажa, хaи-дaа ажa
 тii, мэнэ-гдэл, хaи, *сераванi*:, *серава* хaиларaа, пүүүрэрээ,
 эи-мээчи тii *кубик* анзуйтi, эи-мээчи тii
кубик, iнa, эи-мээчи тii *кубик* анзуйтi. тiвa: балаптi
 тэтүсэлбэ: хaи балаптi утa, хaивa-дээ хүм зүвэчүмi, *а* бүү-гдэл
 тэтү анaа, саңгa анaа тiвa, сугдaтaзi, зүвэчii бичипү,
 тарaа: тiiсал хазумбa олбiмi мүнти дидii, хaи, iнa бутii,
 бутii хaи гүрсэл тii. тiтарaа таванчi-гдэл сугдaтaвa
 пiналазумi бутii хaи, гaзуи: пос пос хaитi, пүликтii,
Кольчем хэвэнзини, тii вээлүпэчii бичити,
47-ой годду. тii *прискава*-дaа баланаа, *после войны*,
война ходуучанi биилэ хaихатi, *завод приска* бичини-гүни.
редизенция назывался, хaи *Кольчем* хэвэндүни. тii бичини, тарaа
сорок..., *война* ходахандунi, *45-ом* году, *война* ходахандунi-дaа
 бүү баарачумаарi-дaа кэвэ. хоонi баарачiiсi эи, эи jэдү,
 сорii, сүнзи сорii. *войнаду*, хaиду, солiлa *война* хоdахa,
а мүндү-гдэл *война* осiнi-нүү, хaи осiнi-нүү, тii
 сорiмбa тii хaи эүрэчүмi тii, нээлэчүмээри тii
 бичипү-гүни. эи-мээчи-лэ биүхэ. *колхозду* дэнсiхэмби-гүни,
 балдаханзii: *колхозаду*-мүл, дүүзiндү *колхозаду* дэнсiхэнзii
 эвэси булавантi дичиндүji булaвa *колхозду*-дaа эи
 сагданзуйдалa тii дэнсiхэ. хaиду-дээ *зарплата* бакамi
 дэнсүмi-дээ кэвэ. *а колхозаду*, эи зүликини, бутамi хaи,
 хaивa бүүрэ, хaивa-дaа бүүрэси бичити-гүни, бутамi, бутaпi:,

ваказi сугдaтa, Д
 ваказi сугдaтa вa
 аманaа хaирii, ама
 талон, упa, упанд
 эпээндү: тii талон
 сугдaтaвa бүүпи,
 сеетамбa-дaа далi
 бүүрии бичити та
 тii после война хо
 эпээмбэ, эпээ карт
 две сти грамм, на
 заводду дэнсii гү
 дэнсii гүрсэли, ка
 мүн карточкавa гад
 карточкаванi. тiтарa
 карточка бии, эпээ,
 бүү гамi мүтэси. тiт
 бичипү-гүни, лучаса
 хaи, калтааванi наан
 война ходуучанi:-да
 тii аньансалду, тii 47
 сугдaтa-дaа кэвэ:, хa
 хaи, баача биини. баа
 тii баача, тii баача х
 эгдiс оочо пүрүлсэни
 эси сачокзi вaарii, тiт
 ой хaивa, тii оочо пүр
 тiрсэн-дээ бии, хүисэн
 кэстэ-дээ мэндэ хaи-да
 кэпүр кэпүр кэпүр тii
 тii-кээчи балдуха: эи
 бичини-дээ, нүүи-дээ нүү
 нүүгэн-дээ базумаачихан
 хaивa, хaгдумбa-дaа нүү
 хaи, амаа хaиду, пүрзэн
 эси эсiхэндээ-дэ, эси в
 кэвэ, сугдaтa вaапi, ажа
 элэв, зaпaмi-дaа ажа. зa
 сулазүвү, азiмбa умумбэ

ваказі сугдата, Дүүзиндү сугдата-даа малху бичини-гүни, ваказі сугдата ваапі, хаізі, хаі бичини-гүни, хаі-тама:, *талон* аманаа хаіріі, аманаа мэнэ хаімі, *талон* бүүрии бичити. *талон*, упа, упанду:, симсэдү, сеетанду: тii *талон* ии, эпээндү: тii *талон*зі, хаі, зэпүвэ гактii бичипү. ваказі сугдатава бүүпи, ваказі далін далінзіні, упамба:, хаіва сеетамба-даа далінзіні: симсэ-дээ *ведро*зи: тii, тii хаі бүүрии бичити *талон*зі. тii, тii *талон* кэвэ очінзіні, тii *после война* ходуучані, *война* ходуучані биилэ, *карточка*, эпээмбэ, эпээ *карточка* очіні-гүни. *сто грамм*, *две сти грамм*, *на человека*, бүэ сугдатава ваарii-дээ, ии *заводду* дэнсиі гүрсэли *заха* бакii, *а* бүэ *колхозду* дэнсиі гүрсэли, *карточка*ва бакii-дээ, тараа *завод* *заха*зі, мүн *карточка*ва гадii бичити. эпээ, эпээ: симсэ хаі *карточка*вані. тiтараа тii *карточка*ва-гдэл, мүндү, мүндү *карточка* биі, эпээ, хаі-даа хүм *карточка*ні, *а* *заха* кэвэ. бүэ гамі мүтэси. тiтараа тii тii-мээчи-лэ хаіріі бичипү-гүни, лучасал мүндү, *заха* бүүриі, бүэ-гдэл, *карточка* хаі, калтаавані наандуті бүүриі, калтаавані мээндүји сулазүі, ии, *война* ходуучані:-да, *война* ходуучані:-да бүэ 47-ом тii, тii аһансалду, тii 47-ой һааракта хагдау аһані бичини. сугдата-даа кэвэ:, хаі-даа кэвэ. отii: һэһһэ, хаі Дүүзиндү, хаі, баача биіни. баача ичэхэси? соліла бичи-кээ баача. тii баача, тii баача хаі, хаідуні һэһһэ, оочо пүрүлсэл эгди: оочо пүрүлсэни бичини, тараа тii оочо пүрүлсэлбэни, эси *сачок*зі ваарii, тiтараа тii, тii *сачок*ва-гдэл, хаі, ой хаіва, тii оочо пүрүлсэни отii: һүүчикээ оочо хүисэн-дээ биі, хүисэн, тараа тiва-гдэл пүкүн-дээ мэндэ, кэстэ-дээ мэндэ хаі-даа мэндэ тii, *жарираа* тii кэпүр кэпүр кэпүр тii *сухарь*-мээчи зэптиі бичипү-гүни. тii-мээчи балдуха: эи зүликини. тii, тii хаі, хагдамі бичини-дээ, һүи-дээ һүизи-дээ соріхан-даа кэвэ:, һүизи-дээ һүизи-дээ базумаачіхан-даа кэвэ, тес үлээнзи биүхэ мээн доолојі. хаіва, хагдумба-даа һүи-дээ јакчіхіхані-даа кэвэ, һээхэ-дээ, хаі, амаа хаіду, пүрээндү бипи зизүпи, газүіни-гүни, эси эсивэндээ-дэ, эси *война* ходуучані:-да, *карточка*-даа кэвэ:, сугдата ваапі, аја мээндүји-дээ *запаву* бичи, очухані, эпээ, *запамі*-даа аја. *заводду* *сдава*пу-гүни, тiтараа мээндүји сулазуву, азiмба умумбэ-дээ: или һүүчикэсэлбэ-дээ,

кэту ньүүчикээвэ вааваси, паапу бичини. хаи, титараа,
Дүүзинбээн зизүпи, хаиду, ньиду борii, ньисал таундуні
хагду, таундуні даараучуву, тii бичини. отii: ньүүчикэ,
ньүүчии азi осіні, отii отii, хэрэ: дааikuу хаи,
јэбэзи биини осіні, амбаа дааi, дааizi хаи, тii ньii,
ньii хагду таункинi тii даараучуву бичини тii.
эси, эси-гдэл тii-мээчи даараучiiтi, нyi-дээ хаи нyiдү-дээ
даарауvandiiні-дээ кэвэ. тii-мээчи бичини: эи зүликини.
эи зүликини, хооні синэзүми би-дээ, үлээнзи биүхэ.
бии, мин мүрүчии үлээнзи, би-дэкээ тii-мээчи
мүрүчии бисини-гүни, нyi-дээ хүм тii-мээчи, *раньше все-таки
лучше было, бедно, но лучше.* гээ, хаива алдачуву, эси
лап запамі, хаива алдачуву-кээ. тээлүнгү, мээн
бичимби тээлүнгүчихэмби-дээ тiла пос, јэлэ пос, тээлүнгүчии аја:
чаха, утилиилэ., утилии гүрсэл утилиилэ-мэ. утилиси гүрсэл,
хооні тiiсi. элээ-гүни. титараа

54-ом году, 54-ом эвэси даухамби-гүни. эи, эдилэми,
эдилэми-дээ мимбэ, нааньii доорозіні, нааньiiдами эдилэвэнчити,
бии эдији-дээ саахамби-дээ кэвэ, ичэхэмби-дээ кэвэ,
хаими-дээ кэвэ. нааньii доорозіні ичэвү, бии
комсомол(ка) бичи, амби хаи, амаа, "iламоо," вэндиини,
"хаи тii-мэт тавасi, эзи чаалiра," би-дээ хаи, тii
мимбэ, бии тiхалами эдилэндэми, хаи
эдилэчихэмби-дээ кэвэ, тii эдилэчүми-дээ аја,
комсомолка была, видишь. эси бичимчэни хаи, кас
азасiлахамби. тараа эвэси дичи, эвэси дичиндүји-дээ
тii *колхозаду* тii дэнсүлүхэмби-гүни. эси *пенсия*баані
нэниити:, тii *колхозаду*, дэнсихэмби..., *пенсия*баані
нэнэхэнзији-дээ, дэзи закпу аһані, дэнсихэмби *колхозаду*-мал.
48 лет, рабочий стаж у меня. тii тii бүүхэти,
зинзэсэлбэ: тii тii дэнсихэндүлэји. јэдү дэнсими-дээ
хаи, ньүүчикэ пүрүлсэл ньүүчикэ, *детсадду* биидүни, *детсадду*,
родительский комитет бичи:. паан, пүрүлсэл дааi пүрүлсэл
*школа*баані иихэ, *школајi родительский комитет*, *детсад*
родительский комитет, *женсовет*, тii тii, дэнсии далікинi
хаiki-даа хүм тii бичимби-гүни. тii хаи, *районный*
депутат-даа, iлаа муда, хаи Теенчабаан. титараа *четвертый*
раз хаи, кас азасiхамби. бии тээл "азасii," вэндиини,
"мэнэ гоi гүрсэл хаилазиiti." тахан-даа эи, *четвертый раз* эи,

Булаванду депутат
перед пересторо
хаи-даа тii кэвэ о
родительский ком
далікинi, пүрүлсэл
хасу хасу iха бич
kilала-даа бичи,
пүрүлсэлбэ тii гүч
сугдатава, эи дав
хаiki-даа хүм корп
бичини. эси-гдэл н
ичээзми тес анана
наданзуу аһанду:
хаиханду нааньii угд
бутамі, хаи адулчу,
угда-даа бичи. тii
пенсиябаані нэнэпи
ньеа, адулсалби л
тii пүрүлсэл, такурі
хаи анулсалби ньүүчи
дааi очі, эси нyi-дээ
бутаву. рыба-даа чу
дэми-дээ нээлэчиил
ми, хаива, хаива корк
түэ очуучані, мооду
трактор, дааi-о: тучі,
трактор тучинi, тавас
теекинi теекинi iлiрээ,
хаиду, корюшкава бут
фригадир-дээ сүп бич
тii хаи корюшкава бут
юмба тарүмi ходүпi,
аңуапу хагдусал хаи
бiэ тiва-гдэл, штукапу
краска-даа. эи детса
пакані, мүн экзэсэл бр
очүпi хавасi, тii паңойт
"моя профессия колхо
чем более коммунист,

Булаванду депутат очуванчіті, опанчіті-гүни. *это уже, перед,*
перед пересторойкай. и таки, таванчі тії хаі-даа
 хаі-даа тії кэвэ очі, эси-гдэл, хаі *депутатсал-даа* кэвэ:, хаі
родительский комитетсал-даа кэвэ, хаі-даа кэвэ. мээн дэнси
 далікіні, пүрүлсэл, тес гее:р пүрүлсэли, үзији, іхан-даа
 хасу хасу іха бичи:, накусал-даа тес эгди бичи:, гаса,
 кілала-даа бичи, гаса-даа бичи. *чушкава:*, тії дэнси далікіні
 пүрүлсэлбэ тії гүчи үзімбэ: тії тараа, гүчи
 сугдатава, эи дава эрүндү сугдатава бутаву, эи-мэт
 хаікі-даа хүм корпус-гүни, эи зүликини, тії дэнсүхэ
 бичини. эси-гдэл ньіі сугдатава бүтїівані ичээзми тэнээ зүлэси
 ичээзми тес ананасїі бичимби. ее эси-лэ, татахамбі.
 наданзуу аһанду: элээ-гүни. хаі, *колхозаду* бутамі,
 хаіханду нааһїі угдані бичини-гүни, тїі. тїі
 бутамі, хаі адулчу, миндү адул-даа бичи:, *палатка-даа* бичи,
 угда-даа бичи. тїі бутамі, тїі пүликтїи бичимби-гүни,
пенсїябаані нэнэпи-дээ. мээндүји бутамі, тїтараа угдајї-даа чупал
 һееха, адулсалбі *палаткајї-даа* чупал пүрүлсэлдү бүүзүхэ,
 тїі пүрүлсэл, такурїїті-нүү, кэвэ-нүү, јэдү Бүлаванду биі,
 хаі *внуксалбі* һүүчикээндүји чупал бүтїі бичити-гүни, эси-гдэл
 дааі очі, эси һүи-дээ тіхаласїл, азасїл, бутамі-даа хаїва
 бутаву, *рыба-даа* чупал адакаулі очі. сугдата-даа кэвэ.
 зэми-дээ нээлэчиил пүрүлсэл. сугдата-даа чупал кэвэ очі.
 ии, хаїва, хаїва *корюшкава*, биі хаїду-даа тїі, хаі түэ,
 түэ очуучані, мооду экэсэли:-мэл *бригададу* мооду, моова,
трактор, дааі-о: тучі, зуа *кубометр*, тес гугда тучі,
трактор тучіні, тавасі моова золочїіпу:, экэсэл *конвейерти*,
 теекіні теекіні ілірээ, эвэси зїзүпи хаїрїі, һэнһэ-гдэл,
 хаїду, *корюшкава* бутандїі, тїі-дээ экэсэл *бригадані*. тїі
бригадир-дээ сүп бичини-гүни, экэсэл *бригададуні*. тїтараа,
 тїі хаі *корюшкава* бутамі ходупі, үсүмбэни очуі, Пулсаду.
 үсүмбэ тарүмі ходупі, эвэси зїзүпи, хагдумба тїі, мэнэ,
 анзухапу хагдусал хаі, хүсэсэл анзухатї-гүни, *бревнази*,
 бүэ тіва-гдэл, *штукатурїлі:*, *цементалїі*, тїі хаі,
красиха-даа. эи *детсад* зэгдэхэмбэни-дээ мүн экэсэл
 таханї:, мүн экэсэл *бригада* эгди тахатї. тїі хаі, хавасї
 очупі хавасї, тїі паңсїїті хаі, "*профессиясі* хаі?" биі вэндїи,
"моя профессия колхоз. колхозница, а в колхозе,
чем более коммунист, куда партия пошлет туда и работим.

хаи, утилэси, алаусил, азасил, хаі, хаі дэнсүвэнди
 азаси-даа хэмэ дэнсүвэнди тii-мээчи-лэ, хаіва-дээ хүм,
 хаі, и штукатур, и маляр, и каменщик, и, и сельскохозяйство,
 и рыбачка, и хаі, и на дровах, везде колхоз куда
 посылает, туда и бүэ женская бригада, тii дэнси
 бичипү-гүни, эи зүликини. гүзэлээ, тii гэсэ дэнсүхэ
 гүрсэл-дээ чупал бүчи. тес *тяжелый* дэнсүвү, колхозду,
 тамамба-даа бүүрэси бичити-гүни, эси:, эси хаі очіні,
наряд ньүрүчи, *это, где-то конце сердина шестьдесят*
году только стали. хаі, *наряд, наряд* ньүри, тiтараа хаі,
 тамiiтi, *копейки, баі копейками тамiiтi.* тii
 дэнсихэмби-гүни. *пенсияду, пенсиябаані* нэнэхэнзiji,
 дэнсүми ходиханзiji-даа амбаа горо. гээ элээ-гүни, элээ.
 гүчи хаіва алдачуву, пүрүлсэлби, пүрүлсэлби-дээ чупал дааі
 очі:, дааідума пиктэји *Таня*нгуji, эи аһані, сусаі аһані очі,
 пиктэји. чуу нэүдүмэ тоотii *Вероника* Теенчаду дэнсиини,
 гочі..., дээи аһані осii, чуу нэүдүмэ пиктэји. чуу эигэдүмэ
 пиктэји сусаі аһані бичи. тii алданкіні, дээи пүлэми,
 дээи пүлэми, би, аһаті. пүрүлсэл, пүрүл пүрүлсэл-дээ,
 эси дааі очі, *Таня* пиктэни, дааідума, мин *внучка*нгуji,
 и эдичү:, пиктэни-дээ хаі, *школа второй класс* пүликтii,
я пробабшка. а тii паан пүрүлсэл, бүчити-гүни:, тii
 дааі хаісал, зүэ *внуки*ји, ум мин хүсэ пиктэји баланаа: бүчини.
 эси дээи, дээи аһані, сусаі зiзалаа биилэхэни.
 ньүүчикэдүji, ньүнгү бееду биидүji, *менингит*зи энсихэни, тээл
 тээл нэркимбэ-дээ, таматаа энүвэ-дээ, хаі окчічісі,
 утилэси бичити-гүни. тii *внук, внукэји Андрей, Толичка,*
Альбина-даа чупал бүчи, тii чупал ньii ваактахані,
 хуралсумі, отii, хаі ньавза пүрүлсэл, ньүүчикэ
 пүрүлсэлбэ, гэсэ гэсэ дэнсүмээри, хаі татучімаарі,
 энсүмээри хуралсумаарі. эси *Таня* пиктэни *Игорь*, хор
 аһані ісхан. Теенчаду татучііні, *колледжиду, тоо*
Вероникаду биини. тii дааідума, *Оля*, хаі
 тii, пиктэни *второй класс* пүликтiiини. а тii нэүдүмэ, *Игорь*,
 Теенчаду татучii. *Таня*-даа сусаі аһані
 ісхан-даа дэнсиини аја, эси-дээ дэнсиини.
*Надя*нгуji-даа *больницаду Таня-даа больницаду* дэнсиини,
Надя-даа больницаду дэнси. *Вероника*, Теенчаду *банкаду*
 дэнсиини. хүсэ пиктэ, гоі баазі зiзүхэ пиктэји, хаі,

жкх-дү дэнсиини.
 хаіду-даа дэнси-
 хүсэ пиктэ, хаіва
 а тii биини эси,
 сокращение очіні
 эмкээ бими-дее,
 биини јэдү, минзи
 биилэ, хаіду, Теен
 пүликтэхэни, маши
 наасуіні-нүү, хаіва
 эси-гдэл эи аһані
 уму ньii хээрси тii
 анзүха тii, тii зака
 син дидиидүси тii
 женсовет үизүхэни
 үизүхэни-нүү, наанд
 ходіха. гээ элээ-гү
 осасал-даа мээн зэ
 оса мээн, асiтiji, пи

жхх-дү дэнсиини. дэнсии-дээ хаіва-даа бүүрэсил, эси
хаіду-даа дэнсии-дээ хаіва-даа бүүрэси. ум пиктэ, *Серейка*
хүсэ пиктэ, хаіва-даа дэнсиси, энсүми, энсүми биини-тэнии.
а тii биини эси, хаі *пересторойка* очіндуні-гүни,
сокращение очіндуні, *попался*. тітараа эси јэдү,
эмкээ бими-дее, эси тii, гоі баадү бичи пиктэји зизүхэни,
биини јэдү, минзи гэсэ биини. дэнсирэси, нэүдүји биини
биилэ, хаіду, Теенчабаан, Теенчабаан хасу, зүэ инэни,
пүликтэхэни, *машиназi*, *машина шоферлиини*. *машиназi* хаіва
ңаасуіні-нүү, хаіва ңаасуіні-нүү. гээ элээ-гүни.
эси-гдэл эи аһаніду, макуріва, тii уму ңii сугдата іріі,
уму ңii хээрсии тii макуріва *Иван Павловичду*
анзуха тii, тii *закажиксалті*-дээ анзуктасуву, эси-гдэл, эси
син дидиідүси тii макурлахамбі, хаіду, тii
женсовет үизүхэни тунза давава макурі анзүі, миндү
үизүхэни-нүү, наандуті анзуву-нүү, давангузіјі анзуктараа
ходіха. гээ элээ-гүни, ајакаанзі бисүксү, сүэ-дээ-дэ. тіду сүэ,
асасал-даа мээн зеесілду-даа, хаі ајаканзі бисүксү: вэндии,
аса мээн, асітіјі, пиктэтијі, пүрүлчүси?

Содержание

1. Мальчик жил один.

Мальчик жил один. Спал и днем, и ночью. Однажды появился филин и спросил: "Почему ты спишь и днем, и ночью?" Мальчик ответил: "Я видел сон. На том берегу реки живут дед, баба, их дочь и три сына. Я поплыву туда на лодке". Филин говорит: "Хорошо, ты иди, а я буду охранять твой дом".

На следующий день мальчик переплыл реку. Там была большая деревня. На одном доме был флаг. Это был дом начальника деревни. Мальчик зашел в дом. Там были дед с бабой и их три сына. Мальчик вошел в дом и поздоровался. Дед сказал: "Мы тебя давно ждали". Недалеко от них в горах жила их дочь. Мальчик пошел к ней в дом и там заночевал. Они поженились.

На следующий день мальчик вместе с братьями жены переплыл на свой берег за вещами. Собрал вещи и вернулся к жене. Филин полетел за ним и тоже пришел в дом жены. Мальчик добывал много рыбы и зверя и зажил богато. Конец.

2. Камень

Жили две сестры. Старшая сказала: "Хоть на улице и не ветренно, но твоё одеяло, которое ты повесила сушиться на улицу, упало". Младшая сестра вышла на улицу, встряхнула одеяло, и из него вывалился камень. Младшая сестра завернула камень в одеяло и занесла в дом. На следующее утро младшая сестра долго спала. Старшая сестра подошла, распахнула одеяло и увидела, что младшая сестра спит с камнем. Старшая сестра пошла к отцу и рассказала об этом. Отец рассердился и выгнал младшую сестру из дома. Младшая сестра оделась, погрузила свои вещи на сани и ушла. Привязала камень к саням, и камень стал тащить сани. Был один очень красивый дом. Девушка стала жить в нем с камнем. Однажды ночью она открыла глаза. Вокруг было светло. Она вышла на улицу - там было ещё темно, была ночь. Когда она зашла домой, там спал один мерген, и вокруг было очень светло. На его ногах был каменный покров. Потом мерген стал охотиться и добыл много зверя.

Они заготовили много запасов мяса и зажили богато. Мерген сказал жене: "Иди позови своих родителей". Жена превратилась в очень бедную женщину, пришла в дом родителей и сказала: "Камень издаёт звук, приходите, пожалуйста, посмотреть". Родители и старшая сестра пришли. Увидели, что у младшей сестры очень красивый дом. Младшая сестра с мужем радушно приняла родителей. Нагрузили на сани много мяса в подарок. Старшая сестра попросила: "Оставьте меня у вас, хотя бы в помощницы", но её убедили уехать.

Так они стали жить

3. Жила пудин со с

Жили две сестры. Младшая сестра и позвала маму и положили в лодку и отправили. Младшая сестра сказала: "Я поеду на берег". Младшая сестра пошла на берег. Старшая сестра сидела в середине реки. Младшая сестра ребенка и бросила его. Младшая сестра не умерла. Тогда пришла старшая сестра. Младшая сестра не умерла, почему ты не умерла, почему ты не смогла встать. Пошла домой. Она стала жить. Младшая сестра ушел, а вечером возьмишь каждый день. Младшая сестра, я хожу играть с ребенком!" Козленок сказал. Женщина наготовила. Младшая сестра расставила от берега. Младшая сестра. Когда к берегу причалила. Младшая сестра попробовать блюда. Ребенок Козленок позвал женщину. Ребенок заплакал: "Помоги". Младшая сестра берет, козленок побил. Младшая сестра пашеньку осетра и маму. Козленок сказал: "Я себе". Младшая сестра истратил одну жизнь. Младшая сестра. И на то, чтобы привести. Младшая сестра и умру. Когда я умру, не мнотас и одеяло и спи". Младшая сестра пускать стрелы. Младшая сестра берет!" Но ребенок пускать. Младшая сестра реке перешел на. Младшая сестра. Эта женщина была. Младшая сестра, с его отцом. Младшая сестра стал рассказывать отцу. Младшая сестра обо мне" и выбе

Так они стали жить вдвоём. Конец.

3. Жила пудин со старшей сетрой.

Жили две сестры. У младшей сестры был младенец. Однажды пришла старшая сестра и позвала младшую собирать ягоду вместе. Взяли люльку с ребенком, положили в лодку и приплыли на остров. Когда причалили к берегу, старшая сестра сказала: "Я посмотрю за ребенком, а ты иди на берег и собирай ягоду". Младшая сестра пошла на берег за ягодой, но ягоды не было, и она вернулась к берегу. Старшая сестра к тому времени, гребя на лодке, оказалась уже на середине реки. Младшая сестра крикнула: "Верни ребенка!", а старшая взяла ребенка и бросила его прямо в реку. Младшая сестра плакала очень сильно, чуть не умерла. Тогда пришел один козленок и лизнул её. Она сказала: "Я пока ещё не умерла, почему ты меня лижешь?" Козленок лизнул её руки и ноги, и она смогла встать. Пошла следом за козленком. Был большой дом. Красивый был дом. Она стала жить с козленком в этом доме. Козленок каждое утро куда-то уходил, а вечером возвращался. Однажды женщина спросила козленка: "Куда ты ходишь каждый день?" Козленок ответил: "На берег этого острова причалила люлька, я хожу играть с тем ребенком". Женщина сказала: "Это же мой ребенок!" Козленок сказал женщине, чтобы она приготовила разные блюда. Женщина наготовила разных блюд, положила в посуду из березовой коры и расставила от берега до дома. Своё молоко тоже налила в тарелку и поставила. Когда к берегу причалила люлька с ребенком, козленок предложил ребенку попробовать блюда. Ребенок, пробуя разные блюда, дошел до входа в дом. Козленок позвал женщину, она выбежала, схватила ребенка и занесла его в дом. Ребенок заплакал: "Папенька осетр, маменька осетр!" Два осетра выплыли на берег, козленок побил их и убил. Ребенок, плача, спросил: «Зачем ты убил папеньку осетра и маменьку осетра?» На следующий день козленок заболел. Козленок сказал: "Я севен. У севена всего 3 жизни. На то, чтобы спасти тебя, я истратил одну жизнь. На то, чтобы спасти твоего сына, я истратил одну жизнь. И на то, чтобы привести твоего сына в дом, я тоже истратил одну жизнь. Сейчас я умру. Когда я умру, не плачь. Когда я умру, обдери с меня шкуру, сделай из неё матрас и одеяло и спи". Они так и сделали. Наконец ребенок вырос и стал пускать стрелы. Мать сказала ему: "Ни в коем случае не пускай стрелы на тот берег!" Но ребенок пустил стрелу на противоположный берег. И по покрытой льдом реке перешел на другой берег. Одна женщина спустилась на берег за водой. Эта женщина была старшей сестрой его матери. Она жила с мужем его матери, с его отцом. Мальчик зашел в их дом. Они жили очень бедно. Мальчик стал рассказывать отцу о своей жизни. В конце мальчик сказал: "Отец, это рассказ обо мне" и выбежал на улицу. Отец побежал вдогонку за мальчиком.

Мальчик прибежал домой раньше отца и сказал матери: "Мама, сейчас придет отец". (не закончено).

4. Пудин стала мужчиной

Жили две сестры. Они каждый день собирали хворост. Однажды старшая сестра сказала: "Давай одна из нас будет ходить за хворостом, а другая будет оставаться дома и готовить еду. Тогда можно будет не заниматься приготовлением пищи после того, как вернёмся". На следующий день старшая сестра одна пошла в лес, а младшая осталась. На другой день после этого младшая сестра пошла в лес, а старшая осталась дома. В это время в дом зашел один мужчина и потребовал старшую сестру себе в жены. Старшая сестра согласилась, и они поженились. Мужчина сказал: "У меня есть младшая сестра, хорошо бы младшая сестра взяла бы её в жены". Младшая сестра вместе со старшей перебрались через реку в дом мужчины. Старшая сестра сказала: "Как же возможно, чтобы две женщины женились между собой! стыдно!" и заплакала. Младшая сестра сказала: "У меня сейчас рана, поэтому я не могу спать с женщиной. Я вернусь через 3 дня" и опять переправилась через реку. Когда она переправилась через реку, появилась старуха. Очень старая и худая старуха была. Старуха сказала: "Поборись со мной". Младшая сестра, как только схватила старуху руками, потеряла сознание. Старуха положила её в ступу и била молотком до тех пор, пока та не превратилась в крупинку. Слепила её в комочек и выкинула на улицу через окно в крыше. Комочек упал на землю и превратился в мергена. Превратился в мужчину. Этот мужчина переправился на другой берег. Старшая сестра все ещё плакала, но когда узнала, что младшая сестра превратилась в мужчину, обрадовалась. Этот мужчина официально женился на своей жене. Добывали много зверя и жили в достатке. Конец.

5. Семь человек пошли к морю

Однажды зимой семеро охотников пошли к морю. Пробыли там один-два года и решили вернуться. Однако не могли поймать зверя и изголодались. Съели одежду и перчатки из рыбьей кожи. Когда всё закончилось, прошло ещё три дня, они ничего не ели. Вечером на третий день самый старший охотник сказал: "Мы должны убить кого-нибудь одного и съесть его мясо, чтобы выжить остальным". Однако они толкали друг друга, чтобы не заснуть, и никто никого не убил. На девятый день убили одного и съели его мясо. Снег был все ещё глубоким, и они не могли поймать зверя. Одного за другим убили, съели мясо. Только один довольно молодой охотник спасся и вернулся в деревню. Конец.

6. Восемь человек

Восемь человек
Вернулись до одно
закончилась. Они у
одного человека пос
одного отправили
Старший охотник п
спала одна красива
Мужчина положил
камень зубами. Муж
пришли. Отправилис
боялись, но вошли. Т
мужчин слепли здесь
червей и накормила
съели. На следующий
сказала: «Я пожалел
деревню». Трое мучи
Баба дала им маленьк
«Закройте глаза. Когда
реке. Я потом это ст
вернуться в свою дере
сы, выгрузили едой ло

7. Они переезжали

Давно это мне рассказа
пришел мужчина из
поженились, и дочь у
женщина приехала в д
Поднялась с берега вме
и сказала: «Мама, возь
ребенка взять. Женщин
Когда вошли в дом, там
давно переезжали, в дом
причала, выбежала на
ребенок. Конец

6. Восемь человек пошли к морю

Восемь человек пошли к морю охотиться. Целых семь лет охотились. Вернулись до одного места и, когда стемнело, причалили к берегу. Еда у них закончилась. Они увидели, что между двумя холмами горит огонь. Отправили одного человека посмотреть что там, но человек не вернулся. Еще одного, и еще одного отправили туда, но никто не вернулся. Осталось всего три человека. Старший охотник принес с берега длинный камень. Когда зашли в дом, там спала одна красивая женщина. А вокруг лежали пятеро мертвых мужчин. Мужчина положил камень на лицо этой женщины. Женщина вцепилась в камень зубами. Мужчины убежали оттуда и вернулись на то место, откуда пришли. Отправились опять вперед. Там был остров и один дом. Трое мужчин боялись, но вошли. Там была одна бабка. Пол в доме был затоплен водой. Трое мужчин слегли здесь от усталости. Бабка пожарила насекомых типа дождевых червей и накормила ими мужчин. Мужчинам было противно это есть, но они съели. На следующий день все выздоровели. Побыли здесь три дня. Бабка сказала: «Я пожалела вас, вот и оказалась здесь. Возвращайтесь в свою деревню». Трое мужчин сказали: «Мы заблудились, не знаем, как вернуться». Бабка дала им маленькую лодку, такую, в которую трое не поместятся, и сказала: «Закройте глаза. Когда приедете домой, положите в эту лодку еды и спустите по реке. Я потом это съем». Трое мужчин сели в лодку, у них получилось вернуться в свою деревню. Люди в деревне обрадовались, наготовили много еды, нагрузили едой лодку и спустили в реку. Конец.

7. Они переехали

Давно это мне рассказала бабушка. Жили родители с дочерью втроём. Однажды пришел мужчина из другой деревни и попросил их дочь в жены. Они поженились, и дочь ушла в деревню мужа. Прошло один-два года, и женщина приехала в дом своей матери в гости. Приехала на закате солнца. Поднялась с берега вместе с ребенком. Ребенок был маленький. Открыла дверь и сказала: «Мама, возьми ребенка» и отдала ребенка. По ту сторону двери ребенка взяли. Женщина вернулась к лодке, взяла вещи и поднялась еще раз. Когда вошла в дом, там никого не было. И ребенка не было. Как будто люди уже давно переехали, в доме были выброшены только старые вещи. Женщина закричала, выбежала на улицу, но ничего не могла поделать. Так пропал её ребенок. Конец.

8. Дьявол нашел женщин

В одной деревне жили женщины. То ли в них вселился дьявол, эти женщины стали вести себя как дьявол. Они даже стали спокойно убивать людей. Их братья испугались, привязали к ним камень и выбросили их на середину реки. Однако, когда они причалили лодку к берегу, женщины опять уже были дома. И даже когда братья привязали женщин к дереву на противоположном берегу реки, они все равно вернулись домой раньше братьев. Женщины сказали: «Все, довольно. Отведите нас к тому дальнему обрыву». У обрыва была яма, женщины залезли в нее и исчезли. Женщины сказали: «Если что-нибудь случится – мы опять появимся». С тех пор стало так, что когда раздавался звук большого барабана – умирал старый человек, когда раздавался звук маленького барабана – умирал молодой человек. Конец.

9. Своего напарника сбросил с обрыва

Двое мужчин охотились зимой. Однажды они поругались и один мужчина сбросил своего напарника с обрыва. Тот, который сбросил напарника с обрыва, вернулся домой. Он думал, что напарник умер, и устроил его похороны. Однако тот мужчина, которого сбросили с обрыва, выжил. Он залез в берлогу, в которой спал в зимней спячке медведь, и так выжил. Когда наступила весна, он вместе с медведем вышел из берлоги и живым вернулся домой. Конец.

10. Как раньше жили ульчи

Раньше ульчи жили рыбалкой и охотой. Продавали мех соболя и лисы, хрящ осетра и покупали у манчжурских китайцев шелк, сахар, муку и чумизу. Одежду, обувь, перчатки делали из кожи нерпы и лося или из рыбьей кожи. Мой отец был хорошим охотником. После смерти отца мои старший и младший братья тоже убили много зверя. Когда старшему сыну было пятнадцать лет, а младшему десять месяцев, умер мой муж. Отца мужа в 1937 году посадили в тюрьму, и он не вернулся. В то время многих посадили в тюрьму, и они тоже не вернулись. К тому же развязалась Вторая мировая война, и на передовой погибло много ульчей. Когда мне было одиннадцать лет, я пошла работать в колхоз. Зимой училась, летом работала в поле. Собранный урожай отправляли на фронт. Когда немного подросла, стала ловить рыбу. И рыбу тоже в большом количестве отправляли на фронт. Выполнявшим дневную норму на руки выдавали сто граммов хлеба. Весной – корюшку, летом – летнюю кету, осенью ловили кету сетями. Обувь из рыбьей кожи, если порвется, то обувь начинает пропускать воду, поэтому нужно обувь было шить. В 1949 году по десять человек с колхоза отправляли ловить морскую рыбу (летнюю кету). И я тоже так поехала в Охотск ловить рыбу. Когда вернулась, тоже ловила рыбу, так и жила.

Сеть была не такая
очереди. Бывали с
умирали во время л
в ней зацепился па
спаслась. Всю рыб
Май. Переносили
ловили рыбу, а на з
один год было мало
хвостов кеты. Посл
собирали чернику, б
Раньше было много
так, что люди боле
младшего брата мое
Пошли к шаману, и о
На следующий день е
Однажды я пошла с
Ребенок мой только р
было ни травы, ниче
там под ногами шеве
деревню Аори, дала
погада. После этого
шаману. По дороге заш
этого шамана был мой
ты наступила, раньше
деревню и принесла от
жизну богам и стал ш
лучше.
Однажды, когда мой па
на китайские праздни
выпивание спиртное и на
жились. Здесь запреще
сана. Поминки тоже у
течение года отмечают п
Перед могилой делают с
обязательно кладут. Заки
таким образом проходит о
делать по русским обычаям

Сеть была не такая, как сейчас. Когда ловили кету, ловили тремя бригадами по очереди. Бывали случаи, когда сеть обматывалась вокруг живота, и люди даже умирали во время ловли рыбы. У меня тоже был случай, когда я закинула сеть, а в ней зацепился палец, я чуть не упала в воду, но сеть соскользнула с пальца, и я спаслась. Всю рыбу мы отдавали на рыбоперерабатывающий завод в деревню Май. Переносили рыбу на рогуле (спинке для переноски тяжестей). Ульчи ловили рыбу, а на заводе русские ножом разделывали и солили рыбу. Как-то в один год было мало кеты, и хоть семья у нас большая, мы получили всего девять хвостов кеты. После кеты копали картошку, собирали траву для скота. Летом собирали чернику, бруснику и шиповник.

Раньше было много великих шаманов. Бывало, что плохие шаманы делали так, что люди болели. Сейчас остался всего один шаман. В прошлом году младшего брата моего мужа смыло водой. Искали четыре дня, но не нашли. Пошли к шаману, и он сказал, что если завтра опять будете искать, то найдете. На следующий день его нашли.

Однажды я пошла собирать черемуху в деревню Монгол. Там был мой отец. Ребенок мой только родился. Когда собирала ягоду, было место, в котором не было ни травы, ничего. Собирая ягоду и наступая туда, казалось, будто что-то там под ногами шевелится. Отскочила, но там ничего не было. Вернулась в деревню Аори, дала ребенку грудь, а ноги постепенно опухли. Свекровь погадала. После этого я пошла еще раз в Монгол отнести жертвоприношение шаману. По дороге зашла в деревню Май. Там жил очень сильный шаман. Дед этого шамана был моим родственником. Тот шаман сказал: «На том месте, куда ты наступила, раньше была китайская усыпальница». Я вернулась в свою деревню и принесла оттуда одного петуха. Дед-шаман принес этого петуха в жертву богам и стал шаманить. На следующий день мои ноги стали намного лучше.

Однажды, когда мой папа заболел, нанаяц сделал севена. Сейчас он тоже есть, на китайские праздники и т.д. иногда достаем и поклоняемся ему. Кладем в подаяние спиртное и на две тарелки четыре булочки с фасолевой начинкой и молимся. Здесь запрещено молиться женщинам, поэтому я прошу молиться сына. Поминки тоже устраивают по ульчским обычаям. Каждый месяц в течение года отмечают поминки. А после года уже не устраивают поминки. Перед могилой делают столик, на него ставят выпивку и еду. Сушеную рыбу обязательно кладут. Зажигают огонь, кладут туда дерево и поливают водой. Вот таким образом проходит обряд поминания, но в последнее время все стали это делать по русским обычаям.

11. Как было, когда была маленькой, как я работала

Когда мне еще не было года, моя мать умерла. После этого некоторое время меня воспитывала старшая сестра матери в деревне Аори. А потом меня забрал отец в деревню Дуди. Когда немного научилась ходить, уже качала в люльке ребенка старшей сестры матери. Этот ребенок сильно плакал. Меня ругали «спой песню, хорошо его няньчи». Когда научилась ходить получше, меня заставляли мыть посуду. Посылали меня за водой с корзинкой из бересты. Говорили, что сколько воды прольешь, настолько в будущем счастья будет меньше, и я старалась донести воду так, чтобы не разлить. Когда еще подросла, стала ходить с двумя старшими братьями на рыбалку. Я гребла лодку, занималась приготовлением пищи. Может из-за того, что сызмальства занимались рыбалкой, оба мои брата заболели и умерли. Старший брат в 47-м году, младший брат в 49-м году умер.

Когда я еще подросла, стала работать в колхозе. Во время войны, в 42-м или 43-м, отец поймал очень большого осетра. Мы его отдали колхозу. Нам дали только голову и печень. В то время пойманную рыбу делили на всех. Большую часть перерабатывали и отправляли на фронт. Летом - в поле, зимой ловила рыбу - так работала. Когда в 53-м году умер Сталин, мы тоже ловили рыбу. В то время председатель колхоза тоже с нами работал. С завода долго раздавалась сирена, пришли люди из деревни нам рассказать. Мы перестали ловить рыбу и собрались на собрание. Там нам сообщили о смерти Сталина.

После войны в 47-м году было очень сильное наводнение, и колхозные поля тоже затопило. В тот год был голод. Замерзшую в воде картошку выкапывали железными шестами, пекли и ели. Маленькую рыбку целиком жарили и ели. Ходили на озеро Удыль к русским и меняли рыбу на другие продукты. Те, кто работали в колхозе, получали талоны (на получение нормированного продукта), а те, кто работал на заводе, получали деньги. Иногда этим менялись друг с другом. В то время жили бедно, но люди не ссорились, не воровали, а жили дружно.

Как в 54-м году вышла замуж и переехала сюда в деревню Булаве, так с тех пор и работала в колхозе. Я вышла замуж по ульским обычаям, за человека, которого выбрали мои родители. Мужа до свадьбы не знала и не видела. Всего в колхозе проработала 49 лет. Сейчас я стала пенсионеркой. Трижды была членом администрации района. После этого была членом администрации деревни Булава. Мне 70 лет, старшему ребенку 50, самому младшему - 40 лет уже. И внуки есть. Несколько детей и несколько внуков умерло.

1. A boy living alone

There was a boy living alone. One day he saw an owl and asked, "Why do you live here, which there is a family?" The owl said, "I went across the river to the chief's house. He entered the house. The old man said, 'This house was living their life.' The boy and his wife came back with his beautiful life, getting more and more rich."

2. A stone

There lived two sisters. One day, a stone was on the ground, which was very big. The sister took a blanket and shook it, then she found the stone inside. Next morning she found the stone outside the blanket, and found that it was her father. He got angry and said, "I will live here with her stone." The stone started pulling the sister outside when she got up. The sister lit up the room. Because of the stone, she got many animals. The sister's wife said, "Bring your parents here. Please bring your parents here. The sister came to her place. The sister gave a plenty of meat to the stone. The stone said, 'I will work for you', and the wife lived a happy life."

Summary

1. A boy living alone

There was a boy living alone. He was sleeping all day long, day and night. One night there came an owl and asked, "Why are you sleeping day and night?" The boy answered, "I had a dream in which there is a family of an old man, an old woman, and a boy across the river. I go there in a boat" The owl said, "Then you go there, I will watch your home meanwhile". Next day the boy went across the river. He arrived in a big village, where he found a house with a flag. That was the chief's house. He entered the house, and found there were the old man, the old woman, and their son. The old man said, "I have been waiting for you such a long time". A bit apart from their house was living their daughter. The boy visited her, and stayed with her. They got married. Next day the boy and his wife's brothers went back across the river to bring his belongings. Then they came back with his belongings. The owl followed him, too, flying over his head. The boy lived a wealthy life, getting many fishes and animals.

2. A stone

There lived two sisters. The elder sister says "I had put your blanket outside to dry it, but found it was on the ground, when we had no wind there". The younger sister went outside and got the blanket and shook it, then a stone came out of it. She wrapped it in her blanket and came back inside. Next morning she did not get up till late. So the elder sister went to her bed and took the blanket, and found that her younger sister was sleeping with the stone. The elder sister told this to her father. He got angry and came into her bedroom and got her out. She put on clothes and left the home with her belongings on her sledge. When she tethered the stone to her sledge to pull it, the stone started pulling the sledge instead. She came over to a very beautiful house. She started to live there with her stone. One night she woke up to find that it was well-lighted, though it was still dark outside when she got out. She returned inside, and found a mergen sleeping, and it was him who lit up the room. Beside his feet was a cover made of stone. Since then he lived with her, getting many animals. They built a storage house and lived a wealthy life. The man said to his wife, "Bring your parents". So she went over to her parents' place, deliberately in miserable clothes. She said, "Please come with me, for the stone makes a noise". The parents and the elder sister came to her place. It was a nice house. She and her husband gave gorgeous dishes to them, and gave a plenty of meat for them to carry back home on their sledge. "Please let me stay with you, I will work for you", the elder sister begged, but she was persuaded to go back. The husband and the wife lived a happy life together.

3. A sister and a pujin lived together

There lived two sisters. The younger sister had a baby. One day the elder sister came to her and asked her to go berry picking with her. They carried a cradle on a boat, and sailed to an island. On arrival the elder sister said, "I will watch the baby, so you go and pick berries". The younger sister followed, and went out to pick berries. She could not find a good place for berry picking and came back, then found that the elder sister had left the shore and was now on the middle of the river. The younger sister begged the elder sister to get her baby back. The elder sister threw the baby into the water. The younger sister cried over and over, such that she almost died. Then a goat appeared and licked her. She said "I am not dead. Why do you lick?" However, when the goat licked her hands and legs, she found that she could move hands and legs, and eventually could stand up. She followed the goat, and arrived at a nice house. She decided to live here with the goat. The goat went out every morning, and came back before night. One day she asked "Where do you go every day?" The goat said, "A cradle drifted ashore. I play with a child which was in there". She said "That's my baby!" The goat told her to prepare various dishes. She cooked various dishes, put them on plates made of the bark of white birch, and put them one by one along the road between the shore and her house. The child came along to her house eating the dishes on the road. The goat called her, and she got out of house and got the child into house. The child cried saying "My Sturgeon father, my Sturgeon mother". Then two sturgeons appeared from the river and came to the house. The goat smashed them into death. The child said "Why did you kill my Sturgeon father and Sturgeon mother?" Next day the goat came down with illness. The goat said "I am a スウㇿ. One スウㇿ has only three lives. I have lost one when I saved you; I have lost another when I saved your child; I have lost the third life when I brought your child to your home. I am going to die now. Don't cry when I have died. After my death, take my fur off, and make bed and covers for you". They did so. Soon the child grew up to the extent that he could play with bow and arrows. The mother alerted "Don't shoot the arrow across the river". Inadvertently, however, he shot an arrow across the river. Chasing the arrow on the ice he crossed the river. A woman came out to get water. That woman was his mother's elder sister. She lived with the husband of his mother (that is, his father). The child entered the house. They were so miserable. The child told the man (his father) about what happened to him. Finally, he said "this is my story", and ran out of the house. The father chased him. The child arrived home earlier, and told his mother "Dad is coming". [Unfinished]

4. A pujin became a man

There lived two sisters. They gathered wood every day. One day the elder sister said, "Let's do the job like this: one goes to gather wood for fuel, the other prepares food. We will not prepare food after doing the gathering of wood". Next day the elder sister went into woods alone, and the younger sister remained. A day after the younger sister went out in turn. In the meantime a man visited the house, and asked the elder sister to marry him. She agreed, and got married. The man said "I have a younger sister, so that your sister can get married to her". The sisters went to his

place across the river.

This is nonsense. What
injured, I am unable to
across the river. When
skinny. The woman says
fainted. The old woman
tempered them into a clo
on the ground. It became
her sister came back, but
the wife. They lived a hap

5. Seven men went over

One day in a winter, seven
then decided to return. Ho
that they ate clothes and g
eat anything for three days
kill and eat one of us, so th
night so that they kept wak
eaten. However, snow was
eaten, still another was kill
survived, and returned to the

6. Eight men went over to

Eight men went hunting over
returned and came to a place
They saw light between two
Then another went there, sti
three men. An elder man wen
was a beautiful woman sleepi
her head with the stone, but si
where there was a house. The
woman there, and the floor wa
old woman boiled worms for
stayed there for three days. Th
guys. Now leave and go home
old woman gave them a boat, s
on the boat with your eyes close
river, so that I will get it and ea
home. The people in the village

place across the river. The elder sister said "How could two women get married to each other? This is nonsense. What a shame!", and started crying. The younger sister said "Because I am injured, I am unable to sleep with the woman. I will return in a couple of days." She then went across the river. When she crossed the river, there appeared an old woman. She was so old and skinny. The woman says "Fight with me". As soon as the younger sister made a snatch at her, she fainted. The old woman put her body onto a rice mortar with a hammer, grinded it into powders, tempered them into a clod, and threw it from the skylight. The clod became a mergen, and stood on the ground. It became a man. He crossed the river. The elder sister had been still crying when her sister came back, but was very pleased to know that the guy was her sister. He got married to the wife. They lived a happy life, getting a plenty of animals.

5. Seven men went over the sea.

One day in a winter, seven hunters went over to the sea. They were there for a couple of years, then decided to return. However, they could not get any animals, and went hungry to the extent that they ate clothes and groves made of fish skin. Eventually nothing was left, and they did not eat anything for three days. On the third day in the night the eldest man said "we might have to kill and eat one of us, so that the rest could survive". However, they pushed each other during the night so that they kept waking and nobody tried to kill one. On the ninth day one was killed, and eaten. However, snow was still heavy and no animals were caught. Then another was killed and eaten, still another was killed and eaten, and so on, to the point where only one younger man survived, and returned to the village.

6. Eight men went over to the sea.

Eight men went hunting over to the sea. They stayed there for as many as seven years. They then returned and came to a place where they got ashore in the dusk. They already had run out of food. They saw light between two hills. One of them was told to go there, but he did not come back. Then another went there, still another went there, but no one could come back. They got only three then. An elder man went there with a long stone on the shore. He found a house where there was a beautiful woman sleeping alone. Around her bed he found the five guys dead. He smashed her head with the stone, but she bit it. The five men ran away. The three went on to find an island, where there was a house. The men were scary but decided to enter the house. There was an old woman there, and the floor was under water. The three men were so tired that they fell down. The old woman boiled worms for them. It crept them out, but they ate it. They got well next day. They stayed there for three days. The old woman said "I appeared since I wanted to help you miserable guys. Now leave and go home". They said "We got lost. We don't know how to get home." The old woman gave them a boat, so small that it would not manage the three persons. She said "Get on the boat with your eyes closed. When you have arrived, put foods on the boat and drift it on the river, so that I will get it and eat it". They closed their eyes and sailed on the boat. They could get home. The people in the village were so glad that they prepared a plenty of dishes and threw the

boat into the river.

7. They moved away

This story was told by my grandmother a long ago. There were parents and their daughter. A guy came over and asked them to give their daughter as a wife. They got married and the daughter moved to his village. In a couple of years the daughter went to get back to her mother as a guest. In the twilight the boat arrived in the shore. She went with her child. The child was small. Opening the door she said "mom, could you watch my kid?" The hand came out of the door, and grabbed the child. She went back to bring her baggage on the boat, and returned to the house. However, she found nobody was there. It appeared like people had moved long ago, and there were just things that had been left. She screamed and got out of the house, but it could not be helped. Her child disappeared.

8. A devil found women

Once upon a time there lived women. A devil might possess them, they became like devils, so that they easily killed people. Their brothers were so scared that they bound the women on a stone, and then threw them into water. When the guys returned on the shore, they found the women being back home again. They bound them on a tree across the river, but the women came back when they were back. The women said "That's enough. Take us to the cliff afar". The cliff had a hollow, into which the women disappeared. Then the women said "We'll be back if and when something happens." Since then, when one hears a big drum from the cliff an elder man died, and when one hears a small drum, a younger man died.

9. The guy pushed his fellow over the cliff.

There were two men hunting in a winter. One day they made a quarrel, and eventually one guy pushed the other over a cliff. The guy who pushed his fellow returned to the village. He assumed that the fellow had died, and performed a funeral for him. However, the fellow was alive, for lucky him he happened to fall into a cave that a bear created for spending winter. In spring he got out of the cave with the bear, and came back alive in the village.

10. The life of Ulcha in the past

In the past Ulcha lived on animals and fishes that they hunted. They sold furs of sables or foxes and gristles of sturgeons, and bought from Chinese in Manchu things like silk, sugar, flour, and chestnuts. We made clothes, groves, and shoes from furs of moose or seals, or fish skin. My father was a great hunter. After his death my elder brother and younger brother got various animals. My husband died when the eldest child was fifteen and the youngest was ten months. My husband's father was jailed in 1937, and never returned to us. This year a number of other people were jailed too, and no one returned. Then the Second World War occurred, and many Ulcha died in the frontline. I worked for Kolkhoz when I was eleven. I studied in winter, worked in the field in

summer. The harvest was
amount of fish was sent
entire day. In spring we
got salmons. We used fish
hole so that water do not
the Okhotsk Sea to get salmon.
lived catching fishes, with
groups were made to take
also had a situation where
the river, but I managed to
village where fish were put
them by cutting them apart
and I could get only nine
for live stocks. In summer

In the past there were
with illness. Now we got out
the water. Four days of sea
for another day. The next day

One day I went to the M
my child had just been born
was no grass on it. I kept
something moving beneath t
in there. I got back to the A
up. My mother-in-law perfor
(On my way I visited the Mai
The shaman said "You treade
shrine. That's why your leg s
shaman took it as an offering
better.

One day when my husband
(kind of wooden figure) for him
festivals. When doing this, I pr
prohibited from praying, so my
Buddhist ceremony is also
until one year passes. No more
liquor and food. Dried salmon
wood. This is how we do the c
Russian style.

summer. The harvest was sent to the frontlines. When I became a bit older I caught fish. A huge amount of fish was sent to the frontlines. We could get a hundred gram bread for the job of an entire day. In spring we got rainbow smelts; in summer we got summer salmon; in autumn we got salmon. We used fish nets. Because the shoes were made of fish skin, we had to mend any hole so that water do not soak into the shoes. In 1949 people were sent, ten from each Kolkhoz, to the Okhotsk Sea to get summer fishes (summer salmon). I used to go there too. After I returned I lived catching fishes, with nets, not like the ones you get now. When we caught salmon, three groups were made to take turns. Sometimes men died when the net were twined to their body. I also had a situation where my finger was twined to the net and I was almost caught by the net into the river, but I managed to get my finger out then. All the fish were sent to a factory in the Mai village where fish were processed. I used a frame pack. The Ulcha got fish, the Russian processed them by cutting them apart with a knife and salted in the factory. One year we got few salmon, and I could get only nine salmon for my big family. After the season for salmon I gathered grass for live stocks. In summer I also picked bog whortleberries, bilberries, and Japanese roses.

In the past there were a number of great shamans. Evil shamans caused people to come down with illness. Now we got only one shaman. Last year my husband's younger brother was taken by the water. Four days of search did not find him. So we went to the shaman. He told us to search for another day. The next day he was found.

One day I went to the Mongol village, where my father lived, in search of Padus. At that time my child had just been born. When I was picking berries I found part of the ground where there was no grass on it. I kept on picking berries treading on the part of the ground, and I felt something moving beneath the ground. Jumping behind, I saw what was in there. But nothing was in there. I got back to the Aori village, and while feeding my child at the breast, my legs swelled up. My mother-in-law performed augury. I went to the Mongol village again to make offerings. On my way I visited the Mai village, where there was a great shaman. His uncle was my relative. The shaman said "You treaded on the part of the ground below where there used to be a Chinese shrine. That's why your leg swelled up". I returned to my village, and brought a cock. The old shaman took it as an offering to god, and performed a shamanic ritual. Next day my leg got much better.

One day when my husband came down with illness, a person from Nanai made a sewen (a kind of wooden figure) for him. I still have this, and I sometimes take it and pray to it in Chinese festivals. When doing this, I prepare liquor and four buns on two plates. In our culture women are prohibited from praying, so my son does this for me.

Buddhist ceremony is also done in an Ulcha style. The anniversary is performed every month until one year passes. No more after this. We make a desk in front of a tomb, on which to put liquor and food. Dried salmon must be offered. Then we make fire, and put water on a piece of wood. This is how we do the ceremony, but recently it has become more general to do this in a Russian style.

11. What things were like when I was a child; how I worked

My mother died before I was one year old. After that my mother's elder sister looked after me for a while. Then my father took me under his care in the Dudi village. Soon after I became able to walk a little, I took care of a baby by shaking the cradle of my mother's elder sister. The baby cried much. I was scolded by her saying "Sing a song so that it stops crying". After I became able to walk freely, I had to do the dishes. I was told to get water with a bucket made of bark of white birch. They said to me that each time I spill the water I would lose my happiness in the future. I did my best not to spill the water. After I grew up I was taken to fishing with the two elder brothers. I rowed the boat, and cooked food. My brothers died from illness; this may be due to the fact that they had been fishing since they were quite young. The elder brother died in 1947, and the younger brother died in 1949.

When I became adult I started to work in Kolkhoz. During the war, in 1942 or 1943, my father got a very big sturgeon, which he gave to Kolkhoz. He got the head and the liver. At that time we would share what one got. Most of them were processed and sent to the frontline. In summer I worked in the fields, while in winter I worked catching fish. In 1953 when Stalin died we were catching fish. The chairman of Kolkhoz worked with us, too. Then we heard a siren ringing from the factory for a long time, and a man came from the village to inform his death. We stopped fishing and went for gathering. The death of Stalin was officially notified. In 1947 we had a terrible flood, which damaged the fields that Kolkhoz had. In this year we experienced famine as well. We dug potatoes in frozen water with an iron stick, and burned and ate them. We also ate tiny fishes by frying them up. We would go over to the Russians near the lake Udył' to exchange fish with other kinds of food. The workers of Kolkhoz got allocation tickets, while the factory workers got wages. We sometimes exchange these. We were poor at that time, but we did not have any trouble, there was no robbery, and we got along with each other.

In 1954 I got married. After moving into the Bulava village here, I continued to work for Kolkhoz for a long time. My marriage was of traditional Ulcha, where my parents decided who was going to be my husband. I had not see, or even know of, my husband until I got married to him. I exclusively worked for Kolkhoz for 49 years. Now I live on pension. I have worked for the local congress three times. After that I worked as a member of the congress of the Bulava village. Now I am seventy, and my eldest child is fifty, while my youngest child is forty. I have great grandchildren. Some of my child and grandchild died.

1. 一人の少年が一人きり
一人の男の子が一人きり
が来て訊いた、「おまえ
た。川の対岸におじい
は小舟でそこへ行く、」
見張っていよう、」と。
家があった。それは村
の息子がいた。入って
た、」と。少し山の方に
結婚した。次の日、妻の
物を取って戻って来た。
を捕って、豊かに暮らし

2. 石

姉妹が暮らしていた。
ていた、」と。妹が外へ出
家に入った。妹は次の朝
ていた。姉は父親に知ら
服を着て自分の荷物を積
一所のとても美しい家が
くになっていた。外に出る
ルダンが寝ていて、彼が
石の覆いがあった。それが
家を作って裕福に暮らした
ごく美しい女の姿に変身し
「ください、」と言った。両親
遠くまでもてなした。橋に
いからここに置いてくれ、」
満ちた。

石とブジンが暮らしてい
姉と妹が暮らしていた。
こうと言う。揺り籠を舟に
船を走っているから、あなた
船が重いので戻って来る
の言葉を返して、」と言うと

要約

1. 一人の少年が一人きりで暮らしていた

一人の男の子が一人きりで暮らしていた。夜も昼も寝ていた。ある時一羽のフクロウが来て訊いた、「おまえはなぜ昼も夜も寝ているのか、」と。少年は答えた、「僕は夢で見た。川の対岸におじいさんとおばあさんと、一人の娘と三人の息子が暮らしている。僕は小舟でそこへ行く、」と。フクロウは言う、「よし、おまえは行け。私がおまえの家を見張っていよう、」と。少年は次の日、川を渡って行った。大きな村があった。旗がある家があった。それは村長の家だった。その家へ入った。おじいさんとおばあさんと三人の息子がいた。入って挨拶した。おじいさんは言った、「おまえのことをずっと待っていた、」と。少し山の方に彼らの娘が住んでいた。少年は娘の家に行き泊まった。二人は結婚した。次の日、妻の兄弟たちと一緒に、少年は自分の荷物を取りに川を渡った。荷物を取って戻って来た。フクロウも彼の上を飛んで一緒に来た。少年はたくさん魚や獣を捕って、豊かに暮らした。終わり。

2. 石

姉妹が暮らしていた。姉が言う、「風も無いのに、外に干したあなたの毛布が下に落ちていた、」と。妹が外へ出て毛布を振ると、石が転がり出て来た。妹はその石をくるんで家に入った。妹は次の朝、遅くまで寝ていた。姉が行って毛布をどけると、妹は石と寝ていた。姉は父親に知らせに行った。父親は怒ってやって来て、妹を追い出した。妹は服を着て自分の荷物を櫓に積んで出発した。石を櫓に繋ぐと、石は櫓を曳いて行った。一軒のとても美しい家があった。女はそこで石と暮らした。ある晩、目が覚めると明るくなっていた。外に出ると、外は暗く、まだ夜だった。もう一度家に入ると、一人のムルダンが寝ていて、彼が光り輝いて明るくなっていたのだった。彼の足のところには、石の覆いがあった。それから男は狩りをしてたくさん獣を捕ってきた。二人はいくつも倉を作って裕福に暮らした。男は妻に言った、「自分の両親を呼びに行け、」と。女はひどく貧しい女の姿に変身して、両親のところへ行って、「石から音がするので、見に来てください、」と言った。両親と姉がやって来た。すばらしい家だった。二人はたくさんの銀走でもてなした。櫓にたくさんの肉をおみやげに持たせた。姉は、「お手伝いでもいいからここに置いてくれ、」と言ったが、説得して帰らせた。そうして二人で暮らした。終わり。

3. 姉とブジンが暮らしていた

姉と妹が暮らしていた。妹には赤ん坊がいた。ある時、姉が来て、ベリーを採りに行こうと言う。揺り籠を舟に載せて、島へ行った。島に着岸すると、姉は言った、「私が子供を見ているから、あなたは上陸してベリーを採って来なさい、」と。妹は行ったが、ベリーが無いので戻って来ると、姉は舟を漕いで川の真ん中に行ってしまった。妹が、「子供を返して、」と言うと、姉は赤ん坊を川の中に投げ込んだ。妹は泣いて泣いて、死

にそうになった。そこへ一頭のヤギがやって来て、彼女のことを舐めた。女は、「私はまだ死んでいないわ、なぜ舐めるのか、」と言った。しかしヤギが手や足を舐めると、手や足が動くようになって、女は立ち上がることができた。ヤギについて歩いていくと一軒の家があった。きれいな家だった。そこでヤギと暮らし始めた。ヤギは毎朝でかけて夕方に戻って来る。ある時、女は訊いた、「あなたは毎日どこに行くの、」と。ヤギは答えた、「この島の岸に、一つの揺り籠が着岸した、その子供と遊んでいる、」と。女は言った、「それは私の子だわ、」と。ヤギは女に、いろいろな料理を作るように言った。女は料理を作って、白樺樹皮製の皿に入れて、岸辺から家の戸口までたくさんの皿を並べた。自分の乳も皿に入れて置いた。子供が着岸すると、ヤギは子供に料理を食べてみるように言った。子供は料理を食べながら家の戸口まで来た。ヤギが女を呼ぶと、女は飛び出して、子供をつかんで家に入れた。子供は、「チョウザメの父さん、チョウザメの母さん、」と言って泣いた。チョウザメが二匹、岸から上って来た。ヤギはそれを叩いて殺した。子供は、「チョウザメの父さんとチョウザメの母さんをなぜ殺したの、」と言って泣いた。次の日、ヤギは病気になった。ヤギは言った、「私はスウンだ。一つのスウンに命は三つしかない。私はあなたを救って一つの命を使った。あなたの子供を救ってもう一つの命を使った。あなたの子供を家まで連れてくるのにもう一つの命を使った。私は今死ぬ。私が死んでも泣くな。私が死んだら、私の皮を剥いで、それで掛け布団と敷き布団を作って、それで眠れ、」と。彼らはそうした。やがて子供は大きくなって、弓を射て遊ぶようになった。母親は言った、「決して対岸へ弓を射るな、」と。しかし子供は対岸へ矢を射てしまった。矢を追って氷の上を行くうちに、子供は川を渡ってしまった。一人の女が水を汲みに出て来た。その女は母親の姉だった。母親の夫（子供の父親）と暮らしていた。子供はその家に入った。彼らはひどく貧しく暮らしていた。子供はその男（父親）に、自分の身の上話を語り始めた。そして最後に、「父さん、それは僕のことです、」と言って、外へ駆け出した。父親は子供の後を追って走っていった。子供は先に家に着いて、母親に言った、「父さんが来るよ、」と。（未完）

4. プジンは男になった

姉と妹が暮らしていた。二人は毎日薪を集めていた。ある時姉が言った、「一人が薪を採りに行き、一人が食事の支度をするにしよう。そうすれば帰ってから食事の支度をしないですむ、」と。次の日、姉が一人で森へ行き、妹は居残った。その次の日は、妹が森へ行った。その間に、家へ一人の男がやって来て、姉を自分の妻に求めた。姉は同意し、二人は結婚することになった。男は、「自分には妹がいるので、妹はそれを嫁に娶るとよい、」と言った。妹は姉と共に川を渡って男の家に行った。姉は、「女同士でどうして結婚できるだろうか。とんでもない約束をしてしまった。恥ずかしい、」と言って、泣き出した。妹は、「私は今、怪我をしているので、女の人と寝ることはできない。三日経ったら私は戻って来る、」と言って、再び川を渡って行った。川を渡ると、一人のおばあさんが現れた。ひどく老いて、ひどく痩せたおばあさんだ。おばあさんは言う、「私と闘おう、」と。妹はつかみかかったとたんに、気を失った。おばあさんは、女を臼に入れてハンマーで粉になるまで叩き、塊に捏ねてから、天窓から外へ投げた。塊は、ムルグ

ンになって、地面に
泣いていたが、妹が
獣もたくさん獲って

5. 七人の人が海の方
ある時、冬に、七
しかし何の獲物も捕
に三日間、何も食べ
殺してその肉を食べて
うにして、誰も誰のこ
おも雪は深く、獣は捕
かって村へ帰って来た

6. 八人の人が海の方へ
八人の人が海の方へ
日暮れに岸に舟を着け
えているのを見た。一人
誰も戻って来ない。残っ
石を持って上った。家に
んで転がっていた。男は
息たちは逃げて帰って来
った。三人は恐れながら
三人は疲れきっていて、
た。三人は気味が悪かつ
ばあさんは言った、「私は
せへ帰れ、」と。三人は言
ない、」と。おばあさんは
して言った、「目を閉じて
たらそれを私は食べるだろ
他の人々は喜んで、たくさ

て彼らは引越して行って
家、祖母が話してくれた
人の男がやって来て、娘を
二年経って、女は自分の母
子供を連れて岸から上って
かって、」と言って子供を渡
帰って、再び上って来た。
に引越して行ってしまっ

ンになって、地面に立ち上がった。男になっていた。その男は川を渡った。姉はなおも泣いていたが、妹が男になったことを知ってすごく喜んだ。男は正式に妻と結婚した。獣もたくさん獲って裕福に暮らした。終わり。

5. 七人の人が海の方へ行った

ある時、冬に、七人の猟師が海の方へいった。一、二年いて、戻って来ようとした。しかし何の獲物も捕れず、飢えた。魚皮製の服や手袋も食べた。何も無くなって、さらに三日間、何も食べなかった。その三日目の晩に、一番年長の者が言った、「誰か一人を殺してその肉を食べて生き延びなければならない、」と。しかし互いに突いて眠らないようにして、誰も誰のことも殺さなかった。九日目に一人を殺して、その肉を食べた。なおも雪は深く、獣は捕れない。次々に殺し、その肉を食べ、一人のやや若い者だけが助かって村へ帰って来た。終わり。

6. 八人の人が海の方へ行った

八人の人が海の方へ狩りをしに行った。七年間も滞在した。ある場所まで戻って来て、日暮れに岸に舟を着けた。食料は無くなっていた。彼らは二つの丘の間に灯りの火が燃えているのを見た。一人を派遣したが、戻って来ない。また一人、また一人派遣したが、誰も戻って来ない。残ったのは三人になってしまった。年輩の者が、岸边にあった長い石を持って上った。家に入ると美しい女が一人寝ていた。まわりには五人の男たちが死んで転がっていた。男は石を女の顔にめがけて振り下ろした。女はそれに噛みついた。男たちは逃げて帰って来た。さらに三人は先へ行った。一つの島があって、家が一軒あった。三人は恐れながらも入った。一人のおばあさんがいた。家の床は水浸しだった。三人は疲れきっていて、そこで倒れた。おばあさんはミミズのような虫を煮て食べさせた。三人は気味が悪かったが、食べた。翌日、皆元気になった。三日間そこにいた。おばあさんは言った、「私はおまえたちを哀れんでここに現れた。おまえたちは自分たちの村へ帰れ、」と。三人は言った、「私たちは道に迷った、どうやって帰ればいいのかわからない、」と。おばあさんは三人乗れば落ちてしまうような、とても小さな舟をくれた、そして言った、「目を閉じて乗れ。帰ったらこの舟の中に食べ物を入れて川に流せ、そうしたらそれを私は食べるだろう、」と。三人が目を閉じて乗ると、村に帰ることができた。村の人々は喜んで、たくさんの料理を作ってその舟に載せ、川に流した。終わり。

7. 彼らは引っ越して行ってしまった

昔、祖母が話してくれた話だ。両親と娘の三人で暮らしていた。そこへ別の村から一人の男がやって来て、娘を自分の妻に求めた。結婚して、その娘は男の村へ行った。一、二年経って、女は自分の母親のところへお客に戻って来た。夕暮れに舟が岸边に着いた。子供を連れて岸から上って行った。子供は小さかった。戸を開けて、「母さん、子供を預かって、」と言って子供を渡した。戸の向こうから子供をつかんだ。女は舟に戻って荷物を取って、再び上って来た。家に入ると誰もいなかった。子供もいない。人々はずっと前に引っ越して行ってしまったようで、古いものだけが捨てられて残っていた。女は叫

んで家の外に飛び出したが、どうすることもできなかった。そうして子供は消えてしまった。終わり。

8. 魔物が女たちを見つけた

昔ある所に女たちが住んでいた。魔物が取り付いたのか、その女たちは魔物のようになってしまった。人を殺すことも平気な者たちになってしまった。兄弟たちは恐れて、石を縛り付けて、大河の真ん中へ女たちを沈めた。ところが舟を岸に着けた時には、もう女たちは家に戻って来ていた。向こう岸の木に縛り付けて戻って来ても、やはり彼らより先に家に戻って来た。女たちは言った、「もうたくさんだ。遠くのあの崖のところに私たちを連れて行け、」と。崖には穴が開いていて、女たちはそこに入って姿を消した。その時に女たちは言った、「何か起きれば、私たちはまた現れるぞ、」と。それから、その崖の方で、大きなタイコの音がすると、年輩の人が死に、小さなタイコの音がすると、若い人が死ぬようになったという。終わり。

9. 自分の仲間を崖の下へ突き落とした

二人の男が冬に狩りをしていた。ある時、二人はケンカをして、一人がその仲間を崖から突き落とした。突き落とした男は村に帰った。仲間は死んだと考えて、その葬式をした。しかし突き落とされた男は生きていて、クマが冬眠している穴に入って生き延びた。春になってクマと一緒にその穴を出て、生きて帰って来た。終わり。

10. 昔ウルチャはどのように暮らしていたか

昔はウルチャは魚や獣を獲って暮らしていた。クロテンやキツネの毛皮、チョウザメの軟骨を売って、満洲から来る漢人から、絹や、砂糖、小麦粉、粟を買っていた。服や靴、手袋はヘラジカやアザラシの毛皮、もしくは魚皮で作っていた。私の父は良い猟師だった。父の死後は、私の兄と弟がやはりいろいろな獲物を獲って来てくれた。一番上の子が十五歳で、一番下の子が十ヶ月の時に、夫が死んだ。夫の父は、1937年に投獄されて帰って来なかった。他にもたくさんの人がこの年に投獄されてやはり帰って来なかった。さらに第二次大戦が起こり、前線でたくさんのウルチャの人々が死んだ。私は十一歳の時にコルホーズに働きに行った。冬には勉強し、夏は畑仕事をした。収穫物は前線に送られた。もう少し大きくなると魚を捕った。魚もやはり大量に前線に送った。一日のノルマを果たして、もらえるのはパン百グラムだった。春にはキュウリウオを、夏には夏鮭を、秋には鮭を網で捕った。魚皮靴で、穴が開くと水が入って来るので、靴も縫わなければならなかった。1949年には、コルホーズから十人ずつ、オホーツクへ海の魚(夏鮭)を捕りに人を派遣した。私もそれでオホーツクに魚を捕りにいった。帰って来たら、やはり魚を捕って暮らした。今のような網ではなかった。鮭を捕る時は、三つの作業班で順番に作業して捕った。鮭を捕る時に、網が腹に巻きついて、人が死んだこともあった。私もある時、網を投げていて、指にひっかかって、川に引き込まれそうになったことがあるが、網が指からはずれて助かった。魚は全部、マイ村にあった加工基地に引き渡した。背負子で背負って行った。ウルチャ人が魚を捕り、工場ではロシア

人がそれをナイフで下
匹しか鮭をもらえな
夏はクロマメノキ、コ

昔は偉大なシャーマ
った。今は一人しか残
見つからなかった。

言った。次の日に発見

ある時私はエソノウ

いた。私には子供が生

があった。そこを踏み

び返いて見たが、何も

と、足がどんどん腫れ

物をしに行くことにな

いた。シャーマンのお

んだところには、昔漢

は自分の村に戻って、

毒への捧げ物にして、

ある時、夫が病気に

それは今でもあり、中

のお皿に四つの饅頭を

私は自分の息子にお祈

三要素、ウルチャ式

い。お墓の前に机を作り

木を置いてそれに水を

になってきた。

四 小さい時にどんな風

私が一歳にもならない

私を育てた。その後、父

の子の揺り籠を揺らした

と怒られた。もう少し大

漆器製のバケツで、水

減る、と言われて、こ

急に連れて行かれるよう

をしたせいか、兄たちは

んだ。

さらに大きくなってか

はとても大きなチョウザ

った。当時は捕った魚は

人がそれをナイフで下ろし、塩をした。ある年は鮭が少なく、家族は多かったのに、九匹しか鮭をもらえなかった。鮭の後は、ジャガイモを掘り、家畜用の草を集めて働いた。夏はクロマメノキ、コケモモ、ノイバラなどのベリーも集めた。

昔は偉大なシャーマンもたくさんいた。悪いシャーマンは人を病気にさせることもあった。今は一人しか残っていない。去年、私の夫の弟が水にさらわれた。四日探したが見つからなかった。シャーマンの所に行くと、シャーマンは明日また探せば見つかると言った。次の日に発見された。

ある時私はエゾノウワミズザクラを採りに、モンゴル村に行った。そこには私の父がいた。私には子供が生まれたばかりだった。ベリーを採っていると、草も何も無い地面があった。そこを踏みつけてベリーを採っていると、足の下で何かが動く気がする。飛び退いて見たが、何もいない。アオリ村に帰って、自分の子供におっぱいをあげていると、足がどんどん腫れてきた。義母が占った。それからモンゴル村へ、もう一度お供え物をしに行くことになった。途中でマイ村に立ち寄った。そこにはすごいシャーマンがいた。シャーマンのおじいさんは私の親戚だった。そのシャーマンは言う、「おまえが踏んだところには、昔漢人の廟があったのだ。それを踏んだので足が腫れたのだ、」と。私は自分の村に戻って、雄鶏を一羽持って来た。おじいさんのシャーマンは、その雄鶏を神への捧げ物にして、シャーマンをした。次の日、私の足はだいぶ良くなった。

ある時、夫が病気になった時には、ナーナイの人がスウン（木偶）を作ってくれた。それは今でもあり、中国のお祭の時などに、時々出してきてそれを拝む。お酒と、二枚のお皿に四つの饅頭をお供えして祈る。ここでは女の人が祈るのは禁じられているので、私は自分の息子にお祈りさせている。

法要も、ウルチャ式にやっている。毎月、回忌をして、一年間する。後はもうやらない。お墓の前に机を作り、そこにお酒や食べ物を置く。干し鮭は必ず置く。火を燃やし、本を置いてそれに水を掛ける。そのように法要を行うが、最近は皆ロシア式に行うようになってきた。

III. 小さい時にどんな風だったか、どんな風に私は働いたか

私が一歳にもならない時に私の母は死んだ。それからしばらくはアオリ村で母の姉が私を育てた。その後、父がドウジ村へ引き取った。少し歩き出した時には、もう母の姉の子の揺り籠を揺らした。その子はひどく泣いた。私は、「歌を歌ってうまくあやせ、」と怒られた。もう少し大きくなって、歩き回るようになると、食器を洗わせられた。白鹿角皮製のバケツで、水を汲みに行かせられた。水をこぼせば、その分、将来の幸せが減る、と言われて、こぼさないように運んだ。もっと大きくなると、二人の兄と共に、舟に連れて行かれるようになった。私は舟を漕ぎ、食事の用意をした。小さい頃から漁をしたせいか、兄たちは二人とも病気で死んだ。上の兄は 47 年に、下の兄は 49 年に死んだ。

さらに大きくなってから、私はコルホーズで働き始めた。戦時中、42 年か 43 年に、父はとても大きなチョウザメを捕った。それはコルホーズに渡した。頭と肝臓だけはもらった。当時は捕った魚は皆で分けた。大部分を加工して前線へ送った。私は夏には畑で、

冬には魚を捕って、働いた。53年にスターリンが死んだ時にも、私たちは魚を捕っていた。その頃はコルホーズの議長も一緒に働いていた。工場から長いことサイレンが鳴り続け、村から人が知らせに来た。漁を止めて集会に集まった。そこでスターリンの死が報告された。

戦後の47年にはひどい洪水があつて、コルホーズの畑も浸水した。この年は飢饉になった。水の中で凍ったジャガイモを鉄の棒で掘り出して、焼いて食べた。小さな魚を丸ごと炒めて食べた。ウドゥリ湖にあったロシア人のところまで、魚と別の食料などを交換しに行った。コルホーズで働く者は配給券をもらい、工場で働く者はお金をもらった。時々それを互いに交換した。ただ昔は貧しかったが、人々はケンカすることも無く、盗みをすることも無く、仲良く暮らしていた。

54年に結婚して、このブラバ村へ来てからもずっとコルホーズで働いた。私はウルチャ式に、親が決めた相手と結婚した。結婚するまで、夫のことは知らなかったし、見たこともなかった。もっぱらコルホーズで、49年間働いた。今は年金生活者になった。地区の議員も三度務めた。その後はブラバ村の議員も務めた。私は70歳になり、一番上の子供は50歳に、一番下の子供も40歳になった。ひ孫もいる。何人かの子供や何人かの孫は死んだ。

ブラバ村にて録音
M. S. Duwan 氏 口述

ga daa xajlat
さあて、ダー ハジラ

wambuwa mergen.
と言う名の ムルゲン

kadah aldando bal
崖の 間に 生

an anaa, am
母親も なく、 父親も

am tu
寝ていて そうして 寝

am choorkon da
壁の所の 天窓は 大

tu oksara
ほうれ あの フクロウが

hawja nawjakaamba
「あれあれ、少年よ、

wandiini, "dolbo inag
言う。 「夜も 昼も

"kara wandiini
「フクロウよ、」と 言う、

wandiini, "aamndo, tol
言う。 「眠りの中で 夢

ブラバ村にて録音
M. S. Duwan 氏 口述

1. umu ŋawjaka əmkəən bičini
一人の 少年が 一人きりで 暮らしていた

gəə daa xajlati-, umu, umu piktə, ŋawjaka, seemindan,
さあて、ダー ハジラテー、一人の、一人の 子供、少年、 セーミンダン

wəmbuwu mǝrgən. seemindan, wəmbuwu,
と言う名の ムルグンだ。 セーミンダン という、

kadali aldando baldaxan mǝrgən, əmkəən bičini.
屋の 間に 生まれた ムルグン、 一人きりで 暮らしていた。

an anaa, am anaa. dolbo inəŋ aʊxan, dolbo inəŋ
母親も なく、 父親も いない。夜も 昼も 寝ていた、 夜も 昼も

aumi tɪi aumi, tɪi aumi-dee, naani čoonkoni,
寝ていて そうして 寝ていて、 そうして 寝ていたが、 彼の 天窓、

naani čoonkoni daai čoonkoni. tɪi daai čoonkotɪ,
彼の所の 天窓は 大きな 天窓だ。 その 大きな 天窓へ、

toɔ tɪi ʊksara dooŋdoxon. taraa tɪi ʊksara wəndiini,
ほうれ あの フクロウが 来てとまった。 それから その フクロウは 言う、

“ənəjee, ŋawjakaamba, ənəjee piktəwə, xami aʊɪɪsi-kəə,”
「あれあれ、少年よ、 ああ 子よ、 どうして おまえは寝ているのか、」と

wəndiini, “dolbo inəŋ aʊɪɪsi.” taraa soŋsop tæxəni.
言う、 「夜も 昼も 寝ているではないか。」 それから スックと 起きた。

“ʊksara,” wəndiini, “bii-kəə, aamindɔ, tolčindɔ, pulsiijə,”
「フクロウよ、」と 言う、 「ボクは 眠りの中で、 夢で 行って来た、」と

wəndiini. “aamindɔ, tolčindɔ pulsiiji, əi baʃɪla biini, biruu,
言う。 「眠りの中で 夢で 行って来た、この 対岸に ある、村が、

daar biruu. xoorjko teelanı, daar xoorjko teelanı, daajı biruu biini.
大きな 村だ。 崖の 向こうに、大きな 崖の 向こうに、大きな 村がある。

bii tawası daurnıje,” wendiini, “tımana. tolčındo, aamındo baaxambı,
ボクは そこへ 渡る、” と言う、 「明日。 夢に、 眠りの中に 見つけた、

andarbı gələndaǰumi. biruu əǰən piktəni. biruu, amını,
パートナーを 求めて行くんだ。 村の 長の 娘だ。 村の、 その父親、

amını mapa, ənini mama, tıı, tıı əəktə, xamı ńaǰaktanı
父親の おじいさんと、母親の おばあさんと、その、その 女、 あれ 兄弟は

ılaan. ılaan ńawǰaka. bii tawası daurnıje,” wendiini, “tımana.”
三人だ。 三人の 兄弟だ。 ボクは そこへ 渡る、” と言う、 「明日。」

amaa ǰanı təə toordı bii, tıı ǰajı bii daurnı,”
父さんの 小舟が ほうれあの 岸边にある、あの 小舟で ボクは 渡る、”と

wendiini. titaraa tıı daoxan. tımananı təəxən, xolgo dookını
言う。 それから そうして 渡った。 次の日に 起きた、台所の戸棚⁽¹⁾の中を

gələǰuxən, ǰəpu čopal joom biini. oksara wendiini,
探した、 食べ物が 全て きちんと揃って いる。 フクロウは 言う、

“aja,” wendiini, “aja, dauruu, bii xagdombası-daa ətəuriı,
「よし、」 と言う、 「よし、渡れ、 私が おまえの家を 見張っていよう、

daǰotısı-da. ambaanguǰı, uləənǰı, ǰənəsəəri”-mdə. gəə, tımana
おまえが戻って来るまで。 無事に 良く 行って来い、”と。 さあ、次の日に

təəxən, wəndə, təərəə, čopal məəpi bargəǰuxan,
起きた という、起きてから、すっかり 自分の身を 支度した、

xərəktəni aldanı čopal čiiriktəǰı-məl, xərəktəču.
皮膚の 間を すっかり 銅ばかりで（覆って）、 皮膚とした。

xərəktəni aldambanı xaalı-daa ičəwəsi ńıı.
皮膚の 間が いつだって 見えない、 人は。

gəə, tıı daonı
さあ、そうして 渡っ

čopal ńıı soıla
すっかり 人を 渦巻

ai duətini isimı
この 端にまで 着い

daar biruu, tes
大きな 村だ、 すこ

ǰəəmı, ńuuptiini.
行って、 低く行く。

tıı lıǰtun biikini
その まっすぐ あるの

ǰəǰıı, čoorǰojılanı
家の、 天窓の側の所に

mamı tolčıxanı tıı
夢が 夢に見たのも そ

ııan. mama
入った。 おばあさんは

mama dookıanı
おばあさんの 奥に

ǰə nıı ńıı təə
この 男の 人が 座っ

ǰəntar-daa čopal-da.
どんなのでも 全てだ。

“ama, piktəwə,” wənı
「ああ、子供よ、」 と言う

gəə, tɪ dauʁan. xai mango muə-nuu, namo muə-nuu,
さあ、そうして 渡った。 いかなる 大河の 水だか、 海の 水だか、

čopal ŋɪ sɔɪlaxan. uzhe tɪ duətini ɪsɪxan,
すっかり 人を 渦巻いて呑み込む。もう その 端まで 到着した、

ai duətini ɪsimi, ičəxən,
この 端にまで 着いて、 見た、

daai biruu, tes daai biruu. čawɟi gəsə uikini ŋənəmi dəgdəmi,
大きな 村だ、 すごく 大きな 村だ。 共に 上を 行って 飛んで

ŋənəmi, ŋuuptiini. tɪ biruu. tɪtaraa pokto duiɪ luɟtun biini,
行って、 低く行く。 その 村だ。 それから 道は 山の方へ まっすぐにある、

luɟtun biikini tɪ tooxoni. axa, tɪ biruu əɟəni
その まっすぐ あるのに沿って そうして 上った。 その 村の 主人の

ɳagdoni, čooŋkoɟilani tuun biɪ, malɔɟilani tuun biɪ.
家の、 天窓の側の所に 旗が ある、真ん中の席の側に 旗が ある。

maani tolčɪxani tɪ biini. gəə taraa, tawančɪ tɪ ŋənəxən.
彼が 夢に見たのも そう だった。さあ それから、そこから そうして 行った。

iixən. mama əŋuə kiraadoni təəsii, mapa
入った。 おばあさんは 竈の 傍に 座っている、 おじいさんは

mama dookɪlani təəsii. malodo ɟuə mərgən,
おばあさんの 奥に 座っている。真ん中の席には 二人の ムルゲンが、

ɟuə xusə ŋɪ təəsiini. malodo čopal joom biini,
二人の 男の 人が 座っている。真ん中の席には すっかり何でも 揃って いる、

namatan-dəə čopal-də. gəə iixən. “gəə sorodee,” wəndiini.
どんなのでも 全てだ。 さあ 入った。 「ああ、 こんにちは、」 と言う。

“ənənə, piktəwə,” wəndiini, “simbi balanaa muručixəmbi,”
「ああ、子供よ、」 と言う、 「おまえのことを 長いこと 思っていたぞ、」と

wəndiini, "didiisi-nuu kəwə-nuu." tɪ mama wəndiini.
言う、「来るのかなあ、来ないのかなあ、」と。その おじいさんは 言う。

tɪ taraa ɪlɪmi, tɪ piktəwə naamanɕɪ, tɪ mærgəmbə.
それから 立ち上がって、その 子を 抱きしめる、その ムルグンを。

mama ɪlɪmi, tɪ mærgəmbə naamanɕɪ, dərəgbəni alaʊsɪxan.
おばあさんが 立ち上がって、その ムルグンを 抱きしめる、顔に キスをした。

taraa "malobaani ɲənəruu," wəndiini. malobaani ɲənəxən,
それから 「真ん中の席の方へ 行け、」と 言う。 真ん中の席の方へ 行った、

tɪ ɪlaan purul ɕɔpal ɪlɪxaal, tɪ ɪlaan ɲawjaka.
その 三人の 子供たちが 皆 立ち上がった、その 三人の 若者たち。

tɪ taraa ɕɔpal naamamaari tɪ alaʊsɪmaari, təərəə, ɲɔarɪlani
それから 皆 抱いて、 そうして キスして、 座ってから、下手に

təwənɕin. gə əsi xoonɪ. "simbi xalaɕɪpɔ, simbi
座らせた。 さあ 今 どうする。 「おまえを 私たちは待っていた、おまえを

xalaɕɪpɔ." "vse saarɪpɔ," wəndiini,
待っていた、」と 「全て 知っている、」と 言う、

"xoonɪ-daa biɕimbəsu,
「どんな風に おまえが暮らしていたかを、

əi duiləni biini," wəndiini, "kaalmaɲi nəxəmbi sindu əəktəwə.
この 山の方に いる、」と 言う、 「姫を 私は置いた、おまえに 女を。

tɔwa gələmi, tɲi, xaijɪlasi-ma," wəndiini, "tawasi toojɪla-ma."
それを 求めて、 それと ああするだろう、」と 言う、 「そこへ 上るだろう。」

gə tɪ ʊrɕolomɪ-dee, xarwa wəndiini, mama wəndiini,
さあ そう 話して、 あれを 言う、 おばあさんは 言う、

"aja, əsi-lə piktəjuji, simbi baki, min piktəwə sii japi,
「良い、今 自分の息子に おまえを 得る、私の 娘を おまえは 娶る、

gə əsi tɪ baldəmɪ, jədu əi naadu tɪ bua,
さあ 今 そうして 暮らして、 ここで、 この 地で この、 地で

simbə xawasi-daa tɪndaasɪpɔ, wəndiini. “əñəə mapa,”
おまえを どこへも 放しはしないよ、”と 言う。 「義母さん、 おじいさん、」と

wəndiini, “daama,” wəndiini, “bii tuwəkəəmɪ-lə gəlɛŋdajilə-mə,
言う、 「お義父さん、」と 言う、 「ボクは 自分の荷物を 取って来ましょう、

xəjokaəmɪ-la ŋaənʒola-ma,” wəndiini. gəə aja-guni.
家財道具を 持って来ましょう、”と 言う。 さあ よいのだ。

əsi nedel’du bimi, xoonɪ bimi-də. “bii-kəə,” wəndiini,
今 一週間ほど して、 どんなに しても。 「ボクは、」と 言う、

“uksaramba xagdumɪ ətəumi ñaalaxambɪ, taçima uksaramba.”
「フクロウに 自分の家を 見張らせて 置いてきました、 錫の フクロウを。」

gə taraa, tɪ, tɪ mapa, tɪ mama, wəndiini,
さあ それから、 その、 その おじいさんと、 その おばあさんは 言う、

“əsi siksə siksəjuxən, əsi ŋənuləsi-kəə. bii simbə tɪ
「今 夕暮れで 日は暮れた、 今 帰るのか。 私は おまえを あの

æktəbəəni ɪɪɪ, bua. tɪ sumbə saawaŋdamɪ.”
女の方へ 運ぶ、私たちは。そうして おまえのことを 知らせに行つて。」

xəsalma xagdɔ, ləbəčəkə ləujəkə xagdɔ nəurəə nəurəə,
紙製の 家で、 バタバタ、バタバタと 家は 風にはためいて、はためいて、

xədun tɪ æktə xagdɔɪ. gəə tɪla ɪraxanɪ piktətɪni.
風に、 その 女の 家は。 さあ そこに 運んだ、 娘の所へ。

piktəbəəni ɪraraa, uçə ñiixən, tɪ æktə tidu biini.
娘の所へ 運んでから、 戸を 開いた、 その 女は そこに いる。

ɪ æktə, uçəwə uçəwə giraomɪ, tɪ andalbɪ naamaŋdaxan.
その 女は、戸を、 戸を 彼がまたぐと、その 連れ合いを 行つて抱きしめた。

gæ tido-muk bakoxan. bakoxan, ŋaalawan japaraa,
さあ そこでついに 得た、 得た、 彼の手を つかんで、

malotr iiwuŋuræ, malodu tæwənčin. “gæ əjə,” wəndiini,
真ん中の席へと 入らせてから、真ん中の席に 座らせた。「さあ この、」と 言う、

“tolčindø, toongičimbi, aamindø, aairambi baaxambi, xai,
「夢に、 夢で見たのを、 眠りに、 眠ったのを 見つけた、 あれ、

andalbi”-mdæ. gæ aja-guni. “gæ əsi-lə xoon tɪlasɪ-kæə,
連れ合いだ。」 さあ 良いのだ。 「さあ 今 どう あなたはするだろう、

jədu tɪ biləsi-mæ. əsi-lə-guni,” wəndiini. “jəəmirdən mærgən,
ここで そうして 暮らすのか。 今、」と 言う。 「ジューミルドン ムルグンよ、

əsi simbi, xəsəsi aldaŋkɪni ičəmi-dæə, ŋɪ xərəktəsi
今 あなたを、あなたの言葉の 合間に 見ても、 人の そのあなたの皮膚の

aldaŋkɪni xaali ɪsɪni-daa kəwə, čəpal tačima, tačɪŋɪ xaroxan,
隙間は いつだって 達することも 無い、すっかり 錫製だ、錫で ああした、

anʃoxan, xaroxan-nuu.” gæ xooni tawu əsi, “anda,” wəndiini,
作ったんだか、どうしたんだか。」 さあ どう すべきか 今、「友よ、」と 言う、

“əsi-lə xoon tɪlasɪ-kaa, xawasi ŋəniiləsi-kæə, əsi-lə jədu tɪ
「今 どう しますか、どこかへ 行きますか、今 ここに そうして

biiləsi-mæ,” wəndiini.
暮らしますか、」と 言う。

“bii-lə simbi ŋaalɪ-dæə kəwə, sii-dæə mimbi ŋaalɪsɪ-dæə kəwə,
「私は あなたを 捨てたり しない、あなたも 私を 捨てたり しない、

əwənči, ɪalta bimi, sin xaʃəmbasi, min aagbi, čəpal ŋaanʃumi.
これから、三日 したら、あなたの 荷物を、 私の 兄が、全部 持って来ます。

tɪ ukasara məənʃiji gəsə daʊʃu, tɪtaraa məən čəŋkoʃi uiləni
あの フクロウは 御自身と 一緒に 渡れ、 それから 自分の 天窓の 上に

tɪ oksaramba,
その フクロウを

gæ tɪ
さあ そのように

amɪni dosoʃɪ,
父が 聞いている、母

ɪɪən. gæ tɪ,
入って来た。さあ

wəndiini, “xawasi-daa
言う、 「どこへも

ɪmɪni grwandola tærii,
明日 日の出に 起きる

oksaramba
そして フクロウを

aldani. gæ
大河の 距離だ。さあ

gursəlbə čəpal
その 人々に 皆に

daʊʃoxan,
生涯 そうして 渡した、

dauxan, daʊʃo
そうして 渡った、 渡っ

tawənči tɪ
さあ それからは そうし

tɪ bičini.
こと そうして いた。

tii oksaramba, dooɔwaandii, i mumbə ətəuwəendiisi,
その フクロウを 再びとませよ、そして 私たちを 見守るようにして、

gəə tii baldowu. baldilapo-ma," wəndiini.
さあ そのように 暮らすべきです。 暮らしてゆきましょう、"と 言う。

amini dosoji, ənini dosoji, tawodo, ilaan ŋaajilni xais
父が 聞いている、母が 聞いている、そうしている時に、三人の 兄弟が 再び

iixən. gəə tii, čopal tii wəndiini, aldačixan, "əsi, gəə,"
入って来た。さあ そうして、皆 そう 言う、 教えた、 「今、さあ、」と

wəndiini, "xawasi-daa ŋənəmi-dəə ŋənəsimbi, bii tii əsi, akpandii,
言う、 「どこへも 行きも 行きはしないよ、ボクは そうして 今、寝る、

tumar giwandola tərui, tii, xaisi ŋawjakasalba məənɟiji gəsə dauri,
明日 日の出に 起きる、そうして、再び 御兄弟たちを 自分と 一緒に 渡らせる、

i oksaramba dauɔi. xai goroɟi pulpuwu, əi
そして フクロウを 渡らせる。」 どうして 長いこと 行くことがあろうか、この

mangu aldan. gəə tımanani tii, təəmi tii dauɔxan, dauhan,
大河の 距離だ。さあ 次の日に そうして、起きて そうして 渡った、 渡った、

gursəlbə čopal saawaančm, titaraa tawanči, xaɔombi
その 人々に 皆に 知らせた、 それから そこから、 自分の家財道具を、

čopal tii dauɔxan, oksarəŋon, tii naani ujəkini tii dəgdəmi,
全部 そうして 渡した、 フクロウは、その 彼の 上を そうして 飛び、

dauhan, dauɔxan, naanɟini gəsə. biruubəəni.
そうして 渡った、 渡った、 彼と 一緒に、だ。 村の方へ。

gəə tawanči tii biči. goroɟi bimi-dəə kəwə,
さあ それから そうして 暮らした。長いこと 暮らしても いない、

goro tii bičini. ambaan goroɟi biči~n,
長いこと そうして いた。 けっこう 長いこと いた、

mapasalba-daa sugdatawa-dæ tɪ waapɪ-dæ
おじいさんたちにも 魚を ああして 捕れば

buɯŋdii, bujumbə waapɪ-dæ ʃəpuwændii, gæ tɪ,
行つて与える、 獣を 獲つても 食べさせる、 さあ そうして、

piktə-dæ anaa xai-daa anaa tɪ æktə-dæ əmutu, naanɪ-daa əmutu.
子供も 無く、 何も 無く、 その 女も 同じ、 彼も 同じ。

gæ ələə-guni. “jələ bičimbi,” wəndiini, baldaxan,
さあ 終わりなのだ。 「ここに いるよ、」と 言う、 暮らした、

“i əwənči tawasi, tɪ biiləpu-mə”-mdə. ələə, vse.
「そして これから ずっと、そして 暮らしましょう、」と。 そこまで、終わり。

(1)協力者によれば、xolgo でなく、xorgo であるという。ただし語り手は 1 で発音しているのでこのように表記した。両開きの戸棚で、特に中国製の毛皮つきの衣類などを入れていたという。細かい物、小さい物を入れるには他に、pija, sunduki と呼ばれる箱があったという。

ブラバ村にて録音
A. P. Ycho 氏 口述

daa xajlatɪ-, tɪ
ダー ハジラテー、そ

dootɪni iiræ, bič
中へ もぐつて、い

əigəni wəŋdaxan, i
娘が 行つて言った、そ

gəkapsi, səu-da
髪ねえ、 ほんの少しの

naani tɪ poltasi
どうして あの あなた

niiræ tɪ æktə,
それから その 女は、

gəpən taxan,
バサバサッと 振った、

naani tɪ jolowa
それから その 石を

naani xati naexan
自分の あそこへ 置いた

naani naani lagbečaji
娘を 自分の 毛布の

naani gəni axan
娘 遅くまで 寝ていた

ブラバ村にて録音

A. P. Ycho 氏 口述

2. ʒolo

石

daa xajilati~, tii puun, tii nɔudumə pikta, ækta, poltani
ダー ハジラテー、その 錘の石は、その 妹の方の 子の、 女の、 毛布の

dootini iirəə, bičini, taraa əigəni, əigəni gəsə bičin-kəə-nuu,
中へ もぐって、いた、それから 姉は、 姉と 一緒に 暮らしていたんだか、

əigəni wəndaxən, i “nəučəə, nəučəə, polta, poltası tukuxəni,
姉が 行って言った、そして、「妹よ、 妹よ、 あなたの毛布が 落ちていたよ、

pəskəpsi, səu-də kəwə, ɲəəl-də kəwə,
変ねえ、 ほんの少しの風も 無いし、少しの音も しない、

xooni tii poltası tukuxən-kəə.”
どうして あの あなたの毛布が 落ちたのかしら。」

titaraa tii ækta, nɔudumə ækta xəməə ɲəərəə poltaji,
それから その 女は、妹の方の 女は 黙って 外へ出てから 自分の毛布を、

gupsəər taxan, ɲəəwuxən, ɲəəxəni. ʒolo pɒŋgəlili,
バサバサッと 振った、 出した、 出て来た。 石が コロコロッと、

taraa tii ʒolowa xukulirəə iiwujuxən. xukulirəə iiwujurəə
それから その 石を くるんでから 家に入った。くるんで 入ってから

məən xartı nəəxəni. titaraa siksə akpanʒoiditi tii,
自分の あそこへ 置いた。 それから 日暮れに 彼らが横になる時に その、

ʒolowa məən ləŋbəčəji dooloni nəərəə akpančini.
石を 自分の 毛布の 中に 入れて 寝た。

ɬmai goro auxan tii ækta, tamı-dee əigəni palamba axurumi-dee,
朝 遅くまで 寝ていた、その 女は、すると 姉が 床を 掃いていて、

nəuji poltawani, kuɲdur ɲiɲdɛxəni,
妹の 毛布を、 引っ掛けて 行って開いた、

“anajɲ, nəučəə xamɪ gorɔʝɪ aɔɲɲɪ-kəə,” wəndiini.
「あれあれ、妹よ、 なんて 遅くまで 寝ているの、」と 言う。

naan tɪɪ ʝolowa ičəxəni. tɪɪ əigəni, anajɲ, taraa ataʝaxani.
彼女は その 石を 見た。 その 姉は、 ああ、 それから 怒鳴った。

“ama-tama, simbə-dəə-kəə uləən ʝəpuwəndii, simbə-dəə-kəə uləən tətuwəndii
「父さんは、あなたを 良く たべさせて、あなたに 良い服を 着させて

taasi-kəə, xoonɪ tɪɪ-məəči taxasi-kəə,” ʝoloʝɪ aɔɲɲɪ.
きたじゃないの、どうして こんなこと したの、」と 石と 彼女は寝ている。

tɪtaraa amɪɪ saawaɲdaxani. taraa tɪɪ əəktə xəmə,
それから 父親に 知らせに行った。 それから その 女は 黙って、

səktəxun doolanɪ tɪɪ əsəlčurəə xodɪxani tɪɪ ʝolowa, tɪmaɪ təəxəɲʝi.
敷布団の 中に そうして しまって 終えた、 その 石を、 朝 起きてから。

taraa urpumi təəsiiduni-ə, amɪɲɪ iixəni, gɪdaʝɪ
それから 縫い物をしながら 座っている時に、父親が 入って来た、 槍で

puər puər balanaa, tɪpama palaan-guni.
ズブッ ズブッと（地面を穿り返して） 昔は、 土間の 床だったのだ。

tɪɪ-kəə tɪpama palaandɔla puər puər tɪɪ gɪdaʝɪ tɪɪ
その 土間の 床を ズブッ ズブッと そう 槍で そうして

gɪdačumɪ iixəni. “am ɪlamuɔ, am, igdəpsi-ə, ɪsala, ambɪ
突き刺しながら 入って来た。「娘よ、恥ずかしい、娘よ、大恥だ、 目の、この父の

ɪsanɪ xangɪtɪɲɪ ɲənuu, am ɪsanɪ, seen dooldɪsɪtɪɲɪ ɲənuu.”
目に 触れない所へ 去れ、 父さんの 目に、耳に 聞こえない所へ 立ち去れ。」

tɪɪ əəktə wənčɪn, “amaa, bɔltɪɪ ɲəniilə-mə”-mdə.
その 女は 言った、 「父さん、永遠に 行ってしまいます、」と。

taraa amiri ñəəjuxən, amiri ñəəjuxənjin, tii sobiratsalaraa
それから 父親は 出て行った、父親が 出て行ってから、そして 支度をしてから

ti æktə, məəndulə ačirwa məənji jəpaxani, məəndulə ačaasimbani
その 女は、自分に 合う物を 自分に 取った、自分には 合わないのを

əigəduji ñaalaxani. tətusəlbə-də. taraa umən oŋsodo tes
姉に 残した。 いろんな服をだ。それから 一台の 櫛に ぎっしり

təučiχən xajumbi tūči, tūčido. oŋso-guni, daari tūči-guni.
積んだ、自分の物を 櫛、櫛に。 櫛なのだ、大きな 櫛なのだ。

taraa tii jolongoji tii tūčila xalixan, uixən.
それから その 石を その 櫛に 繫いだ、縛った。

ti jolongoni pungəlili pungəlili naanjini-muk uuxəni, tii tūčido,
その 石は コロコロッ コロコロッと 彼女と一緒に 乗った、その 櫛に、

xajoni ojolani uuxəni. tii jolo əmkəə irčujuxən tii æktəwə.
荷物の 上に 乗った。その 石が 一人きりで 曳いて行った、その 女を。

taraa umu taktoti ŋənərəə kawka očini tii, tii jolo iijuxən,
それから 一つの 倉へ 行って、停止と なった、その、その 石は 入った、

jəgbaani. tii æktə-gdəl tii taktə... taktəbaani tii xajumbi
家の方へ。 その 女は その 倉の方へ そうして 自分の荷物を

tooboxan. tooboxaa, iixən tii xagdonti, anajii largiŋki,
運び上げた。持って上ってから、入った、その 家へ、 あれあれ ステキだ、

xagdon dooni uləələni. tailani əiləni tawačə,
家の 中は 美しい。 そこにも ここにも 火があって、

balanaa tii bičin-guni, tai, juə tawa taila əilə bii,
昔は そうだったのだ、そっちに、二つの 火が そこと ここに ある、

maloni-daa ŋəəxunə~ xaki xaki. tii jolo, malo tokondoni
真ん中の席も 明るい、 あれに沿って。その 石は 真ん中の席の 真ん中の所に

biini. taraa tii bii, tii biiti, tamr-dee əmdə,
いる。それから そうして いる、そうして 彼らは暮らす、そうして ある時に、

meelčini dolbo, "anajii, xamr aowančini inəŋ ɣəəm
目が覚めた、夜に、 「あれあれ、どうして 寝てしまったのか、日が 明るく

odolo auxambi."
なるまで 寝てしまった。」

titaraa baatr ɲəəxən. baatr ɲəəxən paktii paktii biini.
それから 外へ 出た。 外へ 出たら 真っ暗 真っ暗 である。

xaila-nuu, xar məəpi baɪlɪlaxanr tukičəmi. iijuxən, iijuxən,
何かで、 あれ、自身を 傷つけてしまった、転びそうになって。家に入った、入った、

tii tii puunɣičixəni
そうして そうして イソツツジを炊いて魔物を追い払おうとした、

jir jir, pudəndiini bis-kəə, tii puunduləni,
ああすごく、光が丸く輝いている ではないか、 あの 鍾の石から、

largi mərgən tidə, blestit, tii ɲii. taraa tii, tii
すてきな ムルグンが そこに、輝いている、その 人は。それから その、その

əktə-gdəl puumbəni xarxan, ɣənəxən, titaraa pučuxən tidə,
女は 鍾の石のを ああした、行った、 それから 跳びついた そこに、

koptombanr jəpɪčəmi, taraa vse-taki jəpaxan bis-kəə,
その覆いを つかもうとして、 それでも なんとか つかんだ んじゃないか、

koptombanr ačoxan, jəpaxan. taraa tii mənə
覆いを 脱がした、取った。 それから そうして 本来の

mərgən durunɣini očoxan, mənə ɲiɟi-də xusə ɲiɟi-də.
ムルグンの 顔に なった、 本来の 人間の姿に、男の 人に。

titaraa tes larginɟi biini-guni, tii ɲii oxotii, xar
それから すごく すてきに 暮らすのだ、 その 人が 狩りをする、あれ、

taktonr xasv
倉は いくつも

larginɟi biini.
すてきに 暮らす。

xar, "ambɪ
あれ、「自分の父と 母

titaraa ɣənəxən,
それから 行った、

ɲii singin əktə
ひどく 貧しい 女に

ɣə tətuəni-də ɲii
さあ その服も ひど

juləsi amtr ɣən
前へ 父親の所へ 行っ

"amaa," wəndiini,
「父さん、」と 言う、

tii uisiini
「そうして 聞こえる、

nam-də omr-də
どう することも

ɲiɟi ɣənəxən-də
前へ 行っても

nama mənə jijuxan
それから 自分は 戻って

nam tamr-dee aldan
まあ、そうして 途中の

taktõni xasõ xasõ taktõni xasõ xasõ xar. tes
倉は いくつも いくつもの 倉が、 いくつも いくつもの あれた。すごく

larginjĩ biini. tamĩ-dæ tũ mærgæn wændiini, æmdæ wændiini,
すてきに 暮らす。そして その ムルグン は 言う、 ある時に 言う、

xar, "ambĩ ænbi xæringdæu, mææn bii ičæbdæni."
あれ、「自分の父と 母を 呼びに行け、自分の 暮らしているのを 見せるために。」

t̃taraa ŋænæxæn, tũ æktæ. tootila ŋænæmi apjĩ tas duksinčini,
それから 行った、 その 女は。岸边に 行って、首の後ろを パンと 叩いた、

æñii singin æktæ očoxan.
ひどく 貧しい 女に なった。

gæ tætuæni-dæ æñii singi čokanaa, taraa, əjə, j̃uləsi,
さあ その服も ひどく 貧しく 悪い、 それから、 この、 前へ、

j̃uləsi amtĩ ŋænæxæn, ambĩ xærsixæn, "ænænæ," wændiini,
前へ 父親の所へ 行った、 自分の父親を 呼んだ、「ああ、」と 言う、

"amaa," wændiini, "tũ puunguji guunjiini," wændiini,
「父さん、」と 言う、「あの 錘の石から グーンと音がする、」と 言う、

tũ uisiini t̃oraawa kataraxan-dæ tũ uisii,
「そして 聞こえる、 柱に 縛り付けても そう 音がする、

moon-dæ omĩ-dæ mutæsimbi," wændiini, "ičæŋdæksu"-m.
どう することも 私はできません、」と 言う、「見に来て下さい、」と。

ægati ŋænæxæn-dæ tũ wænčĩn, æigen paaĩ xagdõn.
姉の所へ 行っても そう 言った、 姉は 別の 家に (いる)。

t̃araa mænə j̃juxæn. "ŋeniilæpu-mæ," wænčĩn, amĩnĩ.
それから 自分は 戻って来た。「私たちは言ってみよう、」と 言った、その父親は。

æ tamĩ-dee aldan dimæari-dee, j̃iljan, tũ æktæ, æigeni j̃iljantĩnĩ.
さあ、そして 途中の 来るところで、声が、その 女の、姉の 声がする。

“anana, əi nəučəə xooni muručiiini-nuu, tii joloma əjini
「まあ、この 妹ときたら 何 考えているのかしら、あんな 石の 夫が

tami-dee
そのようだったが

tes guunjiini,” wənda, “toraala,”
ひどく 騒いでいるだなんて、」 と言う、 「柱から、」

juarəkaən
そうして 二人きりに

učəduni xardə “guunjiini uisiini.”
戸口の所だか どこだかで、 「騒ぐ 音がするなんて。」

titaraa iixəti, xarti, largin-guni, tiisal biiti.
それから 彼らは入った、家へ、すばらしいのだ、彼らの 暮らしているのは。

taraa əi, amini ənini-lə iixən doobaani tii, tii əigəni-dəə,
それから この、父親と 母親は 入った、中の方へ、その、その 姉も、

tii prjamo, učə kiraadoni jiraxani, doobaani-dəə iirəsin.
そうして まっすぐは、戸の 戸口の所で 躊躇した、 中の方へ 入らない。

balanaa xooloma tawa biči, xoolodu, kiraadoni təsumi, təxən.
昔は オンドルの 火が あった、オンドルの 縁に 座って、 座った。

taraa tes jəpuwə anjoxan, tes saolimba anjor, tıdoni,
それから たくさんの 料理を 作った、たくさんの 御馳走を 作る、そこで、

tii əigəji, ambi, ənbi jəpuwəncin. taraa točido tes,
その 姉と、父親と、母親に 食べさせた。 それから 櫓に ぎっしりと、

ulsəwə tes gaajowančin xodon. əigəni wəndiini,
肉を たっぷり お土産に持って行かせた、娘婿は。 姉は 言う、

“nəučəə, bii, sin pomoikaambasi-ta nəəwunəji-tənii,
「妹よ、私は あなたの 汚れた食器を 外に出す係でも (いいから)、

bii jədu bii-tə. učə kiraadoni-dəə bii-tə.”
私は ここに いたい。 戸の 戸口の所にでも おいておくれ。」

jiraxan əigəni ɣənumi-dəə ɣənusini.
強情を張った、 姉は 帰ろうにも 帰らない。

tami-dee xaulee xaulee ɣənuxən, wənda, əigəni-dəe ɣənuxən.
 そのようだったが 何とか 何とか 去った という、 姉も 帰った。

juərəkəən oçoxatɪ, əi-dəe xurmi nɪɣma, ələni tɪɪ.
 そうして 二人きりに なった、これも 短い 物語だ、 終わり、 そんなだ。

ブラバ村にて録音

A. Pavlovna Ycho 氏 口述

3. əigətunʃə puʃin baldaxatɪ
姉と プジンが 暮らしていた

daa xajlatɪ~ əigətunʃə puʃin baldaxatɪ. mənə mənə
ダー ハジラテー、姉と共に プジンが 暮らしていた。めいめい自分 自分の

xagdondori. tɪ bimi-dee, əi nəudumə æktə, piktəni
家にだ。 そうして いて、 この 妹の方の 女は、 その子供が

ñuučikə əmudu biči. əigəni ʃeelaŋdaxanɪ, “nəučə~ gəlbiisu,
小さな 揺り籠に いた。 姉が 呼びに来た、 「妹よ、 集めに行こう、

əi bajɪtɪ tɪdʊ~ bajɪla baača biini, tɪdʊ xərəlumi, jagoda
この 対岸の方へ、そこに 対岸に 島が ある、 そこに ぐると、ベリーが

biini,” omaktawa-nuu, xarwa-nuu ɡaŋdaxatɪ,
ある、」と、 長ヨーロッパノイバラをか、 何をか 彼らは採りに行った、

omakta ɡaŋdaxa, baačambaan. titaraa dauxa~n, aɪ, nəuni wəndiini,
ノイバラを 採りに行った、島の方へ。 それから 渡った、 ああ、妹は 言う、

“aɪ~ bii ñuuči piktəču.” “aja~, nəkuwə olbindəsə.”
「ああ、私は 小さな 子供がいるの。」 「いいわよ、子供を 連れて行きなさいよ。」

titaraa dauxa~n, ugda tokondoni nəəxə, piktəwəni, giləmi əmuʃini
それから 渡った、 舟の 真ん中に 置いた、その子を、ギリヤークの 揺り籠で

əmuču. titaraa, “nəučɪ, toorʊs sii, bii nəkuwə
揺り籠としていた。それから、「妹よ、 上れ、 あなたが、私は 子供を

ətəxii-tə,” əigəni wəndiini. titaraa əigəni dəɾəʃixə uɡdadoni. taraa
看ているわ、」と 姉は 言う。 それから 姉は 残った、舟に。 それから

nəuni tooxo, baačamba xərəlumi tɪ puliktii, kəwə,
妹は 上った、島を 周って そうして 行き来するが、 無い、

xamatani-daa jagoda-
いかなる ベリー

əigəni wəndiini, “ula-
姉は 言う、 「よ

gələkəču. taraa
探せ。 そしたら

ti gələkəčimi-d
そうして 探してから

ugda tokondoni nə-
舟の 真ん中に 乗せ

naambani ñaalaraa-da.
袋を 打ち捨てて、

ti songni, naat
そうして 泣く、 地面

piktəji buujuu,” sor
子供を 返して、」と 泣

matɪ tumbuk jolo
水に ボチャンッと 投げ

songni-guni, ti ækt
泣くのだ、 その 女は

nanjin oçni ta
生き返り、と なった。そ

nan-ɛe ti ækta wa
それで その 女は 言

“kəwə” wənd
「わい、わい」と 言う、

amatanı-daa jagoda-dəə kəwə. tıtaraa əuʃuxəni. tıtaraa,
いかなる ベリーも 無い。それから 下りて来た。それから、

əigəni wəndiini, “uləənʃi gələjuu, xərəlumi əi baačamba, xərəlumi
姉は 言う、 「よく 探せ、 周って、 この 島を、 周って

gələkəču. taraa bakılası-ma.” tıtaraa tıi xərəlumi
探せ。 そしたら 見つかるでしょう、」と。それから そうして 周って

gələkəçimi-dəə əuʃuxəni, anajee, əigəni piktəwəni
そうして 探してから 下りて来た、 あれあれ、 姉は 子供を

agda tokondını nəərəə, too mangv tokontını ələə daəjuʃxanı,
舟の 真ん中に 乗せて、ずっと 大河の 真ん中へと もう 渡っていた、

naambanı ńaalaraa-da. tıtaraa~ tıi əəktəni-gdəl tıi songıi
妹を 打ち捨てて、だ。それから その 女は そうして 泣く、

songıi, naatı tukurəə tıi songıi, “piktəji, piktəji buujuu~,
そうして 泣く、 地面に 倒れて そうして 泣く、 「子供を、子供を 返して、

piktəji buujuu,” songıini. “maa, maa maa, piktəsi,” piktəwəni
子供を 返して、」と 泣く。 「ほうれ、ほれ ほれ、あんたの子だ、」と 子供を

muati tumbuk jololoxonı, tıi əigəni. balana əigəni. tıtaraa ba~dı
水に ボチャンツと 投げ込んだ、その 姉は。 すぐに 姉は。 それから もっと

songıini-guni, tıi əəktə songomı-dee budii xəraju, budii
泣くのだ、 その 女は 泣いて、 死んでは 息を吹き返し、 死んでは

xəraju oçını. tamı-dee um ima, diçini, naanbaanı iləçini~
生き返り、と なった。そうしていると 一頭の ヤギが 来た、彼女を 舐める、

tamı-dee tıi əəktə wəndiini, songomı wəndiini, “bii əčəəl
それで その 女は 言う、 泣きながら 言う、 「私は まだ

bučəəja,” wəndiini, “ərgəçukəmbi-ə,” wəndiini. “əsikəəmbe
死んでいないわ、」と 言う、 「生きているわ、」と 言う。 「今まだ

ujunduji xajʃoji iləčiisi-kəə mimbə,
生きている時に 何で 舐めるのか、 私を、

waaičiini ʋpandini.” titaraa ima wəndiini,
殺そうと 思っているのかしら。」それから ヤギは 言う、

“gəə əigəču, xami tɪ wəndiisi, “mimbə ambaarangoʃi
「ああ 姉さん、どうして そんなこと 言うんですか、」 「私を なんとか

xorəču-wu-a-nuu,” “əgəə. gəə gəə gəə, əigəču,” “xai, ambaarangoʃi xorəču,
救え、」 「姉さん。ああ ああ さあ、姉さん。」「なんとかして 救え、

xorəču mimbə.” titaraa dɪlɪwani iləčixəni, dɪlɪ tɪ tunčiini
救え、 私を。」それから 彼女の頭を 舐めた、 頭が そうして 動く、

aja, oču-xani. “ɲaalawaji iləču.” ɲaalawani iləčixəni. ɲaalaji
よく なった。 「私の腕を 舐めろ。」彼女の腕を 舐めた。 腕が

tunčiini aja. tamɪ-dee bəgdiji tunčuxəni, bəgdɪwəni iləčixəni,
動く。 よし。 そうして 足が 動いた、 足を 舐めた、

tunčiini aja~ oču-xani. titaraa ɪlɪxani. titaraa tɪ ima
動く、 よく なった。 それから 立ち上がった。 それから その ヤギは

wəndiini, “min xamɪkɪ ɲənuu,” tɪ æktəti wəndiini.
言う、 「私の 後から ついて来て、」と その 女へ 言う。

titaraa tɪ ima xamɪkɪ~ tɪ ɲəniini, tɪ ɲənəmi-dee
それから その ヤギの 後ろから そうして 行く、 そうして 行くと、

om xagdonɪ~ ɲənəxəni, iɪɟuxəni tɪ ima, xamɪkɪ iixəni.
ある一軒の 家に 行った、 入った、 その ヤギの 後から 入った。

chi~styj tɪ ima əmkəə biini xagdonɪ doonɪ ulələni. tamɪ-dee
きれいだ、その ヤギが 一人きりで いる、家の 中は 良い所に。そうして

tɪ ima-kuči siksə~ ɟɟui, tɪmaɪ ɲənui, tɪ biini.
その ヤギは 夕方 戻って来る、朝 でかける、そうして 暮らしている。

titaraa tamɪ-dee
それから そうして

ɟuliktiini.
行き来しているのか。

kučələxəni.
ちょっとナイフで切っ

saarɪla-ma, ɟoonɟ
気づくだろう、 思い

oɟbu.”
忘れてしまうけれど。」

ɟəɟsiləɟumi-dee, əna
傷こうとしたが、 痛

“ɟəɟ-, ima, si
「そうだわ、ヤギよ、あ

ɟənuɪ tastr-kəə.”
でかけたり してるじゃ

“aldačɪstrɪ osɪn
「教えてくれない なら

tamɪ-dee aldačɪxani,
そうすると 教えた、

ɟəɟɪla, xəɟini ɟɟ
下流の所に、下流に 近

“amuču, ɟilən
「垂り箸つきで、 ギリ

ɟɪ pikəɟi xupɪɟəsɪ
その 子供と 行って遊

titaraa tamı-dee tır æktə muruçiini, “əi ima xawası
それから そうしていて その 女は 考える、 「この ヤギは どこへ

puliktiini. siksə~ jījui timar ɲənui.” titaraa ɲaalji
行き来しているのか。夕方に 戻り、朝 でかける。」 それから 自分の腕を

kučələxəni. kučələrəə kapsaxanı, titaraa, əi ənsiiduni,
ちょっとナイフで切った。切って、 包帯をした、それから この 痛みで

saarnla-ma, joonjila-ma, jījūučəni tır
気づくだろう、 思い出すでしょう、 戻って来ると ああして

oɲbi.” titaraa, timar jījuxənduni
忘れてしまうけれど。」 それから 次の日に 戻って来た時に

dənsiləjumi-dee, ənənənənənə, ɲaalajı japaʝını,
働こうとしたが、 痛たたたた、 自分の腕を つかんだ、

təjə~, ima, sii xawası pulsiisi, siksə jījui, timar
「そうだわ、ヤギよ、あなたは どこへ 通っているの、夕方 戻り、朝

ɲənui tastr-kəə.” “kəwə~ aldaçısımbı,” wəndiini. tamı-dee,
でかけたり してるじゃないの。」 「いいや、教えない、」 と言う。 そうすると、

“aldaçıstrı osını bii aksıje~,” wəndiini tır æktə.
「教えてくれない なら 私は むっとするわ、」 と言う、 その 女は。

tamı-dee aldaçıxanı, “bii-kəə,” wəndiini, “too əi baačəndu
そうすると 教えた、 「私は、」 と言う、 「ほうれ この 島の

xəjilə, xəjini jījilaa, ım piktə xaakpaaçını,” wəndii,
下流の所に、下流に 近い所に、一人の 子供が 着岸した、」 と言う、

əmuču, giləmi əmunjini əmuču.
「揺り籠つきで、 ギリヤークの 揺り籠で 揺り籠としている。

piktəji xupıɲdəsui,” wəndiini, “xorçumi.” titaraa,
その 子供と 行って遊んでいる、」 と言う、 「救って。」 それから、

“ənəje~, min piktəji,” wəndiini tɪ æktə. “ambaarəŋoʝi xorčuu,
「ああ、私の 子だわ、」と 言う、 その 女は。 「何とかして 助けて、

piktəwəji.” “gəə xooni tawu, əigəču. xorčuwu osini sii jəpuwə
私の子を。」 「さあ どう しょう、姉さん。助けるの なら、あなたは 食べ物を

anjəktəw, əgdiikunji, goi goi~ jəpuuwə mun raznyj
いろいろ作れ、たくさん、 いろいろな 食べ物を 私たちの さまざまな

jəpuuwə, naaŋi jəpuuwəni.” “gəə, bii anjəktɪji,
料理を、 ウルチャの 料理を。」 「ええ、私は 作るわ、

gəə sii ŋənuu,” tɪmana ŋənuxəni, tɪ-mət æktə tɪ,
さあ おまえは 行け、」 次の日 行った、 そのように 女は、そうして、

anjəktəxani, ui kasha, ui xamataa jəpuwə, simsa, kuumbə, kuumbi-dəə
作った、 お粥も、 いかなる 料理も、油、 乳を、 自分の乳も

paačamba xoniraa nərii, kuu molokowani, makori,
白樺製の皿を 樹皮から作って 入れる。乳を、ミルクを、 鮭の干物のも、

xarwa-daa xum, anjəktəxani tɪ. učə, učə kiraajini, sapsi kiraatini ~
何でも 全て、作った、 そうして。戸、 戸口の 所から、 川の 岸边へ

nəktəxəni. paačamba, otinji otinji paačamba anjəktəxani.
並べて置いた。白樺樹皮の皿を、少しずつ 少しずつ 皿 (に料理) を 作った。

tɪtaraa, tɪ ima ŋənəxənji wəndiini, “gəə xaakuru,”
それから、 その ヤギは 行ってから 言う、 「さあ、 着岸せよ、」と

wəndiini, “nəučuu, gəə xaakuu.” tɪ piktə too taljila~
言う、 「子よ、 さあ 着岸せよ、」と。 その 子供は ずっと 沖の方に

agbonjəxani. xar-dəə ŋəələčii, “xoon-nuu bii,” wəndiini,
現れた。 とても 怖がっている、「何だか ボクは、」と 言う、

chustvujuini. “bii tɪ osini aksin~,” wəndiini, “tookojɪ,”
感じている。「私は そんな なら 怒るよ、」と 言う、 「上ってしまおう、」と

wəndiini. tɪtaraa
言う。 それから

močasɪ, močasɪni
具合悪く、気分悪く

tamɪ-dee jəkpolə~
そうすると 近くに

tɪ iman, tɪ
その ヤギは、 その

“gəə andalɪ~
「さあ 友達の所へ

bəregawa.” tɪ-tənə an
岸を。」 それは 友

nəktəxəmbəni
いろいろ置いたのを

gəgiini, tɪtaraa
食べてみる、それから

wəndiini naantini. gəə
言う、 彼に。 さあ

man ənbi aja
自分の 母さんが 元

gəgi aləowa
さらに別の 食器のを

gə amata əna
ああ こんなのを 母

molokowa, kuučixəmbi
おっぱいを 吸った、

wəndiini. tɪtaraa tɪ ʃakpɪ~lanɪ agbɔŋʊxanɪ. taraa xai-daa
言う。それから そうして 近くに また現れた。それから 何とも

mɔʃasɪɪ, mɔʃasɪnɪ osɪnɪ, tɪɪ ɪma, guʃi tookɔnɪ osɪɪ,
具合悪く、気分悪く なって、その ヤギは、また 上っていこうと する、

tamɪ-dee ʃakpɔla~ xaakoxanɪ, tɪtaraa ʃakpɔla xaakoxanɪ,
そうすると 近くに 着岸した、 それから 近くに 着岸した、

tɪɪ ɪman, tɪɪ pɪktəwə xolɔmbɔʊxanɪ, aʃɔktaxanɪ. tɪtaraa,
その ヤギは、 その 子供を 揺り籠から出した、 取り出した。 それから、

“gəə andalɪ~ ŋəniisu,” wəndii, “gulʃaisu, sapsɪ kiraakɪnɪ,
「さあ 友達の所へ 行こう、」 と言う、 「歩こう、 川の 岸边に沿って、

bɛrɛgawa.” tɪɪ-tənə andalee~ tɪɪ ʃijumi-dee tɪɪ əəktə
岸を。」 それは 友へと そうして 戻るのだが、 その 女が

məəktəxəmbəni bakoxa sapsɪ kiraadɔnɪ, ʃɛpultəwə. əiɪwə tɪɪ
いろいろ置いたのを 見つけた、川の 岸边の所に、食べ物を。これを そうして

pərgiini, tɪtaraa “gəə, sii-pək, nəku, pərgəu,” ɪma
食べてみる、それから 「さあ、おまえこそは 子よ、食べてみよ、」 と ヤギは

wəndiini naantɪnɪ. gəə tɪɪ pɪktə pərgiini, “anajee, bii balanaa
言う、 彼に。 さあ その 子供は 試す、 「ああ、 ボクは ずっと昔に

məən ənbi aɟadɔnɪ əmətəwəni ʃəkpɪmbi.” gəə tɪɪ dui~kini
自分の 母さんが 元気だった時に こんなのを 食べたよ。」 さあ そうして

guʃi alɔɔwa pərgiini. “ʃəwə-dəə
さらに別の 食器のを 食べてみる。 「これも

gəə əmətə əŋəə aɟadɔnɪ bii əmətə xai,
ああ こんなのを 母さんが 元気だった時に ボクは こんな あれ、

mɔləkɔwa, kuuʃixəmbi,” wəndiini, “mɔləko,” wəndiini. tɪɪ uɟəə..,
おっぱいを 吸った、」 と言う、 「おっぱいを、」 と言う。 そうして

dujækini guči kasha, xai makori, xai-daa xum, tii pərgəksiini,
森の方へ さらに お粥、あれ、干物、 何でも 全て、そうして いくつも味わって、

učə kiraatini jək toobəjoxani, tii piktəwə. “gəə əgəə,”
戸の 戸口の所へ まで 上らせた、 その 子供を。 「さあ、姉さん、」と

wənčini, tii ima. tii wəmbuwəmi tii əəktə-gdəl tii, toxombi
言った、その ヤギは。そう 言われて その 女は その、ボタンを

seenjini xaisi, xətu xətu
ボタンの穴から あっちへ、 ブチ ブチと

təansimi nəəxəni. tii piktə,
引きちぎって（早くおっぱいを与えたくて） 外へ出た。 その 子供は、

manga opi, toori döləntini əjji, tii juə ŋii manga
しんどく なって、岸辺の 真ん中の所へ 下りる、その 二 人は しんどく

opori učə kiraatini gəjoi, tii piktəwə, kusuməkəəčiməri.
なるのを、戸の 入口の所へ 連れて来る、その 子供を、 引っ張り合って。

silaa silaa iiwujuxəəl. “əji amaaji, əi əi,
やっとのことで 家の中へ入れた。「ダウリチョウザメの 父さん、ワ～ンワ～ン、

kuŋdu əñəji əi əi,” songimi tii piktə.
チョウザメの 母さん、ワ～ンワ～ン、」と 泣く、 その 子供は。

titaraa kuŋdu, əji tooxoti,
それから チョウザメと ダウリチョウザメが 上って来た、

xaaxati. tulitini jək tooxo, əji kuŋdu-də. towa-gdəl,
着岸した。 中庭に まで 上った、ダウリチョウザメ、チョウザメもだ。それを

tii ima tii paatičimi tii waaxani, tii
その ヤギは それを 叩いて そうして 殺した、 その

əjisalba, kuŋdusəlbə. “əji
ダウリチョウザメたちを、 チョウザメたちを。 「ダウリチョウザメの

amaawa xaijoji
父さんを 何で

xaijoji waaxasi-kə
何で 殺したの、

tii naambani
その 彼らのことを

songomi tii
泣くのも そうして

kuŋduwə, əjimb
チョウザメを、ダウ

mana-nuu, tii
次の日だけに その

“bue səwəñii,
「私たち スウン（木

əgan təj ilaa,”
魂は ただ 三つだ、

xarəmi om əg
獲って 一つの 魂

əgambi manaxambi,
魂を 使った、

əgambi manaxambi,
魂を 使い尽くした

səwani, əgani təj
スウンに 魂は ただ

mana tii bu
それから そうして 死

amaawa xaijōji waaxasi-kəə-i, əi əi, kuŋdu əñəwə
父さんを 何で 殺したの、 ワ～ン ワ～ン、 チョウザメの 母さんを

xaijōji waaxasi-kəə-i əi əi,” songuni tui pikta.
何で 殺したの、 ワ～ン ワ～ン、」と 泣く、 その 子供は。

tui naambani tui xaijōni-guni, tam-dee jadaxani tui pikta
その 彼らのことを そう ああするのだ、 そうして 疲れた、 その 子は

songomi tui xodaxa. titaraa tui čopal rabotaxaa-l tui
泣くのも そうして 終えた。それから そうして 全部 下ろした、 その

kuŋduwə, ajimba təljičixəł. tam-dee, tui dolbo-nuu,
チョウザメを、ダウリチョウザメを 捌いた。 そうして、その 晩だか、

umana-nuu, tui ima ənuluxəni. ima wəndiini,
次の日だかに その ヤギは 病気になった。ヤギは 言う、

buə səwəñii, xami,
「私たち スウン（木偶）の者は、 あれ、

ərgən təj ilaa,” wəndiini, tui əəktəti wəndiini. “bii simbə
魂は ただ 三つだ、」と言う、 その 女へ 言う。 「私は あなたを

xorčomi um ərgəmbi manaxambi, əi piktəwəsi xorčomi um
救って 一つの 魂を 使った、 この あなたの子を 救って もう一つの

ərgəmbi manaxambi, əi učə kiraadoni xairiti, um
魂を 使った、 この 戸の 入り口へ ああするのに、 もう一つの

ərgəmbi manaxambi, əsi ələə əsi budiiə,” wəndiini, “um
魂を 使い尽くした、 今 もう 今 私は死ぬ、」と言う、 「一つの

səwəni, ərgəni təj ilaa,” wəndiini, tui ima wəndiini.
スウンに 魂は ただ 三つだけだ、」と言う、 その ヤギは 言う。

titaraa tui bučini, tui ima. “əji~ min bulbučəji əji
それから そうして 死んだ、その ヤギは。「決して 私が 死んでも 決して

songokso,” wənčini. “min bulbučəji, nantawajr ačōraa,
泣くな、”と言った。「私が 死んだら、私の皮を 剥いで、

gaksa kaltaajr saktəpulerəə, gaksa kaltaajr mæpəəri
片方の 側で 敷布団にして、 もう一方の 側で 自分を

dasjōraa ausalto”-m-də. titaraa songomaari-dee xaixati,
覆って 眠れ、”と。 それから 泣いたが 彼らはどうした、

nantawani ačōxa~ xoljīčixa titaraa, gaksa kaltaajr,
皮を 剥いだ、 乾いた、 それから、 片方の 側で、

nakanjōraa gaksa kaltaajr mæpəəri dasiraa akpan...
敷いてから、 もう一方の 側で 自分たちを 覆って 寝た、

aoriti, tui əñji piktəji. tam-dee tui piktə-dəə,
彼らは眠る、 そうして 母と 子で。 そうすると その 子も、

ambaa daar oči, garpanasr~, sapsi kiraadoni, duisi
やや 大きく なった、 弓を射る、 川の 岸辺で、 山の方へ

garpu, soli garpu, xai, tiji əñini wəndiini biskəə,
射る、 上流へ 射る、 あれ、 そのことで その母親は 言う ではないか、

jūlesi, garpanaloxandoni. “sii bairi~ bairi-la, bairi-la
前へ、 射始めた時に。「おまえは 対岸へ、 対岸へは、 対岸へは

əji garpara, bairi əji garpara,” wəndiini, “soli, xai,
決して 射るな、 対岸へ 決して 射るな、”と言う、「上流へ、 下流へ、

duisi, garpanasoro,” wəndiini. jaktanji garpanasoo tam.
山の方へ 射るようにせよ、”と言う、 矢で 射ようと する時に。

titaraa, tui piktə tam-dee əñini tui baala tui
それから その 子は そうしていたが、母親は そうして 外で そうして

ətəmi-dee iijuxəni, nuḡdusumi iijuxəni, tuə. titaraa
しばらく見張っていたが、家に入った、寒くなって 家に入った、冬だ。 それから

əñini iijuxəni,
母親は 家に入った

wənčini,
言ったんだろう、

garpu-ta,”
射てみよう、”と 考

bairi garpa
対岸の方へ 射た、

tankini, japičim
もっと先へ、つかも

mangowa daoxani,
大河を 渡った、

om ŋri siin
ある 人の 水汲み

čakčaaxar
ああして 軽く当た

isudoni~ om
立っている時に 一人

min-məəči bii
私みたい である

iijučii mapangotiji
入ると 自分の夫へ

wəndiini, “om pi
言う、「一人の 子

wəndiini. taxanji,
言う。 それから、

əñini iijuxəni, mōrasini, tii piktə, “anajee, min ənbi xaijō
母親は 家に入った、叫ぶ、 その 子は、「ああ、 ボクの 母さんは 何で

wəñcini, bairi əji garpara, bii pərgəmi bairi
言ったんだろう、対岸へは 射るな、と、 ボクは 試しに 対岸の方へ

garpū-ta,” muručiini, titaraa bairi garpaxani. titaraa
射てみよう、」と 考えた、 それから 対岸の方へ 射た。 それから

bairi garpaxani, tiwa xani, jaktani, japičiini
対岸の方へ 射た、 それを あれ、 矢は、 つかもうとすると

tankini, japičiini tankini, ɣəniini, tii dauxani,
もっと先へ、つかもうとすると 先へ 行ってしまう、そうして 渡った、

mangōwa dauxani, tii piktə. tam-dee ōmōn, xai,
大河を 渡った、 その 子供は。 そうして 一つの あれ、

ōm ŋii siin porontini~ ilɣdaxani, tii,
ある 人の 水汲み用氷穴の所の氷の 上へ 行って立った、ああして、

tii čakčaaxar ɣənəxəni tii garpaxani-guni. titaraa
ああして 軽く当たるよう 飛んで行った、 そう 射たのだ、 それから

ilɣndōni~ ōm əktə ŋəxəni~, dɪli dəpə dəpə
立っている時に 一人の 女が 家の外へ出て来た、 頭は バサ バサで

min-məəči bii əktə. titaraa, tii əktə iijuxəni, tii
私みたい である 女。 それから、 その 女は 家に入った、そうして

iijuučii mapangōtji wəndiini, “ənənə~ əi warla ilɣsini,”
入ると 自分の夫へ 言う、「あれあれ、この 川の方に 立っている、」と

wəndiini, “ōm piktə, mənə əi baa ŋini piktəni-dəə bisi,”
言う、「一人の 子供が、自分らの この 土地の 人間の 子でも ない、」と

wəndiini. taxanji, tii mapa-nuu, tii əktə-nuu xəriɣdəxəni
言う。 それから、 その 夫だか、 その 女だかが 呼びに行った、

tii piktəwə. tii xəərsiini~ xaulee tooxoni tii piktə.
 その 子供を。 そうして 呼ぶ、 なんとか 上って来た、 その 子供は。

ambaa daari oçini garpanasvi. titaraa tooxoni, aonjawu oçini,
 けっこう 大きく なっていた、 弓も射る。 それから 上った、 泊ることと なる、

siksəjuxə. aonjawu osini, aonjawu, aonjini. tii əktə tii
 日は暮れた。 泊まる なら、 泊まる、 泊まる。 その 女は そうして

xarwa pujuuriini-nuu. ota xoldondoni xarwa-gdəl pujuuxəni-nuu.
 何を 煮るのか。 靴の 横革だけ 何だかを 煮ていたのか。

titaraa tii piktəti niŋmaambowu, təjəni, jəpuwəndiiduni,
 それから その 子に 物語るだろうか、 本当のことを、 食べさせる時に、

əmdə xoñaalı, xawası ičiiduni xawası xoñaalı taxanı,
 ちょっと 匙で取り、 向こうを 見ている時に 後ろへ 投げ捨てたり した、

xaalı jəptiini tii-də. titaraa joloçimi tii, čaamiwa
 いつ 食べるだろうか、 そんな物を。 それから 投げ捨てて そうして、 碗を

manaxanı. titaraa akpandı, akpamdani səktuxəni,
 食べつくした。 それから 横になる、 横になるのに 布団を敷いた、

xarwa, talowa. talu pasını, talowa, səktuxəni, tii ojokını,
 あれを、 白樺の樹皮を。 白樺の 切れ端を、 白樺を 敷いた、 その 上に、

moo mungəl nəəxəni. tiŋi tirəptulərə wənçini, ii
 木の 球を 置いた。 それで 枕にして 言った、 そう、

əñii singi jəbı, sinəjiiti. tii əigəni-tama. titaraa,
 ひどく 貧しく 暮らしている、 貧しくしている。 その 姉は。 それから、

niŋmaamba gəliini tii mapa. tii mapa, tii piktəni-təni
 話を 求める、 その おじいさんは。 その おじいさん、 その 子は

tii niŋmançini, naan tənə~ mənə baldaxanji jəpamı, tii
 そうして 物語る、 彼は まず 自分が 生まれたところから 始めて、 ああして

ima məəpi x
 ヤギが 自分を 殺

baakıla gaksa
 家の外へ、 もう一方

"gəə amaa bi
 「さあ 父さん、 ポ

"tii piktə."
 「その 子供という

əəjuxəni, tii
 出て行った、 そう

səpli lokti
 鼻水を 肘で (拭き

xamikını, tii
 その後ろを、 その

aldəçixanı, "əñəə,
 教えた、 「母さん、

wəndiini. titaraa
 言う。 それから

titaraa jakçixanı,
 それから 鍵を掛けた

uəwə ačoroo."
 戸の鍵を はずせ。」

〔録音が途中まで (こ

ma mæpi xuraxantini-də. gæ ələə wəmi, gaksa bəgdi,
ヤギが 自分を 救ってくれたところまで。さあ 十分 語って、片方の 足を、

baakila gaksa bəgdi dookila tami,
家の外へ、もう一方の 足を 中に、と そうして、

"gæ amaa bii taambi," wənčini,
「さあ 父さん、ボクの ことです、」と 言った、

"tɪi piktə." tɪi wəmi učəji, jip somjɔraa tɪi
「その 子供というのは。」 そう 言って 戸を、 バタンと 閉めて そうして

ɬəjuxəni, tɪi daɔjuxəni. titapɪ~ amɪni sopli lokti
出て行った、 そうして 渡って戻った。 すると 父親は 鼻水を 肘で、

sopli lokti ɔtakaambi, læmiləɾə daɔrɪni bis-kə,
鼻水を 肘で (拭き拭き)、 履物には、スリッパをつっかけて 渡る ではないか、

xamikɪni, tɪi piktə xamikɪni. titaraa iijumi
その後ろを、 その 子供の 後ろから。 それから 家に入って

aldaɕxəni, "əñəə, amaa didiini, əñəə amaa didiini,"
教えた、 「母さん、 父さんが 来るよ、 母さん、 父さんが 来る、」と

wəndiini. titaraa tɪi əəktə-dəə ələ-dəə učəji jakčixəni.
言う。 それから その 女は すぐに 戸を 鍵を掛けた。

titaraa jakčixəni, "əñəə, amaa didiini, ačɔɾuɔ,
それから 鍵を掛けた、 「母さん、 父さんが 来るよ、 はずせ、

učəwə ačɔɾuɔ." "kəwə," tɪi əəktə ačɔsɪni.
戸の鍵を はずせ。」 「いいえ、」と その 女は はずさない。

【録音が途中まで (ここまで) で切れている]

ブラバ村にて録音
Ch. Val'dju 氏 口述

4. puĵin xusə oĉmɪ
プジン は 男に なった

əigəntunĵi-ə~ puĵi baldaxan. ĵuə xurəən aldandənɪ,
姉と二人で プジンが 暮らしていた。 二つの 丘の 間に、

kadar aldandənɪ ʊmʊ xagdʊkaan biini. baĵi kaltaajɪlanɪ
崖の 間に、 一つの 小さな家が ある。 向こう岸の 側には

daar biruu. daar xoton. ɪlaan dəŋgə xoto.
大きな 村が (ある)。 大きな 街だ。 三つの 通りがある 街。

tɪi bii~ tɪi, tɪi əkəsəl, tɪi moowa moolsɪtɪ.
そうして 暮らしている、そうして、その 女たちは、そうして 薪を 集める。

tɪimɪ tæməəri, tɪi moowa moolomaari, tɪi ɲeniiti.
朝 起きて、 そうして 薪を 集めて、 そうして 彼らは行く。

tɪi pulsiɪ~l tamɪ-dee əigəni wəndiini, əigəduməni wəndiini,
そうして 歩き回る、 そうしていて 姉が 言う、 姉の方が 言う、

“xai, xoon aĉɪ, buə jadapsɪ, inəŋ inəŋ tɪi
「あれ、どうして いいだろうか、私たちは 疲れる、毎日 毎日 こうして

puliktəwu. əsi, ʊmʊ ɲɪ, ʊmʊ ɲɪ dəɾəĵii, ʊmʊ ɲɪ dəɾəĵipi,
歩き回るのは。 今、一人の 人が、一人の 人が 居残り、一人の 人が 居残ったら、

muəwə muəlsii, moowa ɪwaĉɪ, ĵəbdii əñuəɾəĵii tɪimɪ-guni,” wəndiini.
水を 汲んだり、薪を 燃やしたり、食事を 煮たり するのだ、」 と言う。

“taraa tɪi duisi tookpaĉɪxanɪ əuĵupi bəliĵi
「それから そうして 山の方へ 上った者が 下りて来たら 準備できた物を

ĵəptəə, ĵəmi xodʊpɪ urpii-dəə aja, xaiɪɪ-dəə aja,” ʊrĉʊlondɪɪɪ.
食べて、食べ 終えたら 縫い物しても よい、何しても よい、」と彼らは話し合う。

nəuni wəndiini, “tə
妹は 言う、 「本

“gəə, bii tɪman
「さあ、私が 明日、

əigəni to
そうして 姉は 上

muəwə muəlsixəni,
水を 汲みに行った

əə ɉɉpal ɉək.
もう すっかり 用意

moongonɪ bələĉ
その 薪を 手伝

moŋɉ-dəə uisi əəwɪ
誰も 上へ しま

ɉəpini.
それから 食事をした。

ɲɪ kaoka
一人の 人が じっと家

pulupi,
一緒に 歩き回れば、房

əñuəɾəĵii,
「食事は 作っておいた

moŋɉɉɉɉ tɪi
それも やったり

ɲɪ kaoka
一人の 人が じっと

məuni wəndiini, “təjə-guni,” wəndiini, “aja-guni,” wəndiini.

妹は 言う、「本当だわ、」と言う、「いいわ、」と言う。

“gəə, bii tɪmana, bii, bii toorn sii dəɾəjuu,” wəndiini nəuti.

「さあ、私が 明日、 私、私が 上る、あなたは 居残れ、」と言う、 妹へ。

tu əigəni tooxon, tɪmaɪ bala tooxon. əi, tooxon xamɪlanɪ,

そうして 姉は 上った、朝 早くに 上った。 この、上った 後に、

muəwə muəlsixəni, moowa ɪwaɕixanɪ, jəbdiji əñuəɾəjixəni,

水を 汲みに行った、薪を 燃やした、食事を 料理した、

ələə ɕopal ɕək. xodɪni, əigəni əujuxən. əigəni ɪwaɕixambanɪ,

もう すっかり 用意する。 終わると、姉が 下りて来た。 姉は 燃やしたのを、

tu moongɔni bələɕixə-n, bələɕimi, moongɔni ɕopal əsəlɕuxən,

その 薪を 手伝った、 手伝って、 その薪を 全部 片付けた、

toɕiji-dəə uisi əəwurjuxən, uilə~ nəəkuxən. tɪtaraa iijuxəni,

種も 上へ しまった、 上に 置いた。 それから 家に入った、

taraa jəkpini. gəə xoon tu, “əi, uləən-guni əsi.

それから 食事をした。 さあ どう する、「これは、 良いわ、 今。

omo ñɪ kaoka biɕini, iijumi jəpuwu, buə juə ñɪ

一人の 人が じっと家に いた、 家に入れば 食べられる、 私たち 二人の 人が

gəə pulupi, jɪjupəəri-ə~ dəɾsɪi, goro-guni,” wəndiini.

一緒に 歩き回れば、 戻って 働くのが たいへんだわ、」と言う。

jəbdii əñuəɾəjii, moongɔjɔji tu

「食事は 作っておいたり、 薪も やったり

muənguɔji tu tawu. əsi uləən-guni,” wəndiini,

水も やったり こうすべきだわ。 今は いいわ、」と 言う、

“omo ñɪ kaoka biɕini.” gəə tu ɔɾɕolomaari jəməəri

「一人の 人が じっと家に いたら。」 さあ そう 話し合って 食べるのも

xodixa~n, taraa əsi jəkpimbəri əsəlčuxən. taraa
終えた、それから 今 自分らの食べたのを 片付けた。 それから

urpuməəri təsixeli. tımanaa nəuni tooku. tımu bala təərəə nəuni
縫い物をしながら 座っていた。明日は 妹が 上る。 朝 早く 起きて 妹が

tookoxan, əigəni xamıla, dərəjixən. əigəni tı nəuji taxanı-məəč
上った、姉は 後に、 残った。 姉は その 自分の妹が したように、

dərsiini-guni. tı tıdonı~, umu mərən dauxan.
働くのだ。 そう している時に、一人の ムルグンが 河を渡って来た。

tı daarı xotonji dičini. tıtaraa tı, tı əigədumə
あの 大きな 街から やって来た。 それから そうして、 その 姉の方の

pujıni asılaxan. asıjoji gələndəxəni tı pujimbə.
プジンと 結婚した。 自分の妻を 求めて行った、 その プジンを。

tı pujin-dəə tıxalı, tji ədiləxən. tıtaraa tı, tı,
その プジンも 同意する、その人で 夫とした。それから そうして、そうして

nəudumə pujin, moongowanı čupal əsəlčuxən,
妹の方の プジンは、 薪を たっぷりと 片付けた、

ədijji juə ńı ńəəxən, čupal əsəlčuxən xarja, tıtaraa
自分の夫と 二 人で 出て来た、 すっかり 片付けた、 あれを、それから

iijuxə~, jəptii, jəptiiduji tı, tı mərən wəndiini,
家に入った、食事する、食べている時に その、その ムルグンが 言う、

“tı tı, əktəwə xusə ńı opowaandını biilə, mindu biini,
「その、その 女を 男の 人に ならせる だろう、私の所には いる、

patalan biini,” wəndiini, “min nəuji. simbi tı asıjoni...,
姪が いる、」と 言う、 「私の 妹だ。 おまえを その

ədijuni gajəču,” wəndiini. “aja-guni,” wəndiini, tı əsi,
夫に 連れて行こう、」と 言う。 「いいわ、」と 言う、 そうして 今、

“xoon tı
「どう するの、

gəsa gəsa mulu
共に 共に ツル

əigəjji gəsa
姉と 一緒に

tı, tı
そうして、その

tı songunı
そうして 泣く、

gəsa gəsa əktə
共に 共に 女の

tıtaraa tı,
それから そうして

tesı xəraljunı
向こうを 向けば

tı əigəni. songunı
その 姉は。 泣く

“ganıje,” wəndiini
「帰るわ、」と 言う

biilə-daa bipi
三日 経った

mi mimbı,
私 のことを、

tesı kataraxanı
きつく さらしを

"xoon tɯ xoon tɯ tabdɯ asɪ, asɪlɕɪmɪ-nuu.
「どう するの、どう、そう するには 妻が、 娶ろうというのか。

gəsə gəsə mulu mulu oɕm." gəə tɯ dauxan, ədini,
共に 共に ツルツルと なって。」 さあ そうして 渡った、 その夫は、

əigəji gəsə tɯ, əigəji susuučimi tɯ dauxan.
姉と 一緒に そうして、自分の姉を 送って行って そうして 渡った。

tamɪ, tɯ saolimbati, əigəni jɪŋ jɪŋ, paandɪmɪ,
そうして、その 彼らの御馳走の大皿を（見て）、 姉は ひどく 悲しくなる、

tɯ songɪmɪ tɯ songɪ, ɪlamuɐ-m songɪmɪ-guni.
そうして 泣く、 そうして 泣く、 恥ずかしい、と 泣くのだ。

gəsə gəsə əəktə ɲɪji xoon asɪ ədi osɪmɪ.
共に 共に 女の 人で、 どうやって 夫婦に なれようか。

tɪtaraa tɯ, tɯ songɪmɪ. ɲɪ, ɲɪbaanɪ xərəljumi aja,
それから そうして、そうして 泣く。 人の、人の方へ 向いたら 大丈夫だが、

teesɪ xərəljumi songɪ, tɯ biini. gosɐ-somɪ bodɪ bodɪ oɕm,
向こうを 向けば 泣く、 そのよう である。悲しんで 痩せてしまった、

tɯ əigəni. songoɕum-dee-də. naa, "bii əsi daɔjɔji," wəndiini.
その 姉は。 泣きに泣いて、だ。 ほうれ、「私は 今 渡るわ、」と 言う。

"ɲənuije," wəndiini, tɯ tɯ puʒin. "bii əsi ɲənupi
「帰るわ、」と 言う、 その、その プジンは。 「私は 今 帰ったら、

ɪalta-daa bipi didiije," wəndiini. "tɯ tapɪ-muk asɪɲje.
三日 経ったら 戻って来るわ、」と 言う。 「そう してからやっと 娶るわ。

əsi mimbi, buju siŋgərəxəni," wəndiini, əi kuumbi
今 私のことを、クマが 傷つけた、」と 言う、 この おっぱいの所に

tes kataraxanɪ. mun əəktə ɲɪ kuun-dəə, el' el' biini-guni.
きつく さらしを巻いた。 私たち 女の 人の おっぱいは 柔らかいのだ。

taraa tɨŋ tɨŋ kataraxan. “buju siŋgəɾəxəni,” wəndiini,
それから きつく きつく 巻いた。 「クマが 傷をつけた、」 と言う、

“mimbi. bii asi, æaktə ɲɲi akpamɪ-daa bai bai,” wəndiini.
「私を。私は 今、女の 人と 寝ることも できない、」と 言う。

titaraa	tii,	tii	daujoxan.	daujoidoni	umv	gaksi	kaltajini,
それから	そして、	そして	渡った。	渡る時に	ある	片方の	半分から、

aanji kaltañini xurañji, umu mama auriini.
右の 半分の 丘から、 一人の おばあさんが 下りて来る。

əniɪ siŋɡin mama, gosʊ siŋɡinjini, xoŋsani-dæə,
ひどく 老いた おばあさん、やっこさという感じに 老いている、ふくらはぎも

aigəčii~ nəmdə, xəngini-dəə aigəčii nəmdə.
 こんな風に 細い、 胴回りも こんな風に 細い。

kos kos kos oči mama. naan ĵakpatını ılındaxanı.
骨と皮ばかりでカタカタに なった おばあさんだ。彼女の 傍に 来て立った。

taraa wəndiini, “gəə, minji waaʕiisu,” wəndiini. ti mama.
それから言う、「さあ、私と闘おう、」と言う。そのおばあさんは。

“ənənə, mama, xoon tii sinji waačawu-kəə,”
「あれあれ、おばあさん、どうやって その あなたと 闘えるというの、」と

wəndiini. “xairlası ɣapawu-kəə,” wəndiini. “aja~,”
言う。「あなたのどこを 掴めるというの、」と言う。「いいから、」と

wəndiini, “aja,” wəndiini. “pərgiisu aja, xoontikaan”-də.
言う、「大丈夫、」と言う。「試すがよい、どうか、」と。

ti mama nəə waaɲiɲini. titaraa, xai
 その おばあさんは すかさず 喧嘩しようとする。 それから、あれ、

naamančin, naamami-dəə xailani ʃapami naamambowu.
抱きついた、抱こうにも どこを つかんで 抱けようか。

əniɪ sɪŋɡɪn x
ひどく 老いて 看

taraa, xasura-n
それから、何度か

bučin-nuu, xoon
死んだのか、 どう

naambani-gdəl	xæən
彼女を	自の

III jangirimi.
 そうして ぶつぶつ

jangirami	tu
つぶやきながら	そ

puruu puruu opowaa
粉々に した、

marəktəču, sələji gir
皮膚とし、鉄で 骨

jaajami
そんな風に 歌いな

~~ambani~~, ting
あしたものを、が

jinparaa, jingal jing
つかんで、塊に 塊に

jūcioxon. “xai, ja
受けた。「あれ、

「*ijulati*」-mdə.
 立つだろう、と。

anii singin xumdu-tama. kos kos oči mama.
ひどく 老いて 痩せているのだもの。カタカタに なった おばあさんだ。

taraa, xasura-nuu xərəlǰumi xaunčak ǰənəxən tii puǰin.
それから、何度か 回転して 気を 失ってしまった、その プジンは。

bučin-nuu, xoon taxan-nuu. tamr-dee~ saajǰoxanı.
死んだのか、 どう したのか。 そうしてしばらくして 気がついた。

naambanı-gdəl xəni dooloni nəərəə~ nuutiini.
彼女を 臼の 中に 置いて、 魚皮なめしのハンマーで叩いている。

ti ǰangırıni, tii ǰangırıni. tii
そうして ぶつぶつ言っている、そうして つぶやいている。そうして

ǰangırıni tii tii, tii nuutiini. tii nuutimi-dee~, əsi-gdəl
つぶやきながら そうして 叩く。 そうして 叩いていて、 今

puruu puruu opowaančm, puruu puruu. “əsi-gdəl əwənči-gdəl, sələ, sələǰi
粉々に した、 粉々に。 「今 これからは、 鉄、 鉄で

xərəktəču, sələǰi ǰıramsəču osılatr~,” wəndiini. wəmi,
皮膚とし、鉄で 骨を持つように おまえはなるだろう、” と言う。 言って、

ti jaajamı tii xarıni, tıtaraa tii, punəktə-məəči-lə
そんな風に 歌いながら そして ああする、そうしてから その、灰のように

naaxambanı, tıǰ tıǰ əi-məəči tıǰ tıǰ tii
ああしたものを、がちり がちり こんな風に がちり がちり そうして

ǰaparaa, ǰıǰgal ǰıǰgal opowaančm. ǰıǰgal ǰıǰgal opowaandaa, čooǰkokı
つかんで、塊に 塊に した。 塊に 塊に してから、 天窓を通して

ǰololoxon. “xar, ǰərgi ǰıni uikini bii osıni, uilə-pək tak
投げた。 「あれ、地上の 人の 上で ある なら、上に スタッと

ǰıǰolatr~mdə. “ǰırgii ǰıni pəǰikini bii osıni taka, naatrı-gdəl
立つだろう、” と。 「地下の 人の 下で ある なら、 パタリと 大地に

tukiiləti." wənčin. "bii amnası wəndiije,"
倒れるだろう、」と言った。 「私は おまえの父さんたちの、 私は言おう、」と

wəndiini. "amnası səwəntiji."
言う。 「おまえの父さんたちの スウンだ。」

tıi mǝrgən, mǝrgən osıxanı. xai, iljoxan,
それは ムルグン、 ムルグンに なった。 立ち上がった、

əi xaalıjanı doonı xai-daa piakum biini. močasıını.
この あれの 中に 何だか ピョコリと ある。 違和感がある。

buə əəktə ńıi aja-guni, naandunı tıi, xusə ńıi xajun
私たち 女の 人は 大丈夫なのだが、 彼には その、 男の 人の ものが

tupum biini-guni, tidə. ənəje xamı močasıını-kəə,
ピョコリと あるのだ、 そこに。 ああ、 どうして くすぐったいのか、

ɣaalajı ɣapaxanı. xusə ńıi čičuni očoxan bis-kəə.
手で つかんだ。 男の 人の オチンチンが できていた じゃないか。

titaraa baaračını, iijuxənji tıi mamawa naamančın.
それから 挨拶する、 入ってから その おばあさんを 抱きしめた。

tes baaračıtı, mama, naanı əčəəl iijüəduni ɣəbdəni
すごく 喜んだ、 おばあさんは 彼が まだ 入って来ないうちに 彼の食事を

bəlixən. xamatanı-dəə, kulaambanı čopal bəlixən.
用意していた。 どんなのも、 虫を いっぱいに 用意していた。

mui-dəə bii xamatanı-daa xum bii. ɣəpuwəndiini.
蛇も ある、 どんなのでも 全て ある。 食べさせる。

"əji ɣəələčira," wəndiini, "ɣəpuruu," wəndiini,
「恐がるな、」と言う、 「食べよ、」と言う、

"sii əsi xaiji-dəə ɣəələsiti," wəndiini, "xərəktəsi
「おまえは 今 何にも 恐れることはない、」と言う、 「おまえの皮膚の

čopal sələ,"
全て 鉄だ、」と

sələ očowančimbı,
鉄に 私はした、」

səwəni," wən
スウンだ、」と 言う

usa mǝə
さあ知らない、自分

ələ-dəə daojoxan.
もう 渡った。

"ana xaiwa sor
「ああ、何を あ

xaiwa ilamuu-ma,"
何を 恥じているの

argalıını, argalaxamı
騙す、 騙したの

titaraa, "gəə č
それから、「さあ オ

"gəə. čäčingdiisu,
「一緒に、オシッコし

ası minji gəə
なら、 私と 一緒に

"si bii xusə o
「今 私は 男に な

aijanji gəə ńǝə
俺と 一緒に 出た

čopal sələ," wəndiini. "gıramsası-daa čopal sələ,
全て 鉄だ、」と 言う、 「おまえの骨も 全て 鉄だ、

sələ očowančımbı," wəndiini. "bii amnası, xanı
鉄に 私はした、」と 言う。 「私は おまえの父さんたちの あれ、

səwəni," wəndiini. tı wənčin. gəə xai məənbəəni əjuxən.
スウんだ、」と 言う。 そう 言った。 さあ あれ、自分の所の方へ 下りた。

sa məənduji-dəə aŋjaxan-nuu kəwə-nuu.
さあ知らない、自分の所にも 泊まったんだか、 泊まらなかったんだか。

alə-dəə daŋjuxan. əsi-dəə əigəni songıı. tı songıı.
もう 渡った。 今も 姉は 泣いている。 そうして 泣いている。

"ana xarwa songıı-sı-kəə," wəndiini, "xarwa songıı-sı-kəə.
「ああ、何を あなたは泣いているの、」と 言う、 「何を 泣くのか。

xarwa ilamı-ma," ilamı songıı tı əigəni, tı məəpi
何を 恥じているのか、」 恥ずかしがって 泣いている、その 姉は、 その 自分を

argalıni, argalaxamba, ŋı saarıwanı-daa, ilamsıni-guni.
騙す、 騙したのを、 人は 知っているのに、 恥ずかしいのだ。

tıtaraa, "gəə čäčindıısu," wəndiini
それから、「さあ オシッコしに行きましょう、」と 言う、

"gəə. čäčindıısu," wəndiini. tı tı agdası
「一緒に、オシッコしに行きましょう、」と 言う。 そうして そう 信じないの

osıni minji gəə čäčindəruu," wəndiini.
なら、 私と 一緒に オシッコしに行け、」と 言う。

"əsi bii xusə očuxambı," wəndiini. tıtaraa, ŋəəxən,
「今 私は 男に なった、」と 言う。 それから、 外に出た、

əigənji gəə ŋəəxən. xusə ŋı ilımi čäčisi-kəə.
姉と 一緒に 出た。 男の 人は 立って 小便するじゃないの。

tɪ-mət čǐčǐini čimurrrr gorotɪ paamamɪ čǐčǐini.
そんな風に 小便する、 チョロロロロと 遠くへ 狙って 小便する。

“gəə xusə očoxambɪ,” wəndiini əsi. asu-daa agdaasɪɪ.
「さあ 男に 私はなった、」と 言う、 今。 少しも 信じない。

tɪtaraa guči, čǐčǐini agbimbɔraa ičəwəičiɪ tɪ, əigəji.
それから また、小便する、取り出して、見せようとする、その 自分の姉に。

tɪtaraa, tawanči-muk baaračiɪ osixan, əigəni. tes baaračiɪɪɪ,
それから、そこでやっとな 喜ぶことと なった、 姉は。 すごく 喜ぶ、

tɪ baaračiɪɪ-də tɪ, saulɪngasɪ-daa tujuju-də anjuktaxan.
そうして 喜んで そうして、 もてなしだの 御馳走だのも 作った。

taraa əsi-muk-də tɪ, tɪ asijji asɪlaxan.
それから 今 そうして、 そうして 自らの妻と 結婚した。

asijji asɪlaxanji-daa tɪ wəndiini, “bii jədu goroji biəsɪmbi,”
妻と 結婚してから こう 言う、 「私は ここに 長いことは いない、」と

wəndiini. “əsi əwənči ɲəniijee,” wəndiini. “amnaapu waaxan
言う。 「今 ここから 行く、」と 言う。 「私たちの父さんたちを 殺した

ambaanti,” ɲəniini-nuu xairɪ ɲəniini. ɪlalta aɔɲjaxan.
魔物の所へ、」 行くんだか どうするんだか、行く。 三日 泊まった。

bujumbə tes waaktaxani, tɪ gasa ɲɪwani tes tɪ
獣も たくさん 獲った、 そうして 村の 人々を たっぷり その

bujun ulsəjiɪni dalauxan. gəə ələə xodɪɪ əjapsɪ.
獣の 肉で 食べさせた。 さあ もう 終わりだ、 もういい。

tɪtaraa tɪ,
それから そうして

nadan ɲɪɪ ɲəni
七人の 人が 行っ

namotɪɪ-kəə ɲəni
海へ 行っ

tɪ xunələmi
そうして ひどく手

ɪlaan aɲan jijuməəri
三 年 戻って、

ɪɪ čɪɲdəwə-dəə
何の 小鳥さえも

ɪɪ xarwa-daa ičəə
何の あれも 見え

ɪɪ aari-dəə məən
そうして 自分の

ɪɪ orwa jəməəri
その 脚絆を 食べて

ɪɪ aəri-dee tɪ
戻るが、 そうして

ɪɪ aəri jəməəri
魚皮を 食べて

ブラバ村にて録音

Kobi Petrovna Kučikta 氏 口述

5. nadan ŋɯ namobaani ŋənəxəti

七人の 人が 海の方へ 行った

tɪtaraa tɯ, tɯ daada təɭɯŋɯčixən, naambani.

それから そうして、その おばあさんが 語った、 それを。

nadan ŋɯ ŋənəxəti wənda, oxotnik tuə, namobaani, xai

七人の 人が 行った という、 猟師たちが、 冬だ。 海の方へ、 どの

namotɪni-kəə ŋənəxəti-nuu. gəə tɪdʊ tɯ nadan ŋɯ ŋənəmæri-dee~

海へ 行ったんだか。さあ そこで その 七人の 人は 行ったが、

tɯ xunələmi uzhe ʊm aŋan-nuu, juə aŋan-nʊʊ bičiti, wənda.

そうして ひどく手間取って もう 一 年だか 二 年だか いた、という。

daan aŋan jɪjʊmæri, tuə, jɪjʊmæri, xarwa-daa waarasiti.

三 年 戻って、 冬、 戻って行くが、 何の獣も 彼らは獲れない。

ɯ čɪŋdæwə-dəə ičəəsiti, ui gaarwa-daa ičəəsiti,

何の 小鳥さえも 見えない、 何の カラスさえも 見えない、

ɯ xarwa-daa ičəəsiti, tɪsali. ələə xuisəti čʊpal abulixani.

何の あれも 見えない、その人たちは。もう 持っていた食料も 全て 尽きた。

ɬamaari-dəə məən oji, balanaa sogbu bičɪn-guni.

そうして 自分の 脚絆を、 昔は 魚皮製 だったのだ。

ɬɯ orwa jəmæri ʎaljačomaari jəmæri jɪjuxəti. jəmæri

その 脚絆を 食べて 炒めて 食べて さらに戻って行った。食べて

jɪjʊmæri-dee tɯ abulaxan. əi, əi ʎapagdawari xarwani,

戻るが、 そうして 食料は欠乏した。この、この 自分らの手袋の あれを、

ʎəɬʊmbəri jəmæri jɪjuxəti, tɯ nadan ŋɯ. nadan ŋɯ

魚皮を 食べて 戻って行った、その 七人の 人は。七人の 人は

jijuxənji, tui abolaxan. a sagdamditi ɔmɔ daar ŋui
戻って行って、そうして 食料は尽きた。そこに 年輩の者は 一人 年輩の 人が

bičini, wəndə, ŋawjanjaa bičini, wəndə. tui, titaraa tui
いた、という、若者たちが いた という。そうして、 それから その

sagdamdini wənčini, wəndə. ilalta, biməəri tui, jəptiiti xar-daa
年輩の者が 言った、という。三日間、経っていて その、彼らの食べ物は何も

kəwəni bičini-tə. tui xomčomaari, tui ilalta xomčomaari
無いの だった。 そうして 飢えて、 そうして 三日間 飢えて

jijuxəti, wəndə, tawanči. tamaari-dəə tui ilai inənguji dolbo
戻って行った という、そこから。そうして その 三日目の 日の 夜に

avŋjiti, sagdamdini wənčini, wəndə,
彼らが泊まっている時に、 年長者が 言った という、

“gəə əsi-kəə buə əsi, ɔmɔ ŋuiwa waari, tui ulsəjini ŋənə...
「さあ、今や 我々は 今、一人の 人間を 殺して、その 肉で

jijumi-tənii aja”-m-da. ələə pulə bar bar. xooni-daa ŋənəmi.
戻らねば ならない、」と。 もはや 猶予は 許されない。どうしても 行くには。

taa tui dolboni, xaxatɪ, əsi ɔm ŋuiwa waawo əsi dolbo.
ほうれ その 晩に、 どうした、今 一人の 人間を 殺すべし、この 晩に。

nu ŋənəmi mutəəsi xooni titi.
そう、 進むことも できない、 どう することができよう。

uiwə-dəə waami-daa kəwəni, wəndə. uiwə-dəə ui-dəə
誰を 殺しも しない、 という。 誰をも 誰も

waami-daa kəwə, məən doola tui səruu tui biməəri,
殺したり しない、自分らの 間で、そうして 眠らずに そうして いて、

tui birəə, tui təərəə, gəə tawanči, tui
そうして いてから、そうして 座っていて、さあ そこから、そうして

jijuxəti, wən
戻って行った とい

tui jijuməəri
そうして 戻ったり

gəə jijurəə
さあ 戻って行って

əmutu. məən
同様だ。自分らの

tami-dəə tui ɔm
しかし その 彼

ɔm jeeji wa
一人の 仲間を 殺し

taraa tui ulsə
それから その 肉を

tui ulsəwəkəənjin
その 肉で、

tui jijumi-ə-dəə
そうして 戻って行っ

dola ičəwəsi, sm
森には 見えない、雪

tawanči tui
そこから そうして

waaxanji-muk. tawan
殺してからだ。 そ

ŋungun ŋui očoxani,
六 人に なった

jijuxəti, wəndə. tɪ jījuxənji,
戻って行った という。 そうして 戻って行ってから、

tɪ jījuməəri-dee tamaari-dee guči, guči ələə məən xairɪti,
そうして 戻ったり しても 再び、再び もう 自分らで ああする、

gəə jījurəə tɪdɔ aonjoxati, wəndə. tɪdɔ aonjoxan-dəə
さあ 戻って行って そこで 彼らは泊まった という。そこで 泊まったが

əmutu. məən doolaji irčamakaaɪti uiwə-dəə ui-dəə waarasi.
同様だ。自分らの 間で 足で小突きあって起こす、誰をも 誰も 殺さない。

tami-dəə tɪ ʊmʊndʊmani ələə, xaila biini bilə,
しかし その 彼らのうちの一人が ついに、 あそこに いるの だろう、

ʊm jeeji waaxani, wəndə, xəlee-da. didii, chetvertyj inəndulə.
一人の 仲間を 殺した という、やっとのことでだ。来た、 九日目の 日に。

taraa tɪ ʊlsəwəkəəmbəni jəparaa, giramsawani xumirəə
それから その 肉を 取って、 骨を 埋めて

tɪ ʊlsəwəkəənʒini, wəndə, tɪ jījuməəri tɪ jījumi,
その 肉で、 という、そうして 戻って行って、そうして 戻って行って、

tɪ jījumi-ə-dəə guči, guči abɔlaxan, wəndə, xarwa-daa
そうして 戻って行ったが またも、またも 尽きた という、何の獣も

dʊilə ičəwəsi, simatani tes surta, ɣənəmi mutəəsɪl.
森には 見えない、雪が ひどく 深い、 進むことも かなわない。

təwanči tɪ abɔlɪdʊni təwanči ɣənuxən, tɪ ʊmʊ ɲɪrwə
そこから そうして 尽きている時に そこを 去った、 そうして 一人の 人を

waaxanji-muk. təwanči tɪ, nadan ɲɪ bičinduləni əsi
殺してからだ。そこから そうして、七人の 人が いたのから 今

ɲɪŋgun ɲɪ očoxani, wəndə. tɪ jījuməəri-dəə tɪ
六 人になった という。 そうして 戻って行ったが、 そうして

waaktamaari jįumæri, tæg um ŋii xuraxani, wəndə.
幾人も殺して 戻って行って、ただ 一人の 人のみが 生き残った という。

tii sagdamdini, xəmə xəmə tii biini-tən, um xərə ŋawja
その 年輩の者が、黙って 黙って そうして いる、 一人の やや 若い

ŋii xuraxani, tii-gdəl, silaan məntiji tii
者が 助かった、その人は、やっとのことで 自分の所へ そうして

xuisəji isjuxani məntiji.
人肉を路食にして 到達した、 自分の所へ。

taraa iįjumi, ućəwə iįjuiduji tukuxən, wəndə.
それから 家に入って、 戸口を 入る時に 倒れた という。

jeesalni muručixən-tən tii, ənini-də ələə bučiti opomaari,
仲間たちは 考えていた、 彼の 母親も もう 死んだものと 思っていて、

xavlee um ŋiikaan jįjuxən. taraa tido, wəndiini-tən,
やっとのことで 一人の 人だけが 戻った。 それから そこで、 言う、

tii tii aldačini, ŋiisal iixən, tido tii
かくかく しかじかと 物語る、 人々が 家に入って来た、 その時に そう

tii aldačini-tən, “nu, xooni tiisi.”
そのように 語るのへ、 「だって、(お前は他に一体) どう することができようか。」

gəə tii taraa tii taxan wəndə, tiisal. ələəni.
さあ そう してから そう 言った という、 その者たちは。 終わり。

ブラバ村にて録音

Kobi Petrovna Kučikta 氏 口述

6. jakpon ŋɪ namobaani ɣənəxəti

八人の 人が 海の方へ 行った

gəɐ tɪ namobaani ɣənəxəti-tən balanaa-daa jakpon ŋɪ.

さあ その 海の方へ 彼らは行った、ずっと以前に 八人の 人だ。

tɪ namobaani ɣənəxəti bæiçɪŋdəmi, nadan aŋani biçiti, wəndə.

そうして 海の方へ 行った、 狩りをしに、七 年 滞在していた という。

tɪ, ɣənəxən gursəl-tama. ŋuljiisəlɪ əilə bii. gəɐ

その、行った 者たちは。 その家族たちは ここに 居残っている。 さあ

tɪ-daa tɪ ɣənəxənji tɪ jeesɪlɪ tɪ wədəxəti-tən.

彼らも そうして 行ってから その 仲間たちを そうして 見失ってしまった。

xasʊ aŋan biçiti-nuu, xasʊ aŋan biməəri-dee~ tɪ-gdəl, tɪ

何 年 経っただろうか、何 年 経ってか、 彼らは、そうして

xəɾəluməəri-dee, ʊmʊ namʊ, guçi teekɪɪ namʊɪ jɪjuxəti-tən.

色々な所を周って、ある 海の そのまた 向こうの 海へ 彼らは戻って来た。

ələɐ tangaʃaa wəndə, ʊmʊ naatɪ xaaxatɪ-tan. tɪdʊ ičəxəti,

もう 驚いて という、 ある 場所へ 着岸した。 そこで 彼らは見た、

jua xurəən aldandənɪ, ixəɾəwə, tawa jəgdiini pʊtaʃaa-da.

二つの 丘の 間に、 灯りを、 火が 燃えている、 赤々と。

tɪtaraa tɪ sagdamdɪɪ naatɪ xaaraa, ɡɪltaʃaxanɪ-tan.

それから その 年輩の者が 大地に 着岸してから、 人を派遣した。

“toorʊ,”-m-da, “ŋɪ biini-də-təni,” nu jəptiiti xar-daa kəwə.

「上れ、」と、「人が いるようだ、」と。 何しろ 彼らの食糧が 何も 無い。

xarwa-daa waarasi. tɪtaraa tɪ-gdəl tɪ tooxon čup, tɪ

何の獣も 獲れない。それから 彼は そうして 上ったが、さっぱり、そうして

wædækpın. xalačumı-dee, guči umu ŋıwa toowančını.
姿を消してしまった。待っても、 さらに 一人の 人を 上らせた。

tıı tooxon, čup kəwə, tıı wædækpi. tıtaraa
そうして 上ったが、すっかり いなくなる、そうして 失った。 それから

tıı-gdəl əsi-gdəl, təŋ ılaaŋıı očoxatı, wəndə, əsi naatı-tama, tıı
彼らは 今や、 たった 三人に なった という、今 彼らは、 その

jakpon bičındulə, tənja ŋıı tooxan, čupal wædækpi.
八人 だったところから、 五 人が 上って、全く 行方不明になった。

əuǰumi xaması əuǰusıl. tıı tamı tıı ıxərə jəgdii,
下りるに 元来た方へは 下りて来ない。そう して その 灯りが 燃えている、

tamı-dəə tıı, tıı juə ŋıwa ŋaalaraa,
それ そうして その 二人の 人を 残して、

sagdamdııı-gdələ, baaxan, wəndə, namu jolonı ɲolmııkumba-tama.
年輩の者が、 見つけた という、 海の 石の やや長いのを。

towa tooboxan, wəndə. toobumı tooxan, wəndə.
それを 持って上った という。 持って上って 上った という。

učəwə iimi ičini, tıdɔ jıŋ jıŋ, tes largı əəktə,
戸を 入って 見るに、そこには ああ、 すごく きれいな 女が、

čorodoo aorını, wəndə. naandonı-tama, tıdɔ, a xusəsəl
仰向けに 寝ている という。彼女の所には そこには、 男たちが

tıkı čupal pəkčəərək, bučini. tənja ŋıı čupal
そのあたり 一面に 転がって、 死んでいた。五人の 人が 全部

bučın. taraa ɲenii juunjini-gdəl tıı-gdəl jıŋ jıŋ, tıı xartını,
死んでいた。 それから 行く、 その途中 ああして すごい、その あれへ、

gıdalaxan-tan, tıı jolowa, tıı-gdəl kajar iktəmənčini, wəndə.
突き刺した、 その 石を、 そいつは ガリッと 噛んだ という、

tıı tawaamı
そう 噛ませておい

tıı dolbo tıı
その 晩、 そうし

xai baakını
どこの 場所を通っ

tıı ılaaŋıı-kaa tıı
その 三人は そ

tıı aŋan tıı
その 年は そう

tıı tamı-dee, ičəx
そう して、 彼

baačamba bakaxatı,
鳥を 見つけた

tıı xagdɔn biı.
そこに 家が ある

tıı-dəə ıxərə jəgdıı
それも 灯りが 燃え

tıı ŋıntın diwu-n
何の 人へ 行けよ

tıı-maəri-dəə muta
置くことも でき

tıı juke juke
もう やつとのことで

tıı tıı taxan
それから そう して

■ tawaamɪ tɪ ɔʊʃuxən, wəndə. tɪ ɔʊʃurəə
そう 噛ませておいて、そうして 下りて来た という。そうして 下りてから

■ dolbo tɪ tɪsəʝomaari tɪ ŋənuxəti,
その 晩、 そうして 岸から離れて そうして 彼らは去った、

■ baakɪni ŋəniiti-nuu, xai baakɪni ŋəniiti,
どの 場所を通過して 彼らは行ったのやら、どの 場所を通過して 行ったのか、

■ ɪlaaŋɪ-kaa tɪ ʝɪui, ʝəmusii, jadaxan. tamɪ-dəə tɪ ɔər..., tɪ,
その 三人は そうして 戻る、 飢えている、疲れた。そうして そうして、

■ aŋan tɪ biçi, ʝeelani aŋan tɪ puliktəi,
その 年は そう だった、 次の 年も そうして 行き来する、

■ tamɪ-dee, ičəxəti, namu tokondoni, ɔmu baačamba.
そう して、 彼らは見た、 海の 真ん中に、 一つの 島を。

■ baačamba bakaxatɪ, wəndə. ɡə titaraa tɪ baačandu xaaxatɪ-tan.
島を 見つけた という。 さあ それから その 島に 着岸した。

■ xagdon bii. tɪ ɔmu xagdokaan biini, wəndə.
そこに 家が ある。 その 一軒の 小さな家が ある という。

■ ixərə ʝəɡdiini. ɔnənə ŋələčiməəri xaarɪti,
それも 灯りが 燃えている。 ああ、と 恐れつつも 着岸した、

■ ŋɪntɪn diwu-nuu, xai naatɪ. jadaxan, mangalaxan,
何の 人へ 行けようか、 何の 地へ。 疲れた、 辛かった、

■ mɪnčuməəri-dəə mutəəsi oçɪti, tɪsal.
動くことも できなく なっていた、 彼らは。

■ ʃukə ʃukə məəpəəri ʃukəən ʃukəən-də.
もう やつとのことで 自らを 何とか、 何とかという状態だ。

■ titaraa tɪ taxanʝɪ tɪ xairɪndə, titaraa sagdamdi...
それから そう してから、そう ああしている時に、それから 年輩の者が

titaraa wənčin-tən, “čaxa”-mdə, “iiruusu”-mdə, “əwəsi.”
それから 言った、 「しかたない、」と 「入って行け、」と 「ここへ。」

tıla, tısal-gdəl jıj jıj ələə jukə jukə mičuməəri
そこで、その者たちは ああすごい、もう やつとのこととで 這って

iixəti. əni~ singin mama biini tıdɔ.
入った。 ひどく 年老いた おばあさんが いる、 そこには。

iiriijini gəsə, ičəmi, tıi nakandənı təŋdəxəti.
入るや いなや 見て、 その オンドルの所に 行って座った。

tıi mama xarıwa-daa jıralumı-dəə kəwəni, wəndə.
その おばあさんは 何も 言い出しも しない という。

titaraa tıi-gdəl ičiiti, xagdənı doolanı muə, palaan, tıi mama
それから 彼らは 見る、家の 中に 水が、床は、 その おばあさんの家の

palaanı. tıi umə ńıi xaunčak,
床は (水浸した)。 そうして 一人の 人が 気を失った、

umə ńıi xaunčak ɲənəxən tıdɔ,
もう一人の 人が 気を 失った、 そこで、

mangalaxan gursəl-tama. titaraa tıi-gdəl əñurujıxən, wəndə.
しんどかった 者たちだもの。 それから そのおばあさんは 煮た という。

tıi ılaan ńııdɔ. umə ńııdɔ ılaa ılaa, sılakta-məəč bii kəlaamba.
その 三人の 人に。 一人の 人に、 三つ、 三つの ミミズのように ある 虫を。

əñurujırəə buuriini-tən, “jəpuksu”-mdə. “ənənə,”
煮てから 与える、 「食べろ、」と。 「ああ、」と

jeesını kət xarıını, wəndə, “aja,” wəndiini, wəndə.
その者たちは ひどく ああする という、 「大丈夫よ、」と 言う という。

“jəwə jəptərəə akpanokso”-mdə. titaraa xoonı tıti.
「これを 食べてから 横になれ、」と。 それから どうすることが できようか。

adakası-daa xoo
嫌だけれども どう

wəndə, čaxa
という、しかたない

wəndə, xaunčak
という、 バッタリ

dootı kətu ul
気分が すごく 良

ılalta biiti, bičiti
三日間 いる、いた

“sumbə, su
「おまえたちを、お

“bar sumbə
「単に おまえたち

tısal wəndiiti,
彼らは 言う、 「私

“jəgəjıxəpu”-mdə.
「袋小路にはまって

tıi sindu
「私は おまえたちに

tıi-gdəl, xarı-tama,
妻女は、何だっけ、

buuriini, otı ńı
くれる、 とても 小

“ənənə, buə jə
「ああ、私たちは こ

adakasī-daa xooni tɪtɪ kɔlaamba. tɪtaraa tɪwa-gda tɪ ʒəkpiti,
嫌だけれども どう する、虫を。 それから それを そうして 彼らは食べた

wəndə, ʧaxa buuməəri. tɪ ʒəkpɪnʒi tɪ akpanʧɪtɪ,
という、しかたない、くれるのを。そうして 食べてから そうして 横になった

wəndə, xaonʧak xaonʧak-də. əŋ tɪmanani təəʒuxəti ʒɪŋ ʒɪŋ,
という、 バッタリ バッタリとだ。 次の日に 彼らは起きた、 ああすごい、

dootɪ kətu uləən oʧɪn, wəndə tɪ, uləən oʧɪni. tɪtaraa tɪdɔ,
気分が すごく 良く なった という、彼らは 良く なった。それから そこに、

ɪalta biiti, biʧiti. tɪtaraa tɪ mama wəndini, wəndə,
三日間 いる、いた。 それから その おばあさんは 言う という、

“sumbə, suə əsi məənti-lə ɲənuksu”-mdə.
「おまえたちを、おまえたちは 今 自分らの所へ 去れ、」と。

“baɪ sumbə guʒələmi biɪ ʒələ agbɔnʧɪmbɪ,” wəndiini, wəndə.
「単に おまえたちを 哀れんで 私は ここに 現れた、」と 言う という。

tɪsal wəndiiti, “buə xooni ɲənuwu-kəə”-mdə,
彼らは 言う、 「私たちは どうやったら 戻れるのでしょうか、」と、

“ʒəgəʒixəpu”-mdə.
「袋小路にはまってしまった、」と。

“biɪ sindu ɔgda buuriijə,” wəndiini, wəndə. tɪtaraa
「私は おまえたちに 舟を 与えよう、」と 言う という。 それから

tɪ-gdəɪ, xai-tama, naani, otomba, wəndiiti, towa
彼女は、何だっけ、 ウルチャの 儀礼用の餌桶、と 人が言う、それを

buuriini, otɪ ɲuuʧikəwə. tɪ, tɪ ɲawʒa gursəl wəndiiti-tən,
くれる、 とても 小さい舟を。そうして、その 若い 者たちは 言う、

“əənəɲə, buə ʒədu xooni təəwu-kəə”-mdə. “puuluwu”-mdə.
「ああ、私たちは ここに どうやって 座れよう、」と。 「落っこちてしまう、」と。

“aja, isalbı čimčaka osıraa tæmi... tæruksu”-mdæ.
「大丈夫よ、目を 閉じてから 乗れ、」と（言う）。

anaŋuxatı, wənda
押し出した という

“tı tapaarı sua-gdəl, mənti-lə ɲənupeəri, xar-daa ʃəpuuwəni
「そう して おまえたちは、自分の土地へ 戻ったならば、何でも 食べ物を

čupal anʃura a ɔton doolanı, a min ugdajı doolanı nəərə
全て 作って、この 容器の 中に、 この 私の 舟の 中に 入れて

anaŋuxası-tanı”-mdæ. “tı tapı bii bakı,” wəndiini, wənda.
川に押し出せ、」と。 「そう したならば 私は 得るだろう、」と 言う という。

gəə titaraa tısal-gdə tı tæxəti, wənda.
さあ それから その者たちは そうして 乗った という。

təə xasɔ inəɲi-nuu miikəçixəmbəri ɔmɔ inəɲ ɪsʃuxatı, wənda,
ずうっと 何 日かで、 放浪して来た所を 一 日で 到着した という、

tɔwa, məpeəri, tı, mapa tootını xaɲɔdaxanı, wənda,
それを、自分たち自らを その、おじいさんは その岸边に 着岸した という、

tı-kuçi. titaraa tı otomba ʃapaʃura, toobɔʃura
そのようにして。 それから その 容器を つかんで、 持って上ってから

pəuləənduji nəəxəni, wənda. gəə ɲısal-də taa diçi-,
干し台に 置いた という。さあ 人々も 皆 やって来た、

baaraçi, gurun, xasɔ xasɔ aɲan biçini, wədəkpinji
喜ぶ、 人々は、 何年、 何 年 経ったことか、行方不明になっていたのから

ʃiʃuxəmbəni. gəə tı gasan ɲını, wənda,
戻って来たのを。 さあ その 村の 人々は、 という、

tı xamatamba-də xum, solı, mosı, xarwa-də xum, anʃoktamaarı,
その どんなのでも 全て、豆料理、魚皮料理、何でも 全て、作って、

ui geesamsaču ugda dootını nəəkurə tı tımananı
削り屑の飾りもつけた 舟の 中へ 入れてから その 次の日に

anajoxati, wəndə. tɪ ugda, tɪ ɣənuxən, wəndə. gəə ələəni.
 押し出した という。その 舟は、そうして 流れて行った という。さあ、終わり。

ブラバ村にて録音

Anna Aleksandrovna Kafta 氏 口述

7. tɪsal-gdəl ɲulʃumæəri ɲənəxəti
彼らは 引っ越して 行ってしまった

balanaa xai, balanaa balaptɪ, min daadangujɪ aldačixanɪ,
昔 あれ、昔の 昔、私の 祖母が 教えてくれた、

gæə tɪ tɪ ʊmʊ gasandʊ bičiti, wəndə, amɪnɪ, ənini, purulsəli,
さあ その、その ある 村には いた という、父親と 母親と 子供たち、

ʊmʊ patalan bičini piktəni. tɪ, tɪ patalamba-gdəl goɪ gasanʃi,
一人の 娘が いた、子供が。そうして、その 娘を 別の 村から

xai, asɲʊʃi gələŋdəməəri dičiti naambaani, tɪtaraa
あれ、自分の妻にと 求めて やって来た、彼女を、 それから

tɪ æktəwə tɪ gaʃuxatɪ.
その 女を そうして 彼らは連れて行った。

tɪ æktəwə gaʃuxaal, ʊmʊ aŋan bičɪn-nuu, ʃuə aŋan bičɪn-nuu,
その 女を 連れて行った、一 年 経ったか、二 年 経ったか、

tɪtaraa məən ənnəti ʊjalʃʊmɪ ʃiʃuxən, tɪ æktə, məən
それから 自分の 母の所に お客に来て 戻って来た、その 女は、自分の

ənnəʃi bičɪn, tɪ xagdon. tɪtaraa tɪla, siksə ɪsɪŋdaxatɪ bilə,
母親が いた、その 家に。それから そこに、夕暮れに 到着した のだろう、

tawasɪ, tɪtaraa tɪla ɲənəxənʃi-gdəl, xai, učəwə niirəə,
そこへ、それから そこに 行ってから、あれ、戸を 開いて、

piktəʃi toobʊmi tooxoni. piktəni ɲuučkə bičini.
自分の子を 持って上って 上った。子供は 小さかった。

“əŋəə, maa ʃaparʊ,” wənčɪn, wəndə, tɪ piktəʃi.
「母さん、ほら 預かって、」と言った という、その 自分の子を。

tɪ piktəwəni-gd
その 子供を、

tɪ taxanʃi-gdə
そう してから

tɪ toobɪ
そうして 持って上

tɪtaraa tamɪ-dee,
それから そうして

xagdon doolanɪ ui-
家の 中には 誰

tɪdo pɪnaa,
そこには 背負子や

stəʃj veshsh'sal
古い 物ばかりが

tɪtaraa-gdəl, tɪ,
それから、その、

tɪ xagdon, piktən
その 家は、子供も

tɪtaraa tangajaxan,
それから 途方に暮れ

ɪmɪ tɪ
呼びながら そうして

tɪtaraa xawasɪ ɲə
それから どこへ 行

ɪmɪ xai
自分の母親が あれ、

■ piktəwəni-gdəl, nu tajɽi ʝapəoxa, piktəwə. tɪtaraa,
その 子供を、 そう、向こう側から つかんだ、子供を。 それから、

■ taxanʝi-gdə guči xaʝumbɽi ŋaanʝoi, ŋaasumi
そう してから さらに 自分の荷物を 取りに行く、取りに行つて

■ toobɽi ojal... ojalumi dičimbi-tama.
そうして 持って上る、 お客に やつて来たのだから。

■ tɪtaraa tamɪ-dee, iɽʝuxəəl, piktəni net,
それから そうして、 入った、 子供が いない、

■ xagdon doolanɽi ui-dəə ui-dəə kəwə. ənɪn-dəə kəwə, xai-daa kəwə,
家の 中には 誰も 誰も いない。母親も いない、 何も 無い、

■ tɔdo pɪnaa, bai ŋɽi xaɽkaal xaɽkaal, kamčusal,
そこには 背負子やら、ただ 人の 何だの かんだの、白樺樹皮製の箱、

■ xaryj veshsh'sal ostalis'ta.
古い 物ばかりが 残っていた。

■ tɪtaraa-gdəl, tɽi, tɽi xaʝusalba-gdəl, ičiini, xai-daa kəwə,
それから、 その、 その 家財道具を 見るに、 何も 無い、

■ xagdon, piktəni-dəə kəwə ii, bai pɪnaasal xaɽsal biini.
その 家は、 子供も いない、そう、ただ 背負子だの 何だのだけが ある。

■ tɪtaraa tangajaxan, wəndə, xoonɽ-daa tɽičamɽ-tan,
それから 途方に暮れた という、 どう していいのか、

■ moramɽi tɽi ŋəəʝuxən, wəndə, tɽi əəktəni-tən.
叫びながら そうして 外へ飛び出した という、 その 女は。

■ tɪtaraa xawasi ŋənəwu, saamɽ-daa kəwə,
それから どこへ 行つたらいい、 わかりも しないし、

■ əmbi xai xawasi-daa ŋənəxəmbəni-dəə saamɽ-dəə kəwə,
自分の母親が あれ、 どこへ 行つたのかも わかりようが ない、

ambı, tısal-gdəl ħuljumaəri ħənəxəti xawası-kaa-nuu-da.
 自分の父親や、 彼らは 引っ越して 行ってしまった、 どこかへだ。

əsi tıdɔ dəɾəjixən xaʃusal biə-guni, xaɾkaal xaɾkaal biči,
 今 そこに 残っていた 道具が あるのだ、 何だの かんだのが あった、

ħıı xaʃusal, ne znaju piktə ischezla tıdɔ.
 人の 道具、 知らない、 子供が 消えてしまった、 そこで。

ブラバ村にて録音
 Anna Aleksandrovn

balanaa bičiti, wən
 昔に いた とい

tu, tu
 そうして、そうして

ambaa baaxan
 魔物が 見つけた、

to li samambox
 もしくは シャーマン

a jıŋ jıŋ xooni-daa
 すごく、 どうにも

tamataa əkasəl.
 そのような 女たち

baibar, ħaaʃılın-daa
 できない、 兄弟たちも

ħıisi oçupı, dı
 山の方へ 行けば、 山

xooni-daa xooni-daa
 どうにでも どうにで

ħıı ħııwa waaktı
 どんな 人を 殺すこ

ħıı tı-gdəl,
 それから そうして、

8. ambaa patalasalba baaxatı

魔物が 女たちを 見つけた

balanaa bičiti, wəndə, tıı əkəsəl, əsiwəndəə minti aldačixatı-guni,
昔に いた という、その 女たち、最近 私に 彼らが語ってくれたのだ、

tıı, tıı balanaa əi jədu bičin, wəndə, patalasal,
そうして、そうして 昔 この ここに いた という、 娘たちが、

ambaa baaxan patalasalba, ambaa baaxatı-nuu,
魔物が 見つけた、 その娘たちを、 魔物が 見つけたんだか、

li samambuxatı-nuu, xaixatı tıı tıı əkəsəlbə.
もしくは シャーマンにしたのか、 どうしたのか、その、その 女たちを。

jıŋ jıŋ xoonı-dəə tamı-dəə ačaasjı, naa ibaxanı wəndiiti,
すごく、 どうにも しょうにも ダメなほど、大地の ジャジャ馬と 彼らは言う、

xamataa əkəsəl. ui saarı, xawası, xai, xoonı-daa tamı-daa
そのような 女たちだ。誰が 知りえよう、どこへ、あれ、どうにも することも

bəbər, ɲaajılɲı-dəə tangajamı ɲəələmi joombuluxatı. duisi,
できない、兄弟たちも 途方に暮れて 恐れ 始めた。 山の方へ、

duisi očupı, duisi-dəə aja, xawası očupı xawası-daa aja,
山の方へ 行けば、山の方へでも 平気だ、どこへ 行っても どこへでも 平気だ、

xoonı-daa xoonı-daa tıı-daa, usəltəwə waaktıı-daa aja,
どうにでも どうにでも ああして、 獣を 殺すのも 平気だし、

ɲııwa waaktıı-daa aja, xamataa əkəsəl očitı-nuu.
どんな 人を 殺すことも 平気だ、 何という 女たちに なったことか。

tıı-gdəl, xoonı-dəə tııčamaarı tangajaraa mango tokontıı
それから そうして、どう しょうにも 途方に暮れてから 大河の 真ん中へ

paləuxatɪ, tɪ æktəwə. mangu tokontɪni paləumɪ ʝolɔʝi uirəwə,
沈めた、その 女たちを。大河の 真ん中に 沈めて、 石に 縛り付けて、

nu ŋaɭawani katararaa paləuxatɪ-guni, tɪ æktəwə. taraa
ほれ 手を 何度も縛って 沈めたのだ、 その 女たちを。 それから

tɪ xaakoxatɪ, naatɪ xaakon ʝulee-kɪni xaakoxatɪ, wəndə
そうして 人々は着岸したが、彼らが 接岸する ずっと前に 接岸していた という、

tɪ əkəsəl, xaakoxa, ələ-də ʝugdɔw biiti.
その 女たちは、 接岸していた、 もう 家に いる。

taraa tapɪ guči, tangaʝamɪ əkii, tangar
それから しばらくして また、途方に暮れて、

baisɪ daɔraa gorotɪ ŋənərəə xaiʝi, bokɪraa ŋaalaxatɪ,
向こう岸へ 渡って 遠くへ 行って あれで、 縛り付けてから 捨ててきた、

tɪŋ tɪŋ naambani-tama tɪʝi xairɪ, moolo, bokɪraa,
きつく きつく 彼女を あれで ああする、 木に 縛り付けて

daɔʝoxatɪ. tapɪ ʝiʝuxətɪ, ələ-də naani ʝuleeləni oɕuxan.
渡って戻って来た。しばらくして 戻ったが、もう 彼らの 前に 戻っていた。

tɪtami-dəw tɪ əkəsəl wənçiti, wəndə, “aʝapsɪ, mimbə,
そうして その 女たちは 言った という、 「もうたくさんだ、私を、

mimbə xoonɪ-daa paləuwɔɔɪ-daa əŋəsi paləurɔksɔw”-mdə.
私たちを どうか 沈めようとしても 沈められないだろう、」と。

“tɪ, tɪ angalanɪ, mimbə, olbɔnɔɔɔw-m, mun wəndiitipu.
「それなら、あの アンガ網の所に、私を 連れて行け、 私たちが 言うとおりに。

too tɪ, xai kada tairani bii, səwə oŋbonɪ,
ほうれ あの、あれ 崖の 向こうに ある、スウ（地名⁽¹⁾）の 尻の所へ、

səwə oŋbotɪni olbm...,” Səwə oŋbotɪni olbmčɪn,
スウの 尻の所へ 連れて行け、」と スウの 尻の所へ 連れて行った、

tɪ ŋaajɪl
その 兄弟たちは

olbɪndaraa,
連れて行ってから、

tɪ umɔ
そうして 一人の

wəndə. tɪ wə
という。 ああ 彼

“əi, mumbə
「この、私たちを

xəntəʝuləpu”-mdə.
私たちは再び現れるそ

wəndə, tɪ əkas
という、 その 女た

daajɪ unduxu se
大きな タイコの 音

muuɕɕi unduxu se
小さく タイコの 音

gə ələw,
さあ 終わりだ、 そ

(1)səwə とは、カジ湖
よる)。

tii ŋaaʃɪl naani wəndiiwəni almačomɪ-tama,
その 兄弟たちは 彼女らの 言うことを その通りにして、

olbɪndaraa, tɪdʊ ŋaalaxatɪ. tii-gdəl čɔpal saŋgasal,
連れて行ってから、そこに 捨てた。 それは たくさんの 穴が開いていて、

wəndə
いう、
tii ʊmʊ ŋii lɔpɔr, ʊmʊ ŋii lɔpɔr tii, iixətɪ,
そうして 一人の 人が シュッと、また一 人が シュッと そうして、入った

wəndə. tii wənčɪtɪ, wəndə, iiriiduji wənčɪtɪ, wəndə.
という。 ああ 彼らは言った という、入るときに 言った という。

“əi, mumbə tii paləuxan-daa əmɔdə əmɔdə əruu ərundulə
「この、私たちを こうして 沈めたが、 一たび 一たび 変事が 起こる時には

xəəntəʃuləpu”-mdə. tɪtaraa čup tii iixətɪ,
私たちは再び現れるぞ、」と。 それから 姿を消して そうして 入ってしまった

wəndə, tii əkəsəl. taraa əsi bimi-dee~,
という、 その 女たちは。 それから 今 暮らしているが、

daaʃɪ unduxu seesɪn osɪnɪ, daar ŋii budii, ŋuuči ŋii...
いた。 大きな タイコの 音が すれば、 年輩の 人が 死に、 若い 人、、、

ŋuučɪʃɪ unduxu seesɪn osɪnɪ, ŋuuči ŋii budii, tii očɪn,
小さく タイコの 音が すれば、若い 人が 死ぬ、 そんな風に なった、

gəə ələə, tii tii təəlunɡučiɣətɪ.
さあ 終わりだ、 そう そんな風に 彼らは物語った。

tipu.
おりに。

(1)səwə とは、カジ湖 (kaʃɪ) の向こう岸にある場所の名であるという (V. P. Dechuli 氏による)。

9. jeeji kadal pəisi anaxanı
自分の仲間を 崖の 下へ 突き落とした

xai, balanaa bəičiini, bəičiməri oxotomaarı juə nii tii
あれ、昔 狩りをする、狩りをして 狩りをして 二人で そうして

oxotomaarı juu nii tii oxotomaarı puluməri-dee~
狩りして、二人で そうして 狩りをして 行き来して、

xaiwa-daa tii, waarii xairii tamaarı-dee, ui saariiini,
何でも そうして、 獲ったり、何だり して、 誰が 知りえようか、

xai sorixati-nuu xooni taxati-nuu. tii-gdəl, tii bimi-dee, omu
何か 喧嘩したのか、どう したのか。 そうして、そうして いて 一人の

jeeji, kadal pəisi, anaxanı, ujun nriwa. titaraa
自分の仲間を 崖の 下へ、突き落とした、 生きている 人を。 それから

tii kadal pəisini anaraa ii, naani-gdəl xaması tii
その 崖の 下に 突き落としてから そう、彼は 元来た方へ そうして

jijuxən, tii nri tido tii, xawası ŋənəxən-nuu, xawası,
戻った、その 人は そこに そうして、 どこへ 行ったんだか、 どこへ、

bučini-nuu ujun-nuu tii bimi-dee, əsi-gdəl tuəjuiduni-də.
死んだのか、生きているのか、そう して、 今 また冬になる時にだ。

tuə, tuə biuxən. tuə bəičixən, əsi xawası ŋəniini.
冬、冬 だった。 冬に 狩りをして、 今 どこへ 行く。

ələə tii puliktəmi-dee, bujun xagdombanı bakaxan.
ほれ そうして 歩き回っていて、 クマの 冬籠りの穴を 見つけた。

tii bujun xagdombanı bakaraa tii bujun xagdondoni
その クマの 穴を 見つけて その クマの 穴に

tii iirəə
そうして 入って

ñəjuitini joajim
出る時まで

jemuri-dəə kaw
飢えることも 無く

tii bujun ñəj
その クマが 出て

wəndə, tiwa,
というと、彼のこ

xooni-daa xum
いろいろ手を尽くし

tii bujunji, gəsə
その クマと 一緒

jijuxən, mənt
戻って来た、 自分

naani asiwani japnča
彼の 妻を 奪おう

tɪi iirəə tɪdʊ tɪi, bujun
そうして 入ってから そこに そうして、クマが

ñəəʃuitini ʃoəʃɪɪɪ... ʃoədala tɪdʊ, tɪi bičɪn, bujunʃi gəsə aɔɪɪ.
出る時まで 夏まで そこに、そうして いた、クマと 共に 寝て。

ʃəmuri-dəə kəwə, xai-daa kəwə, wəndə. tɪi ɲɪɪ tɪi bičɪni.
飢えることも 無く、どうすることも 無い という。その 人は そうして いた。

tɪi bujun ñəəʃuiʃɪni gəsə tɪwa, tɪtaraa ʃogdʊ biɪ ʃeesɪɪɪɪ,
その クマが 出て行くのと 一緒に それを、それから 家に いる 仲間たちは、

wəndə, tɪwa, bučɪni opamɪ, muəwə xuulsii, tɪi
というと、彼のことを、死んだと 思っ、回忌を 行う、 それは

xoonɪ-daa xum ətəxiiti. tɪi ətəxiɪxəti.
いろいろ手を尽くして 厚く葬った。 そうして 彼らは手入れをした。

tɪi bujunʃi, gəsə bičɪn-dəə xavlee ñəəʃuxənʃi,
その クマと 一緒に いたのだが 何とか そこを出てから、

ɲɪuxən, məəntɪʃi ujukəən-dəə, ɪsɪɲdaʃuxanɪ.
戻って来た、 自分の所へ 生きて、だ、 帰に着いた。

naanɪ asiwanɪ ʃapɪɪčamɪ taxan-nuu, xaɪxan-nuu. vot tak.
彼の 妻を 奪おうと したんだか、 どうしたんだか。 ほうれ そんなだ。

2006 年 9 月 13 日 ブラバ村にて録音

O. K. Angina 氏より録音

10. balana naaŋŋi xooni baldaxatɪ

昔 ウルチャは どのように 暮らしていたか

xoon baldaxatɪ wəndiisi, ii. vse~ tɪi rybachŋ~,
どんな風に 暮らしていたか と言うか、そうね。皆 ああして 魚を捕って、

okhotit'sjalŋ~ tamaari, purulbə uŋčii, taraa kitaecasal xaiŋi, didiiti-tən,
狩りをしたり して、子供達を 育てて、それから 漢人達が あれで 来ると、

samoxodka-nu, xaiŋini prodavajut, menjajut rybu, xai-tama, mexwa,
筏だか、何だかで 売り買いする、交換する、魚を 何だ、毛皮を、

siŋakta, pushninawa, xai bičə~, səpə, i lisawa, səpə,
獣皮、獣皮を、何 だったか、クロテン と キツネを クロテン、

səpə eto xai, sobol'. a lisa-gdəl sɔli, i
クロテン それは あれ、「ソーブリ」だ、で「リサ」は キツネだ、で

tamataa xaisalbanɪ mexwa~, xaimi, menjaem
そんな あれを 毛皮を ああして、交換する、

mun naaŋŋijji, xai jəpusəlbə ɪŋi bičiti, wəndə, buuriiti.
私たち ウルチャと、食料品を 運んで来る のだった、という、彼らがくれる、

taraa tɪwa jəptii~l, a rybawa, ryba kaluga waari titaraa
それから それを 食べる、で 魚を、魚は チョウザメを 捕る、それから

xaiwanɪ, xɾjashsh, buksəwəni, tɪi buksəwəni xoljičiraa japonii, ne kitajdo,
あれを、軟骨、軟骨を、あの 軟骨を 干して 日本に いや 中国に

xairɪti, buuriiti, i naati-gdəl tɪla seetawa, ɔpawa, budawa, buurii,
ああする、あげる、で 彼らは 代わりに 砂糖を 小麦粉を 粟を くれる、

mun naaŋŋido. busə~, xaiwa-dəə xum, səurə~, juəčiiti.
私たち ウルチャに、布、何だって 全て、絹、交換する、

tɪwa-gdəl min, aŋ
それを 私の 義

daari gursəl tɪi
年輩の 人々が そ

əwəsi pulsumi
ここへ 通って来て、

tɪi aŋŋi
そうして チョウザ

buksəwəni uləsii
軟骨を 好む

mun naaŋŋisalji.
私たち ウルチャたち

tɪi nantawa,
そうして 毛皮を

buuwučəti, tɪi
彼らと与えると その

buurii. xai, busə~,
くれる。 布、

bičiti, nantaji xai
のだった、毛皮で あ

agbojini, otawa anj
魚皮で、靴を 作る

tɪi naanŋi
ああして ウルチャの

dooloni-daa busoji
で 内側にも 布で

tiwa-gdəl min, əñəkəən mama aldačixanı, naan-dəkəə-nuu,
それを 私の 義母の お婆さんが 教えてくれた、 彼女だけじゃなくて、

daar gursəl tii őrčölondii bičiti. tii, manjōji, manjōsal
年輩の 人々が そう 語る のだった。 そのように 満洲から 漢人たちが

əwəsi pulsumi tii xairii bičiti, wəndə.
ここへ 通って来て、そのように ああする のだった、という。

tii ajini xarwa-nuu xija..., xarwanı-tama
そうして チョウザメの あれだか、 あれを

buksəwəni uləəsii bičiti, wəndə. tiwa tii xairııı, juəčiiti,
軟骨を 好む のだった という。それを そうして ああする、交換する、

mun naańıısalji. titaraa tii xarwa, sińaktawa-dəə ımoto
私たち ウルチャたちと、それから そうして あれを、毛皮も 同様に

tii nantawa, tamatamba-daa xarmaarı tii, buuwučəti, manjōji
そうして 毛皮を そんなのを ああして そう、彼らが与えると、漢人から

buuwučəti, tii manjō-gdəl tii naandoti xarwa, xarwa-dəə xum
彼らが与えると その 漢人たちは その 彼らに あれを 何でも 全て、

buurii. xai, boso~, səura~, ɔta~la xai mənə naańıı mənə anjōktiı
くれる。 布、 絹、 靴は 自分で ウルチャは 自分で 作る

bičiti, nantaji xai, too nantani, geoksa nantajini, dawa
のだった、毛皮で あれ、ヘラジカの 毛皮で、アザラシの 毛皮で、 鯨の

sogbojini, ɔtawa anjōktiı, tətu, anjōti. xai, naańıı tətuwəni-tama,
魚皮で、 靴を 作る、 服を 作る。 あれ、ウルチャの 服を、

tii naanıı tətuwəni anjōti, čopal ırgalamaarı urpii,
ああして ウルチャの 服を 作る、 すっかり 模様をつけて 縫う、

■ dooloni-daa bosoji anjōti-guni, tətuwə, doolo bosoji, xusə ńııdo,
で 内側にも 布で 作るのだ、 服を、 内側は 布で、 男の 人に、 その

garuʒunɪ, ʊm jələ~ bii garowa anʒɔɪtɪ. i pondoo,
脛当てに、ここいらへんまで ある 脛当てを 作る、そして 魚皮製の長靴も

tozhe rybaʒɪ, ryba-daa aja~, nerpa-daa aja~, anʒɔɪtɪ. taraa guči
また 魚で、魚でも よい、アザラシでも よい、彼らは作る。それから さらに

xarwa, anʒɔɪtɪ, xai bičə~-s. əsi wəndičiiduʒi ələə-dəə ɔŋboxombɪ.
あれを 作る、何 だったっけ、今 言おうとする時に もう 忘れた、

wagbangɪ~, aapʊ~, tɪɪ nantəʒɪ anʒɔktɪtɪ-guni, teplyjni, min ambɪ-daa
手袋、 帽子、 ああして 毛皮で 作るのだ、 暖かい、私の 父も

ʊmoto ɲuučɪlə-pək tɪɪ ɔxotnik tɪɪ bičini, budəʒələ tɪɪ
同じく、小さい時から ああして 猟師で ああ だった、死ぬまで そうして

ɔxotnik, tɪɪ dəŋsɪi bičini, min ambɪ. ʊləə ɔxotnik bičɪn. tɪtaraa
猟師で、そうして 働く のだった、私の 父は、 良い 猟師 だった。それから

min ambɪ bučɪŋʒini-gdələ min, ʊmɔn daaɪ aagbɪ, tɪɪ pəʒikini
私の 父が 死んでから 私の 一人の 上の 兄と、 その 下に

bii nəuʒi, nəuʒi, tɪɪ ʒuə ɲɪɪ ɔxotimaarɪ tes tes ʊləə
いる 弟、 弟、 その 二 人で 狩りをして たくさん たくさん 良く

waarɪɪ bičini. səəpəwə, ʊlsəwə, tɪɪ waarɪɪɪ, tɪtaraa mimbəəni
獲る ものだった。クロテンを、肉を そうして 獲る、 それから 私の所へ

ɪrɪtɪ~, lʒazhkami xai, mənʒdə mənʒdə, ɪramaarɪ didii bičiti, sɔgdatawa~,
運んで来る、足丸ごと、あれ、丸ごと 丸ごと、運んで 来る のだった、魚を、

ʊlsəwə, ʊjawa, xarwa, kasatkawa~ sɔgdatawa tɪɪ ɪrɪɪɪ,
肉を、 鯉を、 あれを、カサートカを 魚を そうして 運んで来る、

min, xai, bratiʒi, nəuʒi, ambɪ, mimbə tes bələčixən bičɪn.
私の あれ、兄、 弟、 父さん、私を とても 助けた ものだった。

bii, ədiji bučɪŋʒini xai, purulsəʒiji, tɪɪ əi, čʊʊ nəuduma
私の 夫が 死んだ時 あれ、 子供達と そうして この、 一番 下の

əəktəŋguʒi, əi. ʒə
女の子が ほれ、十

xarɔʊ, zavklubom
あそこで、クラブ管

tatʊčixən bičɪn.
勉強した のだった

naan baldaxan,
彼女が 生まれた、

kak raz naan
ちょうど 彼女が

amɪɪ buči-də.
その父が 死んで、

daardoma piktəʒi-gdələ
上の 子供は、

pəʒikini pəʒikini tɪɪ,
下へ 下へ そう

ʒəkə~ bičɪn-g
ひどく老いて いたの

arɪani. a tɪɪ
歳は。 一方、 あ

ʒur'madu, ʒapaktɪ
牢屋に、 皆を捕え

Nikolajskabaan,
ニコラエスクの方へ

ʊi-dəə saarasɪ. min
誰も 知らない、私

æktəŋguji, əi. juan beedo bičini. ŋuučikəduni amını bučini. amını
女の子が ほれ、十ヶ 月 だった。小さい時に 父親が 死んだ。父親は

zardu, zavklubom dəŋsixəni, klubdu, Birobidzhandu, dui aňanee
あそこで、クラブ管理人として 働いていた、クラブで、ベロビジャンで 四 年

tatočixan bičin. tala jŋuxəŋji, tii dəŋsixən, titaraa,
勉強した のだった、そこから 戻って来てから そうして 働いた、それから

naan baldaxan, amını, 55-om godu, kəwə, 65-om godu bučin.
彼女が 生まれた、その父は、55 年に、違う、65 年に 死んだ。

kək raz naan baldaxan, aňanı. juan bee ısixan,
ちょうど 彼女が 生まれた 年に。十ヶ 月に 達していた、

amını buči-də. ŋuučikə(nduji) dərəjixən-guni.
その父が 死んで、小さな時に 残されたのだ。

daardoma piktəji-gdələ, juə tunja aňandu biči. tawanči omotı
上の 子供は、十 五 歳で あった、それから 同じように

pəjikini pəjikini tii, min purulsəlbi. min əňəkən mama-da xai,
下へ 下へ そうして、私の 子供たちは。私の 義母の お婆さんも あれ、

jəkə~ bičin-guni, mamanaŋoxan, om tango puləmi~ bičin,
ひどく老いて いたのだ、お婆さんになっていた、百を 超えて いた、

aňanı. a tii min, ədiji amıwanı-gdala, 37-om godu japaxanı,
歳は。一方、あの 私の、夫の 父さんを、37 年に 捕えた⁽¹⁾、

gər'madu, japaktı bičəl-kəə, tawası tii olbınčıtı,
牢屋に、皆を捕えた のだった、あそこへ ああして 連れて行っった、

Nikolajskabaan, olbindaraa, tıdu waaxatı-nuu, xoon taxatı-nuu,
ニコラエスクの方へ 連れて行ってから、そこで 殺したんだか、どう したんだか、

ı-dəə saarası. min rodŋjasalbı, min ambı jaksalsal,
誰も 知らない、私の 親類達を、私の 父と ジャクソル氏族の者たちの

ægdi ħŋ ģənəxən čupal, ui-dəə jījumi-dəə kəwə,
たくさんの 人たちが 行った、 すっかり、 誰も 戻って来は しない、

čupal tŋ, bučiti, 37-om godu.
皆 ああして 死んだ、 37 年に。

i frontabaan ģənəxən gursəl-dəə ōmoto, ħŋgu ħŋ-daa mun
そして 前線へ 行った 者たちも 同じ、 六 人も 我ら

jaksulsal ui-dəə jījumi kəwə, čupal frontadu bučiti.
ジャクソル氏族の、 誰も 戻って来は しない、 皆 前線で 死んだ。

sem'jasalŋŋ~, tŋ dərəjixən-guni, gujələ. buə-dəə kolkhoz
彼らの家族達は そうして 残されたのだ、 可哀そうに。 私たちも コルホーズで

dəŋsiməəri tŋ, juan ōmo aňandə biiduŋi dəŋsiŋdəxəmbi, bii-dəə,
働いて そうして、 十 一 歳の 時に、 働きに行った、 私も

kolkhozbaan. tŋ dəŋsixəpu. tuəjuučəni tatočŋ, juajŋučəni
コルホーズへ、 そうして 私たちは働いた。 冬になると 学び、 夏になると

usundu, tŋ xai, na poljakh, dəŋsii. frontawa pomogaju frontawa
畑で ああして あれ、 畑で 働く。 前線を 助ける、 前線を

bələčiwu, kartoshkawa, kapustawa, morkovka ogurcy, xaiwa-daa xum
助ける、 ジャガイモを、 キャベツを、 ニンジン、 キュウリ、 何でも 全て

tarčamaari tŋ, otpravljai bičiti xaiwa, na zapad otpravit'-nuu, xawasi
植えて ああして、 送っている のだった、 それを、 西へ 送るのか、 どこへ

otpravljajut-nuu tŋ ģənəwəndii bičəl-kəə. xərə~ daari očjiŋ~,
送っているのか、 ああして 送る のだった。 少し 大きく なって、

rybačiloxan, rybačimaari-daa mutii sogdatawa nevodji, xai zimoj,
魚を捕り始めた、 漁することも できる、 魚を 網で、 あれ、 冬に、

nevodji waapi čupal, tozhe, xarbaan, tawasi otpravljaiŋi,
網で 捕ると 全部、 やはり あそこへ、 あっちへ 私は送る、

juajŋučəni tŋ,
夏になると ああし

inəŋ inəŋ tŋ
毎日 毎日 ああし

waami, tes
捕って、 たっぷり

otpravljai bičiti.
送っている のだった

inəi nevodji~, tam
そうね、 網で だ

plavajut, setka-tama.
流し網の 網で、

botŋi bičipu. M
捕る ものだった。 マ

Belawanča ko
ブラバの人たちの コ

to~ naprotiv, Irkutsk
ずっと 対岸の イル

juə baraki bič
二軒の 仮小屋が あ

nevodjumaari xaiŋŋ
網で捕って ああする

ŋ-dəə ōmoto, tŋ
それも 同じ、 そうし

ŋ wəndii bičiti.
そう 言う のだった

juajoočani tii, na veslakh, tii geolimaari, inəŋ inəŋ-kəə,
夏になると ああして、 櫂で、 ああして 漕いで、 毎日 毎日、

inəŋ inəŋ tii geolimaari tii rybachomaari tii, rybawa
毎日 毎日 ああして 漕いで ああして 魚捕りして ああして 魚を

waami, tes tes, neskol'ko, centner, tonnami waami tii,
捕って、たっぷり たっぷり、数 百キロ、何トンも 捕って そうして、

otpravljai bičiti.
送っている のだった。

inəi nevodji~, tam-dee əsi, əsi očin biəsi-kəə əsi xaiji,
そうね、網で だけど 今、最近 できた んじゃないの、最近は あれで、

plavajut, setka-tama, ketu lovjat, əsi očini. ran'she kəwə bičini, nevodji
流し網の 網で、 鮭を 捕る、最近 できた、以前は 無かった、 大網で

botii bičipu. Marinskaji~, xai Marinska kolkhozjini,
捕る ものだった。マリンスクから、あれ マリンスクの コルホーズから、

Bolawanča kolkhozni, mun, Avrinča kolkhozjini,
ブラバの人たちの コルホーズ、私たち アオリの人たちの コルホーズから、

too~ naprotiv, Irkutskado bičin baraki,
ずっと 対岸の イルクーツク⁽²⁾にあった、 仮小屋、

juə baraki bičini. tidə biməəri, ves' Amurwa tii~,
二軒の 仮小屋が あった。そこに あって、 アムール全面を ああして、

nevodjomaari xairii bičipu, ketawa..., dawawa waarii bičipu.
網で捕って ああする ものだった、 鮭を 鮭を 捕る ものだった。

ti-dəə omoto, tii otpravljaju tii, xawasi na front otpravljaju
それも 同じ、 そうして 送る、 そうして、どこへ、 前線へ 送る、

ti wəndii bičiti. tii ɣənəwəndii bičəl-kəə~, ŋɪsal,
そう 言う のだった。 そうして 送る のだった、 人々は、

təjə-gdə ɲənəwəndiiti-nuu, buə xarla saawo, ɲii tii wəndiini,
本当に 送っているのか、 私たちは どこから 知りえよう、人は そう 言う、

tii təjə opowandirpo. omə inəɲ normawa, əpəəmbə
それで 本当だと 私たちは思う。 一 日の ノルマを (やって) パンを

buurii sto grammwa, tukaamba ɟəptii, tapɪ tii inəɲ tes
くれる、百 グラムを たったそれだけ 食べる、そうして その 日 いっぱい

tii geolomɪ tii rybačumɪ tii pulsiwu bičɪn.
そうして 漕いで、 そうして 魚を捕って、そうして 行き来する ものだった。

zimɔj, ryba shkuraɟini obutkawa urpumi ɟobɪɪ,
冬に 魚 皮で 靴を 縫って 長いこと働く、

lɔktɔʃuɔčiani tes, iirii, voda iirii, badi-gdal, ɲaala-daa ičəu
穴が開いたなら、ひどく 入って来る、水が 入る、さらに 手も、 見ろ、

tii, led tii tii, korjuškawa rybačindɔʃɪ, led dookɪɪ tii ɲaalajɪ
ほれ、氷が ああして、キュウリウオを 捕る時に、氷の 中を ああして 手で

tii, rybasalba vytaskivajum tii, nevoddu polnyj korjuška
ああして 魚を 引き出す ああして、網に いっぱい キュウリウオを

tučučəni tɪwa ɟɪɲ ɟɪɲ. Okxotskabaani~daa ezdila, 49-om godu,
掛かった それを、ああすごい。オホーツクの方へも 行った、1949 年に、

Okxotska tii, rybačɪɲdamɪ, mumbə, kolkhoz čupal
オホーツクへ ああして 魚捕りに行って、私たちを コルホーズが 全員

otpravljaj bičiti, Okxotskabaan-tama, tɪdɔ rybačɪɪ bičipu.
送り出す のだった、オホーツクの方へ、そこで 魚を捕っている のだった⁽³⁾。

dawawa, əi silčiwə, namə sugdatawanɪ tɪdɔ rybačimaari. tɪla
鮭を、 この 夏鮭を、海の 魚を そこで 捕って、 そこから

sudnoʃi ɲənəxəpu bičɪn,
船で 行った のだった、

titaraa i su
それから また 船

ɟəan ɲɪwa~ ɲəna
十 人を 行か

ɲənəwəndii bičiti.
行かせる のだっ

ii, sudnoʃi ɟɟuxa
そう、船で 戻っ

ɟɟuxə, xai, rybalk
戻った、あれ、魚捕

təni~siimbə duu
まず、氷の穴を 開け

duučuwu xaso
開けるべきは いくつ

siimbə anʃowo bi
氷の穴を 作ること

paaldonɪ, tii
ある時には、ああして

paaldonɪ xai, 25-
ある時には ほれ、25

men'she duuč
それより少なく 開ける

paan udəni ledni t
ある 場所は 氷が 融

ɲɪwa
そうしてから あれを、

titaraa i sudnoji jixax~. kolkxo~z taumbani tii, chelovek, xasu,
それから また 船で 戻った、コルホーズ 毎に そうして 人数は 何人、

joan nuwa~ nənəwəndiini, kazdyj kolkhoz tii
十 人を 行かせる、 それぞれの コルホーズが そうして

nənəwəndii bičiti. i bii-dəə pulsixən bičín, 49-om godu.
行かせる のだった。それで 私も 行って来た のだった、1949 年に。

ii, sudnoji jixaxəpu, nənəmi-dəə sudnoji nənəxə, jixumi-dəə sudnoji
そう、船で 戻って来た、行くのも 船で 行った、 戻るのも 船で

jixaxə, xai, rybalka xodičani~ jixaxəpu bičín. sinəjumi dənəxəxəl.
戻った、あれ、魚捕りが 終わると 戻った のだった。貧しく 働いていた。

tanii~, siimbə duučii bičipu-guni. ii, omu nni, xaini, oboni
まず、氷の穴を 開ける のだった。そう、一 人に、あれ、ノルマは

duučuwu xasu bičín, 25, xori tonja lunkawə, duučuwu,
開けるべきは いくつ だったか、25、二十 五の 穴を 開けること、

siimbə anjowu bičini.
氷の穴を 作ること だった。

paaldoni~, tii naxja biuxə-guni~, tidu-lə xərə kusunču biuxən.
ある時には、ああして 若かったのだ、 その時には 少し 力がある のだった、

paaldoni xai, 25-wa~-daa duučii, a paaldoni kəwə,
ある時には ほれ、25 個も 開ける、しかし ある時には 開けない、

men'she duučii, paaldoni,
それより少なく 開ける、ある時には、

paan udani ledni tes tolstij, paaldoni nichego aja,
ある 場所は 氷が ひどく 厚い、 ある時には 全く、 大丈夫だ、

ttapi xaiwa, norma, xai bičín. xoon boə~ tes xədu,
そうしてから あれを、ノルマは そう だった、どんなに 天気が ひどく 風で、

smata, biini-dæ əsi xəməə tii rybači bičipu~,
雪、 だろうと 今 黙って ああして 魚捕りする のだった、

tii botandamaari tii ɲənəwəndii bičiti.
そうして 魚捕りして そうして 行かせる のだった。

pulmə pulsii bičipu. tri kilometr tii ɲənəwu,
歩きで 行き来する のだった。 三 キロ そうして 行く、

pulmə ɲənərəə taraa tawanči guči tii, baisi daowo,
歩きで 行って、 それから そこから さらに ああして 向こう岸へ 渡る、

Amurti, ii, tii pulsii bičipu. timai ɲənəwu, paktr~ biiduni
アムールへ そう、 そうして 通う のだった。朝 行く、 暗い 時に

ɲənii, inəɲ tes tido Amurdu tii biwu,
行く、 一日 ずっと そこに アムールに そうして いる、

titapri paktr~ biiduni jjuwu. tii dəɲsixəpu. tuə, goi goi
そうしてから 暗く なる頃に 戻る。 そうして 働いた。 冬、 さまざまな

sogdata, ɔja~, tangasi~, xarwa, xai-tama, verxogljad, eto
魚を、 鯉、 ハクレン、あれ、 何だっけ、 コイ科の淡水魚の一種、 あれは

xai-guni, verxogljad gəlbuni xai bičə~, məuruu, məuruu,
何だっけ、ベルホグリヤードの 名前は ああ だった、ムウルー、ムウルーだ、

tangasi, tangasi-gda tolstolob bii, paxa, paxawa saariisi,
ハクレン、ハクレンは ハクレン だ、 ブリーム、ブリームを 知っているか、

leshsh', ii, tamataa, xarwa, karas'wa~, xango, ii, tamataa,
ブリーム、そう、そんな あれを、 鮓を 鮓 そう、そんな風に

goi goi sogdata Amurskij chastiksal waari bičipu.
いろいろな 魚、 アムールの 白身の魚たちを 捕る のだった。

paalduni kalu~ga, xai, aji~, kundu~,
ある時には ダウリチョウザメ、 あれ、 ダウリチョウザメを、 チョウザメを

waari bičipu.
捕る のだった。

a məəndu-gdala
一方 自分には

toobojopo-guni, m
持って上るのに、 自

tii-guni, i
そうなのだ、それか

kitajskij xai bič
中国の あれが あ

gəlbuni, naaɲi,
その名だ、ウルチ

bičiti. titaraa
のだった。それから

inəɲ tokon ərund
正午の 時に、

ɲəniipu-guni soli,
出かけるのだ、上流へ

jəptii, siksə-gdəl m
食べる、夕方には 自

paktoldu~ ɲəniipu-gur
暗い中を 帰るのだ、

ɲəoja biuxə, aja-gur
若かった、 大丈夫

ɲəjomaari klubb
身支度してから クラ

waarɪ bičipu. taraa tɪwa čupal tɪ, kolkhozbaan sdavar~,
捕る のだった。それから それを 全部 ああして コルホーズへ 引き渡す、

a mændu-gdələ, umukəə juəkəəmbə buuriiti, tɪwa buə, mæəmbəəni
一方 自分には 一つか 二つだけを くれる、それを 私たちは 自分の所へ

toobuʃopu-guni, mæəmbəəni gaʃɔɪ bičipu. talaawa anʃɔɪ,
持って上るのに、自分の所へ 持って帰る のだった。刺身を 作る、

tɪ-guni, i xai, Amurdu, obedadu əñurəʃii, povar əñurəʃiini~,
そうなのだ、それから あれ、アムールで 昼飯に 煮る、料理人が 煮る、

kitajskij xai bičini, mongočoo, mongočoo bičin, oromčo,
中国の あれが あった、首の細い陶器の容器が あった、鑄鉄の大鍋も、

gəlbuni, naaɲɪ, kitajskij əñuəni vot tak, tɪ bii. tɪʃɪ əñuəraʃii
その名だ、ウルチャ語の、中国の 鍋は ほれ そんなだ、それで 煮る

bičiti. titaraa buə tɪwa, obeda-daa, obeda ərunduni jəmdəʃui,
のだった。それから 私たちは それを 昼飯も、 昼飯の 時に 食べに行く、

inəʃ tokon ərunduni jəpuwə jəptiiti. tɪmai mæənduji jəptərəə~
正午の 時に、 食事を 食べる。朝は 自分のうちで 食べてから

ɣəniipu-guni solɪ, inəʃ tokondɔɪ jəmuəl-guni. titaraa tɪdɔ,
出かけるのだ、上流へ、昼の 正午に お腹が空くのだ。それから そこで、

jəptii, siksə-gdəl mæənbəəni tɪ ɣəniipu tɪ mæənduji, tookɔɪ,
食べる、夕方には 自分の所へ そうして 帰る、 そうして 自分の所に 上って、

paktoldɔ~ ɣəniipu-guni mæənbəəni. taxan-daa kəwə~, jadaxan-daa kəwə,
暗い中を 帰るのだ、 自分の所へ。それでも 大丈夫、疲れても いない、

ɲaoʃa biuxə, aja-guni, klubbəən, jɔgbaani jɪʃuməəri, mæəpəri
若かった、 大丈夫なのだ、クラブへ、家へ 戻って、 自分を

ɲajɔmaari klubbəən tɪ ɣənii, tancevamɔdamɪ. titaraa tɪmai,
身支度してから クラブへ そうして 行く、踊りに行って。それから 翌朝、

timar~ paktoldo guči tii, rybachmdajomı, tii bičipu~.
翌朝 暗いうちに 再び そうして、魚捕りに行って、そうして 暮らしていた。

ii, ñəŋñə-dəə xaiwa xairıpo-guni, korjushkawa waarı bičipu,
そうね、春も あれを ああするんだよ、キュウリウオを 捕る のだった、

xai bičə~, korjushka naańıdamı xoon bičə, arkı, arkı
何 だったっけ、キュウリウオは ウルチャ語で どう だった、
「アルク」だ、

naańıdamı, lučadamı korjushka, naańıdu arkı.
ウルチャ語で、ロシア語で 「コールシュカ」、ウルチャ語で 「アルク」。

tiwa, tiwa nevodlii bičipu. nevodji Mardo.
それを それを 網で捕る のだった。網で マイ村で。

u nas Mardo uləə waawı bičini. tes nevodji,
私達の所 マイ村では 良く 捕れる のだった。 すごく 網で、

led ɲəniini doowanı, barı leda, chistyj xairı, bereg xərə~
氷が 去る 中を、 まだ 氷が、きれいに ああする、 岸边が 少し

xairıni-guni, chistyj osını, tiki zak(idyvat')..., xairı, tes
ああするのだ、きれいに になると、そこに沿って 投げる、 ああする、たくさん

tii, ilaa ugda~, polnyj waarı, tiwa tii cherpajum
ああして、三艘の 舟 いっぱいに 捕る、 それを ああして 掬い上げて

ugdabaanı tii xairı, titaraa xai, bazatı sdavali
舟へ そうして ああする、それから あれ、加工基地に 引き渡した、

tıdu Mardo bičın, tıla sdavai tii bičipu.
あそこに マイ村に あった、そこに 引き渡す、そんな風 だった。

tii tapı~gdəl xai, arkowa, arkı xodujočanı-gdəl,
そう してから、 あれ、 キュウリウオを、 キュウリウオが 終わると、

silčiıwə dagdalı, eto letnij keta-tama, tiwa gorbushawa~ tiwa
夏鮭を 網で捕る、それは 夏 鮭だ、 あれを カラフトマスを あれを

dagdalı, tiwa-daa
網で捕る、それも

rybzavod bičini,
魚工場が あった、

titapı guči, si
それから また、夏

tii-məəči, tozhe
あんな風に やはり

plavai əsi~
長い網は 最近にな

a tii julikini
でも その 前は

botanı-daa ɲəələpsı
捕るのも 恐ろし

ti~m tam to
そこに、 そこに そ

zəchenie sil'nyj-guni,
流れは 強いのだ、

xorkoowatı, xairı,
彼らの縄を ああする

ıı lučawa,
一人の ロシア人を、

ııı čopal vylezla,
鷹が 全部 飛び出

ııııwı bičini, barı
あつする のだった、少

dagdaln, tɪwa-daa ʊmoto, bazabaan ʧɔpal sdavai, baza, tɪdɔ
網で捕る、それも 同じ、 加工基地へ 全部 引き渡す、基地、あそこに

rybzavod bičini, rybbaza tɪla sdavai, taraa tɪdɔ xairɪti,
魚工場が あった、魚基地、そこに 引き渡す、それから そこで ああする、

tɪtapi guči, silčiiwə, xai dawa osɪ, əsi ɲɪ dawawa bʊtɪs-kəə,
それから また、夏鮭を、いや、鮭が 来る、今 人々は 鮭を 漁するじゃないの、

tɪ-məəči, tozhe nevodʃi, xairɪ bičipu, əi-məəči plavai, kəwə,
あんな風に やはり 網で ああする のだった、今みたいな 流し網は 無い、

plavai əsi~ očɪn biskəə, posle 70-go godaʃi očɪni,
長い網は 最近になって できた んじゃないの、70年代より後に できた、

a tɪ ʃulikini bʊltɪ nevodʃi, bʊtɪ bičipu. tɪ-məəči, nevodʃi
でも その 前は 常に 網で、 漁する のだった。あんな風に、網で

bʊtami-daa ɲəələpsuli, xairɪ stolby stavjat,
捕るのも 恐ろしいことだ、 ああする、 柱を 立てる、

ta~m tam tam, titaraa
そこに、 そこに そこに、と それから

techenie sil'nyj-guni, Amurɔ. titaraa~ xairɪti, gorodbaan tɪ,
流れは 強いのだ、 アムールで。 それから ああする、 町へ そうして、

xorkoowati, xairɪ, tɪ-məəči tamaari Marinska xairɪ, brigadani
彼らの縄を ああする、あんな風に して マリンスクの あれ、作業班の

ɔm ločawa, vrevkanɪ tɪ skručila xəmdəwəni, ʧɔpal xai
一人の ロシア人を、その縄が ああして 巻きついた、彼の腹に、 全部 あれ

ɪshkini ʧɔpal vylezla, bučɪn, ɔm loča. dolbo inəɲ tɪ
罟が 全部 飛び出した、死んだ、一人の ロシア人が。夜も 昼も そうして

ɪtawo bičini, baɲ tookomɪ,
送る のだった、少しの間 上って、

baŋ tæsumi tɪ, tɪ xaxa, ʊm brigada xodɪni,
少し 座って ああして、ああして 休んだ、一つの 班が 終わると、

ʊm brigada xajʊɪ, tɪsawʊ əi Bɔlawanča,
一つの 班が 終わると、沖の方へ出て行く、この ブラバの者たち、

Marinskanča, Aʊrɪnča, buə, ɪlaa brigada~,
マリンスクの者たち、アオリの者たち、私たちは 三つの 作業班、

ʊm brigada xodɪni, ʊm brigada tɪ tɪsɪ,
一つの 班が 終わると、一つの 班が そうして 出て行く、

tɪ xajʊni ʊm ɲɪ, ʧɪŋɡus tamɪ,
そうして あれのために 一人の 人が パッと見えなく なって、

tɪ ločawa, tɪ taxatɪ.
その ロシア人を ああして しまった。

ŋəələpsuli bičini~, tutumi pulsuwu bičɪn, bɔltɪ, tɪ-məəči verɛvkawa
恐ろしい のだった、走って 戻る のだった、いつも、そんな風に 縄を

otpuskarduji, tɪ tutulumi ŋənəwəndiɪduji, ŋənəmi,
放つ時に、 そうやって 走り出して (網を) 行かせる時に、 行って、

ɡoidoma xaila, stolbila, xajʊwʊ, esl' əlkəə taxa osɪ
別の班が あそこに 柱に ああする、もし ゆっくり やっていた なら

vse, tətuwə-dəə xairaa xočowandɪni kruchɪni, ŋəələpsuli bičini.
おしまいだ、服も ああして からまってしまふ、からまる、恐ろしかった。

tɪ-məəči rybachimi-gdələ, kungasʃɪ, nevodwa, ʝoločuwʊ-guni.
そんな風に 魚捕りして、 大きな船から 網を 投げるのだ。

tɪ-məəči tamɪ-daa əmdə mimbə əi palecalaji, setka zaputala,
そんな風に していたが ある時に 私を、 この 指に 網が ひっかかって、

taa~ mimbə tɪ, Amurbaani tjanet
ほうれ向こうへ 私を ああして、 アムールの方へ 引っ張る、

setka dootɪ ŋəniin
網の中へ 行く、

ʝoločumi, xaso
投げていて、 何

ʧuptiʝuxəni, bičɪn,
はずした のだった

dawawa, rybbazabaan
鮭を 魚基地へ

paaʃɪ biɪ bičiti.
別に いる のだった

taskaju bičini-guni.
担ぐ のだった。

polnyj irawo bičɪn
たっぷり 運ぶ のだ

tɪdo, xairɪ..., tɪ
そこで、ああする、ナ

xai, əi Kaaʃɪ, əi
あれ、この カジ、こ

bi ločasalɪ~,
ある、ロシア人たちが

ʧɔpal xarbaan daw
皆 あれの方へ、鮭を

məentiji, domoj, tɪ
自分の所へ、家へは そ

dawa isaadi bičɪn
鮭が 少なくしか 選つ

setka dooti ŋəniini, ŋɪnsal grebut, a bii-gdəl setkawa tɪ
網の中へ行く、人々は漕ぐ、でも私は網をああして

joločumi, xasʊ ŋɪ, troe, xooni xaijʊmi xaʊlee
投げていて、何人だったか、三人だ、どうする、ああして何とか

čuptijuxəni, bičɪn, chut', muəbəən kətətə tukuxəmbi, ənənə.
はずしたのだった、あやうく水へあやうく落ちるところだった、ああ。

dawawa, rybbazabaan ɪɪɪ bičipu. titaraa baza tɪdʊ obrabotchik
鮭を魚基地へ運ぶのだった。それから基地、そこには加工する人たちが

paaʃi bii bičiti. tawasi sdavajdamɪ ŋənəwu, nosilkaʃi tɪ
別にいるのだった。そこへ渡しに行き、行く、背負子でああして

taskaju bičini-guni. xasʊ ŋɪ, chetyre para-da, ŋənəwu, kungas
担ぐのだった。何人で、(二人ずつの)四組で、行く、船に

polnyj irawʊ bičini. titaraa tiwa, tiwa rybbazabaan sdavaju,
たっぷり運ぶのだった。それからそれを、それを魚基地へ引き渡す、

tɪdʊ, xaiɪɪ..., təljəəčiini~ digdiini, paaʃi bii bičiti, ločasali,
そこで、ああする、ナイフで下ろす、塩する、別にあるのだった、ロシア人たちが、

xai, əi Kaʃi, əi Kaʃi, ŋənii biči tawasi, Maɪbaan, Maɪdʊ
あれ、このカジ、このカジから行くのだった、そこへマイ村へ、マイ村に

bii ločasali~, xaiɪɪ biči, a buə naaŋɪsal
ある、ロシア人たちがああするのだった、一方私たちウルチャたちは

čəpal xaiɪbaan dawa rybachɪwʊ, nevodado bičipu.
皆あれの方へ、鮭を捕る、網の所に私たちはいた。

məntiji, domoj, tɪ-guni, mənduji-dəə xaiwʊ-guni, ʊm aŋani,
自分の所へ、家へはそうなのだ、自分の所へもああするのだ、ある年に、

dawa isaadi bičini, dawa-daa puləəʃi ŋənəsini
鮭が少なくしか遡って来なかった、鮭も余るほどは来ない、

xaali-daa aňan, paan aňan xəmə xəmə
 一つの 年のことだろうか、ある 年には とても とても

isaadi waawu. tidu-gdəl, xai om sem'jado,
 少ししか 捕れない。 その時には、 一つの 家族に、

om ñuljiidu, xujukəmbə buurii, xuju dawawa, eto devjat',
 一つの 家族に 九匹だけ くれる、 九匹の 鮭を、 つまり 九匹の、

ketinawa, tiŋi xooni tuəjuwu, da. oi-guni.
 それだけの鮭を、それで どうやって 冬が越せようか、ね。 少ないのだ。

bua sem'ja ñii əgdini,
 私たちの 家族は 人数は 多い、

tam chastik, xai, rybachiraa tiwa digdii, kartoshkaŋi jəptii,
 そこでは 小魚を ほれ、捕って それを 塩する、ジャガイモと 食べる、

uxəŋi, xai, tuə jəbdii xaiŋi bičiti. paiktabaan
 スープに、あれ、冬に 食べるために ああする のだった。草の生えている所へと

opi xai, usu, sel'skoxozjajstvennajdu mənŋa opočan, tiwa
 ならば ほれ、畑、 農業の所で 大変に なったなら それを

bələčindəwu, senakosenie, korpəjasini osini, tiwa pomogaŋdawu bičini~,
 手伝いに行く、草刈りが 間に合わないよう なら、それを 手伝いに行く のだった、

bələčii bičipu. brigada ŋənii, taraa əi senowa paiktawa sobiraem
 手伝う ものだった。作業班に 行く、それから この 干草を、草を 集める、

ti, xarwa anjuktamaari ti, nosilkaŋi taskaju zarodwa
 ああして、あれを 作って ああして、背負子で 担いで来る、干草の方形の山を

anjuktam, kolkhozdu xarwa, korovawa~, moriwa tes naučixəti-guni.
 作って、 コルホーズに あれを、牛を 馬を たくさん 飼っていたのだ。

paiktawa əgdi ǵəliini-guni. gasa gasandu, xarwa, korova..., ferma~,
 草を たくさん 必要とするのだ。村 村毎に、 あれを 牛を、 飼育場に

moriwa~ naučii
 馬を 飼って

jədu-dəə sovsem
 どこにも 全く

ǵəlbii~ bičiti-guni.
 集める ものだった

julikini, posle vojny
 以前に 戦後、

vo vremja vojny-d
 戦時中も

məŋgi tawu, xai
 自分のを やる、あ

okuchka korkan
 土寄せ道具で 表層を

lomŋi ačukta~čii
 鉄棒で 削り取って

məən usumbi, svoŋ
 自分の 畑を、 自分

kolkhoz xodasil
 コルホーズを 終えな

məŋgiwəji, titapri~
 自分のを、 それから

kartoshkawa. ar~
 ジャガイモを。 ああ

ǵəlbəsui bičipu,
 そう、集める ものだ

moriwa~ naučii bičiti-guni. əsi kolkhoza-daa sovsem kəwə, ositi
馬を 飼っている のだった。今 コルホーズも すっかり 無く なる、

jədu-dəə sovsem kəwə očuxan da.
どこにも 全く 無く なった、 そうだね。

gəlbii~ bičiti-guni. dawa xodipi-muk gəlbəwu bičini. xai, ədu
集める ものだったよ。鮭が 終わると 集める のだった。あれ、ここでは

julikini, posle vojny, ojojo~, manga bičin, tjazhelo, xarwa,
以前に 戦後、 ああ たいへん だった、つらい、 あれを、

vo vremja vojny-dəə umotu, məəngiji, kolkhozangiwa čupal xodipi-muk
戦時中も 同じだ、自分のを、コルホーズのが すっかり 終わってから

məəngi tawu, xai, zamorozki-lə xairiini-guni, kartoshkawa,
自分のを やる、あれ、最初の寒波が来る前に ああするのだ、ジャガイモを、

okuchka korkanini, tiwa guči korkawani xaiji,
土寄せ道具で 表層を、 それを さらに 表層の土を あれで、

lomji ačukta~čii kapar~ tii bičipu, məənduji. məəngiji,
鉄棒で 削り取って 掘り返す、そんな だった、自分らに。 自分のを、

məən usumbi, svoej, kolkhozangiwa xodipi-muk puskajut, a poka
自分の 畑を、 自分の、コルホーズのを 終えてから 許してくれる、でも まだ

kolkhoz xodasılajı, məəngiji tawası bičini. titapi
コルホーズを 終えないうちは 自分のを してはならなかった。そうしてから

məəngiwəji, titapi~ jıjupi-muk tiwa xuləjuwu
自分のを、 それから 戻って来てからやっと それを 掘るものだ、

kartoshkawa. ai~ ələə-təni, xarwa jələčuwu jee-də.
ジャガイモを。ああ もう、 何を 言おうか、 次は。

ii, gəlbəsui bičipu, amtakawa, jüstəwə, tuiktəwə,
そう、集める ものだったよ、ベリーを、クロマメノキを、コケモモを、

gəlbəsui bičipu, ʊmaktawa-da. ʊmaktawa saarɪsɪ?,
集める のだった、 長ヨーロッパノイバラも。 それを 知っているか?

dlinnaja shipishka, tamatawa sobirai bičipu.
長い ヨーロッパノイバラだ、 そんなのを 集める のだった。

tijɪ, xarwa anjʊwʊ, varenie anjʊmɪ xar-daa uləə.
それで、あれを 作る、 ジャムを 作って 何とも 良い。

sundu-dəə sɪsa-daa tamatamba taučɪrtɪ?.
おまえたちの所にも 日本にも そんなものを 集めるか?

sun baadʊsɪ ɲamaʊl-tan da. pəkuwuli biilə tɪɪ.
おまえたちの 土地は 暖かいのだ、 そうだね。 暑いのだらう、 そう。

xai, bii, buə-lə ɲənəmi mutəwəsi, barbar, pəkuwul tɪɪ-məəči,
あれ、私は、私たちは 行くことは できない、 ダメだ、 暑い、 そんな風な

pəkuwul baatɪ. mənə əi, Bɔlawonča~, tinji teelani,
暑い 土地へは。 自分らの この、 ブラバの者たちが、 一昨年

xupɪŋdəsumi pulsičiiɪl-kəə, japonijabaan. naaɲɪ xəsəwəni~,
遊びに 行って来たじゃないか、 日本へ。 ウリチャの 言葉を

tatočɪrtɪ jəbə~ japoncasal-dəə-də.
学んでいるのは 良い、 日本人も、 だ。

sama, bičɪn-guni Mardʊ-daa bičini, Walju mapa, Kilo
シャーマンが いたのだ、 マイ村にも いた、 ワルジュ じいさん、 キロ

mapa, gəlbuni Kilo, ločadamɪ Jakovi, naanɪdamɪ Kilo mapa.
じいさん、 名前は キロだ、 ロシア語で ヤーコビ、 ウルチャ語で キロ じいさんだ。

largɪ sama bičini~, tidʊ Aʊridʊ-daa ʊmotʊ, tɪɪ Angina,
すごい シャーマン だった、 あそこに アオリ村にも 同じく、 あの アンギナ、

jəənəkə, tidʊ ʊmotʊ, i, gəlbuwəni, gəlbʊsumi-dəə
ユーヌク、 そこでも 同じく、 そして、 その名前を 口にするのも

orkɪ wəndii
悪いと 言う

ɲɪwə jaajačɪmɪ
人に シャーマン

xoonɪ-kaa xamɪ
どのように どう

dakpalaa wəndii
襲撃する という

tɪɪ bii-nuu. na
ああ なのか。 彼

ii, ɲɪtuxuču~
そう、 タイコを持

kəwə očɪmɪ~, S
いなく なった、

jukəə jukəə bi
やっとのことで

ɲɪwə jaajamɪ
人に シャーマン

tinji, min, m
去年、 私の、 私

tɪwə gələjumi,
それを 探して、

tɪtaraa buə-gdəɪ
それから 私たちは

pəŋgəndəwənčipu, x
占わせた、 ど

orkii wəndii bičiti, daai sama bičini.
悪いと 言う のだった、偉大な シャーマン だった。

ñiwə jaajačini tes largi, i ñiwə dakpalaa wəndə,
人に シャーマンするのが とても すばらしい、そして 人を 襲撃した という、

xooni-kaa xairi-nuu, tapi ñii ənului bičiti.
どのように どうするのか、そうして 人が 病気になる のだった。

dakpalaa wəndiiti, xamata-kaa-nuu tui, ločadami xoon
襲撃する という、どんなのだから、ああして、ロシア語で 何と、

tui bii-nuu. naan, xaročani, ñii ənului bičiti, tui sama.
ああ なのか。彼が ああすると、人は 病気になる のだった、その シャーマンは。

ii, ugtuxuču~ bičin-guni, bučin-guni, tui əəktə. əsi samaa-da
そう、タイコを持って いたのだ、死んだのだ、その 女は。 今 シャーマンも

kəwə očini~, Savinskadu tui um mama-daa jing jing
いなく なった、サヴィンスクに あの 一人の おばあさんも ひどく（老いて）

jukəə jukəə bii mama, tui əmkəə očuxani. tui-dəə
やっとのことで いる おばあさん、あれ 一人きりに なった。 あれも

ñiwə jaajami bai bai očin bis-kəə.
人に シャーマンすることも ダメに なった んじゃないか。

tiŋii, min, min ədiji bratini, piktəni utoŋixani bičin,
去年、私の、私の 夫の 弟の、子供が 水にさらわれた のだった、

twa gələjumi, xasu, duin inəŋi gələjumi bakomaari-daa kəwəti,
それを 探して、何日、四 日 さがして 見つけられも しない、

titaraa buə-gdəl ŋənəxəpu, əi, tui mamabaan
それから 私たちは 行った、この、あの おばあさんの所へ

pərgəndəwəŋčipu, xoon-daa taori, sovetawami, titaraa~ ona wəndiini,
占わせた、 どう すべきか、相談させて それから、彼女は 言う、

“əsi, tımana pərgəksu tonja, tonja inəŋ-lə pərgəksu,” wəndiini,
「今、明日 見に行かせよ、 五 日目に 見に行かせよ、」と 言う、

tonja inəŋ bakus-daa-tanı,” wəndiini, “pərgəksu,” wəndiini,
五日 目に 見つけることだろう、」と 言う、 「見に行かせよ、」と 言う、

“min isaldəŋi biini,” wəndiini, “ŋaalalanı, verevka-nuu xai-nuu,
「私の 目には 見える、」と 言う、 「彼の腕に 縄だか 何だか、

xairını,” wəndiini, “əməəçi volnadu, techenie tı naambanı
ああしている、」と 言う、 「こんな風に 波に、 流れが そうして 彼を

tı olpičını,” wəndiini. “tımana pərgəŋdəksuu,” wəndiini,
そうして 揺らしている、」と 言う。 「明日 探しに行け、」と 言う、

tıtaraa buə nox’ju, tı jıjuxəpu, mashinaŋi, samaŋıxanŋını.
それから 私たちは 夜に、 そうして 戻って来た、車で、 シャーマンの所から。

tıtaraa tımananı xusəsəl, gələŋdəjuxəti, ələ-də bakoxatı. tı
それから 次の日に 男達が、探しに行った、間も無く 見つけた。あの

mama xaıxan biilə, xaisı, tı verevka xai,
おばあさんが そう言った だろう、やはり、その 縄が あれ、

zaputal ŋaalalanı, tıwa ačımı, ačoxan biilə.
絡み付いていた 腕に、 それを はずして、はずした のだろう。

setkani, xai, zədev tı xaıxanı wəndəsıl-kəə,
網が、 あれ、 からんで それが ああしたと 言ったじゃないか、

taraa tıwa čaalımı, čaalıxanı tıdɔ, tukuxən-nuu xaıxan,
それから それを 切って、切った そこで、落ちたのか どうしたか、

soktoktu bičın wəndə. tı saman-daa bar bar očını, əsi, ŋıwa
酔っ払って いた という。あの シャーマンも ダメに なった、今 人に

jaajamı-daa mutəəsi očın, sovsem mamanaŋıxanı. piktəni,
シャーマンも できなく なった、すっかり おばあさんになった。 その子、

vtoroj piktəni,
二番目の 子が、

ambaa daarı-guni,
少し 大きいのだ

bakači-tanı piktəwı
産んだ、 子供を

isıxan-daa biilə,
達していたか だろ

Bav mamawa,
バウ おばあさんを、

sama mama
シャーマンの おばあ

ona xaiŋi,
彼女は あそこから、

wəndə. sama
という。 シャーマ

tı jaajını,
その シャーマンする

balanaa samasal-daa
音は シャーマン

əsi sama-daa kəw
今 シャーマンも い

səgə ŋı dooro
ソ連の 人々の 国家と

gələčuməəri saman-da
恐れて、 シャーマ

vtoroj pikteni, min, min tæruji bičín, minji xərə nəudumə,
二番目の 子が、私の、私の 同年 だった、私より わずかに 若い、

ambaa daari-guni, minu, əsi, 76du bii, naani xai, 20letdu-da
少し 大きいのだ、私は、今、76に なるが、彼女は あれ、20 歳でも

bakači-tanrı piktəwə, daari mama, tıı 100letji puləxəni,
産んだ、 子供を、 偉大な おばあさんだ、あれは 百歳も 過ぎたか、

ıııııı-daa biilə, tıı sama mama.
達していたか だろう、 あの シャーマンの おばあさんは。

Bao mamawa, ii, saarı, sun daadangosi-guni.
バウ おばあさんを、そう 知っているよ、あなたの お祖母さんだ⁽⁴⁾。

sama mama bičín, əi, əi naanča bičín.
シャーマンの おばあさん だった、 この、この 土地の者 だったか。

ona xaiji, iz saxalina da. i rodom iz saxalina
彼女は あそこから、 サハリンからだ、そう。 それで 氏族は サハリンからだ

wəndə. sama mama bičini, ısalını slepaja bičini,
という。 シャーマンの おばあさん だった、目は 盲目 だった、

ııı jaajını, uləə mama bičín.
その シャーマンすることは 上手な おばあさん だった。

balanaa samasal-daa kət uləə bičiti~,
昔は シャーマンたちも すごく 上手 だった、

əsi sama-daa kəwə očını, xarı-kaa očını-nuu.
今 シャーマンも いなく なった、 どうしてそう なったのか。

səəgja ńıı dooronı opandaraa xarı-dəə biilə,
ソ連の 人々の 国家と してから ああしたの だろう、

gəələčuməəri saman-daa, ui-dəə baldaası očını-nuu,
恐れて、 シャーマンも、 誰も 生きていなく なったのか、

xaixan-nuu. a sun baadusu-daa kəwə, sama.
ああしたのか。ところで おまえたちの 所にも いないのか、シャーマンは。

ii, tǝǝ, biilə-tənii, ʊmʊ, ʊmʊ-lə bii-tən-də. uləə-guni. sama-daa
そう、本当 だろう、 せめて一人、一人でも いれば。 良いのだ。 シャーマンも

uləə, wəndii, ɲɪwa xorɪni. bii-dəə ʊmʊtʊ xaixam bičini.
良い、 言うに、 人を 救う。 私も 同じく ああした のだった。

Mongolbaan ɲənəxən bičini, min ambɪ tɪdʊ bičiti, tawasɪ ɲənəxəmbi.
モンゴル村へ 行った のだった、私の 父が そこに いた、そこへ 私は行った。

tɪtaraa xai, cheremukha ɣaŋdaxambi, ʊnaa bičini,
それから あれ、エゾノウワミズザクラを 採りに行った、小川が あった、

tɪɪ ʊnaadu tes, cheremukha baldɪni. tɪtaraa
その 小川に たくさん ウワミズザクラが 生えている。それから

tɪdʊ ɣaŋdaxambi. tɪtaraa, min bəɣdi pəʃini,
そこに 採りに行った。 それから、私の 足の 下の、

əi, zemlja, naa əi-məəči bičɪn, sʊakta-daa kəwə, xai-daa kəwə.
この、地面、 地面が こんな風 だった、 草も 無くて、何も 無い。

tɪtaraa tɪɪ taktaʊndaraa~ ɣadɪ, xai, siŋəktə tes,
それから そうして 踏みつけてから 採る、あれ、ウワミズザクラは たくさん、

tuuŋ bičini, tiisi tukumi, baldaxani. tɪtaraa tɪwa
すごく あった、こっち側へ 重さでしなって 生えていた。それから それを

tɪɪ ʝaparaa~ ɣadɪ, əi bəɣdi, pəʃikini, čɪŋal čɪŋal
そうして 採ってから、持って来ると、この 足の 下で、 蠢く 蠢く、

xai-nuu seenčasiɪni-məəči tɪɪni. tɪtaraa tɪɪ ičii-dəə kəwə,
何か 蠢いているかのようで ある、 それから そうして 見てみても 無い、

xai-daa kəwəni. tɪtaraa guči, guči tɪɪni, tɪɪ xərə~ xai,
何も 無い。 それから また、 また そうする、それから 少し あれ、

mangajɪ~ seenčʊs
強く 蠢く。

ičii-dəə kəwə.
見るのだが 無い、

əi-məəči, seenčʊs
こんな風に 蠢く。

tɪtaraa pučurə~
それから 飛び退い

xai-daa kəwə. tɪtar
何も 無い。それ

min piktəji, 57-go
私の 子供は 57

tɪɪ, ʝiɲuxəmbi.
そこから、私は戻っ

ičəmdii, ičəjiiji, bəɣ
見る、 見ると 足

xəulɪni~, xəulɪxani.
腫れる、 腫れた。

ɪsi toorɪni.
上へ 膨れ上がる。

ɪna paŋgačɪɪ bi
彼女が 占う の

ɣadɪni, tɪɪ
言い当てる、ああして

Mongoldo, əəndəx
モンゴル村で 間違

mangaŋɿ~ seenčusɪnɪ. titaraa guči, tɪdʊ bəɡdi əurirəə
強く 蠢く。 それから また、 そこで 足を 持ち上げて

ičii-dəə kəwə, titaraa əsi ɪlɪ mɔda-gdə~l, əi-məəči-lə, daari-guni,
見るのだが 無い、それから 今 三 度目に こんな風に、大きいのだ、

əi-məəči, seenčusɪnɪ. tɪdʊ-dəə-kəə xarɯɿ, pučuxəmbi bičɪn.
こんな風に 蠢く。 そこでやっ と 別の方へ 私は飛び退いた のだった。

titaraa pučurəə~ ičijji, tɪdʊ xar-daa kəwəni, zmeja-daa kəwə,
それから 飛び退いてから 見るが、そこには 何も 無い、ヘビも いない、

xar-daa kəwə. titaraa, tɪɪ inəɯini tɪɪ, Aʊribaan jɪjuxəmbi.
何も 無い。それから、その 日は そうして、アオリの方へ 私は戻った。

min piktəji, 57-go goda, ŋuuči, mesjacdʊ bičini.
私の 子供は 57 年生まれで、小さかった、まだ一ヶ月 だった。

tɪji, jɪjuxəmbi. tamɪ-dee, piktəji kuučuwəmi
そこから、私は戻って来た。ところが、自分の子に おっぱいを吸わせていて

ičəmdii, ičəjijji, bəɡdiji čto-to xəʊlɪnɪ. titaraa tɪɪ bəɡdiji
見る、 見ると 足が 何だか 腫れている。それから その 自分の足が

xəʊlɪnɪ~ xəʊlɪxanɪ. əi, əi bəɡdini~ əməəči omɪ xəʊlɪnɪ
腫れる、 腫れた。 この、 この 足が こんな風に なって 腫れる、

uɪsi toorɪnɪ. titaraa min əŋəkəən mama-gdala,
上へ 膨れ上がる。 それから 私の 義母の おばあさんが、

ona paŋgačɪ bičini. tɪɪ ŋaalajji xar, xarwa-daa uirəə~
彼女が 占う のだった。 その 手で あれ、あれを 縛って

ɡadamɪ, tɪɪ paŋgačɪ bičini. titaraa wəndiini, “tɪɪ tɪdʊ,
言い当てる、ああして 占う のだった。それから 言う、 「その あそこで、

Mongoldʊ, əəndəxəsi,” wəndiini.
モンゴル村で 間違いを犯したね、」と 言う。

“tawası ɣəniisu,” wəndiini, “xarıdamı, čəwučıɣdəmi,
「あそこへ おまえたちは行くのだ、」と 言う、 あれをしに、お供え物をしに、

mun naaɣı ɟəwučıiti-guni, bəltı molıtsalamı
私たち ウルチャは お供えして祈るのだ、 よく 祈って

čəwučıməəri xarıntı, “ɣəniisu,” wəndiini. tıtaraa~,
お供えして ああする、「おまえたちは行くのだ、」と 言う。 それから

bua ugdabaan uurə piktəji olbomaarı tı ım
私たちは 舟に 乗って 自分の子を 連れて そうして 一人

min əñəkəən mama, bii geulı, min əñəkəən mama
私の 義母の おばあさんと、私が 漕ぐ、 私の 義母の おばあさんが

ñeokčı, piktəji, tı olbomı ɣənəxəpu. tıtaraa Marwa
舵を取る、 子供を そうして 連れて 私たちは行った。それから マイ村に

xəçuxəpu. Mardı-gdala, tı Walju Jakov, Kilo mapa bičini,
立ち寄った。マイ村には あの ワルジュ ヤーコヴ、キロ じいさんが いた、

samanı, largı samanı, tıla xəçuxəpu, barı-də.
シャーマン、すごい シャーマンだ、そこに 立ち寄った、ちよつとの間。

tıtaraa tawası tooxon, anaje~ tı, daama,
それから あそこへ 上った、 ああ、 その おじいさん、

bua daama-m ɣəlbusi bičipu, min ənbı rodnjanı.
私たちは おじいさんと 呼ぶ のだった、 私の 母の 親戚だ。

tıla xəçuxəmbı, wəndiini, “anaje, xarıntı-kəə bəɣdisi,”
そこに 立ち寄った、彼は言う、「ああ、 どうしたんだ、おまえの足は、」と

wəndiini, “xarı, xarıntı-kəə,” wəndiini. bii wəndii, daamatı
言う、 「どうして 腫れているんだ、」と 言う。 私は 言う、 おじいさんに

wəndiiji, “tawası ɣənəxənduji-kəə,” wəndii, “bii siñəktəwə
言う、 「あそこへ 行った時に、」と 言う、 「私は ウワミズザクラを

gačımbı,”
探っていました、」

pəjıləni, xarıntı
その下に、 何か

“ılj moda~, tıdo
「三 回目に、その

“bii taraa,
「私は それから

daama wəndiini
おじいさんは 言う

“tımana Mongolba
「明日 モンゴル

pərgiije,”
占ってみよう、」と 言

jaamı~ tı,
シャーマンする、ああ

“anajee~, manju, xa
「ああ、 漢人の あ

manıshe kitaecasal
言 漢人たちが

tıla tərj takı
そこを ちょうど 踏

tıtaraa tıla xarıntı
それから そこに ああ

tooxon, kitajı
そうして 腫れた、中国

gačimbi," wəndii, "tʰi ʊnaado. tɪtaraa~ bəgdiji, chto-to,
探っていました、」と言う、「その 小川の所で。それから 私の足の、何かが

pəjiləni, xai-nuu seenčosii-məəči taxani," wəndiiji,
その下に、 何かが 蠢いているよう だった、」と 私は言った。

"ilj mɔda~, tɪdɔ-muk xanʂi pučuxəmbi," wəndiiji,
「三 回目に、その時にやっと 別の方へ 飛び退いた、」と 私は言う、

"bii taraa, gami-daa xodɪlajɪ əuʃuxəmbi." tɪtaraa, tʰi
「私は それから 探るのも 終えて 下りて来ました。」 それから その

daama wəndiini, xai, "aʊŋjaksɔ~," wəndiini,
おじいさんは 言う、 あれ、「泊まっていけ、」と言う、

"tɪmana Mongolbaan ɣənəŋəsi-tənii," wəndiini. "bii əsi dolbo,
「明日 モンゴル村へ 行くがよい、」と言う。 「私は 今 晩に

pərgiija," wəndiini. tɪtaraa aʊŋjaxapɔ. tɪtaraa~ dolbo
占ってみよう、」と言う。 それから 私たちは泊まった。 それから 夜

jaamɪ~ tʰi, mapə, daama. tɪtaraa wəndiini,
シャーマンする、ああして おじいさん、おじいさんが。それから 言う、

"anajee~, manʃɔ, xai, meʊlanɪ əəndəxəsi," wəndiini.
「ああ、 漢人の あれ、廟に おまえは間違いを犯した、」と言う。

ʀan'she kitaecasal molitsalamɪ tʰi ʊnaadotʰi, molitsalɪ bičiti,
昔 漢人たちが 祈って、 その 小川で そうして 祈って いた、

tɪla təŋ taktaʊnčimbi wənda, bii.
そこを ちょうど 踏みつけたのだと 言う、 私が。

tɪtaraa tɪla xairiini tʰi toorɪni, tʰi toorɪni
それから そこに ああする、 そうして 腫れる、 そうして 腫れる、

tʰi~ tooxon, kitajskij shelkaʃɪ, xai nitkaʃɪni min əŋəkəən mama
そうして 腫れた、中国製の 絹で、 あれ、糸で 私の 義母の おばあさんは

jəki~, jəki~ jəki uixən, vse ravno tɯ uʲəkini, tɯ
ここを そこを ここを、と 縛った、それでも ああして 上の所が、ああして

əi, əi guči, guči xarloxan-da, uisi, tɯsɯ toomɯ. ələə
これ、これが また また ああなり始めた、上へ、そう 腫れて。 今にも

ələə xərəkta kaltaʲumɯ jəki ʲin ʲin. tɯtaraa tɯ mapa
今にも 皮が 破けそうで、 ここが ひどい。 それから その おじいさんが

jaajaxan, tɯ akpančɯpɯ.
シャーマンした、そうして 私たちは寝た。

tɯtaraa tɯmaɪ təʲuxənduʲi tɯ mapa wəndiini, “gəə xoon
それから 次の日 起きた時に その おじいさんは 言う、 「さあ どんな

biini-kəə,” wəndiini. bii wəndiiji, “daama~,” wəndii, “bəgdiji,
様子だい、」と 言う。 私は 言う、 「おじいさん、」と 言う、 「私の足は、

xai, jəbələə~ bii-məəči biini,” wəndiiji, xaiɯɯ, pərgiji,
あれ、ややよくなって いるよう です、」と 言う、 ああだ、

mjaʲgkij-məəči-nuu,” xoonɯ očɯɯ-məəči biini, tɯ ənsini~,
柔らかいようなのか、 どうか なったよう だ、 ああして 痛んだのが

ələə əi, xai teloji ələə kaltaaʲomɯ
もう この、あれ 体が もう 裂けて、

treskai-məəči očɯɯ bičini. tɯtaraa tɯ-gdə jəbə~ aja očɯɯ.
裂けそうに なって いた。 それから そうして 大丈夫、良く なった。

tɯtaraa daama wəndiini, “gəə məəntiji ɲənuruu,” wəndiini,
それから おじいさんは 言う、 「さあ、自分の所へ 去れ、」と 言う、

“petuxəwə ɡələŋdəʲuruu,” wəndiini. “irgaču petuxəwə-tama, xusə nakuwa.”
「雄鶏を 探しに行け、」と 言う。 「模様のある 雄鶏を、 雄の 鶏を。」

tɯtaraa bii tɯ xusə nakuwa ɡələŋdəʲumi ugdaʲɯpɯ
それから 私は そうして 雄の 鶏を 探しに行って 私たちの舟で

tɯ ʲijuxəmbɯ
そうして 戻って来

tɯ taraa tɯ
そう してから そ

ʲee dolbonɯ jaajɯ
次の 晩に 自分

tɯ daama.
その おじいさんは

kəsi ɡələxəni.
幸運を 求めた。

kət uləə očoxa
すごく 良く なっ

ɲənəmi-dəə kəwə, tɯ
行かなかった、そ

ajaʲuxambɯ, anajee
よくなった、 ああ、

budiləxəmbɯ, ui
死んでいただろう、上

kitajskij molitsalɯɯ,
漢人の 祈る

ɲən'she bičini, xai
音は あった、あれ

bis-kəə da. sund
じゃないか、ね。おま

ii, orkɯ
そう、悪いことになっ

tii jįuxambi Aoribaan. titaraa, mænduji naku bičini, aja-guni,
そうして 戻って来た、アオリへ。それから 自分の所に 鶏が いた、良いのだ、

tii taraa tii xusə nakowa japaraa gařoxambi. titaraa,
そう してから そうして 雄の 鶏を つかんで 持って行った。それから、

jee dolbonı jaajıdujı tii nakowa waaxanı,
次の 晩に 自分がシャーマンする時に その 鶏を 殺した、

tii daama. titaraa tįi, xai,
その おじいさんは。 それから それで、 あれ、

kəsi gələxəni. titaraa timanani aja~ aja bəgdıduji jıj jıj,
幸運を 求めた。 それから 次の日 良い、 良い、 足の所に とっても、

kət uləə očuxanı. titaraa tii, tawası Mongolbaan-dəə
すごく 良く なった。それから そうして、そこへ モンゴル村へも

ŋənəmi-dəə kəwə, tii mænəbæn jįuxambi. titaraa tii
行かなかった、 そうして 自分の所へ 戻った。 それから そうして

ajařoxambi, anajee. tii anaa bimčəni
よくなった、 ああ、 彼が いなかった なら、

budiləxəmbi, uisi, tii toorını xaulomı čökana-guni.
死んでいただろう、上へ ああして 腫れる、 腫れて ひどいのだ。

kitajskij molitsalıını, xalıanı, “tıla təj taktaončısı,” wəndiini,
漢人の 祈る あれに、「そこに ちょうど おまえは踏みつけた、」と 言う、

nan'she bičini, xai mestoni, kitaec molitsalaxanı. tamata-daa čökana
昔は あった、あれの 場所で、漢人が 祈祷した。 そんなのも 悪い

bis-kəə da. sundu-dəə tii biini-tənii, molitsalıını-tanı da.
じゃないか、ね。 おまえたちの所にも そう か、 祈るのは、 ね。

ii orkıı tamatala. buə-dəə molitsalıı, buə-də,
そう、悪いことになった、そんなのから。 私たちも 祈る、 私たちも

mundu, mundu-dæ æi Bolawandø, naverno, ui-dæ
私たちの所にも、私たちの所にも、この ブラバに、 たぶん 誰の所にも

kæwæn-dæ biilæ~ æsi, min ædilæj anjoxan, xai,
無い だろう、今は、私の 夫の所に 作った、 あれ、

goldi mapani anjoxani xarwa,
ナーナイの おじいさんが 作った、 あれを、

molitsalami tui sæwæwæ anjoxani. tila buæ molitsalipø. min
祈って そうして 木偶を 作った。 そこで 私たちは 祈る。 私の

ædiji ænsiiduni, ænuluwæmi tila molitsali biçiti, titapi
夫が 病気になった時に、病気になって それに 祈る のだった、そうしたら

ajakaa~n oçowu biçin-tæn. titaraa buæ æsi tiwa, tiwa tui
やや良く なる のだった。それから 私たちは 今 それを、それを ああして

sæwæwæ æsi-dæ tui næuçiipu, æi na vyshke xardoni, nakryshe-tama.
木偶を 今も ああして 保存してある、この 上の所に、あそこに 屋根裏に。

titaraa, kazhdyj kak kitaetsy prazdnik, po televizoru dooldomaari,
それから あれごとに、 中国の 祭日に、 テレビで 聞くと、

tui tmanani tui-gdæ molitsalipø. tiwa tui ætæxiipu
ああして 次の日に ああして 私たちはお祈りする。あれを ああして とってある、

æsi-dæ-dæ. sunduji-dæ tui tui biilæ da.
今もだ。 おまえたちの所にも そう それが あるだろう、ね。

molitsali da.
お祈りする、そうだね。

ii, moo buæ, mooji anjoxan, sæwæwæ, tui bii sæwæ bii,
そう、木で 私たちは、木で 作った、木偶を、 あの ようだ、木偶が ある、

mundu. ñu-mææçi-læ anjoxan, tila xaripø, molitsalipø.
私たちの所には。人間のような形に 作った、 それに ああする、私達はお祈りする。

pampushkawa, po
饅頭を、

nærii, titaraa
置く、 それから

nærii, i ju
置く、 で、 二

bii, xusæ piktæj
私は、男の 子を

buæ Anginsali
私たち アンギナ

biçiti. æsi ta
ものだった。今 全

daar ñu-daa ka
年輩の 人々も い

tuti. bii
するだろうか。 私

piktæji, tui xusæ
子供に、その 男の

om piktæji-tæni
一人の 息子を、

min xagdondoji to
私の 家に

ndo, æmkæ
そこに 一人きりで

titaraa, jæpusælbæ
それから、 食べ物

pampushkawa, pampushkawa anjoi, arakiwa, eshshe kashawa, juə tarelka
饅頭を、饅頭を 作る、酒を、さらに お粥を、二枚の お皿を

nærii, titaraa tidu nærii, chetyre xaiwa, dui pampushkawa
置く、それから、そこに 置く、四つの あれを、四つの 饅頭を

nærii, i juə rjumkadu arakiwa nærii. titaraa molitsalnti,
置く、で、二つの 盃に 酒を 注ぐ。それから お祈りする、

bii, xusə piktəji molitsalawandiji. xusə piktəji molitsali, naan əmkəə,
私は、男の 子をお祈りさせる。男の 子がお祈りする、彼 一人が、

buə Anginsali xasu xagdu, xasu čupal molitsali
私たち アンギナ氏族に 何軒の 家があれば、その何軒 全部の お祈りをする

bičiti. əsi taa ŋaalaxa~n, ui-dəə taasi, buə əmkəə xairi,
ものだった。今 全て やめてしまった、誰も やらない、私たち だけが ああする、

daar ŋn-daa kəwəə očin, ui tiri purulsəl xali
年輩の 人々も いなく なった、誰が するだろう、子供たちが いつ

tuti. bii əmkəə tiwa, xairi, mexoraačowandii, mæn
するだろうか。私 一人だけが あれを、ああする、お祈りさせる、 自分の

piktəji, ti xusə piktəji, mæn piktəji too~ El'bandu bii,
子供に、その 男の 子に、 自分の 息子を ほうれあの エリバン村に いる、

om piktəji-tənii novyj Bolawando bii, xusə piktəji. əmkəən
一人の 息子を、 新 ブラバに いる、 男の 子。ただ一人

min xagdondoji too garazhnyj ulicadu biini, min xagdoji,
私の 家に ほうれあの 車庫の 通りに いる、 私の 家に、

tidu, əmkəə biini. aňando bii tawasi ŋənii-guni,
そこに 一人きりで いる。お祭りの時に 私は そこへ 行くのだ、

titaraa, jəpusəlbə anjoraa ti tidu, naambani
それから、 食べ物を 作ってから そうして そこで 彼を

xarwandu. xar-daa xalan-daa umoto-guni~, xar, mexoraači~,
ああさせる。どんな 氏族も 同じなのだ、 あれ、お祈りする、

tu-tanii aňalnti. tamatamba ñaalamı orki, ñu wendisil-kæ.
それは 祭る。 そのような事を やめるのは 良くない、人々は 言うではないか。

xar, tu ñu, mexoraačixanı bučin-dæ goi ñu, tu um,
あれ、その 人、お祈りした者が 死んでも 別の 人が、ああして、一つの、

um sem'ja tu tu, goi ñu xarri-daa aja.
一つの 家族が ああして ああして、 別の 人が 祈るのも よい。

sundu æktæ ñu-dæ mixoraačinti. mundu,
おまえ達の所では 女の 人も お祈りするのか。 私たちの所では、

jæduji-dæ umotu, buæ, mun jædu æktæ ñuwa æniiti,
ここでも 同じで、私たち、私たちの ここでは 女の 人を 禁ずる、

taxan-daa um, um mama saman mama bičini.
しかし、 一人の、一人の おばあさん、シャーマンの おばあさんが いた。

tu mama, tu, ui-tama, Anga Sonja-tama,
その おばあさんは、 あれ、 誰だっけ、 アンガ ソーニャは、

ona tu xarri bičini, mexoraači bičin.
彼女は ああして ああする のだった、 お祈りする のだった。

tu bučin-guni, tu mama. tawanči æsi ui-dæ kæwæ~
そうして 死んだ、 その おばあさんは。それから 今 誰も いない、

xarasi, buæ-dæ-kæ xarri. taa luča očti. xar ñuwa
やらない、私たちだけが している。皆 ロシア化してしまった。あれ、人を

xumumi-dæ bultu lučadamaarı xarri-sil-kæ. naańıdamı,
葬るのも すっかり ロシア式に やるじゃあないか。ウルチャ式で、

wendisil-kæ, mun naańı, naańıdamı xarwu-m-dæ, naańı
言うじゃないか、私たち ウルチャは、ウルチャ式で するべきだ、 ウルチャの

doorojını muæwa
決まりで 法要を

a luča-gdala,
でも ロシア人は、

a buæ-gdala
でも 私たちは

tu xuulsiwu
ああして 回忌をす

moowa, ii, mogil
木を、 そう、お墓

tuwa, tıla xu
それを、そこに 水

tu joločıpo,
そうして 撒く、

tii-tæ kak bud-to n
それが まるで 彼

tıla xuulii, tawa
そこに 撒く、 火を

næktiiti. ii, naan
置く。 そう、彼の

næktiiti. tıtaraa
置く。 それから

xarwa, tu taraa
あれを、そう してか

næriiti, koster jægdeb
置く、 鍋が 煮える

doorojmɪ muəwə xuulsii~, ii, kazhdɯj beedɔ, do goda tɯ-də.
決まりで 法要をする、 そう、 各々の 月に、 一年経つまで そうだ。

a loča-gdala, devjat' dneɟ, sorok dneɟ, polgoda, god tɯsalɪ,
でも ロシア人は、 九 日目、 四十 日目、 半年、 一年、 と 彼らは、

a buə-gdələ celyj god tɯ xuulsiipu. bee bee taʊndɔnɪ
でも 私たちは 一年中 ああして 回忌をする。 月 月 毎に

tɯ xuulsiwu. sunduji-də tɯ tɯtɪ.
ああして 回忌をするべきものだ。 おまえ達の所でも そう するか。

moowa, ii, mogiladɔ moowa nəəriiti-guni, telefoni, wəndisil-kəə,
木を、 そう、 お墓の所に 木を 置くのだ、 電話だと 言うじゃあないか、

trwa, tɪla xuulsiipu, ʎəpuwə~, ənʊrəɟurə tɪla toobɔraa
それを、 そこに 水を掛ける、 食事を 煮てから そこに 持って上って

tɯ ʎoločɯpɔ, tɪtapi vorona-daa, ɲɟasal čɯpal ʎəptiiti-guni.
そうして 撒く、 しばらくすれば カラスだの 犬だのが 全部 食べるのだ。

tii-tə kak bud-to naan bakaxan-məəči-də, arakiwa-daa buə
それが まるで 彼が 受け取ったかのようにみなし、 酒も 私たちは

tɪla xuulii, tawa rwandɪ, tɪtaraa tawa rwapi tɪla ʎəpusəlbə
そこに 撒く、 火を 熾す、 それから 火を 熾してから そこに 食べ物を

nəəktiiti. ii, naan ʎuliləni, stolwa anʎɯtɪ-guni, tɪtaraa tɪdɔ-gdə ʎəpusəl
置く。 そう、 彼の 前に、 机を 作るのだ、 それから そこに 食べ物を

nəəktiiti. tɪtaraa xərə~ minut tridcat'-daa biwəndərəə, ʎapajɔɪ,
置く。 それから ほんの 三十分ほど してから、 取る、

xarwa, tɯ taraa kazhduju tarelkadɔ po lozhke nəəktərəə, kasterbanɪ
あれを、 そう してから それぞれの 皿に 一匙ずつ 置いてから、 鍋を

nəəriiti, koster ʎəgdəbdəni, ʎəgdəwəndiiti. xar ʎəpusəlbə-kəə,
置く、 鍋が 煮えるように、 煮る。 あれ、 食べ物を、

titaraa, suxojwa-daa mukawa, rozhki krupa xai biini xarwa,
それから 乾いた物も 小麦粉を、マカロニ、粟、と 何でも あれば それを、

makori~ xai, næriiti-guni, jəgdəwəndiiti. makoriwa objazatel'no
干し鮭、 あれ、と 置くのだ、 燃やす。 干し鮭を 必ず

xarwu, wəndisil-kəə, naaŋɪ. tɪ puundu, puumbəni
供えると 言うじゃないか、ウルチャは。そうした 匂いに、 匂いを

bakɪtɪ wənda, oni, buči gursəl.
受け取る という、 彼ら、 亡くなった 人たちは。

(1)1937 年には、多くの人々が「トロツキーイスト」のスパイとされ、投獄された。V. P. Dechuli 氏の父も、ある人物の手紙の中に「あなたからの手紙を受け取った」と言及があっただけのために投獄されたのだという。

(2)イルクーツク村は、モンゴル村のちょっと上流のところから、支流を溯ったところに湖があり、その湖畔にあったという。湖もイルクーツク湖と呼ばれた。V. P. Dechuli 氏による。なお Mai 村は Aori の崖のすぐ下にあった。

(3)この当時は海の魚を捕るために派遣されることがよくあり、Chemikan, Dazarev, Dekastri, Ajan などに派遣されたという。V. P. Dechuli 氏による。

(4)baɯ というシャーマンは kila、すなわちエウエンキーだったという説もあるし、サハリンから来たという説もある。ブラバの少し南の、小川のところに住んでいた盲目の偉大なシャーマンであったという。V. P. Dechuli 氏による。

小さい

əsi bii xaiwa a
今 私は 何を 言

təlungučuww
物語るというわけに

orboxombɪ,
忘れてしまっていた

otɪ ɲuučikəndu
とても 小さい時に

min ənbi bučɪn
私の 母が 死んだ

min ənbi bučini.
私の 母が 死んだ。

ambɪ ʃapəʃɪ,
私の父が 引き取る、

gaʃɪ, Duuʃimbe
連れて行く、ドウジ村

əwəsi orpičoma
こちらへと 運びして

Aorido, xai ʃə
アオリ村で、あれ、ユ

galbuni ʃəənəkə,
名前は ユーナカだ、

2006 年 9 月 14 日 ブラバ村にて録音
Ol'ga. Aleksandrovna Bel'dy 氏口述

11. ŋuučikənduji xoon bičimbi, xoon dəŋsuxəmbi
小さい時に どんな風 だったか、 どんな風に 私は働いたか

əsi bii xaiwa aldačuwə, map ʃapamɪ, xarwa-daa
今 私は 何を 語ろう、 パッと 思い出せるのを、何でも

təlungučuwu bisin-guni, tɪwa, ʃoombočuwə~, balana
物語るというわけには いかないのだ、それを、思い出したことを、 長いこと

oŋboxombɪ, əsi-gdə bii aldačɪ-ta məən baldaxambɪ,
忘れてしまっていた、今 私が 語るのは 自分が 生まれて、

otɪ ŋuučikənduji xoon bičimbi~, xoon dəŋsuluxəmbi,
とても 小さい時に どんな風 だったか、 どんな風に 私が働き始めたか、だ、

min ənbi bučɪn mii, ʊm aŋandə, əčəl ɪsɪadonɪ,
私の 母が 死んだ時 私は、 一 歳にも なっていなかった、

min ənbi bučɪni. taraa mimbə, ənbi əigəni xərə uʃičii,
私の 母が 死んだ。それから 私を、 母の 姉が しばらく 育てて、

ambɪ ʃapaʃɪ, tɪ, tɪ uʃičiini, tawasiŋkar, Aoribaan
私の父が 引き取る、そうして、そうして 育てる、あそこへ、 アオリ村の方へ

gaʃɪ, Duuʃimbəən gaʃɪ, tɪ uʃičixəti-guni, tawasi
連れて行く、ドウジ村の方へ 連れて行く、そうして 彼らが育てたのだ、あちらへ

əwəsi orpičomaari, tamɪ-dee~ bii xərə puliktəluxə~n,
こちらへと 運びして、 そうして 私が 少し 歩き出した、

Aorido, xai ʃəənəkə, min ənbi, əigəni bičɪn,
アオリ村で、あれ、ユーナカが、私の 母の 姉 だった、

gəlbuni ʃəənəkə, tɪ piktəni ŋuučikə piktə, əəktə piktə bičɪn,
名前は ユーナカだ、 その 子供は 小さな 子供、女の 子 だった、

tiwa-gdäl əmusijə~, tii tii piktə, tiisəni,
それを 私は揺り箒を揺らしてあやした、その、その 子を、その頃、

naaŋŋ əmuni bičin-guni, əi jŋlikini, naaŋŋ əmuni,
ウルチャの 揺り箒が あったのだ、この 以前に、ウルチャの 揺り箒、

mindu tamataa naaŋŋ əmusəni biini, sindu buurii-dəə aja,
私の所に そんな ウルチャの 揺り箒が ある、おまえに やっても よい、

omombə, xai, taa tii omə, tii tii, jaaptənčə,
一つを、 あれ、ほうれ あの 一つ、あの あの、音を出す飾りのついた、

tii tii, xai əmusijə~ tii piktə tii songŋi
そうして そうして、 あれ、あやす、 その 子が そうして 泣く、

tii songŋi, jŋj jŋj, ŋaarakta songŋi bičin. tii,
そうして 泣く、 すごく、 ひどく 泣く のだった。 そうして、

mimbə gosilŋti, “wakaŋi əmčuuruu, əmsuruu, jaajamŋ əmsuu,
私のことを 彼らが叱る、「うまく あやせ、 あやせ、 歌を歌って あやせ、

daaŋi jaajamŋ,” bii-gdäl, “bəə~ bəə~ bəə~, akpanorov,” tii
大きな声で 歌って、」と、私は、「ブ～ ブ～ ブ～、眠れ、」と そう

jaajamŋ tii əmusii bičimbi, mənə-dəə otii ŋuučikə, tənəə
歌って そうして あやす のだった、自分も とても 小さいのに、やっど

təəsii, jukə jukə puliktii,
座れるようになって、 やっどとすることで 歩いているのに、

tawanči tii, xai mənə, xai, mənə saaloxanŋji-la,
それから そうして、あれ、自分が、あれだ、 自分が わかり始めてから、

xərə puliktəluxənŋji, xalee, xagdə dookmŋ puliktəluxənŋji,
少し 歩き回り始めてから、 何とか 家の 中を 歩き回り始めてから、

kotamba silčəi~ tii dəŋsəwəndii biči-guni, xarwa-daa xum, kotamba
食器を 洗う、 そうして 働かせる のだった、 何でも 全て、食器を

silčəi, xərə daaŋ
洗う、少し 大き

taloma muə
白樺樹皮の バケ

xərə~ daaŋ op
少し 大きく な

tookomŋ bilča
上って ビチャ

muə xai, xagdə
水が あれ、家の

pərəkəənduni os
底にあるだけに な

opočani, kəsi
なると、 幸せが

daaŋ opŋ, ka
大きく なって、 幸

əŋdəə xuulbiŋə
決して こぼさない

orpičəloxatŋ,
彼らは連れて行くよ

Vanja bičin,
ヴァーニャ だった、

33-go goda, bii-
33 年生まれ、私

min ənbi, min a
私の 母、私の 長

silčoi, xərə daari očmǵji, muəwə muəlsii, muəluu, Duuǵindu, xai,
洗う、少し 大きく なってから、水を 汲む、バケツは、ドウジ村で、あれ、

taluma muəluu tiǵi, tənəə, ŋuučikələə biidui, ŋuučikəə muəluuǵi,
白樺樹皮の バケツ、あれで、やっとまだ 小さな 時に、小さな バケツで、

xərə~ daari opučaji, daari-ja muəluu, ti xai
少し 大きく なった時には、大きな バケツで、そうして あれ、

tookumi bilča bilča tiri, “əǵi xuulsirə, muəwə əñəwu,
上って ビチャ ビチャ 端からこぼす、「こぼすな、 水を、 いけないことだ、

muə xai, xagdun dootiri, tookuǵisi gəsə, xai, muəluu
水が あれ、家の 中に 上って来ると もう、あれ、バケツの

pərekəənduni osiri,” wəndiini, “muəngusi. xai, ti-məəči-lə
底にあるだけに なっている、」と 言う、「おまえの水は。あれ、そんな風に

opučani, kəsi anaa osiisi,” wəndiini, daari op, taraa~ bii-gdəl,
なると、 幸せが 無く なるよ、」と 言う、 大きく なって、それから 私は

daari op, kəsiču osičami, ərkəə~ gajui, ti muəluuwə, muə
大きく なって、幸福に なりたくて、静かに 運ぶ、その バケツを、水を

əṇdəə xuulbiǵə tabdani. tam-dee~, sogdatawa bətam, i,
決して こぼさないよう するために。 それから 魚を 漁するのに、

orpičoloxati, mimbə~ juə aaksalbi, daardoma aagbi
彼らは連れて行くようになった、私を 二人の 兄達が、 大きい方の 兄は

Vanja bičin, Vanja 32-go goda, a Serga-gdəl, 34-go,
ヴァーニャ だった、 ヴァーニャは 32 年生まれ、 一方 セルガは 34 年、

33-go goda, bii-gdəl 35-go, bii nəuduma, əmkəən əktə bičimbi,
33 年生まれ、私は 35 年生まれ、私が 年下で、 ただ一人 女の子 だった、

min ənbi, min ənbi purulni. titaraa, xərə xai očmǵji, xai
私の 母、 私の 母の 子供たちは。 それから、 少し ああ なってから、

botami puliktawu-guni, min ambi, bota... xai, rybak byl xoroshij,
 漁をしに 行き来するのだ、私の 父は、漁師、漁師、だった、上手だ、

tii botami. tii mumbə orpičimi, čuv xoorkodu
 そうして 漁するのが。そうして 私たちを 連れて、一番 舟のへさきに

mimbə, geolwanditi, xərə daari očimbı, gəə daari xaisal, aaksalbi
 私を、漕がせる、少し 大きく なっていた、さあ 大きな あれ、兄達の

julialə geolrı, bii-gdəl gasta geolrı geolrı, xərə waata osini,
 前で 漕ぐ、私は 片側だけの 櫂で 漕ぐ、少し 波が 起きれば、

geolrı, mutəsi, nuuwumi, titaraa xaimi tii geolrı
 漕ぐ事も できず、櫂を引き寄せる事もだ、それから ああして その 櫂が

mimbə, tii tirii bičini, loptok, tii, tii dərsumi,
 私を、そうして 打つ のだった、バチンと、そうして、そうして 働いて、

ñuučikələ-pək, tii botami, tii puliktəmi, tii
 小さい時からずっと、そうして 漁をして、そうして 行き来して、そうして

dərsixəmbi-guni, min, min aagbi Serga, Serğasasa, 47-om godu,
 働いたのだ、私の、私の 兄の セルガ、亡くなったセルガは 47 年に

bučini, tii xai, sup botami ñuučikələ-pək, botami
 亡くなった、そうして あれ、ずっと 漁して、小さい時からずっと、漁して

puliktəmi-dee, ənulurəə, prostyl, xarwa, vodbjanka. naańndami xooni
 通っていて、病気になった、罹った、あれを、浮腫に。ウルチャ語で どう

wəndiini, muə, muəsiktu wəndii-nuu. tii tji ənulurəə, 47-om godu
 言うのか、水、浮腫と 言うのか。そうして それで 病んで、47 年

buči, aagduma Vanğasasa-gdəl, 49-om godu, tii-dəə ərgə ənujini,
 亡くなった、年上の方の 故ヴァーニャは 49 年に、それも 呼吸器の 病で、

prostuda, ñuučikələ-pək tii botami, tuə jua tii botami,
 冷えから、小さいうちから そうして 漁して、冬も 夏も そうして 漁して、

tii pulikta
 そうして 行き来

tii xamıanı
 その 後、

tii puliktii,
 そうして 行き来

xaimi, mimbə
 ああして 私を

adol tuləčii-
 網を 仕掛ける、

Duuğindu. bi
 ドウジ村で。私は

tii daari gursa
 その 年輩の 人々

əi julikini, bu
 この 以前には、私

əkəsəli, a xus
 女たちが、他方 男

təəsiiti. trubkani
 座っている。キセルは

tii mapasal,
 その おじいさんたち

geu geolabdaji, əñ
 櫂を 漕ぐために、煮

seepolawa, xai
 蛙の炒め物を、ほれ

tɪ puliktəmi tɪ prostyl, taraa-tanɪ aaksalɪ čopal bučiti.
そうして 行き来して そうして 冷えて、それから 兄たちは 皆 死んだ。

tɪ xamɪlanɪ bii əmkəə očuxa, tɪ tɪ dənʒsumi
その 後、 私は 一人きりに なった、そうして そうして 働いて

tɪ puliktii, xərə~, xərə ələə daaɪ očɪnʒɪ, mapasalɪ,
そうして 行き来する、少し、少し もう 大きく なってから、おじいさんたちは

xamɪ, mimbə orpičɪ bičiti, botanʒdasomɪ, botamɪ.
ああして 私を 連れて行く のだった、 漁しに行って、 漁して。

adɒl tuləčii~, aɒnʒadɒ purəndu, purəndu bimi, xəwən daadɒnɪ~,
網を 仕掛ける、 小屋で 森で、 森に いて、 湖の 川の流出点で、

Duɒʒindu. bii-gdəɪ ənʒurəʒii~ geɒɪ, tɪ geɒɪ, mumbə
ドウジ村で。 私は 煮炊きをする、 漕ぐ、 そうして 漕ぐ、 私たちを

tɪ daaɪ gursəl tɪ geɒlowɒ, geɒlowandɪ bičiti.
その 年輩の 人々は そうして 漕ぐ事と、 漕がせる のだった。

əi ʒulikini, buə nʒuɒčikə purulsəl tɪ geɒličɪ bičipu,
この 以前には、私たち 小さな 子供達は ああして 漕ぐ ものだった、

əkəsəli, a xusə nɪ xaalɪ-daa geɒlasɪtɪ, naatɪ nʒokčamaari
女たちが、他方 男の 人たちは いつだって 漕がない、彼らは 舵を取って

təəsiiti. trubkanɪ ɢolmɪ~-guni. titaraa, xərə, xərə tɪ urəxənʒi,
座っている。キセルは 長いのだ。 それから 少し、少し そうして 育ってから、

tɪ mapasal, mimbə tɪ orpičɪ bičiti-guni.
その おじいさんたちは 私を そうして 連れて行く のだった。

geɒ geɒlabdajɪ, ənʒurədii~, geɒɪ~ sɒgdəta waawɒ, waawoɒɒatɪ
櫓を 漕ぐために、煮炊きするために、漕ぐ、 魚を 捕る、 彼らが捕ったなら

seeptɒlawə, xai suilii~, naatɪ, xai mənə təɒʒəčii~,
鮭の炒め物を、ほれ 掻き混ぜて作る、彼らは あれ 自分らは 魚を捌く、

seeptola suilii, tamı-dee makorı anjor~ tamı,
炒め物を 掻き混ぜる、それから 鮭の干物を 作ったり して、

xəwəndu, Duuji xəwənduni tıı, əvsijjır~,
湖で、 ドウジの 湖で そうして、 母方の叔父さんと、

Mitrika, Mitrika agajı, tıı tıısal, tıısal tıı orpıçıı biçiti.
ドゥミートゥリ 兄さんと、その 彼ら、彼らが そうして 連れて行く のだった。

tamı-dee xəə urə..., patala osıjji gəsə, kolkhozdu, kolkhoz
それから 少し 育って 娘に なるや いなや、コルホーズで、コルホーズに

japajoxanı-guni. amajır~ puliktii biçini-guni, butamı. əmdə-gdə
採られたのだ。 父さんと 行き来して いたのだ、 漁をして。 ある時

xaidu, xai aňandonı bičə, vojna biçini-guni, amaa~ xai, min
いつ、何の 年 だったか、戦時中 だったのだ、父さんと、あれ、私の

ənbi, min ambı asını, min əñirəmbi osını-guni, min bəjə ənbi
義母、私の 父さんの 妻、私の 義母と なるのだ、私の 実の 母

bisini, əñirəmbi, aaksalrı Vanja, Serga čopal ujuu biçiti,
ではなくて 義母と、 兄達と、 ヴァーニャ、セルガ 皆 存命 だった、

vojna əruduni, eto gde-to 43-m godu, 42-om godu, naverno, xawa,
戦争の 時に、 それは だいたい 43年、 42 年に、たぶん 川の合流点、

xaidu, xawanı daadonı, Duujindu, daarı mangodu xawa daadonı
あそこに、湖の 川の流出点、ドウジに、大きな アムールに、湖の 川の流出点に

biçipu, tıdo-gdə, kuitəl meečanı, amaa, min ambı
私たちは暮らしていた、その時に、測量士、 父さん、私の 父さんは

kuitəl meečanı biçini, kuitəl meečanı, jırj jırj, daarı daarı ajimba
測量士 だった、測量士、 すっごく 大きな 大きな チョウザメを

waarını, i tuə, tuə nərkimbə xarwa anjoxatı-guni
捕る、 で 冬に、 冬の 頃に あれを 作ったのだ、

əi, əi man
この、この アム

əjəki-ə~ m
ここに沿って 灯

majaksal čopal,
灯台は 全部

tıı, mun
そうして、私たち

tıı tamatawa
その そのような

əmdə, um, əm
ある時、ある、あ

tıtaraa gajoxanı
それから 持って

ugda, buə, d
船、 私たちの ナ

waata.
波が立っていた。

xai, kuitəl, joor
あれ、鉤を 見

waaxanı~, əjəči~
捕った、 こんな風

ugda ujəəkini,
船 以上に大きい

toançrı-nuu, tıtar
はずしたのか、それ

əi, əi mangokɪ, majakwa anjoktaxatɪ. tɪdɔ~
この、この アムールに沿って、 灯台を 彼らは作った。その時

əjəki-ə~ majak anjoktɪ, majaksal əgdi biči, əsi tɪ
ここに沿って 灯台を 作る、 灯台が たくさん あった、 今 その

majaksal čupal, neemɪ, ʊm majak-dəə kəwə očɪn bis-kə.
灯台は 全部 腐って、一つの 灯台も 無く なった のじゃないか。

tɪ, mun xaidɔpɔ, xawani daa jakpadonɪ,
そうして、私たちの あそこに、湖の 川の流出点の 近くに、

tɪ tamatawa anjɔmɪ, majak anjɔɪ gursəl bičiti. taraa
その そのようなのを 作って、 灯台を 作る 人々が いた。 それから

əmdə, ʊm, əmdə-gdəl, xai, kuitəli tɪmaɪ, joorɔŋdoxon,
ある時、ある、ある時に あれ、定置の鉤を 朝に、 調べに行った、

tɪtaraa gaɟoxani, xai, ʊgda, naaɲɪ ʊgdani bičini-guni, daaɪ-ʊ~
それから 持って来た、あれ、船、 ウルチャの 船が あったのだ、大きな

ʊgda, buə, daaɪ mangodɔ, waata, tes ɲaarakta
船、 私たちの 大いなる アムールには 波が、 すごく 大きな

waata. təə əmdə,
波が立っていた。 ほうれ ある時、

xai, kuitəl, joorɔŋdoxonjɪɪ jɪjuxəni, tɪmaɪ, daaɪ aɟɪmba
あれ、鉤を 見に行ったのから 戻って来た、朝に、 大きな チョウザメを

waaxani~, əjəəči~ daaɪ-tama, ʊgda, ʊgda əjəəči biini. aɟɪ-gdəl,
捕った、 こんな風に 大きいのだ、船の、船の このぐらい ある。チョウザメは、

ʊgda ʊjəəkini, xoonɪ tɪwa toančɪɪ-nuu, xoonɪ
船 以上に大きい、どうやって それを 鉤からはずしたのか、どうやって

toančɪɪ-nuu, tɪtaraa, təəl, aɟɪmba-daa xaidɔ,
はずしたのか、それから その当時は、チョウザメも あそこに、

kolkhozdu, kolkhozdu-dæ botaxa, xəwən, xəwən, Duujindu
 コルホーズに (渡した)、 コルホーズで 漁をした、湖の、 湖の ドウジで、

xəwəndu, daadoni, Sofisk, Sofisk, gəsə,
 湖の 流出点で、 ソフィースク、ソフィースク (の人たち) も 一緒に、

gəsə bičipu-guni. tæl vojna ərunduni sugdatawa buə
 一緒に 私達は暮らしていたのだ。その当時 戦争の 頃に 魚を 私たちは

jepuwəs, xai, brigadadu dəjsumi-dæ omotu, korowa, xasə-a
 食べられない、あれ、作業班で 働いていても 同じく、カワカマス、何匹かの

korowa, xai, siruuwə~, xaiwa xasomba otutakamba japu,
 カワカマスを、あれ、ウグイに似た魚を、あれを 何匹か ちょっとだけ 取る、

məənduji. titaraa tiwa, əi-məəči čaasumi boriti, gərəə~
 自分らに。 それから それを、こんな風に 切って 分ける、たくさんの

ñu-guni, əkəsəli-mən dəjsiini, əkəsəli, purulsəli, titaraa xai,
 人々なのだ、 女たちだけが 働く、 女たち、子供たち、それから あれ、

pasi pasi, ojaawa-dæ, om ojaawa, gərəə~ ñidu boriti,
 かけらを かけらを、鯉でも、 一匹の 鯉を、 たくさんの 人に 分ける、

otir~ paaldoni əi, əjəəči əjəəči,
 ほんの少し、ある者には これ、と、こんな風に こんな風に、

taraa nəəktiiti, taraa omu ñu xərəliini,
 それから 分けて置く、 それから 一人の 者が 周って行く、

“komu, eto komu, komu, paañidoni bai dılı-məli, paaldoni
 「誰々に、これは 誰に、誰に、」と、 ある者には ただ 頭だけ、 ある者に、

paañidoni, bai patir-məli, paanidoni wakañi~, tokon talaa.
 ある者には ただ 尻尾だけ、ある者には ありがたや、真ん中の 刺身。

i tæl, xai, tii tii bičin, waawu, sugdatawa čupal sdavaju
 そして 当時は あれ、あのよう だった、捕る、 魚を 全部 引き渡す、

zavoddu, vojnu,
 工場に、戦争を、

gursəl jəbdəni
 者たちが 食べる

japawasi bičini-
 取らない のだっ

dobrosovestnye byl
 良心的 だ

tii daari
 そうして 大きな

bəjəwəni, bəjəwəni
 その体を、体を

prinimaet xaiwa,
 取る、 あれを

pukumbəni~ tii
 腸を そうし

čupal, tii xa
 全部 そうして あ

əsi wəndəčan
 たった今 私は言っ

ločasal bič
 ロシア人たちが い

taraa tii ajm
 それから その チ

iraxa~ zavoddu sdav
 運んだ、工場へ 渡す

zavoddø, vojnu, vojnu, vojnawa bələčumi, xai, sorii, čauxa sorii
工場に、戦争を、戦争を 手伝って、あれ、戦う、兵士が、戦う

gursəl jəbdəni, čəpal sdavaju bičini, məənduji japawasi,
者たちが 食べるようにと、全部 渡す のだった、自分には 取らない、

japawasi bičini-nuu ələə, ŋii paapolasını-guni, xai, mənə,
取らない のだった、もう、人が 禁止しているわけでもなくとも、あれは 自分で、

dobrosovestnye byli ljudi da, v to vremja. titaraa, tii ama
良心的 だった、人々は、そう、その頃は。それから そうして 父さんが

tii daai ajimba waaxandø-gdə~l xaiwa, zavod prinimajumi,
そうして 大きな チョウザメを 捕った時に、 あれを、工場が 受け取って、

bəjəwəni, bəjəwəni japii, dılrwanı, pukumbəni, prinimaisın bar bəjəkəəmbəni
その体を、体を 取る、頭を 腸を 取らない、 ただ 体だけを

prinimaet xaiwa, anjəbdii, konservawa anjəbdii, zavod, taraa
取る、 あれを 作るために、 缶詰を 作るために 工場は、 それから

pukumbəni~ tii xaiwanı jıj jıj, daai xai, tii dılrwanı paawanı~
腸を そうして あれを、 すごく 大きい あれ、その 頭を 肝臓を

čəpal, tii xaiwa, anjəi ločasal, tii xai, bičə~
全部 そうして あれを、作る、ロシア人たちは、そうして 何 だっけ、

əsi wəndəčəm-kəə, majak, majakwa vyvkasalba anjəi
たった今 私は言ったじゃないか、 灯台、 灯台を やぐらを 作る

ločasal bičiti, tiisaldø~ buuktəxəpu-guni.
ロシア人たちが いた、 彼らに 私たちは分配したのだ。

taraa tii ajimba bəjəwəni, amaa tii, Duujimbəən
それから その チョウザメを その体を、 父さんは そうして、ドウジ村の方へ

iraxa~ zavoddø sdavəmdamı. tii təəl waaxanı ajı, bii
運んだ、工場へ 渡すために。そうして その時に 捕った、 チョウザメは、私は

tamata aĵimba, tælkæən, æmdærækæən ičəxæmbi, tawančī-dæə
あんな チョウザメを、あの時だけ、たった一度きり 見たよ、 あれからは

xaidu-dæə ičəmi-dæə kəwə, ĵiŋ ĵiŋ, ŋaarakta daai, ĵiŋ ĵiŋ, ugda, ugda
どこにも 見るこゝが ない、 すごい とても 大きい、すごい、船、 船

ujeekini bii aĵi-tama. ugda tii bii, tii aĵi, aĵimba, daai
以上も ある チョウザメだ。 船が ああ だ、その チョウザメを、大きな

aĵimba, kəəjuktəĵini naaŋii, kəəjuktəĵini, taundii bičiti,
チョウザメを 背骨の骨で ウルチャたちは 背骨の骨の数を 数える ものだった、

kəəjuktə. aĵipə, xai, xaiduŋi bis-kə, kəəjuktəwə
背骨の骨を。私たちのチョウザメは、あれ、あそこに あるじゃないか、背骨の骨を

saarŋisi. tii kəəjuktə, tiwa, tii kəəjuktəwə taunditi,
知っているか。その 背骨の骨を それを その 背骨の骨を 彼らは数える

taundii bičiti, kəəjuktələ. tii dəŋsuxæmbi-guni, titaraa xərə
数える のだった。背骨の骨から。そうして 私は働いたのだ、 それから 少し

xai, očiŋĵi, komsomol, komsomol oči, brigada dəŋsii,
ああ なってから、共産青年同盟員、共産青年同盟員に なった、作業班で 働く、

brigadaĵi-daa, xai, ĵəajoočani, usundu, shamankado, usumbə tarčii,
班で、 あれ、夏になれば 畑で、 シャーマンカ川の所で 畑に 植える、

kolkhoz usumbəni. a bolo, ŋəŋŋə, tuə bəti, bətamı xərəlii.
コルホーズの 畑を。 でも 秋と 春、 冬は 漁をする、漁をして 周る。

tuə tii daai mangodo ĵuwa, ĵiŋ ĵiŋ, ŋaarakta, bəjə, dilĵi-dæə,
冬は そうして 大きな アムールで 氷、 すごく 大きな、 体や 頭よりも

gugda, tii ĵuwəwə, duučuwu~, xarwa tii, xai ĵuwəwə
高い、 そんな 氷を 穴を開けるのだ、あれを ああして、ほれ 氷を

ačuktamı, tes manga too~ glubokij, tes sŋtawə.
取り去って、すごく たいへんだ、ほうれあんなに 深い、 すごく 深いのを。

ŋəŋŋə aŋgalı,
春は アンガ

53-m godu, St
1953 年に、ス

sogdata xaıxan,
魚を ああして

daai mangodo
大きな アムール

aŋanı kəta isaa
年は とても 少

jap, aŋgalomı,
一面に アンガ網を

brigada məŋdəə-
作業班が 皆だ。

predsedatel'-dæə mun
議長も 私た

təsumi, xaidu
座って、 あそこに

təŋ, təŋ na
まさに、まさに そ

xarwa gəsə gas
それを 一緒に 一

poopačini~ tim
サイレンが鳴る、朝、

osini, bətauwə b
なると、漁をする の

ňəŋňə angalı, tuwə-dəə angalı,
春は アンガ網を打つ、 冬も アンガ網を打つ、

53-m godu, Stalin bučinduni, buə vsje brigada čupal,
1953 年に、 スターリンが 死んだ時に、 私たちは 全ての 作業班が 皆、

sugdata xaıxan, sugdata təəl aňanı, xai-dəə isaadı bičini, Duujin
魚を ああしていた、魚が その 年は、 何とも 少なかった、 ドウジで、

daai mangvudə voobshshe, sugdata uləənji waawu-guni. a təəl
大きな アムールでは ふつうは 魚が 良く 取れるのだ。ところが その

aňanı kətə isaadı bičini sugdata. titaraa brigada məndə, mangwa
年は とても 少なかった、 魚が。 それから 作業班が 皆、 アムール

jap, angalomı, duučipu~, gərəə ŋıı, gərəə ŋıı
一面に アンガ網を張って 氷に穴を開ける、たくさんの 人、 たくさんの 人、

brigada məndəə-də. tamı-dee timai, predsədatel', əi julikini
作業班が 皆だ。 そうしていると 次の日、コルホーズ議長、この 以前には

predsədatel'-dəə munji gəsə gəsə dəŋsii bičiti. xai, jvgdu
議長も 私たちと 一緒に 一緒に 働く のだった。あれ、家の中に

təəsumi, xaidə kontoradə təəsumi jəŋgikaačomı ui-dəə kəwəni,
座って、 あそこに、事務所に 座って 命令するなんて、誰も いなかった、

təŋ, təŋ nərkimbə, gəsə gəsə, mun xarwa dəŋsiipu
まさに、まさに その頃には 一緒に 一緒に、私たちが 何か 働いていれば

xarwa gəsə gəsə dəŋsii bičipu. titaraa, əmdə zavod,
それを 一緒に 一緒に 働く のだった。それから ある時 工場の、

pəupačimı~ timai, vosem' chasov, jakvə chasıdə, timai, grwando ŋəəm~
サイレンが鳴る、朝、 8 時に、 8 時に、 朝、 日の出時に 明るく

osımı, botawu bičini-guni, əi julikini, xai dəŋsuwu, svetovoj den'
なると、漁をする のだった、 この 以前は。ほれ 働く、 明るい 日中の間は

rabotali, ot zari do zari.
働いた、朝焼け時から 夕焼け時まで。

ŋəəm~, ŋəəm~ osini xai, ŋənəwu, taraa jakpu chasadu,
明るく、明るく となると ほれ、行く、それから 8 時に、

zavod puupaarini, puupaačini~, tuə-tama, xai april' xai,
工場が サイレンを鳴らす、鳴らす、冬、 いや 四月に いや、

martadu, martadu-guni, Stalin bučini. titaraa buə
三月に、三月にだ、スターリンが 死んだ。それから 私たちは

muručipu, juə-gdəl xai, ŋisal, ŋii iiwučəni-dəə, xai
考える、夏に あれ、人々が、人が お客に他所から来ても、何か

očin-dəə tii zavod tii puupaačini xai, titaraa əsi,
あっても その 工場は ああして サイレンを鳴らす、あれだ、それから 今、

určölöndirpu, məən doolaji, brigada xai, ŋui miixəni,
私たちは話し合う、自分らの 間で、作業班の あれ、誰かが 道に迷ったか、

zavod tii goroji puupaačini, goro goro
工場が こんなに 長いこと サイレンを鳴らしているなんて、ずっと ずっと

puupaačini, tii puupaači tii puo..., tamr-dee
鳴らしている、そうして 鳴らしている、そうして、 そうしている

ičiipu anajee, Duujinji omə ŋii, tutuliini~, tukii
私たちは見る、ああ、ドゥジ村から 一人の 人が 駆けて来る、倒れては

iljor, tukii iljor, tamr tutuliini. buə-gdəl tii
立ち上がり、倒れては 立ち上がり して 駆けて来る。私たちは そうして

pəəsikiipu~ wəndiiduni xai očini-nuu, xai očini-nuu,
変だなあと見ていて そう言っている時に 何が 起きたのか、何が 起きたのか、と

titaraa xai, tii julikini, kəwə, tapr-dəə,
それから あれ、その 前に (街に行っていて) いなかった、それから、

tamr-dee
そうしていると

predsedatel', loča
議長は ロシ

əktə pikə, Nina
女の 子、ニ

tatučixani, tar
勉強していた、そ

tutuliini bis-k
走っている じゃ

tukii iljor,
倒れては 立ちし

tii puupaač
そうして 鳴らす。

xamr, polaxom
ああして 叫んで

dooldirpu St
私たちは聞いた、ス

buə-təni čopal tu
私たちは 皆 そ

mitingə xai, mitin
集会、ほれ 集会

tuə sogdatawa-daa
冬で 魚も

mangu daar-gur
アムールは 大きい

tamr-dee jŭjalaa osŭjŭmŭ xar, Zhurbin bičini,
そうしていると 近くに 来てから あれ、ジュルビン（議長の娘） だった、

predsedatel', loča. tŭ Zhurbin piktəji taakoxanŭ,
議長は ロシア人だ。その ジュルビンは 自分の子供だと わかった、

əəktə piktə, Nina bičini, patala. Buridu-nuu xardo-nuu
女の 子、 ニーナ だった、娘。 ハバロフスクだか どこだかで

tatočixanŭ, taraa kanikul'ji jŭjuxəni. tŭ tŭ
勉強していた、それから 休みで 戻って来た、そうして そうして

tutuliini bis-kə~, tukii iŭjŭi tutulii,
走っている じゃないか、転んでは 立ちして 走る、

tukii iŭjŭi, tŭ zavod, tŭ pŭŭpaačŭ,
倒れては 立ちして、 あの 工場は ああして サイレンを鳴らす、

tŭ pŭŭpaačŭ. tamr-dee xarwanŭ-dəə pŭlaxŭmŭ~ ņaalaŭŭ-ma
そうして 鳴らす。 そうしていると 何かを 叫んでいる、手で

xarŭmŭ, pŭlaxŭmŭ tŭ tutuliini. tamr-dee jŭjalaa očŭmŭ xar,
ああして 叫んで そうして 走っている。そうして 近くに なって あれ、

dooldŭpŭ Stalin bučini, guŭjələə, Stalin bučini.....,
私たちは聞いた、スターリンが 死んだと、可哀そうに、スターリンが 死んだと、

buə-tənii čŭpal tŭ tŭ xar, čŭpal songŭtŭ ŭmŭtoŭŭ, tŭtaraa xar,
私たちは 皆 そうして あれ、皆 泣きそうに なって、それから あれ、

mitingə xar, mitingədu əgdi ņŭŭ-guni, gŭtŭ puləmi~ brigada,
集会、 ほれ 集会に たくさんの 人なのだ、三十人 以上だ、 作業班が

tuə sugdatawa-daa waawasi, ŭm baado-mal očŭpo-guni, a
冬で 魚も 捕れない、ある 場所ばかりに 集まっていたのだ、でも

mangŭ daar-guni, tŭ mangowa jap, xarŭla, xarŭŭčŭ,
アムールは 大きいのだが、その アムール 一面に、そこに、ああした、

angalɯɯxapɔ. titaraa tɯ xai, tɯ jɯpu~, poktokɯ
 アンガ網を張った。それから そうして あれ、そうして 戻ろう、道に沿って、

əi-mæəci-lə jɯ jɯ, rjadom ɯlraa tɯ ɯniipu, tɯ ɯniipu,
 こんな風に すごく多い、列を なして そうして 去る、 そうして 去る、

tɯ tɯ songomɯ, songomɯ tɯ-guni, jɯuəpu Duujɯnbəəni,
 そうして そうして 泣いて、 泣いて そのようなのだ、戻る、 ドウジ村へ、

mitingəbəəni. titaraa tɯ mitingəbəəni tɯ Stalin bučimbəni-kəə
 集会へ。 それから その 集会へ その スターリンが 死んだことを

xai, tɯdɔ aldaɯɯtɯ. eto 53-m godu, ələə ələə
 ほれ、そこで 彼らが伝えてくれた。 それは 53 年のことだ、もう もう

tɯwa-dəə ələə ɯɯbɯ. martadɔ, xai martadɔnɯ ɯɯboxombɯ,
 そのことも もう 忘れていた。 三月に あれ、三月に 忘れていたけど、

Stalin bučimbəni. tɯ dəɯsɯxəmbi-guni~ ɯnuɯɯkəələ-pək,
 スターリンが 死んだことを。 そうして 私は働いていたのだ、 小さい時からずっと、

ɯnuɯɯkəələ xoonɯ məəpi xai, puliktəluxəɯɯ, kotamba
 小さい時から どんなにか 自分が あれ、やっと歩き始めた時から 皿を

sɯɯɯɯwəndii, xəəi, daaɯ ɔɯɯɯɯ, xarwa muəwə muəlsuwəndii,
 洗わせた、 少し 大きく なってから、あれを 水を 汲みに行かせる、

xəə daaɯ ɔɯɯɯɯ, botamɯ ɔɯɯɯɯ, geɯɯɯwəndii, geɯɯɯɯ
 少し 大きく なってからは、魚捕りに 連れて行く、漕がせる、 櫂が

mimbə tirii. tɯ ɯnuɯɯkəələ-pək tɯ, botamɯ, xəəlii
 私を 打つ、そんな風に 小さい時から そうして 漁をして、行き来する、

botɯ-də, jɯa usundu, patala ɔɯɯɯɯ, jɯa usundu dəɯsɯ.
 漁もする、夏は 畑で、 娘に なってから、夏は 畑で 働く。

47-oj godado, xai xai, tarɯxapɔ-guni xai, Shamankadɔ kolkhoznyj
 47 年に あれ、 植えていたのだ あれ、シャーマン川の所で コルホーズの

xai bičini,
 あれが あった、

tes muə,
 ひどく 水が、

səjuxu-dəə muə
 ベリーも 水の

ɯnoo~m baldɯɯ,
 緑に 生えてい

namɯ-mæəci-lə.
 海のようなだ。

bičini-guni, sogɔ
 だったのだ、 魚も

titaraa ɯəɯɯɯ,
 それから 春に、

Shamankabaan du
 シャーマン川へ

lom, ui lom
 鉄棒、ある者は 鉄

xarwa, kartoshkawa,
 あれを、ジャガイモ

xarxa, singunčini
 ああした、凍っている

(引っ掻き出す)、そ

japaktamɯ əi-m
 いくつか取って こん

xar bičini, uchastkanı bičini. tıdo tarıxapı 47-oj god,
あれが あった、土地が あった。そこで 植えていたが、47 年に、

tes muə, dalaa biči, ŋaarakta dalaa. čopal aamboxanı.
ひどく 水が、洪水 だった、ひどい 洪水だ。 全て 水に浸かった。

səjuxu-dəə muə dookını ŋoo~m ĵustə, ĵustə muə dookını
ベリーも 水の 中に 緑に見える、クロマメノキが 水の 中に

ŋoo~m baldını, usu, kolkhoz usuni čopal aamboxanı, tılı tılı
緑に 生えている、畑、 コルホーズの 畑は 全部 浸水した、 こども そこも

namu-məəči-lə. titaraa~ tıı 47-oj god, xagdaı, xagdaı aňanı
海のような。 それで その 47 年は、 飢饉、 飢饉の 年

bičini-guni, sogdata-daa kəwə, xar-daa kəwə. tes dalaa.
だったのだ、 魚も 無い、 何も 無い。 すごい 洪水だ。

titaraa ŋəŋə, a tuə, tuə tuəji-pək xarıwa, tıı
それから 春に、 いや 冬、 冬 冬からずっと あれを、その

Shamankabaan duujinji puliktii bičipu, lomawa orpičomi,
シャーマン川へ ドウジ村から 通う のだった、鉄棒を 持って行って、

lom, ui lomawa ĵapıı, ui karıawa ĵapıı, taraa tıı
鉄棒、ある者は 鉄棒を 持つ、ある者は 鉄の搔き棒を 持つ、それから そうして

xarıwa, kartoshkawa, singu, naa guči singunčiini-guni, muə dooloni
あれを、ジャガイモを、凍った、地面が また 凍っているのだ、水の 中に

xarıxa, singunčini tıwa-gdəł lomji xarııı, karıajı xarııı,
ああした、凍っている それを 鉄棒で ああする、鉄の搔き棒で ああする

tıı kartoshka landorikiwanı, tıı singu kartoshkawa
(引っ搔き出す)、そして ジャガイモの お焼きを、 その 凍った ジャガイモを

ĵapaktamı əi-məəči-lə, kapa-məəči-lə očını, tıı landoriki
いくつか取って こんな風に、薄焼きのようになっ、た、 その お焼き、

tiwa, tiwa gaasumaari, ločasal-dəə zavod, ločasal-dəə
それを、それを 持って来て、ロシア人たちも、工場の ロシア人たちも

ti gaasori~, buə kolkhoz xai, naaŋŋsal-daa ti
そうして 持って来る、私たち コルホーズの あれ、ウルチャ人たちも そうして

gaasori tiwa anjoraa, tiwa xai gajoraa, točji irčumi.
持って来る、それを 作ってから それを ほれ 持って来てから、櫓で 曳いて。

duujinbəən gajoraa tiwa xai, landoriki, lepeška anjori
ドゥジ村の方へ 持って来てから それを あれ、お焼き、 薄焼きを 作る

bičipu, kapamba, əpəəmbə anjori bičipu. titaraa tiwa, pokal
のだった、薄焼きを、パンを 作る のだった。それから それを、熱いのを

jami xai-daa amtawoli, gitul, gitul opučani, pəər pəər pəər
食べて 何とも おいしい、冷たく、冷たく なってしまうと サラサラと粉のように

odiini, kraxmal ti-guni. xaidu, vojnado,
なる、 澱粉というのは そのようなのだ。 あの時、 戦時中に

mun xaidu ti amaa, ajimba, daari ajimba
私たちの あの時、あの 父さんが、チョウザメを、大きな チョウザメを

waaraa ti-doni, xaiji, rezidencijaji, xai xai, pulmə
捕ってから その時に、あそこから、事務所から、あれ あれ、歩いて

puliktii bičiti, ločasal, xai xaiwa, wəəluwu,
行き来する のだった、ロシア人たちは あれ、あれを 森の丘を越える、

pos pos-də. rezidencija xaidu bičini-guni,
まっすぐにだ。 事務所が あそこに あったのだ、

Udył, Udył, Kol'chem xəwəni, Kol'chem xəwənduni
ウディリ、ウディリ、カリチョームの 湖、 カリチョームの 湖に、

tidu priisk bičini. asimba xai, gələkəčuwu, priiskati,
あそこに 拠点が あった。 金を あれ、探している、彼らの拠点到

ločasal
ロシア人たちが

juwəčiŋdəsumi
交換しに行つて、

xagdao aŋani.
飢饉の 年に。

ti, mənə
そうして、 自分

əi-məəči ti
こんな風に ああ

kubik, ina, ə
角型に、そうだ、こ

tətuəlbə~ xai b
着物を、 あれ、古

tətu anaa, sarg
服は 無く、 衣類

taraa~ tiisal
それから 彼らの

botu xai gu
漁をする ほれ 人

pinalajomı botu
背負つて 漁をする

Kol'chem xəw
カリチョームの 湖に

47-oj goddu. ti
1947 年に。そうして

lučasal bičiti. daar sogdatawa xai, sogdatawa
ロシア人たちが いた。 大きな 魚を あれ、魚を

juwəčinđəsumi tii puliktii bičiti, 47-oj, golodnyj,
交換しに行って、 そうして 行き来する のだった、 47年の、 飢饉の、

xagdav aňani. sogdata xai-daa aja, xai-daa aja
飢饉の 年に。 魚は 何でも よい、何でも よい、

tii, mənə-gdəl, xai, serawan~, serawa xailaraa, pujuurəəə,
そうして、 自分らは あれ、 樹脂を、 松脂を ああしてから、煮てから、

ai-məəči tii kubik anjōiti, ai-məəči tii
こんな風に ああして 角砂糖のような形に 彼らは作る、こんな風に そうして

kubik, ma, ai-məəči tii kubik anjōiti. tiwa~ balapti
角型に、そうだ、こんな風に そうして 角型に 作る。 それと 古い

tətusəlbə~ xai balapti uta, xaiwa-dəə xum juwəčumi, a buə-gdəl
着物を、 あれ、古い 靴、 何でも 全て 取り替えて、一方 私たちは

tətu anaa, sanğa anaa tiwa, sogdataji, juwəčii bičipu,
服は 無く、 衣類は 無く、 それを、魚と 交換する のだった、

taraa~ tiisal xajōmba olbimi munti didii, xai, ma botii,
それから 彼らの 物資を 持って 自分らの所へ 戻る、あれ、そうだ、魚を捕る、

botii xai gursəl tii. titaraa tawanči-gdəl sogdatawa
漁をする ほれ 人たちだ、それは。 それから そこから 魚を

pinalajōmi botii xai, gajōr~ pos pos xaiti, puliktii,
背負って 漁をする、いや、持って来る、まっすぐ あそこへ 行き来する、

Kol'chem xəwəñjini, tii wəəlupečii bičiti,
カリチョームの 湖から、 そうして 丘を越えて行き来する のだった、

47-oj goddo. tii priiskawa-daa balanaa, posle vojny, vojna xoduočani
1947 年に。そうして 拠点も ずっと前に、戦後、 戦争が 終わったら

biilə xaxatı, zavod priiska bičini-guni. redizenčija
 だろう、 ああした、工場や 拠点が あったのだ。 事務所と

nazyvalsja, xai Kol'chem xəwənduni. tii bičini, taraa
 呼んでいた、あれ カリチョームの 湖の所に。 そんな風 だった、それから

sorok..., vojna xodaxandoni, 45-om godu, vojna xodaxandoni-daa
 戦争が 終わった時に、 1945 年に、 戦争が 終わった時にも、

bua baaračumaari-daa kəwə. xooni baaračiisi əi, əi jədu,
 私たちは 喜びも しなかった。 どうして 喜べよう、この、この ここで、

sorii, sunji sorii. vojnadu, xaidu, solila vojna xodaxa,
 戦う、おまえたちと 戦う。 戦争で、 あれで、 上流では 戦争が 終わった、

a mundu-gdəl vojna osini-nuu, xai osini-nuu, tii
 しかし 私たちの所では 戦争に なったのか、何が 起きたのか、 あの

sorimba tii xai əurəčumi tii, ɣələčuməəri tii
 戦いを ああして あれ、 待って ああして、 恐れて そうして

bičipu-guni. əi-məəči-lə biuxə. kolkhozdu dəɣsixeləmbi-guni,
 我々はいたのだ。 こんな風 だった。 コルホーズで 私は働いたのだ、

baldaxanji~ kolkhozadu-mul, duuɟindu kolkhozadu dəɣsixeləɟiji
 生まれてから コルホーズでもつばら、ドウジ村で コルホーズで 働いてから

əwəsi bələwanrı dičinduji bələwa kolkhozdu-daa əi
 ここへ ブラバ村へ やって来た時に ブラバの コルホーズでも この

sagdanjərdala tii dəɣsixelə. xaidu-dəə zarplata bakamı
 年老いてしまうまで そうして 働いた。 どこでも 給料を もらって

dəɣsumi-dəə kəwə. a kolkhozadu, əi ɟulikini, bətamı xai,
 働くことも ない。 でも コルホーズで、この 以前には、漁をして あれ、

xarwa buurə, xarwa-daa buurəsi bičiti-guni, bətamı, bətapı~,
 あれを くれた、何にも くれなかったのだが、漁をして、漁をすると、

wakajı sugdata,
 幸い 魚が、

wakajı sugdata
 幸いに 魚を

amanaa xairı
 父さん達が ああ

talın, opa,
 配給券が 小麦粉、

əpəəndu~ tii
 パンに、 その

sugdatawa buupi,
 魚を 渡せば

seetamba-daa dalı
 砂糖も 袋で

buurii bičiti
 くれる のだった、

tii posle vojna
 あの 戦後、戦争が

əpəəmbə, əpə
 パンを(得る)、パ

dve sti gramm,
 二 百 グラム、

zavoddu dəɣsii ɟurı
 工場で 働く 人

dəɣsii ɟursəli,
 働く 者たちは、

wakaĵi sogdata, Duuĵindu sogdata-daa malxo biĉini-guni,
幸い 魚が、ドウジには 魚も たくさん いたのだが、

wakaĵi sogdata waapi, xaiĵi, xai biĉini-guni, xai-tama~, talon
幸いに 魚を 捕ると、あれで、何 だったっけ、何だっけ、配給券だ、

amanaa xairii, amanaa mənə xairii, talon buurii biĉiti.
父さん達が ああする、父さん達は 自ら ああして、配給券を 配る のだった。

talon, opa, upandu~, simsədu, seetandu~ tii talon ii,
配給券が 小麦粉、小麦粉に、油に、砂糖に、その 配給券が そう、

əpəəndu~ tii talonĵi, xai, ĵəpuwə gaktii biĉipu. wakaĵi
パンに、その 配給券で、あれ、食料を 買う のだった。 無事に

sogdatawa buupi, wakaĵi dalin dalinĵini, upamba~, xarwa
魚を 渡せば、ありがたや 袋、袋で 小麦粉だの 何だのを

seetamba-daa dalinĵini~ simsə-dəə vedroĵi~ tii, tii xai
砂糖も 袋で、油も バケツで そうして、そうして あれ、

buurii biĉiti talonĵi. tii, tii talon kəwə oĉinĵini,
くれる のだった、配給券で。そうして、その 配給券が 無く なってから、

tii posle vojna xoduočani, vojna xoduočani biilə, kartochka,
あの 戦後、戦争が 終わると、戦争が 終わったら だろう、配給切符が、

əpəəmbə, əpəə kartochka oĉini-guni. sto gramm,
パンを(得る)、パンの 配給切符が できたのだ。 百 グラム、

dve sti gramm, na cheloveka, buə sogdatawa waarii-dəə, ii
二 百 グラム、一人に、私たちは 魚を 捕るのだが、そう

zavoddo dənĵsii gursəli ĵaxa bakii, a buə kolkhozdu
工場で 働く 人たちは お金を 受け取る、でも 私たち コルホーズで

dənĵsii gursəli, kartochkawa bakii-dəə, taraa zavod ĵaxaĵi,
働く 者たちは、配給切符を 受け取る、それから 工場の お金で、

mun kartochkawa gadu bičiti. əpəə, əpəə~ simsə xai
私たちの 配給切符を 得る のだった (彼らは)。パン、パンと 油の あれ、

kartochkawani. titaraa tu kartochkawa-gdəl, mundu, mundu
配給切符を。それから その 配給切符を、 私たちに、私たちの所に

kartochka bii, əpəə, xai-daa xum kartochkani, a jaxa kəwə.
配給切符が ある、パンでも 何でも 全て その配給切符が、でも お金が 無い。

bua gami mutəsi. titaraa tu tu-məəči-lə xairu
私たちは 買うことが できない。それで ああして あんな風に ああする

bičipu-guni, lučasal mundu, jaxa buurii, buə-gdəl, kartochka
のだった、 ロシア人たちが 私たちに、お金を くれる、私たちは 配給切符を

xai, kaltaawani naandoti buurii, kaltaawani məənduji solajui, ii,
あれ、一部を 彼らに あげる、一部は 自分の所に 残す、 そうだ、

vojna xodučani~da, vojna xodučani~da buə 47-om tu,
戦争が 終わったら、 戦争が 終わったら 私たちは 1947 年に その、

tu aňansaldo, tu 47-oi ŋaarakta xagdav aňani bičini.
その その年の頃に、 その 1947 年は ものすごい 飢饉の 年 だった。

sogdata-daa kəwə~, xai-daa kəwə. otu~ ŋəŋə, xai Duujindu,
魚も 無い、 何も 無い。ほんのちょっと 春に、 あれ、ドウジ村に、

xai, baača biini. baača ičəxəsi? solila biči-kəə baača.
あれ、島が ある。 島を 見たか。 上流に あった 島。

tu baača, tu baača xai, xadoni ŋəŋə, oočo purulsəl
その 島、 その 島の あれ、あそこに 春、 小魚の 子供たちが

əgdi~ oočo purulsəni bičini, taraa tu oočo purulsəlbəni,
たくさん 小魚の 子供たちが いた、 それから その 小魚の 子供たちを、

əsi sachokji waaru, titaraa tu, tu sachokwa-gdəl, xai,
今 掬い網で 捕る、 それから その、その 掬い網を、 あれ、

oj xarwa,
ああ あれを、

xuisən-dəə bii,
はらわたも ある

kəstə-dəə mənɔda
うろこも 丸ごと

kəpur kəpur
カポリ カポリ

tu-məəči balda
そんな風に 暮ら

bičini-dəə, ŋui-dəə
いたが、 誰も

baɟomaəxiɣan-daa
憎みあったりも

xarwa, xagdomba
あれを、家も

xai, amaa
あれ、父さんが

əsi əsiwəndəə-də,
今 最近までもだ、

kəwə~, sogdata wa
無い、 魚を 捕

ələə, ɟapam-daa
もう、取っても

solajuwu, aɟimba
残す、 チョウザ

oj xarwa, tii oočo purulsəni otii~ ŋuučikəə oočo
ああ あれを、 その 小魚の 子たちを すっごく 小さな 小魚の

xuisən-dəə bii, xuisən, taraa tiwa-gdəl pukun-dəə mənɟdə,
はらわたも ある、はらわた、それから それを 浮き袋も 丸ごとに、

kəstə-dəə mənɟdə xai-daa mənɟdə tii, zhariraa tii
うろこも 丸ごと、何でも 丸ごと ああして、いためて ああして

kəpur kəpur kəpur tii suxar'-məəči ʃəptii bičipu-guni.
カポリ カポリ カポリと ああして 乾パンみたいに 食べる のだった。

tii-məəči baldəxa~ əi ʃulikini. tii, tii xai, xagdami
そんな風に 暮らしていた、この 以前には。ああして、ああして あれ、飢えて

bičini-dəə, ɲui-dəə ɲuiji-dəə sorixan-daa kəwə~, ɲuiji-dəə ɲuiji-dəə
いたが、 誰も 誰とも 喧嘩したり しない、 誰とも 誰とも

baʃəmaəčixan-daa kəwə, tes uləənʃi biuxə məən dooloʃi.
憎みあったりも しない、とても 仲良く 暮らせた、自分らの 間で。

xarwa, xagdamba-daa ɲui-dəə jakčičixani-daa kəwə, ŋəəxə-dəə,
あれを、家も 誰も 鍵を掛けたりも しない、出かけても、

xai, amaa xaidə, purəəndu bipi ʃiʃupi, gaʃəmi-guni,
あれ、父さんが あれに、森に いてから 戻ってから 獲物を持って来るのだ、

əsi əsiwəndəə-də, əsi vojna xodəvčani~-da, kartochka-daa
今 最近までもだ、今 戦争が 終わってから、 配給切符も

kəwə~, sugdata waapi, aja məənduji-dəə ʃapawə biči, očəxani,
無い、 魚を 捕って、よい、自分の所へ 取ってよい のだった、そうなった、

ələə, ʃapami-daa aja. zavoddu sdavaiʔə-guni, titaraa məənduji
もう、取っても よい。 工場に 引き渡すのだ、それから 自分の所に

soləʃəwə, aʃimba uməmbə-dəə~ ili ŋuučikəsəlɬə-dəə,
残す、 チョウザメの 一匹でも、 それとも 小さな何匹かでも、

kətu ŋuučikəwə waawasi, paapo bičini. xai, titaraa,
あまりに 小さいのは 捕らない、 禁止されて いた。 あれ、 それから

Duujiŋbæŋ jījupi, xardə, ŋɪdɔ borɪ, ŋɪsal taɔndɔŋ
ドウジ村へ 戻ると あそこで、 人に 分ける、 人々 毎に、

xagdɔ, taɔndɔŋ daaraɔčowɔ, tɪ bičini. otɪ~ ŋuučikə,
家 毎に ふるまう、 そんな風 だった。 すごく 小さい、

ŋuučii aji osɪnɪ, otɪ otɪ, xərə~ daaikuɔ xai,
小さな チョウザメ だったら、ちっちゃいのはだ、少し 大き目の あれ、

jəbəji biini osɪnɪ, ambaa daaɪ, daaɟi xai, tɪ ŋɪ,
なんとかよいので なら、ある程度 大きい、大きいので、あれ、その 人は

ŋɪ xagdɔ taɔŋkɪnɪ tɪ daaraɔčowɔ bičini tɪ.
人（毎）に 家 毎に そうして ふるまう のだった、そのように。

əsi, əsi-gdəl tɪ-məəči daaraɔčɪtɪ, ŋui-dəə xai ŋuidu-dəə
今、 今は そんな風に ふるまわない、 誰も あれ、誰にも

daaraɔwandɪnɪ-dəə kəwə. tɪ-məəči bičini~ əi ɟulikini.
ふるまわれることも ない。 そんな風 だった、 この 以前には。

əi ɟulikini, xoɔnɪ sinəɟumi bii-dəə, uləənɟi biuxə.
この 以前には、どんなに 貧しく していても、 仲良し だった。

bii, min muručii uləənɟi, bii-dəkəə tɪ-məəči
私は、私が 思う、（人のことを） 良く、 私ばかりでなく皆 そのように

muručii bisini-guni, ŋui-dəə xum tɪ-məəči, ran'we vse-taki
思っている のだ、 誰も 皆 そのように、以前は それでもやっぱり

luchshe bylo, bedno, no luchshe. gəə, xarwa aldačowɔ, əsi
より良かった、貧乏だった けど もっと良かった。さあ、何を 語ろう、 今

lap ɟapamɪ, xarwa aldačowɔ-kəə. təəlɔŋgu, məən
パッと 思い出せるような、 そんなことを 教えよう。 実話、 自分が

bičimbi
生きてきたことを

jələ
この頃のことを

čaxa, otɪɪɪ
まあいい、

xoɔnɪ tɪɪɪ.
どう すること

54-om godu, 54-
1954 年に、 195

ədiləmi-dəə min
結婚したのも 私

bii ədiji-dəə
私は 自分の夫の

xamɪ-dəə kəwə.
どうも してい

komsomol(ka) b
共産青年同盟員 た

"xai tɪ-mət
「なんで そのと

mimbə,
私を（そうすること

ədiləčixəmbi-dəə
結婚したかったの

komsomolka b
共産青年同盟員 た

bičimbi tælungučixæmbi-dæ tɪla pos,
生きてきたことを 語ってきたのも あの頃のことを ザッと、

jələ pos, tælungučii aja~,
この頃のことを ザッと、語るのも よい、

čaxa, ɔtiliilə., ɔtilii gursəl ɔtiliilə-mə. ɔtilisi gursəl,
まあいい、 できる 者たちは できるだろうし。 できない 者たちは、

xooni tiisi. ələə-guni. titaraa
どう することができようか。 それまでなのだ。 それから

54-om godu, 54-om əwəsi dauxambi-guni. əi, ədiləmi,
1954 年に、 1954 年に ここへ 私は渡って来たのだ。 この、 結婚して、

ədiləmi-dæ mimbə, naaŋɪ doorojɪni, naaŋɪdamɪ ədiləwənčiti,
結婚したのも 私を、 ウルチャの きまりで、 ウルチャ式で 彼らは結婚させた、

bii ədiji-dæ saaxambi-dæ kəwə, ičəxæmbi-dæ kəwə,
私は 自分の夫のことも 知っても いなかったし、見ても いなかった、

xami-dæ kəwə. naaŋɪ doorojɪni ičəwu, bii
どうも していなかった。ウルチャの やり方で ごらんよ、私は

komsomol(ka) biči, ambi xai, amaa, “ɪlamoo,” wəndiini,
共産青年同盟員 だった、私の父は、ほれ、父さんは、「恥ずかしい、」と 言う、

“xai tɪ-mət tawasi, əji čaalɪra,” bii-dæ xai, tɪ
「なんで そのとおりに できないのか、断るな、」と 私も あれ、そうして

mimbə, bii tɪxalami ədiləndəmi, xai
私を（そうすることに）、 私は 同意して 来て結婚して、 あれ、

ədiləčixæmbi-dæ kəwə, tɪ ədiləčumi-dæ aja,
結婚したかったのでも ない、 ああして 結婚しても よいのだろうか、

komsomolka byla, vidish'. əsi bičimčəni xai, kas
共産青年同盟員 だった、 ほれ。 今 だったなら あれ、きっぱり

aʃasɪlaxambɪ. taraa əwəsi diči, əwəsi dičiɪnduji-dəə
断ったことだろう。それから ここへ 来た、ここへ 来た時にも

tɪ kolkhozadɔ tɪ dəŋsuluxəmbi-guni. əsi pensijabaanɪ
そうして コルホーズで そうして 働いたのだ。今 年金生活者に

ŋəniiti~, tɪ kolkhozadɔ, dəŋsixəmbi..., pensijabaanɪ
なっている、その コルホーズで 働いた者たち、年金生活者に

ŋənəxənʃiji-dəə, dəəi ʃakpɔ aŋanɪ, dəŋsixəmbi kolkhozadɔ-mal.
なってから、四十 八 年、働いた、もっぱらコルホーズで。

48 let, rabočij stazh u menja. tɪ tɪ buuxəti,
49年間、仕事の 期間だった、私の。そうして そうして 彼らはくれた、

ʃɪŋʃəsəlbə~ tɪ tɪ dəŋsixənduləji. jədu dəŋsimi-dəə
いくつかのメダルを、そうして 私が仕事したことに対して。ここで 働いても

xai, ɲuučikə purulsəl ɲuučikə, detsaddɔ biiduni, detsaddɔ,
あれ、小さな 子供たちが、小さくて、幼稚園に いる時に、幼稚園に、

roditel'skij komitet biči~. paan, purulsəl daaɪ purulsəl
父母 会が あった。何人か、子供たち、大きな 子供たちが

shkolabaanɪ iixə, shkolajɪ roditel'skij komitet, detsad
学校へ 入ったら、学校の 父母 会 (があって)、幼稚園の

roditel'skij komitet, zhensovet, tɪ tɪ, dəŋsii dalikɪnɪ
父母 会、 婦人評議会、あれこれ、仕事の 合間を見つけて

xaiɪ-daa xum tɪ bičimbi-guni. tɪ xai, rajonnyj
何にでも 全て (出席する) そんな だったのだ。そうして あれ、地区の

deputat-daa, ilaa moda, xai Teenčabaan. titaraa chetvertyj
議員も、三 回、あれ、トロイツコエへ (通った)。それから 四度

raz xai, kas aʃasɪxambɪ. bii təəl “aʃasɪ,” wəndii,
目は あれ、きっぱり 私は断った。私は その時 「断る、」 と言う、

“mənə goɪ g
「自ら 別の

Bolawando dep
ブラバで 議長

pered perestorog
ペレストロイカの

xai-daa tɪ
かんでも ああし

roditel'skij komitet
父母 会も

dalikɪnɪ, pu
合間を縫って、子

xasɔ xasɔ
何頭か 何頭か

kɪlala-daa biči,
渡り鳥も いた、

purulsəlbə tɪ
子供たち ああし

sogdatawa, əi
魚を、この

xaiɪ-daa xum
どっちへも 全部

bičini. əsi-gdəɪ
のだった。今

ičəʃəmi tes
見えて すごく

“mənə goi gursəl xalajırtı.” taxan-daa əi, chetvertyj raz əi,
「自ら 別の 人たちが やるだろう、」と。ところが この、四度目の時に この、

Bulawandu deputat očowančıtı, opančıtı-guni. eto uzhe, pered,
ブラバで 議員に 彼らはならせた。ならせたのだ。それは もう、

pered perestorokaj. i taki, tawanči tıı xar-daa
ペレストロイカの前のことだ。それで やはり、それから そうして 何でも

xar-daa tıı kəwə očı, əsi-gdəl, xar deputatsal-daa kəwə~, xar
かんでも ああして 無く なった、今は あれ、議員たちも いないし、あれ、

roditel'skij komitetsal-daa kəwə, xar-daa kəwə. mənən dərsii
父母 会も 無い、何にも 無い。自分が 働く

dalıkını, purulsəl, tes gee~r purulsəli, ujjı, ıxan-daa
合間を縫って、子供たちを、たっぷり 何人かもの 子供たちを、家畜を、牛も

xasv xasv ıxa biči~, nakosal-daa tes əgdi biči~, gasa,
何頭か 何頭か 牛が いたし、鶏も すごく たくさん いた、水鳥も、

kılala-daa biči, gasa-daa biči. chushkawa~, tıı dərsii dalıkını
渡り鳥も いた、水鳥も いた。豚を、 ああして 働く 合間に、

purulsəlbə tıı guči ujjimbə~ tıı taraa, guči
子供たち ああして育てて さらに 家畜を ああ してから 再び

sugdatawa, əi dawa ərundu sugdatawa butawu, əi-mət
魚を、 この 鮭が遡る 時期に 魚を 捕る、 今になってやっと

xalı-daa xum korpusa-guni, əi jılikini, tıı dərsuxə
どっちへも 全部 間に合うようになった、この 以前には、ああして 働いていた

bičini. əsi-gdəl ńıı sugdatawa butııwanı ičəjəmi tənəə jıləsi
のだった。今 人が 魚を 捕っているのを 見ていて、すぐ 目の前に

ičəjəmi tes ananasıı bičimbi. ee əsi-lə, tataxambı.
見ていて すごく うらやましかった のだった。 まあ 今は、 私は慣れた。

nadanjov aňandov~ ələə-guni. xai, kolkhozadov botami,
七十 歳に、 もうなるのだから。あれ、コルホーズで 漁をして、

xaixando naaňii ogdanı bičini-guni, tii. tii
ああしていた時には ウルチャの 船が あったのだ、ああして。ああして

botami, xai adolčov, mindu adol-daa biči~, palatka-daa biči,
漁をして、あれ、網があつて、私に 網も あつた、テントも あつた、

ogda-daa biči. tii botami, tii puliktii bičimbi-guni,
船も あつた。ああして 漁をして、ああして 行き来する のだった、

pensijabaanı gənapı-dəə. məənduji botami, tıtaraa ogdajı-daa čopal
年金生活に 入ってから。自分のために 漁をして、それから 舟も 全部

ñeexa, adolsalrı palatkajı-daa čopal purulsəldu buuñuxə,
腐ってしまった、網も テントも みんな 子供たちに やってしまった、

tii purulsəl, takorıti-nuu, kəwə-nuu, jədu Bulawandov bii,
あの 子供たちは 使っているかしら、使っていないか、ここに、ブラバに いる、

xai vnuksalrı ñuučikəənduji čopal botii bičiti-guni, əsi-gdəl
あれ、孫たちは 小さい時に 皆 漁をする のだったが、今は

daarı oči, əsi gıui-dəə tıxalasıl, añasıl, botami-daa xaiwa
大きく なった、今 誰も 同意しない、嫌がる、漁をするにも 何を

botawov, ryba-daa čopal adakaolrı oči. sugdata-daa kəwə.
捕れよう、魚も すっかり 汚く なってしまった。魚も いない。

jəmi-dəə gəələčiil purulsəl. sugdata-daa čopal kəwə oči.
食べることも 恐ろしがる、子供たちは。魚も すっかり 無く なった。

ii, xaiwa, xaiwa korjushkawa, bii xardov-daa tii, xai tuə,
そう、あれを、あれを キュウリウオを、私は どこでも ああして、あれ、冬に、

tuə očuvčanı, moodov əkəsəli~məl brigadadov moodov, moowa,
冬に なると、 薪に、 女たちばかりが 作業班で 薪に、 薪を、

traktor,
トラクターの

traktor
トラクターの

teekını teekını
一列に並んで

xardov, korjus
あそこで、キュウ

brigadir-dəə sup
班長も い

tii xai korj
その あれ、キュ

usumbə tarumı
畑に 植えるの

anjoxapov
私たちは作った、

buə tıwa-g
私たちは それを

krasixa-daa. əi
色も塗った。 こ

taxanı~, mun
やった、 私たち

očovı
行けと言われれば

xai?" bii
何ですか、」と 私

traktor, daai-o~ toči, jua kubometr, tes gugda toči,
トラクターの 大きな 櫛、 2 立方メートル、すごく 高い 櫛、

traktor točini, tawasi moowa joločipũ~, əkəsəl konvejerti,
トラクターの 櫛、 あそこへ 薪を 投げ上げる、女たちの 流れ作業だ、

teekini teekini ilirəə, əwəsi jījupi xairii, nəŋnə-gdəl,
一列に並んで 立って、 こっちへ 戻って ああする、 春は、

xaidũ, korjushkawa botaŋdii, tii-dəə əkəsəl brigadanı. tii
あそこで、キュウリウオを 捕りに行く、それも 女たちの 作業班だ。その

brigadir-dəə sup bičini-guni, əkəsəl brigadadũni. titaraa,
班長も いつも いたのだ、 女たちの 作業班に。 それから、

tii xai korjushkawa botaŋi xodũpi, usumbəni oči, Palsadũ.
その あれ、キュウリウオを 捕り 終わると、畑に 行く、プルサ村に。

usumbə tarumi xodũpi, əwəsi jījupi, xagdomba tii, mənə,
畑に 植えるのを 終わると、ここへ 戻って、家を ああして、自分で

anjoxapo xagdosal xai, xusəsəl anjoxatı-guni, brevnaji,
私たちは作った、家々を、 あれ、男たちは 作ったのだ、 丸太で、

bue tiwa-gdəl, shtukaturılı~, cementalı, tii xai,
私たちは それを、 壁土塗りする、 セメント塗りする、 そうして あれ、

krasixa-daa. əi detsad jəgdəxəmbəni-dəə mun əkəsəl
色も塗った。 この 幼稚園が 焼けてしまったのも 私たち 女たちが

taxanı~, mun əkəsəl brigada əgdi taxatı. tii xai, xawasi
やった、 私たち 女たちの 作業班は たくさん やった。その あれ、どこへ

oči xawasi, tii paŋsıti xai, "professijası
行けと言われれば そこへ、そうして 彼らが訊く、あれ、「あなたの職業は

xai?" bii wəndii, "moja professija kolkhoz. kolkhoznica,
何ですか、」と 私は 言う、 「私の 職業は コルホーズの、コルホーズ員です、

a v kolkhoze, chem bolee kommunist, kuda partija
そして コルホーズの中でも、何より 共産党員で、どこかへ 党が

poshlet tuda i rabotii.
派遣すれば そこへ、そして 働きます。

xai, otīlasi, alaŋsil, aǰasil, xai, xai dāŋsuwəndii
あれ、できない人には、皆で教える、嫌がる者も、何か、それを 働かせる、

aǰasī-daa xəmə dāŋsuwəndii tī-məəči-lə, xarwa-dəə xum,
嫌がっても 黙って 働かせる、そんな風にして 何でも みな、

xai, i shtukatur, i maljar, i kamenshshik, i, i sel'skoxozjajstvo,
あれ、壁土塗りでも、ペンキ塗りでも、煉瓦積みでも、農業でも、

i rybachka, i xai, i nadrovax, vezde kolkhoz kuda
漁業でも、何でも、薪集めでも、どこでも コルホージが どこかへ

posylaet, tuda i buə zhenskaja brigada, tī dāŋsii
派遣すれば、そこへ そして 私たち 女性の 作業班は、そうして 働く

bičipu-guni, əi ǰulikini. guǰələə, tī gasə dāŋsuxə
のだった、この 以前には。かわいそうに、その 一緒に 働いた

gursəl-dəə čəpal buči. tes tǰazhelyj dāŋsuwu, kolkhozdu,
者たちも 皆 死んだ。ひどく しんどい 仕事をする、コルホーズで、

tamamba-daa buurəsi bičiti-guni, əsi~, əsi xai očiŋi,
給料も くない のだった、今、今は あれが できた、

narjad ŋuručii, eto, gde-to konce serdina shest'desjatom
作業指令書を 書く、それは だいたい 終わりか 中頃の 60年代の

godu tol'ko stali. xai, narjad, narjad ŋurii, titaraa xai,
年になって やっと そうなった、あれ、指令書、指令書を 書く、それから あれ、

tamŋti, kopejki, bai kopejkami tamŋti. tī
給料を支払ってくれる、コペイカで、ただ コペイカで 払った。そうして

dāŋsixəmbi-guni.
私は働いたのだ。

ambaa goro.
けっこう 長い

guči xarwa
さらに 何を

oči~, daardom
なった、上の

piktəji. čoo
私の子は。一番

goči..., dəei
四十 歳

piktəji susai
子は 五十 歳

dəei puləmi, bi
四十 過ぎ だ

əsi daai oči
今や 大きく な

i ədiču~,
それで 夫もいる

ja probabshka.
私は ひいばあさ

daai xaisal,
大きな あれたち

əsi dəei,
今なら 四十、

dəŋsɪxəmbi-guni. pensijado, pensijabaanɪ ɣənəxənʃji, dəŋsumi xodɪxənʃji-daa
私は働いたのだ。 年金生活に、年金生活に 入ってから、働くのを 終えてから

ambaa goro. gəə ələə-guni, ələə.
けっこう 長いことになる。 さあ もう十分だ、 終わり。

guči xarwa aldačowu, purulsəlbi, purulsəlbi-dəə čəpal daar
さらに 何を 話そうか、 子供たちのことを、自分の子たちも 皆 大きく

oči~, daardoma piktəji Tanjaŋguji, əi aŋanɪ, sosai aŋanɪ oči,
なった、上の 子供の ターニャは、 今 年 五十 歳に なった、

piktəji. čuɐ nəuduma tootɪ Veronika Teenčadu dəŋsiini,
私の子は。一番 年下の ほうれあの ベロニカは ボゴロツコエで 働いている、

goči..., dəəi aŋanɪ osɪ, čuɐ nəuduma piktəji. čuɐ əigəduma
四十 歳に なる、 一番 下の 私の子は。 一番 姉の方の

piktəji sosai aŋanɪ biči. tɪ aldaŋkɪnɪ, dəəi puləmi,
子は 五十 歳に なった。 その 間には、 四十 過ぎ、

dəəi puləmi, bii, aŋatɪ. purulsəl, purul purulsəl-dəə,
四十 過ぎ だ、 彼らの歳は。 子供たち、 子供たち、 子供たちも、

əsi daar oči, Tanja piktəni, daardoma, min vnuchkaŋguji,
今や 大きく なった、 ターニャの 子供、 大きい方は、私の 孫だ、

i ədiču~, piktəni-dəə xar, škola vtoroj klass puliktii,
それで 夫もいる、子供も あれ、学校は 第2 学年に 通っている、

ja probabshka. a tɪ paan purulsəl, bučiti-guni~, tɪ
私は ひいばあさんだ。 でも あの 何人かの 子供たちは 死んだのだ、あの

daar xarsal, juə vnukiji, om min xusə piktəji balanaa~ bučini.
大きな あれたち、二人の 孫、 一人 私の 男の 子は ずっと前に 死んだ。

əsi dəəi, dəəi aŋanɪ, sosai jɪjalaa biiləxəni.
今なら 四十、 四十 歳、 五十 近くに なっていたはずだけど。

ñuučikəduji, ñungu beedo biiduji, meningitji ənsixəni, təəl
小さい時に、六ヶ 月の 時に、脳膜炎に 罹った、 当時、

təəl nərkimbə-dəə, tamataa ənuwə-dəə, xai okčičisi,
その 頃は、 そんな 病気でも、 どうして 治せよう、

otiləsi bičiti-guni. tii vnuk, vnukəji Andrej, Tolichka,
できない のだった。 あの 孫、 私の孫の アンドレイ、 トーリチュカ、

Al'bina-daa čopal buči, tii čopal ñii waaktaxani,
アリビーナも 皆 死んだ、 彼らを 皆 人が 殺した、

xuralsomi, otii, xai ñawja purulsəl, ñuučikə
姪んで、 小さな、 あれ、 若い 子供たち、 小さな

purulsəlbə, gəsə gəsə dənsuməəri, xai tatočimaari,
子供たちを、 一緒に 一緒に 働いていて、 いや、 学んでいて、

ənsuaməri xuralsomaari. əsi Tanja piktəni Igor', xor
ねたんで うらやましがって。 今 ターニャの 子供の イーゴリが、 二十

añani isxan. Teenčadu tatočini, kolledzhidu, too
歳に 達した。 ボゴロツコエで 勉強している、 専門学校で、 ほうれあの

Veronikado biini. tii daardoma, Olja, xai
ベロニカの所に いる。 その 大きい方の、 オーリャは あれ、

tii, piktəni vtoroj klass puliktiini. a tii nəudumə, Igor',
その 子は 第二 学年に 通っている。 一方 その 弟の方の、 イーゴリは

Teenčadu tatoči. Tanja-daa sosai añani
ボゴロツコエで 学んでいる。 ターニャも 五十 歳に

isixən-dəə dənysiini aja, əsi-dəə dənysiini.
達したが 働いている、 良い、 今も 働いている。

Nadjanjuji-daa bol'nicadu Tanja-daa bol'nicadu dənysiini,
ナージャも 病院で ターニャも 病院で 働いている、

Nadja-daa bol'
ナージャも 病

dənysiini.
働いている。

zhkkx-du
ジェー・カー・

xardo-daa dən'
どこで 働

xusə piktə,
男の 子だけれと

a tii
でも そんな風

sokrashshenie oč'
解雇が 行

əmkəə bimi-dee,
一人で いるけれ

biini jədu, mi
いる、ここに、私

biilə, xardo,
のだろう、あそこ

puliktəxəni,
行っているんだか、

ɣaasomi-nuu,
運んでいるんだか、

əsi-gdəl əi añ
今 この 年

Nadja-daa bol'nicado dąjsii. Veronika, Teenčadu bankado
ナージャも 病院で 働いている。ベロニカは ボゴロツコエで、 銀行で

dąjsiini. xusə piktə, goi baajı jįjuxə piktəji, xai,
働いている。 男の 子は、 別の 土地から 戻って来た 子は、 あれ、

zhkkx-du dąjsiini. dąjsii-dəə xarwa-daa buurəsıl, əsi
ジェー・カー・ハーで 働いている。 働いても 何も くない、 今

xardu-daa dąjsii-dəə xarwa-daa buurəsi. um piktə, Serezhka
どこで 働いても 何にも くない。 一人の 子、 セリョージャは

xusə piktə, xarwa-daa dąjsisi, ənsumi, ənsumi biini-tənii.
男の 子だけれど、 何も 働かない、 病気で、 病気して いる。

a tıı biini əsi, xai perestorojka očındunı-guni,
でも そんな風 だ、 今、 あれ、 ペレストロイカが なされた時に、

sokrashshenie očındunı, popalsja. tıtaraa əsi jədu,
解雇が 行われた時に、 あおりを喰らった。 それから 今 ここで、

əmkəə bimi-dee, əsi tıı, goi baadu biči piktəji jįjuxəni,
一人で いるけれど、 今 あの、別の 土地に いた 子が 戻って来た、

biini jədu, minji gəsə biini. dąjsirəsi, nəduji biini
いる、ここに、私と 一緒に 暮らしている。 働いていない、妹の所に いる

biilə, xardu, Teenčabaan, Teenčabaan xasə, juə inəji,
のだろう、あそこに、ボゴロツコエへ、ボゴロツコエへ 何日、 二 日、

puliktəxəni, mashinaji, mashina shoferliini. mashinaji xarwa
行っているんだか、 車で、 車の 運転手をしている。 車で 何を

ņaasumi-nuu, xarwa ñaasumi-nuu. gəə ələə-guni.
運んでいるんだか、何を 運んでいるんだか。 さあ 終わりなのだ。

əsi-gdəł əi aňanıdu, makırıwa, tıı umu ñıı sogdata ırıı,
今 この 年に、 鮭の干物を、あの 一人の 人が 魚を 運んで来た、

omō ŋŋ xəərsii tɪ makoriwa Ivan Pavlovichdo
 一人の 人が 呼び寄せる、あの 干物を イワン・パーブロビッチに

anjoxa tɪ, tɪ zakazchiksalti-dəə anjoktasowo, əsi-gdəl, əsi
 作ってやった、あの、あの 注文主たちへも 作ってやらなくては、今は、 今

sin didiidusi tɪ makorlaxambi, xaido, tɪ
 おまえが やって来た時に ああして 私は干物を作っていた、あそこで、 あの

zhensovet uijuxəni tonja dawawa makori anjoi, mindu
 女性評議会が 送って来た 五匹の 鮭を 干物に 作る、私に

uijuxəni-nuu, naandoti anjowo-nuu, dawanguji anjoktaraa
 送って来たんだか、彼らに 作ってやるべきなのか、自分の鮭で 作るのは

xodixa. gəə ələə-guni, ajakaanji bisuksu, suə-dəə-də. tɪdo suə,
 終えた。さあ 終わりなのだ、達者で 暮らせ、あなた方も、だ。そこで あなた方、

sisasal-daa məən jeesɪldu-daa, xai ajakanji bisuksu~ wəndii,
 日本人も 自分の 仲間にも、 あれ、達者で 暮らせ、と 言うんだろう、

sisə məən, asɪtji, piktətiji, purulčusi?
 日本人は 自分の 妻へ、 子供へ。 おまえには子があるのか？

既 刊
 『ソロン語基本例
 際学術研究
 『ツングース言語
 際学術研究
 『ナーナイの民族
 郎、匹田剛
 『朝克著「エウン
 小樽商科大
 『ナーナイ語テキ
 科大学言語
 『ナーナイの民族
 商科大学言
 『鄂温克語三方
 敏郎 編、
 『オロチ語基礎資
 教育学部、
 『ナーナイの民族
 鳥取大学教
 『ウルチャロ承文
 鳥取大学教
 『ナーナイの民族
 京外国語大
 『中国ツングース
 曲敏郎 補註
 『ナーナイの民族
 葉大学、19
 『Эвенские наро
 P.著・Z.I.B
 『ナーナイの民族
 京外国語大
 『ナーナイの民族
 訳注、ELPP
 『増訂 ウイルタロ
 録・訳注、I
 『ウデへ語自伝テ
 カンチュガ

ツングース言語文化論集

既 刊

- 『ソロン語基本例文集』 朝克、津曲敏郎、風間伸次郎 編、文部省科学研究費補助金（国際学術研究：63041002）研究成果報告書、北海道大学文学部、1991 年
- 『ツングース言語文化論集 1』 黒田信一郎、津曲敏郎 編、文部省科学研究費補助金（国際学術研究：63041002）研究成果報告書、北海道大学文学部、1991 年
- 『ナーナイの民族遊戯』（ツングース言語文化論集 2） ポンサ K. キレ著／佐々木史郎、匹田剛、津曲敏郎 編訳、小樽商科大学言語センター、1993 年
- 『朝克著「エウンキ語基礎語彙集」索引』（ツングース言語文化論集 3） 津曲敏郎 編、小樽商科大学言語センター、1993 年
- 『ナーナイ語テキスト』（ツングース言語文化論集 4） 風間伸次郎 採録・訳注、小樽商科大学言語センター、1993 年
- 『ナーナイの民話と伝説』（ツングース言語文化論集 5） 風間伸次郎 採録・訳注、小樽商科大学言語センター、1995 年
- 『鄂温克語三方言対照基礎語彙集』（ツングース言語文化論集 6） 朝克 採録・著、津曲敏郎 編、小樽商科大学言語センター、1995 年
- 『オロチ語基礎資料』（ツングース言語文化論集 7） 風間伸次郎 採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996 年
- 『ナーナイの民話と伝説 2』（ツングース言語文化論集 8） 風間伸次郎 採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996 年
- 『ウルチャロ承文芸原文集 1』（ツングース言語文化論集 9） 風間伸次郎 採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996 年
- 『ナーナイの民話と伝説 3』（ツングース言語文化論集 10） 風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学、1997 年
- 『中国ツングース諸語対照基礎語彙集』（ツングース言語文化論集 11） 朝克 採録・著 津曲敏郎 補訂・編、小樽商科大学言語センター、1997 年
- 『ナーナイの民話と伝説 4』（ツングース言語文化論集 12） 風間伸次郎 採録・訳注、千葉大学、1998 年
- 『Эвенские народные песни 〈エウエンの歌〉』（ツングース言語文化論集 13） Bokova, E. P. 著・Z. I. Babceva 露訳・A. B. Dorzheev 英訳・風間伸次郎編、2000 年
- 『ナーナイの民話と伝説 5』（ツングース言語文化論集 14） 風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学、2000 年
- 『ナーナイの民話と伝説 6』（ツングース言語文化論集 15） CD 8 枚付、風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2001 年
- 『増訂 ウイルタ口頭文芸原文集』（ツングース言語文化論集 16） CD 1 枚付、池上二良 採録・訳注、ELPR、2002 年
- 『ウデへ語自伝テキスト』（ツングース言語文化論集 17） CD 1 枚付、アレクサンドル・カンチュガ著／津曲敏郎編訳、ELPR、2002 年

- 『ナーナイの民話と伝説 7』(ツングース言語文化論集 18) CD 2 枚付、風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2002 年
- 『ネギダール語 テキストと文法概説』(ツングース言語文化論集 19) CD 1 枚付、風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2002 年
- 『ウルチャロ承文芸原文集 2』(ツングース言語文化論集 20) CD 2 枚付、風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2002 年
- 『ネギダルの伝説と民話』(ツングース言語文化論集 21) マリーナ・ハサノワ・アレクサンドル・ペヴノフ編著、ELPR、2003 年
- 『ウデへ語読本 自伝：少年時代』(ツングース言語文化論集 22) アレクサンドル・カンチュガ著／津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科、2003 年
- 『エウエン語 テキストと文法概説』(ツングース言語文化論集 23) CD 1 枚付 風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2003 年
- 『ウデへ語テキスト(A)』(ツングース言語文化論集 24/A) 風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2004 年
- 『ウデへ語テキスト(B)』(ツングース言語文化論集 24/B) CD 1 枚付 風間伸次郎 採録・訳注、北海道大学大学院文学研究科、2004 年
- 『ツングース諸語における基礎語彙(A)』(ツングース言語文化論集 25) CD 1 枚付 風間伸次郎著、ELPR、2003 年
- 『ウデへの二つの昔話 タルメニとセレメニ／チョウセンニンジン掘りの若者』(ツングース言語文化論集 26) アレクサンドル・カンチュガ著／津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科、2004 年
- 『ナーナイの民話と伝説 8』(ツングース言語文化論集 27) 風間伸次郎著、千葉大学文学部、2005 年
- 『ウデへ語自伝テキスト 2：青年時代』(ツングース言語文化論集 28) アレクサンドル・カンチュガ著／津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科、2005 年
- 『ウデへ語自伝テキスト 3：学生時代』(ツングース言語文化論集 29) アレクサンドル・カンチュガ著／津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科、2006 年
- 『ウルチャロ承文芸原文集 3』(ツングース言語文化論集 30) 風間伸次郎 採録・訳注、北海道大学大学院文学研究科、2006 年
- 『ウデへ語テキスト 2』(ツングース言語文化論集 31) 風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2006 年
- 『ナーナイの民話と伝説 9』(ツングース言語文化論集 32) 風間伸次郎著、千葉大学文学部、2006 年
- 『ウデへ語自伝テキスト 4：妻ファヤの思い出』(ツングース言語文化論集 33) アレクサンドル・カンチュガ著／津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科、2006 年
- 『ウデへ語自伝テキスト 5：狩猟物語』(ツングース言語文化論集 34) アレクサンドル・カンチュガ著／津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科、2007 年
- 『ウデへ語テキスト 3』(ツングース言語文化論集 35) 風間伸次郎 採録・訳注、北海道大学大学院文学研究科、2007 年

- 『ナーナイの民話
大学院文学
『ソロンの民話と
北海道大学大
『Сказания и легенды
(ツングース)
Цумагари Т
『清文集書 - 翻字
幡早夏・福
『ナーナイの民話
大学院文学
『ソロンの民話と
東京外国語
『ウデへ語テキス
外国語大学

- 『ナーナイの民話と伝説 10』(ツングース言語文化論集 36) 風間伸次郎著、北海道大学大学院文学研究科、2007 年
- 『ソロンの民話と伝説 1』(ツングース言語文化論集 37) 風間伸次郎・トヤー共編、北海道大学大学院文学研究科、2007 年
- 『Сказания и легенды народа уйльта (ウイルタ口頭文芸原文集[ロシア語逐語訳版])』
 (ツングース言語文化論集 38) Икегами Дзиро (池上二良) 著、Е. Бибикова訳、
 Цумагари Тосиро編、北海道大学大学院文学研究科、2007 年
- 『清文彙書 一翻字再配列版一』(ツングース言語文化論集 39) 早田輝洋序、風間伸次郎・幡早夏・福盛貴弘編、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2008 年
- 『ナーナイの民話と伝説 11』(ツングース言語文化論集 40) 風間伸次郎著、北海道大学大学院文学研究科、2008 年
- 『ソロンの民話と伝説 2』(ツングース言語文化論集 41) 風間伸次郎・トヤー共編、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2008 年
- 『ウデへ語テキスト 4』(ツングース言語文化論集 42) 風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学、2008 年

PUBLICATIONS ON TUNGUS LANGUAGES AND CULTURES

- A list of published books -

- Solon Basic Sentences* compiled by D. O. Chaoke, Toshiro TSUMAGARI, and Shinjiro KAZAMA, Faculty of Letters Hokkaido University, 1991.
- Papers on Tungus Languages and Cultures* edited by Shin'ichiro KURODA and Toshiro TSUMAGARI, Faculty of Letters Hokkaido University, 1991.
- Traditional Folk Play of Nanay* (Publications on Tungus Languages and Cultures 2). Pongsa K. KILE/ edited with a Japanese translation by S. SASAKI, G. HIKITA, and T. TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru University of Commerce, 1993.
- A Solon (Ewenke) Index to the Classified Vocabulary by D. O. Chaoke: with English Equivalents* (Publications on Tungus Languages and Cultures 3). compiled by T. TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1993.
- Nanay Texts* (Publications on Tungus Languages and Cultures 4). translated and annotated by S. KAZAMA, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1993.
- Nanay Folk Tales and Legends* (Publications on Tungus Languages and Cultures 5). translated and annotated by S. KAZAMA, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1995.
- A Basic Vocabulary of Three Ewenki (Ewenke) Dialects* (Publications on Tungus Languages and Cultures 6). collected and transcribed by D. O. CHAOKE, compiled by T. TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1995.
- Orochi Linguistic Materials* (Publications on Tungus Languages and Cultures 7). translated and annotated by S. KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.
- Nanay Folk Tales and Legends 2* (Publications on Tungus Languages and Cultures 8). translated and annotated by S. KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.
- Ulcha Oral Literature 1 - A Collection of Texts* (Publications on Tungus Languages and Cultures 9). translated and annotated by S. KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.
- Nanay Folk Tales and Legends 3* (Publications on Tungus Languages and Cultures 10). translated and annotated by S. KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 1997.
- A Basic Vocabulary of the Tungusic Languages in China* (Publications on Tungus Languages and Cultures 11). collected and transcribed by D. O. CHAOKE, compiled by T. TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1997.
- Nanay Folk Tales and Legends 4* (Publications on Tungus Languages and Cultures 12). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Chiba University, 1998.
- Ewen Folk Songs* (Publications on Tungus Languages and Cultures 13). E. N. BOKOVA/ translated in Russian by Z. I. BABTSEVA, translated in English by A. V. DORZHEEV, compiled by S. KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 2000.
- Nanay Folk Tales and Legends 5* (Publications on Tungus Languages and Cultures 14). translated and annotated by S. KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 2000.

Nanay Folk Tales
CDs, translated
Ulcha Oral Literature
Tungus Languages
ELPR, 2002.
An Udehe Autobiography
and Cultures 1
by T. TSUMAGARI
Nanay Folk Tales
CDs, translated
Negidal Texts and
translated and
Ulcha Oral Literature
Cultures 20). W
Myths and Tales of
KHASHANOV
Autobiographical
translation (P
KANCHUGA/
Sapporo, 2003
Ewen Texts and
translated and
Udihe Texts A (Pub
by S. KAZAMA
Tokyo University
Udihe Texts B (Pub
annotated by S.
Basic Vocabulary
25). With a CD
Two Udehe Folktales
Ginseng (Pub
KANCHUGA/
Sapporo, 2004
Nanay Folk Tales
Translated and
Autobiographical
translation] (P
KANCHUGA/
Sapporo, 2005.

- Nanay Folk Tales and Legends 6* (Publications on Tungus Languages and Cultures 14). With 8 CDs, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2001.
- Uilta Oral Literature - A Collection of Texts Revised and Enlarged Edition* (Publications on Tungus Languages and Cultures 16). With a CD, translated and annotated by Jiro IKEGAMI, ELPR, 2002.
- An Udehe Autobiographical Text: with a Russian Translation* (Publications on Tungus Languages and Cultures 17). With a CD, Alexander A. KANCHUGA/ edited with a Japanese translation by T. TSUMAGARI, ELPR, 2002.
- Nanay Folk Tales and Legends 7* (Publications on Tungus Languages and Cultures 18). With 2 CDs, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2002.
- Negidal Texts and Grammar* (Publications on Tungus Languages and Cultures 19). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2002.
- Ulcha Oral Literature 2 - A Collection of Texts* (Publications on Tungus Languages and Cultures 20). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2002.
- Myths and Tales of the Negidals* (Publications on Tungus Languages and Cultures 21). by Marina KHASANOVA and Alexander PEVNOV, ELPR, 2003.
- Autobiographical story: Boyhood - An Udehe reader* In the Udehe language with Russian translation (Publications on Tungus Languages and Cultures 22). by Alexander A. KANCHUGA/ Edited by T. TSUMAGARI, Graduate School of Hokkaido University, Sapporo, 2003
- Ewen Texts and Grammar* (Publications on Tungus Languages and Cultures 23). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2003.
- Udihe Texts A* (Publications on Tungus Languages and Cultures 24/A). Translated and annotated by S. KAZAMA, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA) Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, 2004
- Udihe Texts B* (Publications on Tungus Languages and Cultures 24/B). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, Graduate School of Hokkaido University, Sapporo, 2004
- Basic Vocabulary (A) of Tungusic Languages* (Publications on Tungus Languages and Cultures 25). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2003.
- Two Udehe Folktales: The Bark Man and the Iron Man; The Poor Man Who was Searching for Ginseng* (Publications on Tungus Languages and Cultures 26). By Alexander A. KANCHUGA/ Edited by T. TSUMAGARI, Graduate School of Hokkaido University, Sapporo, 2004
- Nanay Folk Tales and Legends 8* (Publications on Tungus Languages and Cultures 27). Translated and annotated by S. KAZAMA, Chiba University, 2005.
- Autobiographical story 2: Youth* [an Udehe reader in the Udehe language with Russian translation] (Publications on Tungus Languages and Cultures 28). By Alexander A. KANCHUGA/ edited by T. TSUMAGARI, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2005.

- Autobiographical story 3: Student years* [an Udehe reader in the Udehe language with Russian translation] (Publications on Tungus Languages and Cultures 29). By Alexander A. KANCHUGA/ edited by T. TSUMAGARI, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2006.
- Ulcha Oral Literature 3 - A Collection of Texts* (Publications on Tungus Languages and Cultures 30). Translated and annotated by S. KAZAMA, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2006.
- Udihe Texts 2* (Publications on Tungus Languages and Cultures 31). Translated and annotated by S. KAZAMA, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, 2006
- Nanay Folk Tales and Legends 9* (Publications on Tungus Languages and Cultures 32). Translated and annotated by S. KAZAMA, Chiba University, 2006.
- Autobiographical story 4: Faya* [an Udehe reader in the Udehe language with Russian translation] (Publications on Tungus Languages and Cultures 33). By Alexander A. KANCHUGA/ edited by T. TSUMAGARI, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2006.
- Autobiographical Story 5: Hunting* [an Udehe reader in the Udehe language with Russian translation] (Publications on Tungus Languages and Cultures 34). Alexander A. KANCHUGA/ edited by T. TSUMAGARI, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2007.
- Udihe Texts 3* (Publications on Tungus Languages and Cultures 35). translated and annotated by S. KAZAMA, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2006.
- Nanay Folk Tales and Legends 10* (Publications on Tungus Languages and Cultures 36). Translated and annotated by S. KAZAMA, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2007.
- Solon Folk Tales and Legends 1* (Publications on Tungus Languages and Cultures 37). edited by S. KAZAMA and Tuoya, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2007.
- Сказания и легенды народа уйльта* (Publications on Tungus Languages and Cultures 38). J. Ikegami, translated by E. Bibikova, edited by T. Tsumagari, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2007.
- Manju isabuha bithe -An alphabetically re-ordered version-* (Publications on Tungus Languages and Cultures 39). prefaced by T. Hayata, edited by S. Kazama, S. Hata and T. Fukumori, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, 2008
- Nanay Folk Tales and Legends 11* (Publications on Tungus Languages and Cultures 40). Translated and annotated by S. KAZAMA, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2008.
- Solon Folk Tales and Legends 2* (Publications on Tungus Languages and Cultures 41). edited by S. KAZAMA and Tuoya, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, 2008

Udihe Texts 4 (Publications on Tungus Languages and Cultures 42). translated and annotated by S.
KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, 2008.

ツングース言語文化論集 43

ウルチャロ承文芸原文集 4

2008年3月20日発行

採録・訳注 風間伸次郎

発行 東京外国語大学

印刷 株式会社オーエム



ИССЛЕДОВАНИЯ ПО ТУНГУСОВЕДЕНИЮ 43

Синджиро КАЗАМА

СКАЗКИ И ЛЕГЕНДЫ УЛЬЧЕЙ

Publications on Tungus Languages and Cultures 43

**Ulcha Oral Literature 4
A Collection of Texts**

Shinjiro KAZAMA

**TOKYO UNIVERSITY
OF FOREIGN STUDIES**

2008